

只今議題トナリマシタ商業組合法中改正法律案、輸出毛織物取締法案、損害保險國營再保險特別會計法案、以上三案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、先ヅ商業組合法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、商業組合制度ハ、昭和七年ニ創設セラレ、其後順調ノ發達ヲ遂ゲテ參リマシタガ、支那事變以來商業組合ハ物資配給、物價統制機關トシテ、統制經濟上重要ナル地位ヲ占ムルニ至リマシタガ、最近ノ中小商業者ノ實情ハ、現行ノ商業組合制度ヲ利用シタクテモ利用スル能ハザル、多數ノ取殘サレタル小商業者ガ生ジマシタノデ、是等小商業者ノ救濟更生ヲ圖ルヲ主眼トシマシテ、併セテ商業組合ノ物資統制上占ムル重要性ニ鑑ミマシテ、其ノ監督取締指導ヲスルト云フコト、此ノ二點ヲ重點トシテ本改正法案ガ提出セラレタノデアリマス、質問ノ要點ヲ申シマス、第一ハ、現在商業組合制度ノ外ニ、重要物産同業組合ト云フ組合制度ガアルガ、此ノ同業組合制度ト商業組合制度トハ、其ノ關係ヲ政府ハ如何ニ御考ニナツテ居ルカ、第二ハ、商業小組合制度ノ創設ハ、洵ニ結構デハアルガ、今日ノ工業小組合制度ノ實情ニ鑑ミル時、果シテ此ノ法案ノ狙ツテ居ル目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ、第三ハ、組合ノ監督取締制度ヲ政府ハ惡用スル虞ハナイカト云フヤウナ點デアリマシタ、其ノ他生鮮食料品、銅材、「タイヤ」地下足袋「カーバイド」其ノ他百般物資ノ配給統制ニ付テ、各委員ヨリ質疑ガアリマシタガ、政府ヨリハ各委員ヲ十分納得セシメ、此ノ法案ノ運用ニ依リマシテ、小商業者ノ救濟ニ大イニ役立テルコトガ出來ルト云フヤウナ、ソレノ適切ナル御答辯ガアツタノデアリマス、斯クシテ質疑ヲ終リ、討論ヲ省キ、滿場一致可決セラレマシタ、次ニ輸出毛織物取締法案ニ付テ申上ゲマス、本法律案ハ、輸出毛織物ニ對シマシテ國營檢査ヲヤリ、之ニ合格シタルモノニアラザレバ、販賣ノ目的ヲ以テ輸出スルコトヲ得ザラシムルト云フ法律案デアリマシテ、粗惡品ノ輸出ヲ防止シ、海外市場ニ於ケル聲價ヲ維持シ、更ニ進ンデ品質ノ改善高級化ヲ促シ、毛織物ノ輸出振興ヲ圖ラントスルノガ、本案ノ骨子デアリマスルガ委員會ニ於テハ、檢査標準、檢査方法、不合格品ノ處置、原毛獲得、特ニ「リンク」制ニ關スル事項、海外市場調査、見本蒐集、其他羊毛工業ノ改善發達竝ニ其ノ輸出振興ニ付テ、各委員ヨリ適切ナル質問ガアリ、政府當局ヨリ懇切ナル御答辯ガアリマ

シテ、質疑ヲ終了シ、討論ヲ省キ、一致可決セラレタノデアリマス、最後ニ損害保險國營再保險特別會計法案ニ付テ申上ゲマス、本案ハ先般本院ニ於テ可決セラレマシタ損害保險國營再保險法ノ附屬法案デアリマシテ、其ノ資金八千二百萬圓ノ圓滑ナル運用ヲ爲スベシト云フコトヲ政府ニ要望シマシテ、質問討論ヲ打切り、一致可決セラレマシタ、以上御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引讀キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通知可決シ即日本案及一〇七ノ兩案ハ貴族院ニ送付シ、八八ハ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日本案ヲ可決奏上ス

四月四日法律第九十七號ヲ以テ公布セラル

九一 石炭配給統制法案

石炭配給統制法

第一條 石炭ノ生産業者、輸入業者及移入業者竝ニ石炭ノ取扱ヲ爲ス會社ニシテ主務大臣ノ指定シタルモノ(指定會社)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産、輸入、移入又ハ取扱ニ係ル石炭

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 一一八一

ヲ日本石炭株式會社ニ賣渡スベシ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 石炭ノ生産業者、輸入業者又ハ移入業者命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ生産、輸入又ハ移入ニ係ル石炭ヲ自己ノ用ニ供スルトキ

二 指定會社ノ社員又ハ株主タル石炭ノ生産業者其ノ生産ニ係ル石炭ヲ當該指定會社ニ賣渡ストキ

三 特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ

第二條 主務大臣ハ石炭ノ配給ノ圓滑ヲ確保スル爲テ必要アリト認ムルトキハ石炭ノ生産業者、輸入業者、移入業者又ハ販賣業者ニ對シ石炭ノ配給ニ關スル施設ノ賃貸又ハ讓渡ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ協議ヲ命ゼラレタル者協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條第二項ノ規定ニ依ル決定アリタル場合ニ於テ賃貸料又ハ讓渡價格ニ付不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日(決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日)ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 前二條ニ定ムルモノノ外決定並ニ之ニ依ル石炭ノ配給ニ關スル施設ノ賃貸及讓渡ニ關

シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 主務大臣ハ石炭ノ生産業者、輸入業者若ハ移入業者又ハ指定會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第六條 日本石炭株式會社ハ石炭ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第七條 日本石炭株式會社ノ資本ハ五千萬圓トシ内二千五百萬圓ハ政府ノ出資トス

日本石炭株式會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第八條 日本石炭株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

勅令ノ定ムル法人ニシテ特ニ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ拘ラズ日本石炭株式會社ノ株主ト爲ルコトヲ得

第九條 日本石炭株式會社ニ非ザルモノハ日本石炭株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第十條 日本石炭株式會社ニ役員トシテ社長副社長各一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十一條 社長ハ日本石炭株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ日本石炭株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ日本石炭株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十二條 社長、副社長及理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十三條 社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 日本石炭株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 石炭ノ買入及販賣
- 二 石炭ノ輸出、輸入、移出及移入
- 三 石炭鑛業ニ對スル資金ノ融通及投資
- 四 前各號ノ事業ニ附帶スル事業
- 五 其ノ他石炭ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業

日本石炭株式會社前項第四號又ハ第五號ニ掲グル事業ヲ營ムントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 日本石炭株式會社ハ販賣ノ目的ヲ以テ買入ルル者ニ石炭ヲ賣渡ストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ石炭ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得

主務大臣ハ石炭ノ配給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ日本石炭株式會社ヨリ販賣ノ目的ヲ以テ石炭ヲ買入ルル者ニ對シ前項ノ指示ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十六條 日本石炭株式會社ハ商法第二百九十七條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

社債ヲ募集スル場合ニ於テハ商法第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十七條 日本石炭株式會社社債ヲ募集セントスル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十八條 日本石炭株式會社ノ社債權者ハ同會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十九條 日本石炭株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ

第二十條 主務大臣ハ日本石炭株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條 日本石炭株式會社ノ定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十二條 日本石炭株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十三條 日本石炭株式會社ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ認可ヲ受ケタル價格ニ依ルニ非ザレバ石炭ノ買入又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十四條 主務大臣ハ日本石炭株式會社ニ對シ石炭ノ需給調整上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ジ其ノ他業務ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 主務大臣ハ日本石炭株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 主務大臣ハ日本石炭株式會社監理官ヲ置キ日本石炭株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 日本石炭株式會社監理官ハ何時ニテモ日本石炭株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本石炭株式會社監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ日本石炭株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本石炭株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十八條 主務大臣ハ日本石炭株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 日本石炭株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

日本石炭株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額

ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト三トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十條 第一條ノ規定又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ犯罪ニ係ル石炭ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議及表決 第四項 法律案 一一八七

第三十一條 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第五條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十三條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關

シ第三十條、第三十一條又ハ前條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十四條 第三十條、第三十一條及第三十二條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第三十六條 日本石炭株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第十四條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第十六條第一項ノ規定ニ違反シ社債ヲ募集シタルトキ

四 第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ

第三十七條 日本石炭株式會社ノ社長、副社長又ハ理事第十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第三十八條 第九條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附 則

第三十九條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本石炭株式會社ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十一條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十二條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十三條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第一百七十五條第二項第二號及第四號乃至第七號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十四條 設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

第四十五條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十六條 創立總會ニ於テハ第十二條ノ規定ニ準ジ社長、副社長、理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十七條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本石炭株式會社社長ニ引渡スベシ

第四十八條 商法第六十七條、第八十一條及第八十五條ノ規定ハ日本石炭株式會社ノ設立ニハ之ヲ適用セズ

第四十九條 第九條ノ規定施行ノ際現ニ日本石炭株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ同條ノ規定施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十八條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

右ハ昭和十五年三月六日本院ニ提出ス同月十一日本案ノ第一讀會ヲ開キ藤原商工大臣ハ左ノ趣旨

辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ石炭配給統制法案ノ提出理由ヲ御説明申上ゲマス、我國現下ノ物資需給狀況ニ鑑ミマシテ、最モ緊要ナル生産力擴充竝ニ物價統制ノ目的達成上、支配的ナル影響ヲ有スルモノハ、石炭ノ需給及ビ其ノ價格ノ適否如何ニアリト申シマシテモ、決シテ過言デハナイト考ヘルノデアリマス、然ルニ我國ニ於ケル石炭ノ需給狀況ヲ見マスルニ、今次ノ支那事變ノ發生以來、其ノ需要量ノ増加ハ特ニ著シキモノガアルノデアリマスガ、之ニ對シマシテ生産ノ方ハ、最近山元ニ於ケル各種生産條件ノ緊迫化ニ依リ、著シク惡影響ヲ受ケテ居リマスノミナラズ、配給機構ノ不整備ニ依ル石炭配給ノ不圓滑ト相俟チマシテ、必要ナル方面ヘノ供給確保ニモ困難ヲ生ジ、海外貿易ノ増進モ、生産力擴充モ、是ガ爲少カラザル障礙ヲ受ケテ居リマス、殊ニ最近發電用石炭其ノ他ノ工業用石炭ニ關シマシテ、御承知ノ如キ状態ヲ惹起致シ、國民生活上幾多ノ不安ヲ與ヘマシタコトハ、洵ニ遺憾ニ存ズル所デアリマス、斯ノ如キ現狀ニ對シマシテハ、有ユル方策ヲ講ジテ事態ノ改善ヲ圖ルコト極メテ緊要デアリマシテ、若シ今日ノ状態ノ儘ニ放置シテ置キマシタラバ、前述ノ如キ不安ヲ將來ニ貽シ、國策遂行ノ圓滑ヲ期シ得ナイモノト考ヘル次第デアリマス、政府ニ於キマシテハ、石炭ノ配給統制ヲ目的ト致シマシテ、曩ニ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ニ基キ、石炭販賣取締規則ヲ制定致シマシテ、右ノ目的達成ニ努メテ參ツタノデアリマスガ、現下ノ情勢ハ更ニ現在ノ配給機構ヲ統一元化シ、統制力ニ富ム強力ナル機構ヲ中心ト致シマシテ、配給統制ノ運営ニ當ラシムル必要ニ迫ラレテ居ルノデアリマス、次ニ石炭ノ極メテ急激ナル需要増加ニ對處シ、併セテ長期建設ノ將來ニ備ヘンガ爲ニハ、大規模ナル増産促進ノ方策ヲ樹立シ、速ニ之ヲ實施シテ供給ノ増加ニ努ムルコトガ缺クベカラザル要務ナリト認メラルルノデアリマスガ、山元ニ於ケル生産條件ノ惡化ハ、炭礦業者ノ採算ヲ惡化致シマシテ、現在ノ炭價ヲ引上ゲルニアラザレバ、増産ヲ期待スルコトハ得ナイヤウナ状態デアリマス、然ルニ炭價ノ一般的引上ハ、延イテハ諸般ノ物價ニ

影響ヲ及ボシ、現下ノ物價政策ニ背馳致シマスルガ爲、到底之ヲ實施スルコトヲ得ナイノデアリマシテ、一方ニ於テ低物價政策ヲ堅持スルノ趣旨ニ於キマシテ、適正ナル公定價格ヲ定ムルト共ニ、他方極力石炭ノ増産ヲ圖リ、必要ナル方面へ供給ヲ確保セネバナラス、次第デアリマス、政府ニ於キマシテハ、是ガ對策ト致シマシテ、増産獎勵金、新坑開發助成金等ノ交付ニ依リマシテ、鑛區ノ積極的開發ヲ促進スル方策ヲモ考究致シマシテ、之ニ要スル經費ニ付テモ、別途追加豫算ヲ計上致シテ居リマスガ、是等ノ方策ノミニ依リマシテハ、尙ホ解散シ得ナイ問題ヲ殘シテ居ルデアリマス、即チ曩ニ申シタル公定價格制ヲ確立致シマスル爲ニハ、現在多種多樣ナル石炭ヲ全國的ニ一定ノ規格ニ格付ケ致シマシテ、之ニ應ズル價格ヲ定ムル必要ガアルノデアリマスガ、一方各炭礦ニ於ケル生産事情、炭質ハ必ズシモ前述ノ規格ニ依ル炭質ト一致シナイノデアリマシテ、即チ或ル炭礦ニ於キマシテハ、生産條件比較的不利益デアリマシテ、生産費ガ高イニモ拘リマセズ、炭質ハ寧ろ惡質ナルモノアリ、或ハ右ト全ク反スル事情ニアルモノデアリマシテ、現在ニ於テハ二重三重ノ炭價ヲ現出シ、諸種ノ不都合ヲ生ジテ居ルノデアリマスガ、此ノ間ヲ調整致シマシテ、一方ニ於テハ増産ノ機運ヲ促進致シマスルト共ニ、他面生産ノ合理化ヲ阻碍セザル如キ、國家的要求ヲ充シ得ル如キ賣値ヲ、炭礦業者ノ爲ニ考慮スル必要ガアルト考ヘル次第デアリマス、斯ノ如キ諸事情ヲ考慮致シマシテ、低價格ノ維持、規格賣炭ノ實施等、物價政策上ノ要求ト、生産増進ノ爲ノ採算的要求トヲ、調和的ニ實施センガ爲ニハ、斯ノ如キ操作ヲ確實ニ實行シ得ル一元の綜合機關ヲ設置スルコトガ、最も有效ナリト考ヘル者デアリマス、仍テ前ニ述ベマシタ配給統制上ノ必要ト併セ考ヘマシテ、石炭ノ一手買上及ビ一手販賣ヲ爲ス特定ノ中樞機關ヲ設ケ、之ヲ中心ト致シマシテ、販賣機構ヲ一元的ニ系統化シ、配給ノ完全ナル圓滑化ヲ圖リマスト共ニ、右機關ニ於キマシテ「プール」平準價格制ノ運用ニ依リ、前述ノ炭價問題ヲ解決致シマスルコトトシ、之ニ因ル右機關ノ採算惡化ヲ防止致シマスルガ爲ニ、曩ノ増産獎勵金、新坑開發助成金ト併セテ、右機關ニ對スル買上、補償金ヲ追加豫算ニ計上致シテ居ルノデアリマス、而シテ右ノ如キ事業ハ其ノ性質上、何レモ公

正ナル國家的ノ機關ニ依ツテ經營セラレルコトガ必要デアアルノデアリマシテ、之ヲ單ナル民間ノ企業ニ期待スルコトハ不可能デアアルト思料セラルルノデアリマス、是レ茲ニ新ニ法律ニ依リ半官半民ノ特殊會社タル日本石炭株式會社ヲ設立シテ、是等ノ事業ニ當ラシメントスル所以デアリマス、本法律案ハ石炭ノ配給統制ニ關スル規定、竝ニ日本石炭株式會社ノ組織、權限、監督等ニ關スル規定ヲ包含スルモノデアリマスガ、何レモ現在及ビ將來ノ時局ニ於キマシテ、最も緊要ナル石炭ノ配給ノ圓滑化、及ビ増産達成上必要缺クベカラザル事柄デアアルト信ズルモノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致シマス

岡野龍一君、鶴惣市君、松尾三藏君、原口初太郎君、稻田直道君、松本治一郎君、小池四郎君、松尾孝之君及小田榮君質疑ヲ爲シ米内内閣總理大臣、藤原商工大臣、畑陸軍大臣、吉田海軍大臣、吉田厚生大臣、松野鐵道大臣、竹内企畫院總裁、武知遞信政務次官、木村大藏政務次官及三好陸軍政務次官應答ス

岡野龍一君ノ質疑
私ハ只今上程セラレマシタ石炭配給統制法案竝ニ石炭増産對策ニ關シ、茲ニ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、政府ハ石炭増産對策トシテ、増産獎勵金二千二百萬圓、石炭共販會社買取補償金四千四百八十萬圓、炭坑開發助成金千六百八十萬圓、合計八千三百六十萬圓ト云フ、商工省一省ノ豫算ニモ比スベキ巨額ノ金額ヲ計上セラレテ居ルノデアリマス、而シテ此ノ種補給金ハ、今日マデ種々ノ形ニ於テ支給セラレテ居ルノデアアルガ、所謂國策會社ニ付テ見マシテモ、國策會社ニシテ政府ガ株式ヲ所有セルモノガ三十以上ニ及ンデ居リマス、尙ホ益殖エル傾向ニアルコトハ諸君御承知ノ通りデアリマス、而シテ所有株式ノ概算ハ十二億圓デアリマ

ス、其ノ中拂込額ハ九億圓ニ垂ント致シテ居リマス、差引今後ニ拂込ムベキモノガ、尙ホ三億圓バカリ残ツテ居ルノデアリマス、此ノ政府所有株ニ對シテハ無配ノモノガ多ク、ノミナラズ政府ハ配當保證ノ爲ニ種々ナル補給金ヲ出シテ居ルノデアリマス、其ノ中デモ北支那開發株式會社、中支那振興開發株式會社、帝國燃料興業株式會社、日本產金振興株式會社、滿洲拓殖株式會社、日南產業株式會社、日本米穀株式會社等ハ、其ノ尤ナルモノデアリマス、尙ホ補給金ト致シマシテハ、日本發送電株式會社ノ株式配當補給ノ爲ニ、二千三四百萬圓ヲ要スルコトハ、是モ自明ノ理デアリマス、今後政府ノ補給金ハ色々ノ形ニ於テ増加ノ一方デアリ、隨テ財政ノ膨脹ハ必至ト言ハネバナラヌノデアリマス、ソコデ私ハ總理大臣ニ御所見ヲ御伺致シタイノデアリマス、吾々ハ此際一般行政費ニ對シテ整理節約ノ要アリト思ヒマスルガ總理大臣ハ如何御考ニナルノデアリマスカ、言フマデモナク私共ハ今事變解決ノ爲ニ、軍費ト致シマシテハ五十億デアラウト六十億デアラウト、一錢一厘タリトモ之ニ手ヲ付ケヤウトハ考ヘナイノデアリマス、併シナガラ一面ニ大キナ軍費ヲ吾々ハ要スレバ要スルダケ、半面ニ一般ノ行政費ヲ整理節約スルト云フコトハ、是ハ國民トシテ當然考ヘナケレバナラヌコトデアリマス、最近調べテ見マスルト、中央ニ於ケル役人ノ増加ハ凡ソ二萬人ダト言ハレテ居リマス、中央地方ヲ合スレバ五萬人ノ増加デアラウ、事變以來五萬人位ノ増加ヲ來シテ居ルダラウト言ハレテ居ルノデアリマス、茲ニ一例ヲ舉ゲマスルト、商工省ノ地質調査所所員ノ調ガアリマス、是ハ私ハ鑛業法ノ委員會ニ於キマシテ、此ノ職員ガ多イト云フ意味デ御尋致シタノデハナイ、時局柄鑛物資源ハドンドン開發セネバナラヌガ、一體商工省ニ於テハ、此ノ方面ニドウ云フ陣容ヲ整ヘテ居ラルルノデアルカ、斯様ナ質問ヲ致シマシテ、鞭撻ノ意味デ之ヲ質問ヲ致シタ、其ノ調ニ依リマスルト、昭和十三年度ニ於テハ、細カイコトハ申シマセヌガ、六十五人ノ所員ガ居リマシタ、ソレガ昭和十四年度ニハ九十九人、十五年度ニハ百二十八人、一昨年マデハ六十五人ノモノガ今年度ハ百二十八人、殆ド倍ニナツテ居リマス、是ハ決シテ惡イト言フノデアリマセヌガ、一例デアリマス、之ヲ集積シテ見マス、成程多クノ役人ガ殖エルト云フコトハ、爭フコトノ出來ナ

イ事實デアラウト私ハ思フノデアリマス、戰爭ニ要スル費用ハ、吾々ハケチナコトハ言ハナイ、併シ政府ハ折角國民精神總動員ノ改組問題モアツテ、國民精神ヲ作興サセヨウト言ツテ居ラレル、日本國中ノ第一ノ消費者ハ誰デアアルカト言ヘバ政府自ラデアアル、其ノ第一ノ消費者デアアル政府自ラ國民ニ向ツテ模範ヲ示スト云フコトガ、國民精神ヲ緊張セシメ、此ノ事變處理ニ最モ必要ナコトト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、伊太利ハ「エチオピア」戰爭ガ始ツタ時ニ、直チニ各省ノ行政費ヲ三割節減セヨト命令ヲ出シテ、之ヲ實行致シタト云フコトデアリマス、英吉利モ昨年ノ四月ニ一般行政費ノ節約ヲセシメテ居ル、英吉利モ、獨逸モ、伊太利モ、佛蘭西モ、國家ガ有事ノ秋ニハ必要ナモノハ思切ツテ之ヲ出スガ、一面ニ於テ國民ノ負擔ヲ輕クセネバナラヌト云フノデ、節約ヲセシメテ居ル、是ハ當然ナコトデアリマス、尙ホ伊太利ガドウデアラウガ、獨逸ガドウデアラウガ、外國ハ宜シイ、私ハ日本ノ現狀ニ鑑ミテ、政府當局ハ適當ナル方策ヲ講ゼラレナクテハナラヌト思フノデアリマス、之ニ對シテ總理大臣ハ如何ナル所信ヲ有セラルルノデアリマスカ、先ヅ此ノ點ヲ御伺致シタイノデアリマス、次ニ御伺致シタイノハ、支那事變處理、聖戰目的の完遂上、政府堅持ノ低物價政策ト生産力擴充ト、何レガ重キヤト云フノデアリマス、此ノ點モ總理大臣ニ御尋致シマス、今更申上ゲルマデモナク、今日ノ戰爭ガ單ニ武力ノミニ戰爭ニアラズ、財政、經濟、産業思想等々、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ人的、物的資源ノ總テヲ舉ゲテノ戰、即チ國ト國トノ總力戰デアアルコトハ、三尺ノ童兒ト雖モ能ク之ヲ理解スル所デアリマス、而シテ今回ノ聖戰目的の完遂ノ爲ニ、種々重要ナル施設ノ必要ナルコトハ言フマデモナイガ、就中生産力擴充ガ如何ニ重大デアアルカト云フコトハ、茲ニ改メテ喋々ヲ要シナイノデアリマス、重慶政府及ビ援蔣第三國ハ、日本ハ武力ニハ強イガ經濟ニハ弱イ、結局物資缺乏ノ爲ニ參ルデアラウナドト、惡宣傳ヲ致シテ居ルノデアリマス、固ヨリ是等ハ取ルニ足ラヌ逆宣傳デアアリマスケレドモ、物資動員計畫ノ完遂及ビ生産力擴充ニ向ツテ、總力ヲ舉ゲネバナラヌコトハ勿論デアリマス、生産力擴充、増産第一主義ニ依ツテ、物資ノ充足ヲ圖リ、以テ日滿支三國一體ノ緊密ナル經濟提携ニ依ツテ、東亞ノ新秩序ヲ建設スベキコトハ、事

變以來我國ニ課セラレタル一大使命デアリ、隨テ事變處理ヲ最大目的ト致シテ居リマス米内閣ノ、寸時モ忘ルルコトノ出來ヌ重大問題デアリマス、然ルニ政府ハ口ヲ開ケバ低物價々々ト言ハレルガ、事變下總力戰體制ヲ確保スル爲ニ、低物價ノ堅持ト云フコトガ叫バレルノデアツテ、低物價其ノモノガ尊イノデハナイ、即チ低物價政策ヲ堅持スル爲ニ、生産力ノ擴充ニ反シ、重要資材ノ増産ヲ阻碍シ、却テ戰時經濟體制ヲ不安化スル場合ガアリトスレバ、ソレハ本末顛倒デアリ、嗤フベキ形式主義ノ錯覺デアリマス、固ヨリ生産力ノ擴充、増産第一主義ト申シマシテモ、原則的ニ言ヘバ、低物價政策ニ依リ極力物價ノ暴騰ヲ避ケ、以テ「インフレ」防止ニ對シテ、十分ナル用意ヲ怠ツテナラヌコトハ言フマデモアリマセヌガ、政府ハ餘リニ原則論、形式論ニ囚ハレテ居ルノデハナイカ、詰リ通貨ノ膨脹ト物價ノ騰貴トガ、所謂惡循環ヲ續ケ、物價騰貴ノ極點ニ達シタ時ニ、惡性「インフレ」ガ起ルノデアルカラ、此ノ物價騰貴サヘ抑ヘテ置ケバ、惡性「インフレ」ハ防止サレルト云フ考ヘ方ガ、政府當局ニ強イト思フノデアリマス、政府當局ノ頭ハ此ノ考デ支配セサレテ思フノデアリマス、政府ノ此ノ考ヘ方ハ一應尤モデアツテ、吾々モ之ヲ諒承スルコトガ出來ルガ、政府ニ於テハ更ニ最モ大切ナル點ヲ見逃シテ居ラルルコトヲ、私ハ甚ダ遺憾ニ存ズルノデアリマス、政府ノ警戒セラレル物價騰貴ノ原因ハ種々アリマセウガ、今日ノ場合最モ重大ナル原因ハ何デアルカト言ヘバ、物資不足デアリマス、即チ物資ノ供給ガ豐富圓滿ナ時ニハ、金ヲ持ツテ居リサヘスレバ、何時デモ欲シイ物ヲ欲シイ時ニ買ヒ得ル譯デアリマスカラ、貯金スルト云フコトハ、物ヲ蓄ヘルト同様ノ效果ガアリマスカラ、今日ノヤウニ物資不足ノ時代ニハ、金デ物ガ買ヘヌト云フ事態ニナルノデアリマスカラ、單ニ金ヲ持ツテ居ツテモ安心出來ヌト云フ心理作用ガ起ツテ、一層物ニ執著スル結果、買溜賣惜等ヲ助長致シ、所謂換物運動、金ヲ物ニ換ヘル運動ガ盛ニナリ、金ノ廻轉速度ハ徒ニ速クナリ、物價ハ愈々昂騰シ、惡性「インフレ」ニ進行スル傾向ヲ生ズルノデアリマス、故ニ物資ノ不足ガ總テノ根本的ナ問題デアルカラ、物價ノ漸次的ナ騰貴ヲ恐レルヨリモ、物資不足コソ一層重大デアリ、隨テ生産力擴充、増産第一主義ノ建前カラ、先ヅ總テヲ擧ゲテ不足物

資ヲ充足スルコトニ、一大努力ガ拂ハレネバナラヌ等デアリマス、然ルニ以上ノ觀點ヨリ政府今回ノ石炭増産對策ヲ檢討スルニ、低物價政策ニ囚ハレ過ギテ居ラレルヤウニ思フガ如何デアリマスカ、政府ハ此ノ際低物價政策ニ修正ヲ加ヘラレル御意思ハアリマセヌカ、ソレトモ生産力擴充ヨリモ、低物價ノ堅持ガ重シトセラレルノデアリマスカ、總理大臣ノ御考ヲ承リタイノデアリマス、次ニ石炭不足ノ結果、各種産業ヲ混亂破壊ニ導イテ居ル現狀ニ於テハ、低物價政策ニ囚ハレズ、或ル程度値上ヲ認メテ、増産目的ヲ達シタ方ガ得策ト思フガ、政府ノ所見ハ如何デアリマスカ、此ノ點ハ商工大臣及ビ大藏大臣ニ御尋致シマス、私ノ見ル所ニ依レバ、政府ハ低物價政策ニ急ナル結果、重大ナル錯誤ニ陥ツテ居ラレルト思フノデアリマス、ソレハ何デアルカト云ヘバ、諸物價ヲ下ゲル爲ニハ、全産業ノ基礎的資材デアアル石炭ノ値段サヘ下ゲテ置ケバ、之ニ依ツテ物價騰貴ヲ抑ヘルコトガ出來ルト云フ、公式主義ニ囚ハレタル考ヘ方デアリマス、然ルニ實際ハ逆ノ結果ヲ現ハシテ、炭價ノ抑制ニ依ツテ需給ノ均衡ヲ破リ、配給ノ不圓滑ヲ來シ、石炭飢饉ノ結果トシテ産業界ヲ混亂ニ陥レ、却テ物價昂騰ノ因ヲ成シタコトハ天下周知ノ事實デアリマス、吾々ハ石炭飢饉ノ對策ト致シマシテハ、努力及ビ資材ノ優先的供給ト、海陸輸送機關ヲ整備スベキハ勿論デアアルガ、先ヅ此ノ時此ノ際ハ直チニ炭價ヲ適正ニ引上ゲテ、其ノ増産ト出廻リヲ刺戟促進スルコトガ、急務中ノ急務ナリト考ヘテ居ルノデアアルガ、商工當局ハ全ク前述ノ公式論ニ禍サレテ、値上ヲセザルノミナラズ、逆ニ強制的値下ノ過誤ニ陥ラレタノデアリマス、即チ現在ノ石炭單價ハ言フマデモナク、昭和十三年九月一日、輸出品等ニ關スル臨時措置法ニ依リ、強制的ニ値下ヲセラレタノデアリマシテ、其ノ儘今日ニ及ンデ居ルノデアリマス、一方生産費ハ昭和十四年ノ九月十八日ニ至ル、凡ソ一年ノ間ニ約二割六分ノ昂騰ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、是ガ爲ニ炭礦ノ經營ノ採算ハ著シク破壊セラレ、此ノ結果ハ凡ソ國家ガ要求スル増産トハ反對ノ步調ヲ辿リツツアルノデアリマス、成程政府ノ御考モ一應御尤モデアリマスケレドモ、ソレハ餘リニ思ヒ過ギテ、實情ニ疎イ考ヘ方デハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、石炭ノ値上ニ對シマシテハ、業者側ニ於キマシテハ、最低五圓ノ要求ヲ致

サレテ居ルノデアリマス、ソコデ其ノ五圓ノ値上ガ如何ナル影響ガアルカト云フコトヲ調べテ見マスト、馳當リ五圓ノ値上ハ、現在石炭ノ平均價格二十五圓ト見テ、二割ノ値上デアリマスガ、是ハ國內全産業ノ生産品ノ總價額ニ對シテ百分ノ〇・三六ニ當ツテ居ルノデアリマス、即チ百圓ニ對シテ三十六錢ニ過ギナイノデアリマス、又國民一世帯ノ平均所得ヲ百圓見當ト假定致シマシテ、國民一億人、一世帯ノ家族數ヲ四人半ト致シマシテ、一箇月百圓ノ生活費中ニ於テ、石炭費ハ凡ソ五十錢ニ當ツテ居リマス、此ノ五十錢ニ對シテ二割ノ値上デアリマスカラ十錢ノ値上ニナリマス、之ヲ總計的ニ見マスト、産業ニ及ボス影響ハ、今日マデ國內全産業ノ生産品ノ總價額中ニ含マルル石炭全使用量ノ價格ノ割合ハ百分ノ一・八、一圓八十錢含ンデ居リマシタノガ、五圓値上ヲ致ス爲ニ二圓十六錢ニナツテ參リマス、一方又家庭費ハ五十錢ノモノガ十錢上リノ六十錢ニ相成ルノデアリマス、今日ハ五圓、十圓高イトカ安イトカ云フ問題デナクシテ、石炭ヲ手ニ入レテ早ク立派ナ生産ヲ起スカ起サヌカト云フ問題デアリマシテ、商工大臣及ビ大藏大臣ノ御考ニナルヤウニ、五圓、六圓ノ値上ガ、産業界ニ及ボス影響ハ輕微ナルモノト、吾々ハ考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、尙ホ大藏大臣ハオ居デニナリマセヌガ、過日六日ノ稅革案委員會ニ於キマシテ、森田福市君ガ補助金政策ニ付テ御尋ニナリマシタ所ガ、櫻内藏相ハ斯ウ云フヤウニ御答辯セラレテ居ルノデアリマス、一般的ノ値上ハ困ルケレドモ、値上ヲシテモ、ソレガ輸出品デアルトカ、或ハ軍需品デアルトカ、生活必需品デアツテ、而モ石炭ノ値上ニ影響シナイモノガアルニ違ヒナイ、サウ云フモノニ對シテハ特定價格ヲ認メテ、一部低物價ノ修正ヲスルヤウナコトヲ、仄メカシテ居ラレルノデアリマス、是ハ間違ヒナイト思ヒマスシ、寧ロサウ云ツタヤウナ一部ノ考ヘ方ノ修正ハ行ハレマシタケレドモ、尙ホ此ノ際増産ガ必要デアラナラバ、非常時ノ對策トシテ、思切ツタ低物價政策ニ對スル修正ノ必要ガアラウト思ヒマスケレドモ、大藏大臣ハ其ノ勇斷ガナイノデアリマセウカ、此ノ點大臣ガオ居デニナリマセヌナラバ、別ノ機會ニ於テ大臣ヨリ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、更ニ商工大臣ニ御尋致シマスガ、獎勵金制度デハ、時ニ方針變更ノ虞ガアル、故ニ石炭鑛業ノ如キ長期計畫ヲ要

スルモノニハ不適當ト思フガ、政府ノ見ラレル所ハ如何デアリマセウカ、只今御説明ニナリマシタ如ク、政府當局トシテモ増産ヲ促進シ、其ノ需給ノ調整圓滑ヲ圖ル爲ニ、炭價ノ適正ヲ期スル必要ヲ認メテ居ラレルノデアリマスケレドモ、價格ノ一般的引上ヲスレバ、政府堅持ノ低物價政策ト矛盾スルト云フ行懸リニ囚ハレテ、窮餘ノ策トシテ増産獎勵金制度、其ノ他合計八千三百万圓ヲ以テ石炭増産對策ニセラレタノデアリマス、併シ私ハ今回ノ獎勵金制度及ビ補助金制度ヲ以テ、政府ノ企圖セラレル増産ヲ期待スルコトガ出來ルカドウカ、多大ノ疑問ヲ有スル者デアリマス、政府ガ徒ニ物價騰貴ヲ恐ルル結果、獎勵金制度ヤ補助金制度ヲ採用スルノハ全ク低物價政策ノ堅持ト云フ形式主義ニ囚ハレタ結果デアルコトハ、只今申述べタ通りデアリマス、政府ハ物價ノ騰貴ヨリモ、根本的ナ物資ノ不足、物資需給ノ破綻ガ一層恐ルベキ結果ヲ招來スルト云フコトニ、ナゼオ氣付キニナラヌノデアリマセウカ、尙ホ獎勵金ヲ出スト言ハレマスガ、此ノ案ニ依リマスト、新シク増産セラレル部分ノ採算ハ、幾分改善セラレルノデアリマスケレドモ、從來ノ基準生産分ニ對スル採算ハ、決シテ救ハレヌノデアリマス、ソレデハ不合理的公平ダト思ヒマスガ、ドウ云フ風ニ御考ニナルノデアリマスカ、其ノ譯ハドウデアルカト申シマスト五百五十万圓ノ増産ヲヤルト云フノデ、馳當リ四圓ト致シマシテ、二千二百万圓ノ増産獎勵金ヲ見積ツテ居ラレマス、併シ石炭ノ實際ヲ見マスト、十三年、十四年ノ中ノ最高出炭ヲ基準トシテ、是ヨリ増産シタ分ニ對シテ獎勵金ヲ出スト云フノデアリマスガ、全國ノ状態ヲ調べテ見ルト、全國ノ大小ノ炭礦ハ、採算困難、金融難、資材勞力不足等ニ困ツテ居リマス、十三年度末ガ最モ増産ヲシタ時デアリマシテ、飽和點ニ達シテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ出炭ヲ維持スルコトガ精一杯デアル所ニ、此ノ上増産セヨト言ハレテモ、中小炭礦ハ中々サウ思フヤウニ増産ガ出來ナイ實情ニアルコトハ、多分大臣モ御承知ノコトト思フノデアリマス、即チ補助金獎勵金等ノ制度ハ、一部炭業ノ採算ガ改善セラレルコトハ確カデアリマスケレドモ、ソレハ大資本ヲ擁スル財閥企業家ヲ利スルノミデアツテ、中小鑛業家ニハ利益ガ薄イト私ハ考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、斯ウ云フコトデ果シテ所期ノ増産ガ得ラレルカドウカ、

多大ノ疑問ガアリマス、一步譲ツテ相當ナ效果ガアリト致シマシテモ、獎勵金制度ハ國家財政ノ掣肘ヲ受ケルモノデアリマシテ、財政上ノ都合ニ依ツテハ、何時變更又ハ廢止ノ運命ニ遭遇スルカモ圖リ知レナイデアリマス、隨テ炭礦業ノ如ク長期計畫ヲ要シ、而モ危險性ノ多イ企業トシテハ、洵ニ不安極マルモノデアリマシテ、安ンジテ企業ヲ爲スコトガ出來ナイ、故ニ獎勵金制度ノヤウナ一時的對策デハ、増産方針ニ反スルト思フガ、此ノ點ハドウ御考ニナルノデアリマセウカ、私ハ獎勵金制度ヨリモ、値上ノ方ガ増産對策トシテハ、ヨリ有效デアルノミナラズ、消費ノ合理化、經濟化ニモ有效ニ作用スルト考ヘマスガ、大臣ハ如何御考ニナルノデアリマセウカ、又之ヲ別ノ觀點カラ眺メテ見マス、炭價引上ノ必要ハ、勞力資材ノ騰貴カラ起ツタモノデアリマスルカラ、其ノ源デアアル勞力資材ガ引下セラレナイ限り、炭價引上ノ必要ト云フモノハ決シテ消滅シナイデアリマス、而シテ勞働賃銀ハ今後上ルトモ下ルトハ思ハレナイデアリマス、サウスルト今日ノ不合理炭價ハ、一時的デナク永遠ノモノトナリマス、隨テソレニ對スル補助金モ永遠ノモノトナリマス、而シテ政府ガ共販會社ニ與ヘラレル補助金ハ何カラ支出サレルカト云ヘバ、直接ノ支出ハ公債デアリマセウ、併シ其ノ公債ハ國民ノ租稅ヲ以テ始末スルデアリマスルカラ、結局ハ國民ノ負擔デアリマス、國家ガ或ル事業ニ對シテソレガ幼稚デアツテ未發達ノ場合、其ノ幼稚事業ニ補助金ヲ與ヘテ、是ガ發達ヲ期スルト云フコトハ、今日マデ往々行ハレテ居ツタノデアリマシテ、國民中誰一人トシテ之ニ異論ヲ挾ム者ハナイデアリマス、併シナガラ石炭鑛業ノ如キハ、既ニ大イニ成長シ切ツタル事業デアリマス、幼稚事業デハゴザイマセウ、ソレニ對シテ補助金ヲ與ヘテ國民ノ負擔ヲ増加セラレルコトハ、如何ナモノデアリマセウカ、當ヲ得タモノデアリマセウカ、私ハ多大ノ疑問ガアルデアリマス、國民思想上如何ナルモノデアリマセウカ、而モ當業者ガ喜ンデ之ニ協力スルノ態度ヲ示セバマダ宜シイデアリマスケレドモ、當業者モ決シテ喜ンデハ居リマセウ、當業者ハ斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、私モ多クノ友人ヲ持ツテ居リマスルガ、當業者ハ大體斯ウ云フコトヲ言ツテ居リマス、勞力資材ノ騰貴ニ依ツテ石炭業ハ採算不引合ニ陥ツタノデアアル、之ヲ引合フ程度

ニ引上ゲルコトハ當然デアツテ、言ヒ換ヘレバ値ヲ上ゲテ貰フト云フコトハ經濟事情ノ變化デアアル、此ノ經濟事情ノ變化ニ依ツテ、政府ガ値ヲ上ゲルト云フコトハ當然デナクテハナラナイ、然ルニオ前達ハ困ツテ居ル弱者デアアルカラ獎勵金ヲヤル、補助金ヲヤルト云ツタヤウナ、投ゲ與ヘルト云ツタヤウナ、恩惠ヲ受ケテ事業ヲスルト云フコトハ不愉快デアアル、斯ウ云フ風ニ彼等ハ言ツテ居ルデアリマス、尙ホ茲ニ附加ヘテ置キタイノハ、何レ財政收縮ヲ厭デモ應デモ致サネバナラス、採上ゲネバナラス時ガ參リマス、サウ云フコトヲ豫想セネバナラス今日、其ノ反對ノ方向ニ無反省ニ進ンデ行クト云フコトハ如何デアリマセウカ、此ノ巨額ノ補助金ガ國家財政カラ毎年々々引續キ注入サレルデアリマス、而モ買取補助金ハ釘付ケデハナイ筈デアリマス、段々經濟事情ガ變レバ買取補助金ノ額ハ上ツテ參リマス、其ノ額ガ上ル、即チ一般物價ノ昂騰ニ伴ヒ、石炭「コスト」ノ値上リニ依ツテ更ニ増額サレル性質ノモノデアリマス、シテ見レバ財政ノ膨脹ヲ來スコトハ明カデアリマス、尙ホ價格問題ノ尻ヲ直接財政膨脹ニ持込ミ、一般國民ノ負擔ニ歸セシムルコトガ妥當デナイト云フコトハ、只今申上ゲタ通りデアリマス、此ノ點ニ對シテ商工大臣、大藏大臣ノ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス、更ニ御尋致シタイノハ資材ノ關係デアリマス、政府ハ資材ノ優先配給ヲヤルト云フコトヲ、去ル三日ノ閣議デ麗々シク發表セラレテ居リマス、増産ノ獎勵ハ、今日ノ實情カラ云ヘバ、第一ニ資材ト勞力ノ配給ニアルノデアリマシテ、見方ニ依ツテハ採算問題ハ第二義的ト云ウテモ宜イノデアリマス、即チ勞力、資材ハ石炭増産ニ於ケル一般的問題デアリマスケレドモ、採算問題ハ部分的問題ト見ルコトモ出來ルデアリマス、即チ採算ノ良イモノモアリ、不引合ノモノモアル、其ノ炭礦ニ依ツテ區々デアリマス、併シナガラ勞力ト資材ノ問題ハ、一般的重要問題デアリマス、ソコデ増産對策ノ第一著手ト致シマシテ、勞力資材ノ配給ニ付テ基本的ナ企畫ヲ持タネバナラヌト思フデアリマス、補助金トカ補償金トカハ、右ノ企畫ガ出來上リマシタ後ニ考ヘラルベキモノデアリマス、所方實際ハ逆デ、勞力資材ノ供給ヲ後カラ附隨的ニ關係當局ノ間デ考慮サレテ居ル程度デアリマス、増産對策トシテ最モ必要ナル施設、殊ニ重點主義ヲ以テ資材ノ

優先配給及ビ勞働力ノ充足強化等、實際ノ石炭増産ノ爲緊急ヲ要スル問題ヲ解決セズシテ、サ
 ア増産シテ來イ獎勵金ヲヤルト言ハレタ所デ、ソレハ恰モ榮養不良ノ爲ニ不健康デ走ルコトノ
 出來ヌ者ニ、サア此處マデ走ツテ來イ、來タラ麵麩ヤ牛乳ヲ飲マシテヤラウ、麵麩ヲヤラウ、
 牛乳ヲヤラウ、斯ウ言ハレルノモ同様デアツテ、本末顛倒デアリマセヌカ、體質虛弱ナ者ニ
 對シテ、走レナイ者ニ對シテハ、先ヅ走レト命令スル前ニ、麵麩ヤ牛乳ノ如キ榮養物ヲ與ヘ
 テ、健康體ニシテヤルコトガ先決問題デアリマス、資材及ビ勞力ヲ先ヅ豊富圓滑ニスルコトガ
 先決デアルト思ヒマス、所ガ實情ハドウデアアルカト申シマスルト、坑内照明用ノ「カーバイト」
 ナドモ二分ノ一位シカ來テ居リマセヌ、護謨足袋ノ如キ全クナイト言ツテモ宜イヤウナ状態ニ
 置カレテ居リマス、然ルニ政府ハ八日ノ閣議デ決定シ、九日ノガ今日ニ延期ニナリマシタガ、
 大體此ノ案ハ九日ニ上程セラレルト云フコトデアツタ、所ガ八日ニ閣議ガ開カレマシテ、日滿
 北支蒙疆一貫ノ石炭増産對策ト云ツテ堂々ト發表セラレテ居リマス、ソレニ依リマス、内外
 地對策ト云フノガ二十箇條アリマス、其ノ他北支蒙疆對策ト云フノモアリマスガ、ソレヲ讀ン
 デ見マス、結論ハ斯ウナツテ居リマス、優先的ニ取扱フコト、有效適切ナル措置ヲ講ズルコ
 ト、適切ナル措置ヲ講ズルコト、適切ナル方法ヲ講ズルコト、積極的ニ措置スルコト、特別ノ
 措置ヲ講ズルコト、確保スルコト、一層ノ有效ナル措置ヲ講ズルコト、整備スルコト、結論ハ
 皆斯ウ結ンデアリマス、二十箇條ノ中是ダケ特別ノ措置ヲスルコト、積極的ニ云々ト云フコト
 ヲ總テ合セマシテ、十四五並ンデ居ルノデアリマス、私ハ此ノ文句ガ氣ニ入ラヌト言フノデア
 リマセヌ、私ガ閣議ニ列シマシテモ斯ウ云フコトヲ書ク外ハナイ、一般ニ發表ナサル大筋トシ
 テハ、私ハ是デ宜イト思フノデアリマス、併シナガラ議會ニ於テ、或ハ本會議、委員會ニ於テ
 吾々議員ニ御話ニナル場合ハ、適切ナル措置、積極的ナル措置ヲ講ズルトダケデハ、吾々ハ滿
 足スルコトガ出來ナイノデアリマス、企畫院總裁ガオ居デニナリマスガ、企畫院總裁、殊ニ資
 材ノ配給問題ニ付テハ、陸軍大臣海軍大臣ノ御協力ヲ得ナクテハ出來ナイ、是ハモウ多クヲ
 言フ必要ハナイ、國民ノ常識ニナツテ居リマス、今日軍需第一、是ハ何人モ異議ハアリマセ

ヌ、産業上最モ必要ナルモノノ資材ト云フコトニナレバ軍部ノ關係デアリマス、陸軍大臣、海軍
 大臣ノ協力ナクシテハ出來ナイト云フコトハ、國民的常識デアリマス、況ヤ業界ニ於テハ、當
 業者ニ於テハ此ノ點ヲ十分顧慮致シテ居ルノデアリマス、サウ云フ抽象的ナ言葉デナクシテ、此ノ大問
 題ヲ國民齊シク監視致シテ居ルノデアリマス、今少シ親切丁寧ナル御答辯ガ欲シイト思ヒ
 マス、如何デアリマセウカ、次ニ増産對策ト致シマシテ、私ハ休眠鑛區ノ整理問題ヲ述
 ベネバナリマセヌ、一體隣接鑛區ヲ整理スレバ既設ノ設備ヲ持ツテ居ルモノガ新シク坑ヲ掘ツ
 テヤルヨリモ、既ニ隣リノ線マデ來テ居ル場合、之ヲ突破スレバ、既設設備ニ依ツテ非常時ノ
 非常時對策トシテ、十分ナル増産ヲ期スルコトガ出來ルト思ヒマス、政府ハ一體何故ニ之
 ヲ實行サレヌノデアリマス、増産法ノ發動云々ト云フコトハ、今回ノ八日ノ閣議ノ條項ニモ
 見エテ居ルヤウデアリマスケレドモ、如何デアリマス、之ニ對シテハ先年八田商工大臣ノ時
 ニ、互助會方面ヨリ十分ナル調査ガ出テ居ル等デアリマス、ソレニ依ツテ百六十万疋カ百八十
 万疋カ、之ヲ實行サヘサシテ貫ヘバ、増産ガ出來ルト云フコトヲ言ツテ居ルニ拘ラズ、作舊日
 ヲ延バシテ居ラレルト云フコトハ如何ナモノデアアルカ、此ノ點ヲ御伺致シタイノデアリマス、
 尙ホ共販會社ニ對スル技術的ノ問題、細カイ問題ハアリマスケレドモ、是ハ時間ガアリマセヌ
 カラ委員會ニ讓ルコトニ致シマス、尙ホ一手販賣會社ガ自ラノ配給施設ヲ持タナイデ、謂ハバ
 帳簿上ノ賣買デアリ、茲ニ吾々ノ得心致シ兼ネル點ガアリマスケレドモ、是モ委員會ニ讓ルコ
 トニ致シマス、唯茲ニ特ニ商工大臣ニ御伺致シテ置カナケレバナラナイ事ガアル、ソレハ何デ
 アルガト言ヒマス、増産出來ルカ出來ヌカト云フコトハ、アナタノ「實業人ノ氣持」ト云フ本
 ニモ御書キニナツテ居リマスケレドモ、要スルニ世ノ中ハ二ト二ト加ヘテ四ニナリ、二ト二ト
 ヲ掛ケテ四ト云フ譯ニハ行カヌ、世ノ中ハ數學通りニハ行カナイト云フコトヲ白狀シテ居ラレ
 ル、即チ机ノ上デ考ヘタ通りニ行クモノデハナイ、斯ウ云フ譯デアリマスガ、ソコデ業者ガ今
 日非常ニ不安ニ考ヘテ居リマスルコトハ、價格統制カラ配給統制ニナツタ、次ニ來ルモノハ何

モノゾ、國家管理カ、或ハ國有國營デアアルカ、此ノ經營形態ニ對シテ非常ナル危惧ノ念ヲ持ツテ居ルノデアリマスルガ、之ニ對シテ如何ナル御考ヲ持ツテ居ラレルノデアリマスルカ、御尋致シタイノデアリマス、尙ホ業者ハ此ノ案ニ對シテ全面的ナ反對ヲ致シテ居リマス、殆ド全面的ナ反對ヲ致シテ居リマスガ、斯様ナ反對ヲ受ケツツ、此ノ案ガ若シ通過ヲ致シタト致シマシテ、一手販賣會社ノ成立後十分ナル機能ヲ發揮スルコトガ出來ルカドウカ、多大ノ疑問ヲ有スルノデアリマス、業者トノ協力ノ方ハ、ドウ云フ風ニナサル御考デアアルカ、殊ニ商工大臣ハ民意ヲ尊重スルト云フコトヲ、屢、機會ノアル度ニ御述ニナツテ居ルノデアリマス、其ノ民意ヲ尊重セラレルト云フノハ、如何ナル意味デアリマスカ、其ノ具體策、運用上ニデアアルカ、人事ノ上ニデアアルカ、重役選任ノ上ニデアアルカ、或ハ商工省ノ監督ノ上ニデアアルカ、此ノ點ニ付テ親切ナル安心ノ出來ルヤウナ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、尙ホ根本的ナ問題デアリマスガ、國策會社ガドンク殖エマシテ、其ノ成績ガ思ハシクナイト云フコトハ、是亦天下周知ノ事實デアリマス、之ニ付キマシテ私ハ別ニ意見ヲ持ツテ居リマスガ、今日ハ述ベマセヌ、述ベル場合デアアリマセヌケレドモ、此ノ一手買取賣渡會社、共販會社ナルモノハ半官半民デアリマシテ、其ノ五千萬圓ノ中二千五百萬圓ト云フ半額ヲ、政府ガ持タネバナラヌ理由ハ何處ニアリマスカ、株ヲ持ツテ居ラネバ重役ヲ出セナイト云フ御考デアリマスカ、併シ此ノ會社ニ限ツテハ官僚ノ天降リ人事ハヤラヌト抑セラレテ居ル、政府ハ權力ヲ持ツテ居ル、命令權其ノ他ノ權力ヲ持ツテ居ルケレドモ、然ラバ何ヲ好ンデ此ノ財政多難ノ時ニ半額ヲ政府ガ出資セネバナラヌカ、其ノ半額ヲ持ツ理由ハ何處ニアリマスカ、之ヲ詳細ニ承リタイノデアリマス、更ニ勞働力ト石炭輸送ノ問題ニ付テモ、厚生大臣ニ御尋シタイノデアリマスガ、時間ガアリマセヌカラ、委員會ニ讓ルコトニ致シマシテ、最後ニ商工大臣ニ特ニ希望ヲ申述ベ、又御意見ヲ承リタイト思ヒマスルノハ、今日ノ官僚獨善、事務ノ方面ニ於キマシテ繁文褥禮ノ聲ガアルコトハ、大臣能ク御存ジノ所デアラウト思フノデアリマス、此ノ繁文褥禮ヲ廢シマシテ、事務ノ敏活ヲ圖ル、是ガ最も大切ナコトト私ハ思フノデアリマスガ、日本ノ現狀ハ如何デアリマスカ、阪神地方カラ東京ニ來ル汽車モ、行ク汽車モ超滿員デ、是ハ主ニ商

工省通ヒダト言ハレテ居ル位デアリマス、一々足ヲ運バネバモノガ片付カヌト云フ今日ノ狀態デアリマスガ、此ノ點モ十分御考願ヒタイト思フノデアリマス、私ハ中央ノ役所ニ於テ優秀ナル、有能ナル人材ヲ置クコト云フコトハ固ヨリデアリマスルガ、第一線ノ地方ニ居ル直接接觸スル面ノ役人ニ有能ノ士ヲ置クコトガ、私ハ最も必要デハナイカト思ヒマス、藤原商工大臣ハ實業人デスカラ、多分御承知ノコトト思ヒマスルガ、私ハ二十年前東京堂ト云フ書籍ノ元賣捌店ニ行ツタコトガアリマスガ、東京堂ニ行キマス、支配人ガ一番玄關ニ出テ居リマス、支配人ガ玄關ニ出テ居ツテ、支配人、次席、三席、四席、ト云フヤウニ、段々下ノ者程奥ニ引込ンデ居リマス、客ガ行キマス、支配人ガ自ラ應待シテ、是ハ會計、是ハ庶務、是ハ何處ト、サツサト玄關デ捌キマス、私ハ此ノ事務法ヲ見テ、成程東京堂ガ日本一ノ書籍問屋、雜誌問屋デアルト云フコトハ宜ナル哉ト思ヒマシタ、此ノコソガ必要デハナイカ、役所ニ於キマシテモ、局長、課長ト首腦部ノ者ガ先ヅ民衆ニ接シ、民衆ノ聲ヲ聽キ、民衆ノ苦情ヲ聽キ、其ノ行届カヌ所ヲ聽イテ、段々下ノ者ニ命令セラレルト云フ態度ヲ執ラレタラドウカ、斯ウ思フノデアリマス、藤原商工大臣ノ御懇意ナ田中貢君ガ、昨年獨逸ノ統制經濟ヲ研究シテ參リマシテ、吾々ニドウ言ツタカト云ヘバ、獨逸デハ認可ヲ申請シタ者ガアル場合ニハ、其ノ認可ヲ申請シタ者ノ氣持ニナツテ裁イテヤル、原則トシテ僅カニ二日デ處理シテ行ク、六日經ツテモ處理出來ナイ場合ニハ、主任者ガ下僚カラ書類ヲ取上ゲテ、自ラ之ニ何等カノ措置ヲ爲スコトニナツテ居ル、二週間經ツテモ返事ガナイ時ニハ、認可相成リタルモノト認メテ宜シイト云フ「ヒットラー」ノ言明ガアルト言ツテ居ルノデアリマス、「ヒットラー」ハ、役人ハ國民ノ世話ヲスル爲ニ存在スルノダカラ、忙シイ國民ニ一日休マセテ態、催促ニ來サセルコトハ、役人ノ一大恥辱デアルト訓令ヲ發シテ居ルノデアリマス、「ヒットラー」デサヘモ——私ハ「ヒットラー」デサヘモト申シマス、「ヒットラー」デサヘモ此ノ訓令ヲ發シ、此ノ心掛ニ依ツテ統制ガ運用サレテ居ル、況ヤ萬民輔翼ノ皇道精神ヲ以テヤル所ノ日本ニ於テハ、役人ガ親切心ヲ以テ民間ノ苦痛ヲ補ヒ、之ヲ安ンズルト云フ方法ヲ、私ハヤラネバナラヌト思フノデアリマス、是等ニ對シテ商工大臣ハ民意ヲ尊重スル、統制ハ運

用ニ於テ旨クヤルト云フ御考ノヤウデアリマスルケレドモ、ドウ云フ風ナ御考ニナツテ居ルノデアリマスルカ、ソコデ私ハ最後ニ一言致シテ降壇致シマスガ、兎ニ角今日ニ於テ國策會社或ハ其ノ他ノ法律案ガ出マス時ニ、最初ハ割合ニ良イ案ガ考ヘラレマス、所ガ右シ左シ、色々披ツテ居ル中ニ、不徹底ナモノニナツテ來ル虞ガアルト私ハ思ヒマス、此ノ案ニ對シマシテ、私共ハ色々述ベタイコトガアリマスケレドモ、要スルニ右シ左スル所ニ、段々行ケバ行ク程妙ナモノニナツテ來ルト云フコトダケ申上ゲマシテ、其ノ他ノ意見ハ委員會ニ讓ルコトトシテ、私ハ降壇スル次第デアリマス

米内内閣總理大臣ノ應答

御答ヲ致シマス、御質問ノ如ク、一般行政費ノ節約ト云フモノハ、勿論必要デゴザイマス、唯時局ニ鑑ミマシテ緊急必要ナル施設ニ對シマシテハ、支出ノ増大ト云フモノハ已ムヲ得ヌ所デゴザイマシテ、ソコニ工夫ヲ要スル點ガ存スルト考ヘルノデアリマス、政府ハ個々ノ物資ニ付キマシテ十分實情ヲ究メマシテ、其ノ調和ヲ圖ツテ行キタイト考ヘテ居リマス、次ニ生産力ノ擴充ト低物價政策トハ、今日孰レモ大切デゴザイマス、政府ト致シマシテハ、屢言明致シマシタル如ク、低物價政策ヲ堅持シツツ、生産増大ヲ圖ルコトガ大切デアラウト考ヘテ居ル次第デアリマス

藤原商工大臣ノ應答

岡野君ニ御答申上ゲマス、第一ノ御尋ハ、石炭ヲ値上スレバ一番效果ガアルデハナイカ、此ノ御質問ニ付テハ、度々申上ゲマシタ通りニ、石炭ノミヲ見、單ニ石炭ノ増産ヲ圖ルト云フ、石炭ノミノ見地カラ御考ニナリマシタナラバ、是ガ一番最上ノ策ト信ジテ居リマス、併シナガラ今日ノ時局ニ於テハ石炭ノミヲ考ヘマシテ、諸般ノ政策ヲ立テルト云フ譯ニ參リマセヌ、即チ此ノ時局ヲ乘切ツテ參リマスニハ、豫算ノ執行カラ申シマシテモ、其ノ他國

民生活ノ上カラ申シマシテモ、經濟界ノ諸般ノ事情ヲ考ヘマシテモ、ドウシテモ低物價政策デ行クヨリ外仕方ガナイ、低物價政策デドウシテモ行カナケレバナラヌト云フノガ、政府ノ度々繰返シテ申上ゲル根本的ノ方策デゴザイマス、ソレ故ニ其ノ方策ノ下ニ、如何ニシテ石炭ヲ増産スルカト云フノガ、即チ困難ナル問題デアツテ、政府ニ於テモ種々考慮ヲ盡シマシテ、今回ノ如キ案ヲ得マシテ、茲ニ御協賛ヲ願フ譯デアリマス、即チ之ヲ言ヒ換ヘマシタナラバ、今回ノ案ノ御協賛ヲ願ヒマスルナラバ、確ニ石炭ノ値段ヲ引上ゲズシテ、サウシテ石炭増産ノ目的ヲ達シテ、國民生活ニモ、産業ノ發展ニモ、必ズ其ノ效果ヲ擧ゲ得ルト政府ニ於テハ確信致シマシテ、此ノ案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、ソレカラ尙ホ今回ノ案ヲ能ク御覽下サルナラバ明瞭ニナリマスルガ、大企業家ニ對シマシテハ、良質ノ石炭ヲ安く此ノ會社ガ買取ルト云フコトニ相成ツテ居リマスルカラ、大企業家ニ對シテハ非常ニ氣ノ毒ナ點ガアリマス、併シナガラ今日ノ時局ニ於テモ已ムヲ得ザル政策ト信ジテ、斯ウ云フ案ヲ計畫致シタノデアリマス、尙又中小ノ炭礦業者ニ對シマシテハ、特別ニ考慮ヲ拂ヒマシテ、假令其ノ炭質ガ劣等ナ、劣悪ナ炭質デアツテモ、或ル程度規格ニ合格致シマシタモノデアラナラバ、其ノ生産費ヲ考慮致シマシテ、優良ナ石炭ヨリ之ヲ高ク買上ゲテ、石炭「プール」平準價格ニ依ツテ、需要家ニハ今日ノ石炭ノ價格ヲ引上ゲナイデ供給シヨウ、斯ウ云フヤウナ譯デアリマスカラ、大企業家ニ於テモ大イナル犠牲ヲ拂ツテ居ル、中小礦業者ニ於テモ洵ニ氣ノ毒デアアルケレドモ、其ノ立場ヲ保護シテ其ノ立チ行クヤウニ考慮ヲ拂ツテ、此ノ案ヲ立案致シテアリマスカラ、雙方ニ於テ、大企業家モ中小企業家モ大イナル満足ハナイケレドモ、又大イナル不平モアリ得ベカラザルコトト固ク信ジテ居ル次第デアリマス、又獎勵金ノ如キモノハ、是ハ今日ノ情勢カラ參リマシテ大企業家ニモ、中小ノ企業家ニモ、此ノ制度ニ依ツテ増産ヲ獎勵スルコトハ可能デアル、必ズ效果ガアルト云フコトト固ク信ジテ居リマス、詳細ハ委員會ニ於テ申述ベタイト存ジマス、尙又資材勞力ノ配給等ニ付キマシテハ、是ハ度々申上ゲマシタ通り、今日ニ於テ何事ヲ差措キマシテモ、國家ノ基本産業デアアル所ノ石炭ノ増産ヲ圖ルト云フコトハ、最モ必要ナル政策デア

ト政府ハ確信致シテ居リマス、即チ其ノ重要ナル國策デアリマスル石炭増産ノ爲ニハ、只今御指摘ニナリマシタ通りニ、努力資材其ノ他ノ供給ヲ滑カニシ、運輸交通ノコトモ能ク考慮ニ入レマシテ、此ノ増産ノ獎勵ト共ニ相俟ツテ、其ノ目的ヲ達成セントスルモノデアリマシテ、此ノ點ニ於テモ政府ハ確信ヲ以テ此ノ案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、尙又今日政府ハ價格ヲ統制シ、配給ヲ統制シテ、漸次統制ヲ強化シテ行ク、此ノ次ニハ或ハ國營トカ國家管理ト云フヤウナモノヲ實行スル意思ガアルノデハナイカ、當業者トシテ大イニソレヲ心配スルガト、斯ウ云フ御質問ノヤウニ伺ヒマシタガ、政府ニ於テハ今日ノ價格統制、配給統制ヲ以テ十分ニ増産ノ目的ヲ達シ、配給ノ目的モ達シテ、政府ノ考ヘテ居ル所ノ施設ヲ、圓滿ニ遂行シ得ルモノト信ジテ居リマスルカラ、國營トカ國家管理ト云フ意思ハ毛頭ゴザイマセヌコトヲ、茲ニ明瞭ニ申上ゲテ置キマス、尙又民意尊重ト云フコトヲ度々申シテ居ルガ、何處ニ民意尊重ノ跡ガ今回ノ案ニアルカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、先ヅ以テ今回ノ石炭統制ノ機關ノ中ニ、此ノ會社ハ半官半民ヲ以テ成立致シマスルケレドモ、此ノ會社ノ鍵ヲ握ツテ居ルモノハ政府デアリマス、政府ガ此ノ鍵ヲ握ツテ居ルケレドモ、微ニ入り細ヲ穿ツテ、政府ガ此ノ會社ノ内容ニ立入ツテ干涉スルト云フヤウナ考ハ、毛頭持ツテ居リマセヌ、即チ政府ノ今日狙ツテ居リマスル所ハ、鑛山トカ、石炭トカ、斯ウ云フヤウナ事業ニ經驗ノアル所ノ民間ノ有能ナ、且ツ德望ガアリ、人格ノ正シク、十分ナル經驗ノアル人ヲ採用シテ、寧ロ其ノ人ニ政府カラ頼ンデ此ノ會社ヲ經營ノ任ニ當ツテ貰フ、政府ハ監督及ビ監査ト云フヤウナ重大ナル鍵ヲ握ルト云フコトニ止メテ置キマシテ、實際ノ運用ハサウ云フ實業人ヲシテ活動セシメル、即チ民間ノ經驗知識ヲ利用シテ、政府ト協力シテ此ノ目的ヲ達セシメタイト云フコトガ、第一ノ政府ノ狙フ所デアリマス、其次ニハ今日直チニ配給機關ヲ國家管理ニ移シタリ、或ハ國營ニシタリ、或ハ政府ガ之ヲ買收シテ、總テ政府ノ手ニ於テ強力ニ經營スル方ガ、理想的デハナイカト云フヤウナ御議論モゴザイマスルガ、併シナガラサウ云フコトヲ一朝ニ致シマスレバ、此ノ大產業ニ對シテ非常ナ混亂ヲ來シマス故ニ、兎ニ角現在ノ配給機關ノ如キモノヲ利用シテ、政府ノ監督ト共ニ相俟ツ

テ、滑カニ之ヲ運用シテ行キタイト云フノガ、此ノ統制法ノ狙フ所デアリマス、其次ニハ中小炭山ナドニ於キマシテ、色々金融上其ノ他ニ付テノ希望モアリマス、又實際上氣ノ毒ナ點モアリマス、改ニ斯ウ云フ會社ヲ設ケルト雖モ、サウ云フ中小炭山ノ實情モ考ヘテヤラナケレバナラナイモノデアリマスルカラ、ソレ故ニ統制會社ニ於テハ、特ニ金融ノコトニ重キヲ置イテ、中小炭山ノ金融ヲ滑カニスルト云フヤウナ考慮モ拂ツテアリマス尙ホ其ノ次ニ半官半民トシタ理由ハ何處ニアルカ、是ハ民間人ニノミ運營セシメテ十分デハナイカト云フヤウナ、御趣意ノヤウニ承リマシタガ、考ヘテ見マス、實際ノ運用ニ於テ、權力ヲ以テ全體ノ石炭ヲ統制シテ其ノ配給ヲ統制シテ行カウト云フ、非常ニ強力ナル一ツノ配給機關デゴザイマス、ソレ故ニ平時ノ場合ニ於テハ民間人ニ之ヲ委ネテ、民間ノ知識經驗ヲ以テ、之ヲ圓滿ニ運用スルコトハ有利ト考ヘテ居リマスガ、併シナガラ一朝必要ガアツタ時ニハ政府ノ權力ヲ働カセテ、權力ヲ以テ諸般ノ施設ヲ實行シ、運用ヲ實行スルト云フヤウナ大切ナ鍵ハ、政府ニ收メナケレバナルマイト考ヘテ居リマス、ソレ故ニ半官半民ト云フヤウナコトニ致シマシテ、平時ノ運用ト、一朝必要ナ場合ニ對シテ權力ヲ握ツテ居ルト云フ、其ノ二ツノ方面ヲ能ク考究致シマシテ、然ル後ニ此ノ案ヲ立案致シタ次第デアリマスカラ、詳細ハ委員會ニ於テ詳シク申述ベテ、十分ナル御諒解ヲ得タイト存ジテ居リマス、概略右様御答辯申上ゲマス

烟陸軍大臣ノ應答

石炭増産ノ爲ニ必要ナル資材ノ供給ニ付キマシテハ、陸軍トシテ其ノ重要性ニ鑑ミマシテ、大ナル關心ヲ以テ對處ヲシテアル所デアリマス、是ガ爲ニハ軍需資材ノ節用、廢品ノ回收再製、是等ノ手段ニ依リマシテ成ベク諸生産力擴充、就中石炭増産ニ振向ケルヤウニ努力中デアリマス、殊ニ重要ナルモノニ付キマシテハ、是ガ取得方ニ付キマシテ必要ナル協力ヲ爲ス如ク、是亦努力中デアリマス、努力ニ付キマシテハ、軍ト致シマシテハ出來ルダケノ協力モ致シマスルシ、又若シ軍需ト努力ト嚙合ヒマシタ場合ニ於キマシテハ、所謂互助協力ノ精神ニ依ツテ善處

シテ參リタイト考ヘマス

吉田海軍大臣ノ應答

私ヨリ御答セントシタコトハ、只今陸軍大臣カラ申述ベラレタル通りデゴザイマスカラ、重複ヲ避ケテ省略ヲ致シマス、左様御承知ヲ願ヒマス、

竹内企畫院總裁ノ應答

石炭ノ増産ノ爲ニ資材、勞務對策ガ、必要デアリマスコトハ、只今仰セノ通りデアリマス、此ノ法律案竝ニ獎勵金制度ハ、石炭増産ノ爲ノ色々ナ綜合的諸施設ノ一部デアルト心得テ居リマス、先日發表セラレマシタモノハ、唯其ノ方針ノ大綱ヲ示シテ居ルノデゴザイマシテ、政府ノ關係各省ノ間デハ、既ニ具體的ナ方策ノ決定シテ居ルモノモ大分アルノデゴザイマス、詳細ノコトハ何レ委員會等デ御答申上ゲタイト思ヒマス

鶴惣市君ノ質疑

本法案ハ電力ノ問題ト相竝ンデ、我ガ産業ノ動力源タル石炭ヲシテ、政府ハ電力ノ場合ト同ジク官僚支配ノ手ニ置クコトガ、今日ノ日本ノ聖戰目的達成ノ爲、將又國家將來ノ爲ニ、眞ニ必要デアルト致シマスレバ、私ト雖モ敢テ之ニ反對スル者デアリマセヌ、併シナガラ是マデノ經營ノ實績ハ、遺憾ナガラ期待ニ副ハズ、或ハ今日ノ場合ニ於テ、斯ウ斷定スルコトハ未ダ早計デアルカモ知レマセヌ、併シナガラ要ハ刻下當面ノ大問題デアリマスガ故ニ、假スニ時日ヲ以テセヨナドト云フ、悠長ナル計畫ヲ以テ之ニ臨ムト云フコトハ、第一今日ノ事態ガ許サヌノデアリマス、日本發送電ノ問題ニ見マシテモ、政府ハ幾度カ聲明ヲ發シテ、豊富低廉ナル電力ノ供給ヲ議會ニ確約セルニモ拘ラズ、結果ハ遂ニ今日此ノ有様デアリマス、殊ニ電力不足ハ今年ダケノ特殊現象カト思ツタノデアリマスガ、當ノ經營責任者タル増田總裁ノ如キハ、此ノ不

足現象ヲ目シテ、來年モ再來年モ繼續スルデアラウト、實ニ臆面モナク言ウテ居ラレルノデアリマス、日本ノ産業ノ根幹タル此ノ電力ガ、生産擴充ヲ國策ノ大本トシナガラ、此ノ不足現象ヲ以テ如何トモ爲シ能ハズト致シマスナラバ、國策ノ大本ニ協力シテ自ラ計畫スル所アル産業人ハ、一體何ヲ以テ國家ノ要求ニ應ヘントスルノデアルカ、官僚經營ノ悠長ニシテ杜撰ナル、實ニ此ノ一點ニ見テモ明カナ事實デアリマス、然ルニモ拘ラズ、此ノ緊迫セル問題解決ニ再ビ此ノ愚ヲ以テ臨マルルト云フコトハ、如何ナル意味カラ言ツテモ諒解ニ苦シム者デアリマス、殊ニ藤原商工大臣ハ産業界ニ於ケル大立物デアリマシテ、此ノ間ノ事情ニ付テハ、少クトモ吾々ヨリモ玄人デアリ、又其ノ御認識ニ付テモ相當ニ深イ筈デアリマス、就中石炭問題ニ關シテハ、今議會ニ於キマシテモ、此ノ急迫セル事態ヲ指摘シテ、軒下ニ火ガ付ケルガ如キ事態デアルトマデ、再三極言セラレテ居ルノデアアル、若シ此ノ極言ニシテ僞ガナイト致シマスレバ、要ハ當面危急ノ問題ニ對スル應急の處置ト云フコトガ、此ノ場合ニ於ケル最大ノ眼目デアルト私ハ思フノデゴザイマス、成程法案自體ニ現ハレタル立案ノ骨子カラ申シマスレバ、生産配給ノ一元制ト云フ立場カラ見テ、是ハ合理的デアルカモ知レマセヌ、併シナガラ現下ノ問題ハ、單ニ机上のニ合理的デアルカドウカト云フ問題デハナク、政策トシテ效果ガアルカナイカト云フ所ニ問題ノ根本ハアルノデアリマス、況ヤ現下ノ石炭問題ハ、假スニ時日ヲ以テセヨナドト云フ、悠長ナル餘裕ヲ與ヘ得ル程ニ吞氣ナ事態デアリマセヌ、殊ニ配給關係ニ於ケル一手買上、一手賣戻ナドト云フ問題ハ、如何ニ理想的デアリマシテモ、實際問題トシテ、複雑ナル今日ノ生産取引關係ニ當嵌メテ考ヘテ見マスレバ、政府ガ考慮サルルヤウニ、サウ簡單ニハ參ラヌノデアリマス、早イ話ガ規格ヲ統一スル場合ニ於テモ、一炭種ガ大量生産ノモノノミデアツテ、而モ積出港、積出驛ヲ同一ニスル場合デアリマスレバ、是ハ比較的樂デアリマセウ、併シナガラ全國ニ六百ノ炭礦ヲ有シ、而モ二千五百カラノ炭種ヲ擁スル規格ニ付テ、一々嚴正ニ檢炭ヲ行フト云フコトニ相成リマスレバ、恐ラク之ニ立合フ役人ダケデモ、數千人ヲ要スルデアリマセウシ、其ノ手續事務ノ煩鎖ニシテ複雑ナル、實ニ想像スルダケデモ容易ナコトデアリ

マセヌ、孫子ノ兵法ニモ時ニ隨ツテ拙速ヲ尊シト爲スト云フ場合モアルノデアリマシテ、此ノ緊迫事態ニ對處スル爲ニハ、百年ノ大計ト云フコトモ絕對必要デアリマス、併シナガラ事ハ常ニ面危急ノ問題デアリマスガ故ニ、敏速且ツ安直ナル計畫ヲ以テ之ニ臨マレルト云フコトガ、眞ニ事態ヲ認識スル者ノ執ルベキ手段デアルト思フデアリマス、一例ヲ舉ゲマスレバ配給ノ統制ニ致シマシテモ、産業別ニ需給ヲ調査シ、且ツ各資材ノ因果關係ヲ精査シテ之ニ依ツテ輕重緩急ヲ決定致シマスレバ、現在ノ機構ヲ以テシテモ、事ハ容易ニ實現出來得ルノデアリマス、政府ハ石炭界ノ現狀ヲ目シテ無統制極マルモノノ如ク推斷サレテ居ルヤウデアリマス、併シ業界ニハ各地方別ヲ以テ單位トスル、整然タル自治機關ガ存在シテ居ルノデアリマス、若シ政府ノ企圖スルガ如ク、配給ノ一元の統制ガ必要デアルト致シマスレバ、既存ノ自治機關ヲ監督硬捷スルコトニ依ツテ、完全ニ目的ガ達セラレルノデアリマス、又産業人ト雖モ今日ノ時局ヲ認識スル上ニ於キマシテハ、敢テ官僚ニ劣ラザル覺悟ト用意トヲ持ツテ居ルノデアリマス、故ニ官僚經營ノ形式ヲ借ラズトモ此ノ國家ノ要求ニハ應ヘ得ルノデアリマス、成程需給關係ガ甚ダ不均衡トナリ、而シテ需要ノ急増ニ伴フ輸送機關ノ不備ナドガ相交错シテ、配給ガ極度ニ不圓滑トナリ、且ツ戰時下事業ノ輕重緩急ニ對スル應對ニ缺ケル所ガアツタト云フコトハ、私ト雖モ決シテ否定致シマセヌ、併シナガラ全面的統制ト云フコトニ付テハ、何等缺ケル所ハナカツタノデアリマスガ故ニ、監督官廳ノ指定宜シキヲ得マスレバ、是ハ容易ニ解決出來ル問題デアリマス、若シ又戰時下事業ノ輕重緩急ガ問題デアルト致シマスレバ、軍需、日鐵、日發、鐵、肥料製造用ノ炭ヲ區切ツテ配給ヲ確保セラレバ、ソレデ宜イ筈ト思フデアリマス、又價格ノ統制ガ必要デアレバ、現在ノ如キ不合理ナ公定價格ヲ一擲シテ、眞ニ適正ナル價格ニ改ムレバ、政府ガ憂慮サレルガ如キ開相場ノ横行ハ斷ジテナイノデアリマス、之ヲ要シマスルニ、監督官廳ノ指示宜シキヲ得レバ、斯ノ如キ屋上屋ヲ架スルガ如キ官僚經營ノ形式ヲ借ラズトモ、自治統制ヲ強化スルコトニ依ツテ、事ハ安直且ツ敏速ニ運ブモノデアリマス、縱ンバ又百步萬步ヲ讓ツテ、之ヲ以テ尙ホ缺ケル所アリト假定致シマシテモ、本法案ヲ實施スルコトニ依ツテ生ズ

ル弊害ヲ考慮致シマスレバ、是ハ最早問題デアリマセヌ、例ヘバ「ブール」平準制ニ依ル利潤ノ平準化ト云フ問題ハ、個人ノ創意ト利慾トヲ巧ミニ操作動員スルコトニ依ツテ、初メテ生産ノ能率ト云フモノハ期待シ得ラレルニモ拘ラズ、最モ生産ヲ渴仰シ、且ツ必要ナル今日ノ場合ニ於テ、此ノ原則ヲ無視スルト云フコトハ、第一方法論トシテ拙劣極マルモノト言ハナケレバナリマセヌ、殊ニ重大問題ハ炭礦資金ノ問題ニ付デアリマス、資金旺盛ナル昭和系企業家ノ如キデアレバ兎モ角モ、少クトモ中小炭礦ニ於テハ、確ニ痛烈ナル問題デアリマス、現在ノ資金關係ヲ調査致シマシテモ、興銀乃至ハ銀行關係等ニ依リ融資ヲ受ケツツアル金額ト云フモノハ、極メテ僅少ナモノデアリマシテ、其ノ大部分ト云フモノガ、何レモ需要家乃至販賣業者等ノ手ニ依ツテ行ハレツツアルノデアリマス、又完全回收ヲ以テ事業ノ本質トスル今日ノ金融機關ニアツテハ、此ノ種ノ事業ノ危險性ヲ分擔シテマデ投資スルト云フコトハ、望ムベクシテ出來ル相談デハナイノデアアル、ソコデ炭礦業者ハ、然ラバ何ニ依ツテ此ノ資金ヲ受ケツツアルカト云ヘバ、即チ販賣權デアリマス、平タク申シマスレバ、其ノ有スル唯一ノ特權タル此ノ販賣權乃至ハ使用權ト云フモノヲ直接擔保ノ對照トシテ、需要家乃至ハ販賣業者ノ手ニ依リ融資ヲ受ケツツアルノデアリマシテ、是ハ實際問題トシテ敏速且ツ安直ニ、而モ長キ慣習ノ下ニ行ハレツツアルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、其ノ唯一ニシテ無二ナル此ノ特權ガ、一手買上制ニ依ル此ノ法案ノ實施ニ依ツテ、若シ他ニ奪ハレルト云フコトニナリマシナラバ、今日ノ投資ニ依ツテ辛ウジテ事業ノ維持經營ヲ爲シツツアル中小炭礦ハ、然ラバ何ニ依ツテ資金ヲ獲得スレバ宜イノデアアルカ、本法案ニ基ク成立會社其ノモノガ、業界ノ此ノ慣習通りニ危險ヲ分擔シ、安直且ツ大膽ニ、而シテ豊富ナル資金ヲ肩替リシテ呉レルノデアレバ、是ハ最早問題デアリマセヌ、併シナガラ此ノ點ニ關スル御考慮モナク、又肩替リスル御用意モ出來テ居ナイト云フノデアリマスレバ、本法案ハ中小幾百ノ炭礦業者ヲシテ、既ニ資金關係ニ於テ窒息セシメルノ結果トナルノデアリマス、現ニ此ノ影響ハ早クモ各地ニ悲惨ナル事態ヲ露呈致シテ居ルノデアリマス、本法案ニ依ル一手買上制度ノ發表セラレマスルヤ、從來之ニ投資ヲ爲シツツアツタ需要

家乃至販賣業者ハ、唯一ノ擔保タル販賣權ノ外ニ奪ハレルコトヲ豫知シテ、逸早くモ資金ノ回收ニ躍起トナツテ居ルノデアリマス、是ハ出資者側ノ立場カラ言ツテモ當然ナ處置デアリマセウ、斯クシテ業界ハ本法案ノ實施ニ依ツテ受ケル打撃ト云フコトダケデナク、單ニ發表セラレタト云フ、唯ソレダケノ事實ニ依ツテ、既ニ斯ノ如キ影響ヲ蒙ツテ居ルノデアリマス、是デハ業界ノ生産擴充ドコロデハナイ、單ニ經營上ノ維持サヘ困難デアルト云フ、憂フベキ事態ニ直而致シテ居ルノデアリマス、商工大臣ハ此ノ炭礦資金問題ニ關スル此ノ事實ヲ、果シテ何ト見テ居ラレルノデアアルカ、政府當局者ノ御所見ヲ御伺致シタイノデアリマス、殊ニ政府デハ本法案ノ實施ニ依ツテ、刻下當面ノ石炭飢饉ヲ緩和シ、且ツ六百万噸ト云フ、龐大ナル増産ヲ企圖セラレテ居ルヤウデアリマスガ、果シテ此ノ計畫ニ狂ヒナク、實績ガ之ニ伴フカト云フコトニ付テハ、私遺憾ナガラ承服致シ兼ネルノデアリマス、此ノ際特ニ申上ゲテ置キタイコトハ、第一増産ト云フコトハ、命令ヤ計畫ダケデ出來ルモノデナイト云フコトデアリマス、生産事業ノ實體ハ、申スマデモナク經營者其ノモノデアリマスガ故ニ、此ノ協力ナクシテ實績ノミヲ求メラレルト云フコトハ、是ハ木ニ縁ツテ魚ヲ求メルノ愚ニ等シイノデアリマス、本法案ニ對スル業者等ノ聲ニ聽キマシテモ、既ニ是ハ決定的ニ惡評デアアル、又歡迎サルベキ需要者側ノ聲ニ聽キマシテモ、少クトモ賛成ハ致シテ居リマセヌ、斯ノ如ク本法案ハ、各方面各様ノ反撃ヲ受ケツツアルニ拘ラズ、尙且ツ六百万噸ト云フ大量増産ガ期待出來ルト確信致サレマスナラバ、失禮ナガラ當局者ハ幻想ヲ御描キニナツテ居ラレルノデアアル、固ヨリ一部専門家が悲觀シテ居ルヤウニ、今日ノ業界ニ増産能力ナシト云フ見解ニ對シテハ賛成出來マセヌ、併シナガラソレトテ此ノ龐大ナル増産計畫ヲ期待シ得ルト云フヤウナ見解ニハ、尙更賛成ハ致シ兼ネルノデアリマス、計畫ニ對スル實績ト云フモノヲ期待サレルノデアリマスレバ、ソレニハ計畫ヲ可能ナラシムル爲ノ條件ト云フモノヲ御作りニナラナケレバナラヌノデアアル、早イ話ガ鑛區ノ整理ト云フヤウナ問題、御承知ノ如ク今日ノ鑛區ト云フモノハ錯雜混迷ヲ極メ、一方ニハ何千何百万坪ト云フ優良鑛區ヲ而モ贅澤ニ遊バセテ居ルモノガアルカト思ヘバ、一方ニハ完全ナル設備ヲ有シ、且ツ

旺盛ナル増發意慾ヲ持チナガラ、既ニ老廢セル鑛區ニ惱ンデ居ルト云フ現實ニ於テハ、是ハ確ニ考慮サルベキ問題デアリマス、又錯雜ナル今日ノ鑛床カラ見テ、採炭本位ノ建前カラ之ヲ整理按排スルト云フコトハ、増炭ヲ國家的ニ要求スル今日ニ於テハ、是ハ寧ろ當然ナ事ト言ハナケレバナリマセヌ、ソレ故ニコソ吾々ハ過般ノ議會ニ於テ重要鑛物増産法ヲ可決シ、現ニ之ヲ目的トスル鑛區ノ讓渡及ビ整理命令ト云フモノヲ、國家ノ權能トシテ協賛致シタイデアリマス、然ルニモ拘ラズ此ノ權能ハ未ダ曾テ發揮サレタコトハナイ、現ニ中小炭礦業者等、再三ガ實現方ヲ政府ニ要望シ、是サヘ出來レバ中小炭礦ノミヲ以テシテ年間百万、二百万ノ増産ハ、結構ヤツテ見セルト確言致シテ居ルノデアリマス、然ルニ政府ハ何故ニカ之ヲ御ヤリニナラヌ、是デハ折角ノ法文ガ實ヲ持チ腐レデアアル、之ニ對スル商工大臣ノ御所見ヲ御伺シタイノデアリマス、又六百万噸ト云フ龐大ナル増産ヲ計畫サレルニハ、相當多數ノ技術者ヲ用意スルト云フコトモ一ツノ條件デアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ、單ニ勞働者ノ如ク、三月ヤ半歳デ養成出來ル程簡單ニ解決ハ致シマセヌ、ソコデ御尋致シタイコトハ、目下應召中ノ軍人ノ中ニハ、相當多數ノ技術者ガ居ル筈デアアルカラ、之ヲ早日ニ歸還セシメテ、此ノ技術者拂底ニ充當スルト云フ御意思ガアルカドウカ、是ハ特ニ烟陸軍大臣ニ御明答ヲ御願致シタイノデアリマス、殊ニ注目スベキハ本法案中勞働者ニ對スル何等ノ施設モ、計畫モ考慮セラレテ居ナイト云フコトデアリマス、此ノ種事業ノ危険性ニ對シテ身ヲ以テ之ニ當リツツアル者ハ、即チ勞働者デアリマセヌ、斯ノ如ク計畫ハ人的ニ、物的ニ、周到ナル準備ト用意トガ必要デアリマシテ、唯漠然机上ノ理論ニ囚ハレテ是ガ實績ノミヲ收メヨウトシテモ、ソレハ初カラ出來ル相談デハナイノデアアル、事業ニハ環境ヲ與ヘ、人ニハ勇躍業ニ就カシムルノ條件ヲ與ヘテコソ、渾然タル産業ノ實績ハ初メテ期待出來ルノデアツテ、政府ノ方策ハ遺憾ナガラ此ノ逆デアアル、現下業界ノ採算難ト云フモノヲ、一瞥致シマシテモ、今日ノ業界ハ、世間デ想像シテ居ル程決シテ樂デハナイノデアリマス、現在ノ炭價ヲ考慮致シマシテモ、所謂臨時措置法ノ實施ニ依ツテ、強制値下

ヲ命ゼラレタ儘デアリ、之ニ加フルニ生産資材ハ逆ニ昂騰シ、而モ配給割當量、不渡ノ結果ハ、有體ニ言ツテ闇取引ノ暴利ヲサヘ承認シテ居ルト云フ有様デアアル、又資材ノ多クハ代用品ヲ強制サレル結果、縦シバ價格ニ無理ハナクとも、質ノ低下ハ窮極ニ於テ量ノ加重ヲ必然ナラシムル爲、之ニ依ル生産費ガ相當加算シツアルト云フコトモ、見逃シテハナラヌ事實デアリマス、斯ノ如ク炭價ノ實體ハ恐ルベキ生産高ヲ來シテ居ルニ拘ラズ、炭價自體ハ値下ヲ強制サレタ儘、此ノ物價高ノ社會ニ抛擲シテ顧ラレナイノデアアル、是デハ業者ノ採算難ト云フコトハ必然デナケレバナリマセヌ、政府ハ最近適正價格ト云フ言葉ヲ能ク使ハレルヤウデアリマスガ、果シテ今日ノ炭價ガ眞ニ適正ナモノナリヤ否ヤト云フコトヲ先ヅ御尋シテ置キタイノデアリマス、何處カノ新聞デアリマシタカ、政府ノ公定價格ヲ皮肉ツテ木炭ハ立木ノ値ヨリモ安イ、斯ウ書イテ居タノデアリマス、正直ノ所今日ノ公定價格ハ此ノ種ノモノガ決シテ少クナイノデアアル、闇相場ト云フモノガ、ドウ云フ値段デアアルカハ別トシテ、兎モ角モ生産費ヲ割ルヤウナ價値ハ、假令政府ノ公定價格ト雖モ、此ノ算定ニ無理ガアル以上、其ノ不合理ナルハ敢テ闇相場ト選ブ所ハナイノデアリマス、政府ハ二口目ニハ低物價、低物價ト言ハレルノデアアルガ炭價ノ値上ヲ假ニ馳當リ五圓ト假定致シマシテモ、其ノ堅持サレル政府ノ低物價政策ニ、何程ノ抵觸ヲ爲スノデアアルカ、是ハ大イニ御考慮ハナケレバナラヌ問題デアリマス、政府ハ最近、約十萬噸ノ外國炭ヲ輸入セラレテ居ルノデアリマス、而モ其ノ輸入價格ハ驚ク勿レ馳當リ五十四五圓ト云フ筈棒ナ値段デアアル、固ヨリ輸入ノ目的ガ政府ノ低物價方針ニアアルコトハ首肯出來マス、併シナガラソレトテ僅カ二十萬噸位ヲ以テ、何程ノ效果ヲ擧ゲルコトガ出來ルデアリマセウ、業者ニハ最低價格ヲ強要サレル政府ガ、一面ニ於テハ外炭輸入ニ斯ノ如キ法外ナ價格ヲ承認サレル、是デハ如何ニ善良ナ業者ト雖モ不愉快ナラザルヲ得ヌノデアリマス、殊ニ業者ノ事業慾ヲ刺戟セズシテ、増産ナドト云フコトノ期待出來ナイト云フコトハ、是ハ當ノ商工大臣ガ能ク御存ジノ筈デアリマス、現ニ過般ノ貴族院本會議ニ於ケル小倉正恒氏ノ質問ニ答ヘテ、増産ノ捷徑ハ炭價ノ値上デアアル、併シ是ハ政府ノ低物價方針ニ抵觸スルカラ行ハヌノデアアル、斯ウ明答ヲサレ

テ居ルノデアリマス、之ヲ以テシテモ炭價ノ値上ガ業者ノ事業慾ヲ刺戟シ、而シテ増産ヲ可能ナラシムル最モ安値、且ツ簡單ナル手段デアルト云フコトハ、既ニ大臣御自身御認メニナツテ居ルノデアリマス、果シテ然ラバ何ガ故ニ刻下當面ノ此ノ石炭對策ニ、其ノ最モ能率のデアリ、捷徑デアアル所ノ炭價ノ値上ヲヤラレナイノデアアルカ、國家ガ現ニ要求シテ居ル石炭ハ、十年後乃至百年後ト云フヤウナ、ソナナ悠長ナ石炭デハ斷ジテナイノデアリマス、尤モ當局者側ノ御見解デハ、ソレ故ニコソ八千三萬圓ト云フ龐大ナル補助金ヲ計上シ、之ニ依ツテ業者ノ採算惡化ヲ緩和スルノダ、斯ウ御考ヘニナツテ居ルノデアリマス、併シ私ヲシテ言ハシムレバ、是ハ又大イニ見解ガアルノデアリマス、成程政府ガ石炭ヲ初メ鐵、肥料、米等ノ基礎的商品ニ對シテ、價格引上ノ代リニ補助金政策ヲ執ラレルト云フコトハ、一應理論的ニハ私ニモ首肯出來ルノデアリマス、即チ此ノ補助金ノ狙ヒガ産業ノ生産ヲ確保シ、物價ノ惡循環ヲ避ケル爲ノ負擔分散ニアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ其ノ負擔分散ヲ效果のナラシムル爲ニハ、先決問題トシテ他ノ物價ガ前途引下ゲラレルカ、乃至ハ安定スルカ、騰貴スルトシテモ統制的ニ「バランス」ヲ取ツテ引上ゲラレルカ、何レニシテモ物價統制ノ確立ト云フコトガ、前提條件トナツテ來ルノデアリマス、然ルニ此ノ前提條件ノ確立ト云フコトハ容易ナコトデアリマセヌ、ココ數代ノ内閣ノ事績ニ徴シマシテモ、是ハ能ク首肯出來ルコトデアリマシテ、若シ政府ニ此ノ統制ノ確保ガ出來ズ、野放圖ニ昂騰スルト云フコトニナリマスレバ、補助金ハ其ノ都度物價ニ並行シテ雪達磨ノ如ク膨脹シ、其ノ結果ハ窮極、物價ノ惡循環トナツテ現ハレテ來ルト云フコトハ、是ハ當然ナ歸結デアリマス、是デハ惡循環ヲ避ケル爲ノ補助金政策ガ、何等ノ效用モ果サズ、無意味ニ終始スル結果トナル、是ハ餘程御考ニナラナケレバナラヌ問題デアアル、私ノ見解ニ從ヘバ、斯ノ如キ國家ノ犠牲ニ依ラズトモ、炭價ヲ率直ニ値上ゲサルレバ、此ノ問題ハ簡單ニ解決スルト思フ、需要者側ノ聲ニ聽キマシテモ、今日彼等ガ問題トシテ居ルノハ、價格ニアラズシテ量デアリマス、又此ノ補助金ヲ、増産獎勵ノ立場カラ考ヘマシテモ、其ノ效果ト云フコトニ付テハ、多分ニ疑惑ガ横ハツテ居ルノデアリマス、假ニ此ノ補助金

ガ業者ノ採算難ヲ緩和シ、且ツ増産意欲ヲ挑發セシメ得ル金額ト致シマシテモ、其ノ效果ト云フモノハ一會計年度限りニ過ギナイ、有體ニ申上ゲマスレバ、昭和十六年度ニ於テハ最早ドウナルカ分ラナイノデアアル、隨テ若シ此ノ増産ヲ積極的ニヤラレルト云フノデアアリマスレバ、將來物價騰貴シタル場合ニ於テハ補助金ヲ増加スルカ、要スルニ業者ノ將來不安ニ對スル國家ノ保障ト云フモノヲ御與ヘニナラナケレバナラヌノデアアル、現ニ今日ノ業者ハ第一次世界大戰爭當時ノ如キ短期ノ餌ヲ以テ六百萬噸ト云フ大増産ヲ釣リ得ルト御考ニナルナラバ、ソレハ業者ノ企業心理ヲ知ラザルノ甚ダシキモノト言ハザルヲ得マセヌ、本年度ニ於テモ主要炭礦ガ減産シタト云フコトハ、現在ノ採算惡化ヤ勞働、資材ノ不足ト云フコトモ、固ヨリ其ノ一因デアリマスガ、其ノ企業トシテ政府ノ石炭對策乃至ハ物價對策、要スルニ將來ノ採算ニ對スル先行キノ見透シガ付カナカツタト云フ所ニ、根本ノ原因ガアルノデアアリマスマイガ、今日補助金ニ釣ラレテ假ニ増産ニ著手致シマシテモ、實際炭ガ出ル頃ニハ補助金ハ打切ラレテ、何時元ノ木阿彌ニナルカモ知レナイ、斯ウ云フ先行キノ不安ガアツテハ第一徹底的ナ増産計畫ト云フモノハ立テラレナイノデアアル、即チ企業トシテ先行キノ見透シヲ與ヘルト云フコトガ最モ重大ナルコトデアリマシテ、サウ云フ見地カラ立ツテ、此ノ法案ハ既ニ重心ヲ失ツテ居ルト思フノデアリマス、若シ政府ガ企圖スル如ク、徹底的ニ統制主義ヲ以テ臨マントスルノデアレバ、中途半端ニ産業人ノ協力ヲ求メルト云フヤウナ不徹底極マル案ヲ以テセズトモ、ナセ竿頭一步ヲ進メテ國營計畫ヲ以テ臨マレヌノデアアルカ、商工大臣ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス、殊ニ最後ニ御尋致シタイコトハ、今日ノ業者ハ、嘗テハ自カラ鶴嘴ヲ大地ニ振下シ、幾度カ破産シ、幾度カ苦吟シ、而シテ危險ニ一身ヲ挺シテ今日ノ此ノ事業ヲ築キ上ゲタル所謂生殘リノ古強者デアリマス、政府ハ現狀ヲ目シテ増發能力ナシト見ラレルガ、現ニ業界ハ、昭和六年以降一昨年ニ至ル七箇年間に於テ一千三百八十一萬噸、昭和八年ヨリ同十一年マデノ間ニ、一箇年平均各三百五十萬噸ト云フ實ニ記録的ナ大増産ヲ敢行致シテ居ルノデアリマス、言フマデモナク、是ハ官僚支配ノ結果ニ

アラズ、補助金ニアラズ、實ニ業者其ノ者ノ自治的統制ノ賜ニ外ナラヌノデアリマス、斯ク如ク増産計畫ニ對スル實證的體驗者ヲ起用セズシテ、徒ニ官僚的机上「プラン」ヲ以テ此ノ緊迫セル石炭對策ニ對處セラレルト云フコトハ、事態ノ如何ナルカヲ辨ヘザルノ甚シキモノト言ハナケレバナリマセヌ、政府ハ最近何カト言ヘバ直チニ國家管理ヲ最後ノ切札トシテ御出シニナルノデアアル、電力モ、米穀モ、而シテ此ノ石炭マデガ現ニ國家管理トシテ茲ニ登場シテ來テ居ルノデアリマス、併シ是モ遂行ノ爲ナラバ已ムヲ得マセヌ、併シナガラ今日ノ業界ニハ大イナル不安ガ現實ニ支配致シテ居ルノデアリマス、是ハ容易ナラザル問題デアアル、今ヤ日本ノ東亞聖業ハ國家産業ノ實力戰ヘト移行シツツアル今日、其ノ根幹タルベキ産業人ニ此ノ風潮アルコトハ、特ニ心アル者ノ憂フルベキ現象ト言ハナケレバナリマセヌ、願クバ此ノ際此ノ時ニ當ツテ、全産業人ヲシテ安ンジテ業ニ就カシムル何等カノ意思表示ヲ爲サレンコトヲ、特ニ私ハ米内總理大臣ニ御願致シタイノデアリマス、之ヲ以テ私ノ質疑ヲ終リマス

藤原商工大臣ノ應答

鶴君ニ簡單ニ御答ヲ申上ゲマス、只今御指摘ニナリマシタ通り、私モ我國ノ産業ノコトニ付テハ幾分カ經驗ヲ持ツテ居リマスカラ、國策會社ノ經營ニ付テ今後ドウ云フ工合ニ致シタナラバ理想的デアアルカト云フコトニ付テハ、最モ慎重ニ考慮致シマシテ、其ノ結果今回ノ案ヲ作りマシテ、サウシテ之ヲ私ノ經驗カラ考ヘマシテ理想的ニ經營致シタイ、即チ國策會社ノ一ツノ理想的ノ經營ヲヤツテ見タイ、斯ウ云フ積リデ此ノ會社案ヲ立案致シマシタ次第ゴザイマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、其ノ次ニハ現在ノ配給機構ニ於テ十分デハナイカト云フ御尋デアリマスガ、此ノ點ニ付テハ遺憾ナガラ政府ハ所見ヲ異ニ致シテ居リマス、今ノ配給機構ハ實ニ不備デアリマシテ、最モ惡質ナル諸般ノ不道德ノ行爲ヤラ、不公正ノ行爲ヤラ、其ノ他總テノ點ニ於テ政府ハ最モ之ヲ遺憾ト致シテ居リマスカラ、此ノ點ニ付テハ政府ハ全然鶴君ト所見ヲ異ニスルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、尙又貸金ノコトニ付キマシテハ、色々

御述ニナリマシタガ、是ハ御尤モト存ジマス、故ニ今回ノ法律案ノ中ニ、此ノ貸金ノコトニ付テハ特ニ注意ヲ拂ツテ組入レテアリマスカラ、詳細ハ委員會ニ於テ御答ヲ申上ゲマス、又増産ニ付テ確信ガアルカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ確ニ確信ガゴザイマス、又補助金ガ漸次雪達磨ノ如ク今後増加スル虞ハナイカト云フコトゴザイマシタガ、是ハサウ云フ虞ハ絶対ニナイト云フコトヲ御答シマス、尙又補償金ニ付テ、政府ガ更ニ保證ヲシテヤラナケレバ效果ハ舉ガラナイデハナイカ、事業收縮ノ場合ニハドウカト云フヤウナ御尋ガゴザイマシタガ、事業收縮ノ場合ノコトマデモ十分ニ考慮シマシテ、サウ云フ場合ニ於テハ此ノ統制機關ガ非常ナ有益ナ、非常ナ効果的ナ働キヲ致シマスルヤウニ色々考ヘテ立案致シテアリマスカラ、是モ委員會ニ於テ詳細御答致シマス、尙又中小鑛業者ガ今日マデ非常ナ努力ヲ以テヤツタ爲ニ、此ノ事業ト云フモノハ國家的ニ發達シタノデアルガ、其ノ效果ヲ認メナイ、其ノ功勞ヲ認メナイト云フノハ怪シカラヌデヤナイカト云フヤウナ御趣旨ノ御尋デアリマシタケレドモ、是ハ全然其ノ反對デアリマシテ、此ノ中小鑛業者ノ既往ノ功績ヲ十分認メマシタ上ニ、今後此ノ中小鑛業者ノ爲ニモ非常ニ有利ニ之ヲ立案シテアリマスカラ、ドウゾ委員會ニ於テ十分ニ御尋ヲ願ヒマシタナラバ、御満足ノ行クヤウニ御答致シマス

畑陸軍大臣ノ應答

鶴君ニ御答ヲ致シマス、交替ニ際シマシテハ、應召中ノ石炭關係者ノミナラズ、其ノ他ノ熟練職工ニ於キマシテモ、其ノ可能ナル範圍ニ於テ、産業ニ及ボス影響ヲ考慮シ、召集解除ヲ實施シテ居ル狀況デアリマス、尙ホ將來ト雖モ此ノ方針デ參リタイト思ツテ居リマス

松尾三藏君ノ質疑

只今議題トナリマシタル石炭配給統制法案ハ、石炭不足ニ付、石炭ノ増産及ビ配給ノ圓滑統制ヲ爲ス目的ノ下ニ、提案サレタモノト思ヒマス、私ハ政府ノ思フ如ク石炭増産並ニ配給ノ圓滑

ヲ圖ルコトガ出來得ルモノデナイト信ジマスガ故ニ、此ノ際三四ノ質疑ヲ試ミタイト存ジマス、此ノ法案ノ内容ヲ調査シ、又研究致シテ見マス、決シテ増産トナラズ、却テ減産ニナリ、配給ニ付テモ理論ハ別トシテ、實際問題トシテハ必ず不圓滑ヲ來スモノト思フ筋ガアルデアリマス、政府ハ此ノ法案ガ成立致セバ、全國ノ石炭ノ一手上ヲ斷行シ、各種價格ノ違フ石炭ヲ一元化シテ、「プール」平準價格ニテ賣買セシメントスルデアリマスガ、「プール」平準價格ト云フ如キ制度ハ、我が國情トハ相容レナイノミナラズ、全國ノ石炭ヲ政府ガ「プール」平準價格ニテ賣買致スト云フコトハ、机上ノ空論ニシテ、事實實行出來難キコトト思フデアリマス、何故ナラバ、全國ノ炭礦數ヲ調査致シマス、昭和系ノ大炭礦ヲ除キ、中小鑛業ト稱スル鑛業互助會系ノ炭礦數ガ百七十六坑、宇部石炭鑛業聯合會系ノモノガ六十坑、常磐炭礦聯合會系ガ八十二坑、北海道石炭同交會系ガ五十坑、計三百六十八坑デアリマス、此ノ三百六十八坑ハ、小ナリト雖モ全部炭礦ト云フ坑名ヲ有スルモノデアリマシテ、此ノ全坑ノ出炭量ハ、年産額約一千二百萬噸デアリマス、此ノ外ニ所謂「アウトサイダー」即チ非加盟炭礦數ガ全國デ百四十九坑アリマス、此ノ非加盟炭礦ノ出炭量ハ年産額約三百萬噸デアアル、斯ノ如キ全部ノ炭礦ヲ政府ガ統制スルコトハ困難ト思ヒマスガ、命令ヲ以テ強制的ニ統制内ニ加入セシメラレバ遂ニ事業ノ中止ヲ致サネバナラヌ所ガ出來ルト思ヒマス、此ノ理由ハ金融關係ノ爲デアリマスカラ別ニ申上ゲマス、尙ホ此ノ他ニ何十年ノ昔ヨリ不用物トシテ棄テテ居リマシタ「ボタ」――「ボタ」トハ石塊ノコトデアリマスガ、此ノ中ニ僅カバカリノ石炭ガ混入致シテ居リマスモノヲ採取スル爲ニ、其ノ「ボタ」ヲ水洗ヒ致シマシテ、採取シタル石炭ヲ全國ニ賣却シテ居ルモノガ相當ニアリマス、九州ダケデモ毎月八九萬噸ノ生産ガアル、右ノ如キモノハ炭礦デハアリマセヌノデ鑛名モナイ、其ノ數ハ何百何十アルカ分リマセヌ、斯ノ如キモノハ如何ニシテモ統制内ニ加入セシメルコトハ絶対ニ出來ヌコトト思フデアリマス、然リト雖モ自由販賣ハ配給統制ノ方針ニ副ハズ、結局中止致スヨリ外ニ方法ハアリマスマイ、中止スルコトニナレバ、此ノ水洗ノ石炭ハ、九州ダケデモ年産額百萬噸以上ノ減産ヲ致シマス、昨年ノ十月一日前ハ、消費者販賣業者ガ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

石炭必要ニ付、炭礦業者へ資金ノ提供ヲ致シ、石炭ノ買上契約ヲ爲シテ居リタルニ付、石炭産業者ハ資本金乏シクトモ、増産ヤ經營ガ順調ニ出來テ居リマシタ、所ガ昨年十月一日ヨリ切符制度トナリ、從前ノ如ク出資致シテモ石炭ヲ自由ニ受入レルコトガ出來ナイ、故ニ今デハ金融機關ハ全ク杜絶致シ、炭礦ノ一部ニ於テハ増産ノ方法ハ立タズ、經營困難ニナリ居ル所モ澤山出來テ居ルノデアリマス、此ノ儘金融機關ガ出來ザルニ於テハ、數百萬噸ノ減産ヲ致スコトト思フノデアリマス、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何デアリマセウカ、現在ノ如キ石炭不足ニシテ、軍需、日發、日鐵、鐵道、及ビ全國諸工業ガ大困難ヲ生ジテ居ル際、唯一一噸デモ、一塊デモ、減産スルヤウナ法案ヲ提出致サレタルコトハ、果シテ國策ニ順應スルモノト申サレマセウカ、我國ハ事變中ニシテ、軍需品ハ申スマデモナク、諸物資ヲ生産致サナケレバナラヌ、其ノ原動力トナル石炭ガ、私ノ心配シテ居ル如ク減産致スヤウナコトニナリマシタナラバ、由々シキ重大問題トナルノデアリマス、御承知ノ如ク昭和十三年十月ノ末日、全國ノ貯炭ハ五百四十萬噸デアリマシタ、現在全國ノ貯炭ハ三百萬噸強ニ過ギナイノデアリマス、只今ノ如ク最モ危險ナル時期ニ、減産トナルヤウナ法案ヲ提出サレルコトハ、國家ノ爲ニ洵ニ寒心ニ堪ヘマセヌ、此ノ法案ハ前ニモ申シマシタル通り、正シク減産ヲ來シ、配給ノ不圓滑ヲ招來スルコトニナルノデアリマス、配給ノ不圓滑ト申上ゲテ居リマスルコトハ、昨年十月一日ヨリノ石炭配給切符制度ノコトデアリマス、切符制度ノ爲ニ、現在配給上不圓滑ヲ來シテ居ルコトハ、御承知ノ通りデアリマス、併シナガラ石炭増産ヲ致シマスノニハ、資材配給、金融、勞力ノ充足、鐵道、船舶輸送ノ圓滑及ビ炭價ノ値上、此ノ六點ノ中一點缺ケマシテモ増産致スコトハ不可能デアリマス、鐵鋼材ハ事變前マデ石炭一噸當リ二・二七噸ツツ配給ヲ受ケテ居リマシタ、事變以來切符制度ニ改メラレ、一噸ニ付一・六〇噸トナリ、實際ノ受入量ハ〇・九〇噸トナツテ居リマス、是ハ企畫院デモ能ク御承知ノコトト思ヒマス、今マデ斯ル少量ノ配給ナリシモ、事變前ヨリ各炭礦トモ多少貯藏致シテ居ツタ古鐵ヤ、既ニ廢物同様デアツタ屑鐵ヲ利用シテ、配給量ノ不足ニ充當致シテ居リマシタガ、此ノ後ハ古鐵モ屑鐵モナキモノト思ハネバナリマセヌ、故ニ只今ノ如キ配給

デハ、増産ハオロカ、現在ノ出炭ニモ相當影響スルコトヲ考ヘネバナリマセヌ、又炭礦内ニ於テ危險防止ニ使用スル坑木ハ、急ニ必要ナ場合ガ多々アリマスル爲ニ、從來各炭礦トモニ自由買入ヲ爲シ、自由ニ使用ガ出來テ居リマシタガ、昨年ヨリ坑木ノ検査ヲ受ケネバ使用スルコトガ出來ナイコトナリ、急ニ危險ナコトガ起リマシテモ、坑木ノ検査ヲ致シタモノノナイ場合ハ、坑木ヲ使用スルコトガ出來得ズ、遂ニ大落盤ヲ見、石炭採掘ノ上ニ大影響ヲ受ケ、又不幸ニシテ人命ニマデモ關係スルコトノアルコトモ豫想致サネバナリマセヌ、此ノ坑木検査ニハ當該官吏竝ニ炭礦側立會人等相當數入用デアリマス、今日人材勞力不足ノ折ニ當リ、多額ノ經費ヲ要シ、一面勞力ノ充足ヲ缺キ、又斯ル面倒ナル手數ヲ要シ、危險ヲ招クガ如キコトハ、撤廢致サレテハ如何デアリマスカ、以上申シマシタ如ク、鐵鋼資材ノ配給、坑木検査ノ廢止ニ付テ、所管大臣ハ如何ナル御考デアリマスルカ、御所信ヲ伺ヒタイノデアリマス、石炭ハ昭和九年マデノ需要量ハ非常ニ少ク、昭和十年以降同十三年ニ至ル四箇年間ハ、毎年約三百五十萬噸ツツ増産ヲ致シテ居リマシタ、昭和十三年ノ全國需要豫算ハ四千七百五十萬二千三百噸デアリマス、内輸入移入ガ五百萬噸デアリ、同十四年ノ豫算數量ハ五千五百二十八萬一千噸、内輸入移入ガ五百八十五萬八千噸デアリマス、同十三年、十四年ノ對照ヲ、十四年ノ十一月末日ニ調査致シマス、十三年度ヨリモ十四年度ガ九十七萬一千五百二十三噸増トナツテ居リマス、然ルニ十五年度ノ企畫院ノ需要豫算ハ六千萬噸以上ノ如クニ聞イテ居リマス、之ヲ昭和十四年ト對照致シマスレバ、六百萬噸ノ増産トナリマス、昭和十四年度ノ需要豫算サヘモ採掘出炭出來ザルニ、十五年度ノ全需要ヲ實行致スニ付テハ、厚生省ハ勞力ニ重點ヲ置カネバナラヌト思フノデアリマス、昨年十二月ノ二日ト四日ノ兩日ニ互リ、企畫院ニ於テ石炭増産計畫ニ付政府當局、全國ノ權威者及ビ業者ヲ加ヘ懇談會開催ノ席上ニテ、政府ハ勞力充足ニ半島人ノ移入、又ハ全國各縣ノ職業紹介所ニ達シ勞働者ノ割當ヲ命ズルトノコトデアリマシタガ、現在全國トモニ一般勞働者不足ニシテ、政府ノ命令アリテモ、多數勞働者ノ充足ヲ圖ルコトハ不可能デアリマス、昨年末マデニ半島人ノ移入ハ全國ニテ約一萬八千人程度ト思ヒマス、本年度石炭ノ増産ニハ、

少クトモ四万人ノ勞働者ヲ増員スル必要ガアルト思フノデアリマス、前ニモ申シマシタル如ク、全國勞働者不足ノ折、此ノ多數ノ勞働者ヲ募集致スコトハ到底不可能デアリマスルカラ、此ノ際一番最上ノ計畫ト致シマシテカ現在採用致シテ居ル所ノ勞働者ヲ以テ、勞働力ノ充足ヲ圖ルベク、勞働者諸君ニ今日ノ時局認識ヲ訴ヘ、勞働規則ノ改正ヲ致シ、稼働時間ノ延長、毎月稼働日數ノ割當、又惡例ニ近キモノノ改正等ヲ、法規ニ依リ斷行致サル時ハ、石炭ノ増産ニ資スルコトガ出來ル、隨テ勞働者ノ勞銀ノ向上ニモナリ、一舉兩得ト思ヒマスルガ、此ノ點如何ニ御考ニナリマスカ、厚生大臣ノ御答ヲ願ヒタイ、只今申上ゲマシタル如クニ、資材配給ヤ勞力ノ充足、金融、石炭値上等ニ付實行致サレバ、増産ノ見込ハ立ツト私ハ思ヒマス、併シ石炭採掘ニ赤字ヲ出シテ居ル所ガ多イノデアリマスルカラ、政府ハ之ニ對シ増産獎勵金及ビ掘進補助金、又ハ交付金ト云フ形ニテ八千三百六十萬圓ヲ支出シ、石炭増産ニ充當スルトノコトデアルガ、我國ハ現在重大時局ニシテ、今議會ニ於テ百三億圓ト云フ大豫算ヲ審議致ス時ニ當リ、國民ノ汗ト膏ニ依リ完納ナシタル税金ヲ以テ、八千三百六十萬圓ノ補給ヲスルト云フガ如キコトハ、何タルコトデアリマセウカ、何品ニ依ラズ赤字ガ出レバ、當然適正價格マデニハ値上ヲ致サネバナリマセヌ、ソレヲ其ノ儘實行セントスレバ、必ズ減産スルコトハ明カデアリマス、然ルニ政府ハ石炭増産計畫ヲ赤字ノ儘、現在ノ出炭以上出炭ヲ爲シタル業者ニ對シ、獎勵金ヲ出ストノコトデアリマスガ、斯ルコトデ増産ガ出來ルノデアリマセウカ、此ノ際吾々ヲ納得セシムルニ足ルダケノ御説明ヲ願ヒタイト存ジマス、最後ニ鐵道大臣ニ御尋致シマス、本案ノ石炭増産ハ、全國内デ福岡縣筑豐炭田ガ第一位ノ場所ト思ヒマス、筑豐炭田全礦所在地貯炭ハ、鐵道輸送不圓滑ノ爲ニ、昭和十四年九月末日マデハ二十二萬三千噸デアリマシタ、同年十月末日ニハ二十五萬一千噸、同年十一月末日ニハ二十九萬七千噸、同年十二月末日ニハ三十七萬五千噸、昭和十五年一月十五日ニハ四十萬三千九百二十噸トナツテ居リマス、現在鐵道輸送不圓滑ノ爲ニ、炭礦所在地貯炭ガ毎月々々左様増加致シテ居リマスニ拘ラズ、本案ノ目的通り増産モ致サネバナリマセヌノデ、此ノ輸送ニ付鐵道大臣ノ御所信ヲ伺ヒマシテ、私ノ質問ヲ終

リマス

藤原商工大臣ノ應答

松尾君ニ御答致シマス、互助會、宇部、常磐、北海道、外ニ「アウトサイダー」ト云フ無數ノ炭坑業者ニ對シテ、政府ガ果シテ所期ノ如ク統制シ得ルヤ否ヤト云フ御尋デゴザイマシタガ、此ノ常磐モ、宇部モ、互助會モ、北海道モ、ソレ々組合ガ成立致シテ居リマスシ、尙ホ最近「アウトサイダー」ノ方モ、組合ガ結成出來マスルヤウナ次第ニ相成ツテ居リマシテ、政府ハ十分ニ此ノ組合ヲ運用致シマシテ、此ノ統制ノ目的ヲ達スルコトハ可能デアルト確信致シテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタイ、尙ホ「ボタ」混用ノモノニ付テ御尋ガゴザイマシタガ、是ハ色色惡質ノモノナドモゴザイマスノデ、此ノ「ボタ」ヲ普通ノ石炭ニ混合シテ、石炭トシテ販賣スルト云フヤウナコトハ、斷然禁止致シタイト存ジテ居リマス、尙ホ其ノ外之ヲ通常ノ石炭ト致シマシテ、販賣營業ヲ致シマスルコトニ付テハ、特ニ考慮ヲ加ヘタイト存ジテ居リマス、尙ホ此ノ石炭ハ、本法案ヲ實行スレバ、減産トナルデハナイカト云フヤウナ御尋デゴザイマシタガ、是ハ見解ノ相違デアリマシテ、政府ハ減産トナラナイト信ジテ居リマスカラ、何レ委員會等ニ於キマシテ、詳シク政府ノ所信ヲ申述ベタイト存ジマス、尙ホ色々數字ヤ其ノ他ニ付テ詳細御述ニナリマシタケレドモ、本日ハ之ヲ省略致シマシテ、サウ云フ詳細ノコトハ委員會ニ於テ詳シク申述ベタイト存ジマス

吉田厚生大臣ノ應答

石炭増産ノ爲ニ、内外地ニ互リマシテ勞務者ヲ増加充足シナケレバナラヌコト、御話ノ通りデゴザイマス、其ノ充足ニ付キマシテハ、今日ノ我國ノ實情ニ於キマシテ、平生ニ於ケルヨリハ多大ノ困難ヲ伴ヒマスルコトモ、是亦御説ノ通りデゴザイマスガ、ニモ拘ラズ各方面十分ナ用意ノ下ニ連絡ヲ取りマシテ、政府トシマシテハ、是非トモ所要ノ勞務ノ充足ヲ致サネバナラヌ

ト考ヘテ居リマスルシ、又致シ得ル確信ヲ持ツテ居ル次第デアリマス、勞務者ノ充足ガ困難デア
ルカラ、寧ロ能率ノ増進ト云フコトニ力ヲ入レタラバ宜シイデハナイカト云フ御説デゴザイ
マス、固ヨリ能率ノ増進ト云フコトハ、勞務者ノ員數ヲ殖シマスル場合ト雖モ、其ノ必要デア
コトヲ認メネバナラナイト思フデアリマス、今日不幸ニシテ、勞務者一人當リノ出炭量ガ、從
前ニ比ベマシテ減少ヲ見テ居リマスコトハ、洵ニ残念デゴザイマス、是ニハ種々ノ原因ヲ伴
テ居リマスノデ、其ノ原因トナル有ユル事情ヲ精査致シ、其ノ解決ヲ圖ルコトガ先決問題デア
リマス、解決ヲ圖ルニ付キマシテ、稼働日數ニ付テノ命令ヲ發シタラ宜シカラウ、或ハ勞働時
間ノ延長ヲ致シタラ宜シカラウト云フヤウナ、事例ヲ以テ御説モゴザイマシタガ、是ハ單ニ一
片ノ命令ノミニ依リマシテ、能率ノ増進ヲ圖リ得ルヤウナ、簡單ナコトデハナイト思フデア
リマス、有ユル能率低下ノ原因ヲ排除スルト云フコトノ上ニ於キマシテハ、モウ少シ周到ナ用
意ヲ要スルト思ヒマスノデ、委細ノコトハ又他ノ機會ニ於キマシテ、政府ノ見ル所ヲ御説明致
スコトニ致シタイト存ジマス

松野鐵道大臣ノ應答

輸送上ノコトニ付キマシテ松尾君ノ御質疑ニ御答申上ゲマス、現在デサヘ滞貨ノアルノニ、是
ダケノ生産ヲ増加シテ遺憾ナク輸送ガ出來ルカドウカ、斯ウ云フ趣意ノ御質疑デアリマスガ、
成程現在モ滞貨ガアリマス、其ノ滞貨ニ對シマシテモ、原因ヲ探究致シテ見マスト、種々ノ理
由ガアルノデアリマス、ソレデ生産カラ積込、ソレカラ輸送、即チ陸運カラ海運ニ至リマスマ
デニ於キマシテ、諸種ノ統一ノ上ニ圓滑ナラザル點モアルノデアリマスカラ、サウ云フ方面ニ
對シマシテ、今十分ノ對策ヲ講ジテ居ル譯デアリマス、今度ノ生産ノ増額ハ十四年度ノ生産ノ
約一割乃至一割五分内外デアリマスカラ、ソレニ對シマシテハ、先ヅ輸送上ドウシテモイカナ
イ場合ハ、二月二十五日ニ發布致シマシタ所ノ陸運統制令、斯ウ云フモノモ萬一ノ場合ニハ使
ハナケレバナラヌカト考ヘマスケレドモ、斯ウ云フモノハ成ベク使ハナイコトニシマシテ、サ

ウシテ石炭ノ産地、殊ニ松尾君ノ述ベラレタ、筑豊、ソレカラ肥前ノ松浦、室蘭線、斯ウ云フ
方面ニ對シマシテハ一段ノ改良計畫ヲ致シマシテ、サウシテ又水陸連絡、海上設備、輸送擴充
計畫ノ實施ヲ致シマシテ、成ベク輸送ニ支障ノナイヤウニ輸送計畫ヲ徹底サセ、輸送上ノ重點
主義デ、優先的ノ輸送ヲヤルトカ、空車ノ廻送ヲ成ベク回避スルトカ、交錯輸送ヲ排撃スルト
カ、新造貨車ヲ大型ニスルトカ云フ、斯ウ云フ諸種ノ計畫ヲヤリマシテ、出來ル限リノ方法ノ
下ニ各種ノ機關ニ十分ノ連絡ヲ取ツテサウシテ圓滑ナ配給ヲヤル、サウ云フ場合ニ於キマシテ
ハ生産擴充ノ資材トカ、生活必需品トカ斯ウ云フ物ノ外ニハ、或ル場合ニ於キマシテハヤハリ
配給上ノ不便モ忍ンデ戴カナケレバナラヌモノモ出ルト思ヒマス、併シナガラ出來ル限リ生産
ト荷役ト運送ト緊密ナ連絡ヲ取ツテ、増産ニ對シマシテ遺憾ナキ輸送ヲ致シタイ、斯ウ云フ計
畫ヲ致シテ居リマス

松尾君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

商工大臣ノ御答辯ヲ載キマシタ中ニ、私ガ水洗ヲ致スコトト申シマシタコトニ付テ、其ノ「ボ
タ」ノヤウナ惡質ナ物ハナルタケ除外スル考デアルト云フヤウナコトヲ御述ニナリマシタガ、
根本ガ間違ウテ居ル譯デアリマス、「ボタ」ノ中ニアル所ノ本當ノ石炭ヲ洗ツテ居ルモノガア
ル、私ハ斯ウ申上ゲタ、ソレヲ「ボタ」ヲ洗ツテ居ル、斯ウ云フ風ニ御解釋ニナリマシタヤウデ
アリマスカラ、根本ガ違ツテ居リマス、一言商工大臣ニ申上ゲタイト思ヒマスガ、「ボタ」ノ中
ニ僅カ一割カ一割半乃至二割位ノ石炭ガアルノデアリマス、サウ云フ石炭ヲ水洗シテ市場ニ出
シテ居ルノデアリマスカラ、「ボタ」トハ違ヒマス、一言申上ゲテ置キマス

原口初太郎君ノ質疑

茲ニ上程サレマシタ石炭配給統制法案ハ配給機構ヲ恆久的ニ確立シテ配給ノ統制ヲ強化シ、以
テ石炭需給ノ不均衡ヲ是セントスル政府ノ企圖ト察シマスガ、此ノ政策ハ單ニ石炭界ノ將來

ニ重大ナル關係ガアルバカリデナク、有ユル産業ノ盛衰、延イテハ國運ノ消長ニモ影響スル所ガ少カラヌノデアリマス、仍テ此ノ法案ノ審議ニハ吾々ハ政府ノ明確ナル所信ヲ質シマシテ、而シテ協賛ノ責任ヲ完ウシナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、現下我國ノ石炭需給ノ状態ハ、混亂日ニ益甚シク、一日モ放置スベカラザル状態デアリマス、吾々國民ハ齊シク之ヲ心配シテ居ルノデアリマス、又全國ノ有ユル石炭ヲ使ツテ居ル事業家ハ非常ニ苦ンデ居ル、其ノ顯著ナル一例ハ最近ニ於ケル電力飢饉ニ於キマシテ、政府ハ僅カバカリノ石炭ヲ急遽外國ニ求メタルガ如キ、國家ノ醜態ヲ暴露シタコトデアリマス、今日石炭需給ノ混亂ノ原因ハ色々アリマセウガ、私ノ承知スル限りニ於キマシテハ、昭和六七年頃ハ石炭ノ大不況時代デアリマシタ、然ルニ滿洲事變ガ起リ、支那事變ガ起ツテ、需要甚シク増加シテ、漸ク昭和十二年頃ハ過去ノ不況ヲ取返シツツアツタ、即チ石炭景氣ガ付イタノデアリマス、此ノ景氣ガ付イタ時ニ、一昨年ノ九月石炭界ニ對シテ、政府ハ炭價ノ値下ヲ命ジタノデアリマス、即チ景氣付イタ出鼻ヲ挫イタ形ト私ハ思フ、所ガ需要ハ日ニ激増スルノニ、低物價政策ノ爲ニハ値下モ致シ方アルマイガ、政府トシテハ稍目前ノ狀況ニ眩惑シテ、將來ノ見透シヲ誤ツテ需要ハ益増加スルニ反シマシテ、値ガ下レバ石炭ガ出テ來ナイヤウニナルコトハ、如何ナル素人デモ分ツテ居ルコトデ、政府ハ今日ノ事實カラ見マス、意見ノ相違デアリマセヌ、事實上問違ツタ見透シヲシテ居ツタト云フコトヲ私ハ斷言スルノデアリマス、私ガ斯クノ如キコトヲ申上ゲルノハ、此ノ事變勃發以來、吾々國民ハ色々ノ點ニ付テ心配ヲシテ、當局ニ進言シタルコト數限リモナイガ、當局ハ無論眞劍ニ之ヲ聽イタニハ相違アリマセヌガ、今日マデ現ハレタ事實ニ依ルト云フト、政府當局ノ見込損ヒノ事實ガ澤山アルノデアリマス、然ルニ斯ノ如キ石炭界ノ狀況デアアルノニ、十分ナル具體的ノ計畫モ準備モナシニ、業界ニハ抜打的ニ、昨年ノ秋石炭販賣取締規則ト云フモノヲ發表シタノデアリマス、又其ノ上ニ今日マデ何一ツ實行シナイ所ノ、所謂石炭對策要綱ナルモノヲ世間ニ發表シタ、而シテ彌ガ上ニモ石炭界ノ混亂ヲ助長シタト云フコトハ、政府當局ノ指導監督上ニ齟齬ガアツタモノト、斷言スルノデアリマス、現內閣ハ組閣ノ其ノ日カラ石炭

問題ヲ重視シテ、眞ツ先ニ閣議ニモ取上ゲラレマシテ、而シテ其ノ對策ヲ決定セラレ、本日茲ニ此ノ法案ヲ提出セラレタノデアリマスガ、尙ホ今後檢討シナケレバ能クハ分リマセヌケレドモ、私ノ一見シマシタ所デハ、昨年計畫セラレタル所ノ、所謂共販會社案ノ骨抜キデアツテ、其ノ殘骸タルノ感ヲ深クスルモノデアリマス、之ヲ以テ果シテ政府ハ、其ノ企圖スル所ノ目的ヲ達成シ得ルト云フ信念ガアリマスカドウカ、大ナル疑ヲ持ツ者デアリマス、既ニ本日モ三議員ヨリ詳細ナル所ノ質疑應答ガ重ネラレマシタガ、私ハ尙ホ疑ヲ存スル一二ノ點ニ付キマシテ、政府ノ明確ナル御説明ヲ要求スル者デアリマス、石炭問題ハ何ト申シテモ先ヅ生産、次ニ之ヲ配給スルコトニナルノデアリマス、私ハ今茲ニ石炭ノ生産殊ニ増産ニ付テ若干ノ要點ヲ御伺シタイノデアリマス、先刻申上ゲマシタヤウニ、昭和六七年頃ノ石炭界ノ大不況、此ノ時代ニ蓄積セラレマシタ所ノ探炭ノ潛勢力ノ御蔭デ、事變以來激増シタル所ノ需要ヲ幸ニ賄ヒ得タノデアリマス、而シテ昭和十三年頃ガ其ノ出炭高ノ絶頂デアアル、十四年ニハ表面上増炭ニハナツテ居リマスケレドモ、私ノ知ル所ニ依リマス、其ノ實質ニ於テ果シテ表面ノ馳數ノ如ク、實質ガ増加シタカドウカト云フコトハ疑ハルルノデアリマス、今申シマシタヤウニ、不況時代ノ潛勢力ニ依ツテ、今日マデ石炭増ノ實ヲ擧ゲマシタガ、今後ハ此儘デハ政府ガ計畫セラルルヤウニ、一割或ハソレ以上ノ増産ガ確實ニ行ハレマスカドウカ、御説明ニ依リマス、易々トシテ出來サウデアリマスガ、是ハ地上ノモノヲ計畫通りニ増シタリ、減シタリ、動カシタリスルノト違ヒマスカラ、甚ダ疑ナキヲ得ナイノデアリマス、今御説明ニナリマシタヤウニ、増産ノ爲ニハ色々ノ方途ヲ講ゼラレテ居リマス、即チ増産獎勵金、新坑開發助成金、又石炭買取補償金、總計約八千三百万圓モ支出セラルト承リマスガ、此ノ助成金、獎勵金等ニ付キマシテ、若干ノ御伺ヲ致シタイノデアリマス、先ヅ獎勵金ニ付テデアリマスガ、獎勵金ハ私ノ承知シテ居ル所デハ、昭和十三年十四年度ノ中ノ、各炭礦ノ最高産額以上ニ増産シタモノニ對シテ、交付セラルルヤウニ承知致シテ居リマスガ、獎勵金ノ效能ハアリマセウ、併シナガラ是ガ運用ノ上ニ於キマシテハ、頗ル難點ガアルト思フノデアリマス、詳細ハ委員會デ伺ヒマセウガ、或ハ

分配ノ標準ヲドウセラルルカ、表面上ノ計畫デハ之ヲ決定スルコトハ甚ダ困難デアアル、何トナレバ救フベキ炭礦ヲ救ハレズニ、救ハレナクテモ宜シイ炭礦ガ獎勵金ヲ受ケル、斯ウ云フコトハ私ハアリ得ベキコトト思フノデアリマス、又粗悪炭ニ付テハ取締ルト仰シヤルガ、是ガ出來ルコトナラバ、昨年計畫セラレタ所ノ共販會社ガ、其ノ檢炭檢量ノ困難ナルヲ一大理由トシテ取止メラレ、見合セラレルト云フヤウナコトハ私ハナイト思フ、即チ獎勵金ノ運用其宜シキヲ得ザレバ、粗悪炭ノ増産ヲ來ス虞ガアル、今日サウ云フ不心得ナ礦主ハナイカモ知レマセヌガ、又場合ニ依ツテハ坑内濫掘ノ虞ガアリマス、一時ハ増産ニ見エマヌルガ、後日ハ減産ニナル、斯ウ云フコトハ心配ナキニシモアラズデアリマス、次ニ新坑開發助成金ノコトデアリマスガ、是ハ新坑開發ノ資金ノ金融難ノ爲ニ、他方カラ金融ヲ受ケテ炭礦ヲ經營スルト云フヤウナ人ノ爲ニハ、如何ニモ金額ガ貧弱デ、僅ニ向ヒ水ノ程度ニ過ギヌト思フ、又此ノ支給方法ニ付キマシテモ、一々其ノ計畫實施ニ互ツテ調査シナケレバナラヌ、其ノ調査モ一人デヤルノデハナイ、多數ノ人デ行ハナケレバ間ニ合ハナイカラ、調査者ノ眼ノ標準モ違フ、彼此レノコトヲ考ヘマスト、私ハ色々ナ紛糾弊害ヲ出ス心配ガアルト思ヒマス、又先刻岡野君ガ述ベラレタコトヲ考ヘマスト、私ノデ考ヘ、石炭事業ノ如キ有ユル點ニ於テ危險、所謂「リスク」ノ多イ仕事ヲ、政府ノ補助金ニ頼ツテヤルト云フヤウナ人物デハ、果シテ國家ノ爲ニナルヤウ、炭礦事業ニ成功スルコトガ出來ルカドウカラ私ハ疑フノデアリマス、次ニ石炭買取補償金ノコトニ付テ申上ゲマスガ、炭價ノ修正、即チ炭價値上ヲ防ガルルノハ、低物價政策ヲ堅持セラレル爲ト思ヒマスガ、是ハ低物價政策ノ形式破綻ヲ防止スルコトニ因ハレタル小細工ノヤウニ私ハ感ズルノデアリマス、此ノ方法ニ依リマス、現在石炭ノ中デ一番安イ所ノ昭和系ノ石炭モ、販賣値ハ今ヨリ上ルニ相違ナイ、又炭礦カラ買取ル價段モ高クナルニ相違ナイ、新ニ設ケラレントスル國策日本石炭會社、之ニ要スル所ノ諸經費モ、販賣値ノ中ニ割當ラルト云フコトニナル、彼此レ考ヘテ見マスト炭價ハ必ズ上ル、所ガ今日ノ状態デハ、石炭ヲ使用シテ居ル人々ハ、少々ノ炭價値上ニ對シ十分ナ負擔力ヲ持ツテ居ル、炭價ヨリハ石炭ノ供給ヲ圓滑ニ、豊富ニ得ルコトニ心配

シテ居ル、斯ウ云フ状態デアリマシテ、此ノ際國民ノ負擔トナルベキ所ノ、年額八千三百万圓ト云フヤウナ巨額ノ經費ヲ、國庫カラ支出スルコトガ果シテドウカ、私ハ八千万圓、一億圓ト云フ金ガ支出セラレバ、通貨ハ膨脹シテ、何處カデ「インフレ」ニナルノデハナイカト思ヒマス、次ニ「プール」ノ平準價格制ニ付テ御伺致シマスガ、今度ノ石炭ノ買上價格ト云フモノハ、生産費ニ適正利潤ヲ加フルコトニナツテ居リマス、生産費ノ決定ハ中々是ハ複雑デアル、公平ナル決定ハ困難ト思ヒマス、又産業ノ通念ト致シマシテ、最小ノ生産費デ最大ノ利潤ヲ得ルト云フコトガ、是ガ常識デアリマス、「プール」平準價格制ハ、何トシテモ經濟機構ノ一大變革ト見ルノデアリマス、之ヲ有ユル産業中デ、最モ複雑ト見ラレル所ノ、且ツ現狀ニ於テハ頗ル「デリケート」ナ状態ニアル所ノ石炭界ニ、眞先ニ適用スルト云フコトハ、如何ニモ政府ノ勇斷ニハ敬服シマスケレドモ、其ノ實行ハ危險ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、併シ今日石炭界ノ狀況カラシマシテ、有ユル手段ニ依ツテ炭價ノ一元化ヲ圖リ、需給ノ取扱ヲ簡易化スルコトノ爲ニハ、或ハ「プール」制ヲ採用スルモ亦已ムヲ得ザル方法カトモ思ヒマス、併シナガラ是ガ臨機應急ノ對策デアレバ深ク心配ヲ致シマセヌガ、此ノ國策會社ト云フモノハ恆久的ノモノデアリマス爲ニ、其ノ將來ニ影響スル所ハ甚ダ大キイモノト思フノデアリマス、此ノ「プール」平準價格制ハ原則トシテハ生産費ガ高ケレバ、其ノ製品ハ品質ハ劣等デモ販賣値ハ高イ、斯ウ云フコトニナルノデアリマスカラ、産業人トシテノ努力トカ工夫トカ云フモノガ自然ニ要ラナクナリ、産業ノ向上發展ト云フ氣魄ガ消磨サレテ、隨テ産業界ノ萎靡衰退ヲ招クヤウナコトニナリ、遂ニハ國力ノ消長ノ重大ナル關係ヲ及ボスト云フコトヲ心配スルノデアリマス、次ニハ日本石炭會社ノ配給ノ圓滑ガ果シテ期待通りニ行キマスカドウカ、昨年から實行セラレマシタ配給計畫ハ、ドウモ今日デハ數量デサヘ旨ク付合ハナイ、況ヤ適正炭ヲ適時ニ配給スルト云フコトハ、甚ダ困難デアルヤウニ思ヒマス、此ノ失敗ハ政府モ認メテ居ラルヤウデアリマス、然ルニ本法案ガ茲ニ決定セラレタト云フコトハ、政府トシテハ十分ナル確信ヲ持ツテ居ラルデアラウト思ヒマスガ、之ヲ實施スル爲ノ準備ガ、若シモ十分デナイト云フコトデアアル

ト、昨年實施セラレタ配給統制ヨリハ、更ニ大規模ノ混亂ヲ來スト云フ結果ニナリマス、此ノ事ニ付テ政府ノ御考ヲ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ序ニ、此ノ法案デハ能クハツキリ理解シ兼ネマスガ、日本石炭會社ガ出來マシタ曉ニ、從來ノ販賣機構ヲ其ノ儘ニ使用スルト云フヤウナコトヲ承ツテ居ルノデアリマスルガ、是ガ何處カニ明ニセラレテ居ルノデアリマセウカ、此ノ事モ承ツテ置キタイノデアリマス、次ニハ本法案ヲ實施セラレルニ當リマシテ先刻他ノ諸君モ言及サレタヤウニ思ヒマスガ、石炭業界ノ協力ガ果シテ希望通りニ行クヤウニ見込マレテ居リマスカドウカ、目下重大ナル時局デアリマシテ、生産力ノ擴充ノ基礎資源タル所ノ石炭、之ヲ事業トスル人々ガ、所謂石炭報國ノ精神ヲ以テ其ノ誠ヲ效スト云フコトハ、確ニ認ムル者デアリマス、石炭界ノ人々モ覺悟シテ居ルト私ハ承知スルノデアリマス、然ルニ繰返シテ申シマスガ、昨年ノ共販會社案ノ騒ギノ如ク、政府ニ於テ完全ナル準備ナクシテ發表セラレタ爲ニ、民間業者ヲ以テ設立セシメント計畫セラレタル準備石炭會社サヘ、今日マデ出來ナイデオ流レニナツテ居ル、斯ウ云フコトデアリマスカラ、今日ニ於キマシテハ、石炭事業界ニ於テハ、政府ハ又何ヲナサルダラウカト云フ心配ヲ持ツテ居ル、此ノ故ニ政府ハ石炭界ハ勿論、國民ニモ十分ニ理解セシメテ、然ル後ニ實行セラレナイト、事志ト違ヒハセヌカ、現ニ事業界ニハ公然此ノ案ニ反對シテ居ル人々モアル、又内心頗ル不安ニ感ジテ居ルケレドモ、色々ノ事情ノ爲ニ率直ナル意見ノ發表ヲ差控ヘテ居ル人モアルト思フ、斯ノ如クシテ若シ業界ノ協力足ラズ失敗ヲ來スヤウナコトガアリハセヌカ、之ヲ國家ノ爲ニ憂フルノデアリマス、此ノ石炭事業ハ色々ノ點ニ付テ非常ナル危険ヲ包藏スル事業デアアル、他ノ産業ト類ヲ異ニスル、他ノ産業ハ機械サヘ働ケバ仕事ガ出來ルガ、此ノ事業ハ申スマデモナク、地下數千數百尺ノ坑内カラ之ヲ使用スル人ノ窓口ニ至ルマデ、全部人手ヲ要スル有機的作業デアアル、斯ウ云フコトデアリマスカラ、所謂人心ノ微妙ナル所ノ感應ガ、此事業ニハ終始作用スルノデアリマス、坑内稼働者ガ坑内ニ上下スル際、一々神前ニ祈願シ感謝スル光景ハ其一例デアリマス、政府トシテハ此ノ點ニ留意セラレテ、精神的ニ業界ノ協力ヲ完ウセラレ、一方ニハ生産並ニ配給ニ努力サルルト同時ニ、他方ニ

ハ消費統制ニ付テ適切ナル方策ヲ講ゼラレナケレバ、石炭問題ハ遂ニ解決スルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、詰リ業者ヲシテ心カラナル協力ヲ捧ゲシメルヨリ外ニ、如何ナル法律命令ニ依ツテモ石炭ノ増産其ノ配給ノ圓滿ナル解決ハ困難ト思ハレマス、最後ニ本法案ハ國策會社デアリマスカラ其ノ創立ニハ十二分ノ計畫ト準備トヲ整ヘラレマシテ、サウシテ實施ノ曉ニハ、石炭國策ガ完全ニ其ノ目的ガ達成スルヤウニ致サレナケレバナラヌト思フノデアリマス、此ノ國策會社ノ準備トシテ、民間ノ石炭會社ヲ一時作ルト云フヤウナ御考案モアルヤウニ承リマスガ、急イデ恆久的ノ國策會社ヲ設立セズニ、政府ノ欲スル所ノ總テノ條件ヲ、民間暫定石炭會社ニ實行セシメ、暫ク其ノ實績ヲ眺メテ、急ガズ慌テズ石炭國策ヲ完成スルコトニ致サレテハドウデアリマスカ、以上ノ諸點ニ付キマシテ政府ノ明確ナ御説明ヲ希望致シマス

藤原商工大臣ノ應答

原口君ニ御答ヲ申上ゲマス、第一ニ獎勵金ノ結果石炭ノ品質ヲ低下シテ、粗惡炭ヲ採掘スルト云フヤウナコトニ相成リハセヌカト云フ御尋デアリマシタガ、此ノ點ハ此ノ案ヲ立案ヲ致シマスル時カラ、ソレニ對スル考慮ヲ拂ツテ居ルノデアリマシテ、實行ニ於テハサウ云フ工合ニナリマセヌヤウニ、計畫シテゴザイマス、尙又濫掘ヲスルヤウナコトニナリハセヌカト云フ御尋デアリマシタガ、是モ十分ニ豫防ヲスルヤウニナツテ居リマス、何レ詳シクハ委員會ニ於テ御説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、尙ホ金融ノ點ニ付キマシテ御尋ニナリマシタガ、此ノ點ハ政府ニ於テモ最モ考慮ヲ致シ、最モ注意ヲ致シテ、色々ニ研究ヲ致シタ點デゴザイマシテ、結局此ノ中小炭礦業者ノ從來ノ金融ノ關係ヲ考慮ニ入レマシテ、サウシテ新統制會社ガ設立致サレマシテ、ソレガ總テノ石炭統制ヲ實行スル場合ニ於キマシテモ、從來ノ金融業者ト中小炭礦業者トノ關係ヲ斷絶スルヤウナコトニナラナイヤウニ致シタイト、工夫ヲ凝シテゴザイマス、尙又其ノ上ニ新シク此ノ新統制會社ニ於キマシテ、中小炭礦業者ニ金融ノ便ヲ與ヘル、斯ウ云フ考慮モ拂ツテゴザイマスカラ、其ノ詳細ハ委員會ノ方ガ適當デアラウカト存ジマス、尙ホ統制會社

ニ於キマシテ、石炭ヲ「ブール」平準價格ニ依ツテ買上ゲルノハ、結局全體ノ石炭ノ値上トナリハセヌカト云フ御尋デゴザイマシタガ、是ハ値上トハ相成リマセヌ、ソレカラ最後ニ御述ニナリマシタ、本法案ノ如キ重大ナル法案ハ、ドウシテモ當業者ノ協力ヲ得ルト云フコトガ最モ必要デアアル、然ルニ本法案ニハ一部ノ炭礦業者ガ反對シテ居ル、尙又其ノ他ノ炭礦業者モ心カラ之ヲ歡迎シテ居ラナイモノガ多イト思フカラ、其ノ協力ナクシテ、果シテ此ノ統制會社ガ、十分ニ其ノ運用ヲ滑カニシテ、效力ヲ發揮スルコトガ出來ルカト云フヤウナ御尋デゴザイマシタ、此ノ點ハ如何ニモ御尤モノ御尋デゴザイマシテ、政府ニ於テモ多大ノ苦心ヲ致シタ所デアリマス、御承知ノ通り此ノ石炭問題ハ、昨年ノ中央物價委員會ニ於テ立案致サレマシテ、一通リノ成案ヲ得マシタ、ソレヲ政府ニ於テ再三檢討ヲ重ネマシテ、更ニ當業者ノ意見ヲ聽キマシテ、其ノ研究ヲ重ネマシタ上ニ、一ツノ成案ガ茲ニ成立ツタノデゴザイマス、ソレヲ現内閣ニナリマシテカラ更ニ檢討ヲ致シマシテ、之ヲ實際ノ運用ヲ致シマスル上ニ於テハ、幾多ノ改善ヲ其ノ案ニ加ヘマシテ、サウシテ運用上差支ナイヤウニシタイト云フノデ、相當ニ研究ヲ重ネタノデアリマス、其ノ主ナル研究ヲ重ネマシタ所ハドノ點ニアルカト云フト、ヤハリドウシテモ此ノ運用上ニ於テ、現在ノ當業者ノ持ツタ居ル所ノ機關ヲ其ノ儘流用シテ摩擦ヲ少クスル、混亂ヲ來サナイヤウニスルト云フヤウナコトハ洵ニ必要ナコトデアアル、尙ホ其ノ上ニ此ノ統制會社ニシテ、萬々一ニモ其ノ運用ニ於テ政府ノ目的ニ齟齬スルヤウナコトガ出來テ、原口君ノ仰シヤル失敗ヲ來スト云フヤウナコトガ若シ出來タナラバ、是ハ國民ニ對シテモ政府トシテ非常ニ相濟マナイコトデアリマスルカラ、ソコデ再三研究ヲシタ結果、此ノ當業者ノ金融ノコトトカ、或ハ從來ノ金融ノ關係ト云フヤウナコトヲ尊重スルトカ、新シク金融ヲ考慮スルトカ、或ハ生産原價ヲ決定スルニ際シマシテ、中小礦業者ニ對シテ無理ノナイヤウナ原價ヲ決定シテ、サウシテ中小炭礦業者モ是ガ爲ニ苦シマナイヤウニ、相當ナ利潤ヲ得テ從來ノ仕事ヲ繼續シ、尙ホ擴張シテ行クコトノ出來ルヤウニ一面ニ於テハ考慮シ、又他ノ一面ニ於テハ、大企業家ニモ十分ナ満足ヲ與ヘルコトハ出來ナイケレドモ、大イナル不平ヲ與ヘルト云フヤウナコトノ

ナイヤウニシテ、サウシテ兩方共ニ大イナル満足ハナイガ、大イナル不平ハナイ、先ヅ其ノ位ガ政府トシテ最モ中正公平ナ處理デハナイカト云フ所へ、此ノ案ヲ立案致シタノデアリマスカラ、ドウゾ左様御承知ヲ願ヒタイ、詳細ハ委員會ニ於テ説明致シマス

稻田直道君ノ質疑

只今議題ト相成リマシタ石炭配給統制法案ニ付キマシテ、次ノ諸點ニ對シ政府ノ御所見ヲ質シテ見タイト思フノデアリマス、第一ニ於キマシテ、政府ハ去ル昭和十三年ノ九月一日附ニ依リマスル輸出入品等臨時措置ニ關スル法律ニ基キマシテ、石炭價格ノ一割値下ヲ行ハレマシタノデアリマスルガ、此ノ値下ハ單ニ昭和會系五六ノ大炭礦會社ノミニ對スル値下デアリマシテ、他ノ小炭礦會社タル互助會ニ對シマシテハ、單ニ自肅ヲ警告シタノニ過ギマセヌシ、又「アウトサイダー」ニ對シマシテハ炭價ヲ上ゲルモ下ゲルモ其ノ任意ニ放任サレタノデアリマス、是ハ要スルニ政府ガ一方ニ於キマシテハ弱小會社ヲ保護スルト同時ニ、斯ク致シマシテ石炭量ノ増加ヲ圖ラントセラルル意味デアツタデアラウトハ思ヒマスルガ、併シナガラ是ガ爲ニ昭和會系ニアリマシテハ炭價ハ釘付トナツテシマヒマシタ、ソレニ反シマシテ資材並ニ鑛夫ノ缺乏ト價格騰貴ニ依リマシテ、採算ガ困難ニ陥ツタノデアリマス、隨テ出炭能率ハ或ハ下リ、或ハ停頓致シマシタルニ對シマシテ、互助會「アウトサイダー」ニ於キマシテハ、炭價抑止ノ制限ガアリマセヌデアリマシタカラ、如何ナル價格デアリマシテモ差支ガナイ、同時ニ各產業會社ニ於キマシテハ時局柄一塊ノ石炭デモ値段ノ如何ニ拘リマセズ、金ニ厭ハズ買求メマシタカラ、炭質ノ如何ニ拘ラズ闇相場モ手傳ヒマシテ、炭價ハドシ／＼上ツテ行キ、其ノ結果昭和會ト互助會ト「アウトサイダー」ノ間ノ石炭ノ價格ト云フモノハ、是等各會社間ニ於キマシテ非常ナル差額ヲ生ズルコトニナツタノデアリマス、一方ニ於テ「アウトサイダー」ニ於キマシテハ、炭價ハ如何程値上ヲ致シマシテモ、石炭ノ買手ハ幾ラデモアリマスカラ、鑛夫ノ勞銀デモドシ／＼上ゲマシテ、昭和會デハ四圓五十錢位ナモノガ「アウトサイダー」ニ於キマシテハ十圓モ出スト云フ風ニナリマシテ、昭和會系ノ熟練鑛夫

ト云フモノハ、ドシノ「逃ゲテ」アウトサイダー」ニ入り込シマツタノデアリマス、然ルガ故ニ日本ノ出炭量ノ七八割モ出スト云フ昭和會系ノ出炭ハ、全ク疲弊困憊ニ陥リマシタルニ對シマシテ、其ノ出炭率ハ同様に一割二三分デアリマシタ、昭和會以外ノ非能率ノ山ニハ、中堅鑛夫ガドシノ「隻中致シマシタカラ、十四年度ニ於キマスル出炭率ト云フモノハ、政府ガ豫定致シマシタ出炭率トハ大ナル齟齬ヲ生ジテシマツタノデアリマス、斯ク致シマシテ最初日發會社ニ其ノ使用量ノ六七割モ供給シ得ル所ノ昭和會ノ良炭ト云フモノハ、僅ニ其ノ半分ノ三割五分トナツテシマヒマシタノデアリマス、之ニ反シマシテ炭質モ惡ク、納期モ不確定ナル所ノ昭和會以外ノ炭礦會社カラハ、日發使用量ノ六割五分ヲ納メルト云フ逆現象ヲ呈シタノデアリマス、而モ石炭ハ開取引デハ十五圓位ノモノガ二十六七圓カラ三十圓ニモナリマスカラ、此ノ日發ニ納メルベキ六割五分ノ石炭モ開ノ方ニ消エ失セテシマツタノデアリマス、日發ノ方ニハ石炭ガ行カナイ、然ルガ故ニ納期ノ如キモ區々ニナリマシテ、又炭質モ頗ル惡化致シマシテ「カロリー」ニ致シマシテハ、一般ニ六千三百「カロリー」ナケレバナラヌモノガ五千七百「カロリー」ニマデ低下シタノデアリマス、斯ク致シマシテ政府ノ昭和會ノミニ對スル炭價一割ノ値下ト云フモノハ、日本ノ優良炭ノ大量増産ト云フモノヲ大イニ阻止シ、且ツ炭質ト云フモノヲ大イニ低下致シマシタ、斯ク致シマシテ其ノ量ト質トニ於キマシテ、日本ノ石炭火力量ト云フモノヲ如何ニ激減致シタデアリマセウカ、是ハ現内閣ノシタコトデハナイト致シマシテモ、前政府ノ此ノ大失政ヲ如何ニ思ハルルノデアリマスカ、即チ政府ハ今回提案ノ石炭ノ増産計畫ニ依リマシテ、果シテ優良炭ヲ大量ニ増産シ得ルト共ニ、惡質炭ヲ炭界ヨリ驅逐シ、石炭ノ規格ヲ完全ニ統制シ、以テ豫定ノ増産量ヲ確保シ得マシテ、サウシテ電力其ノ他一般ニ對スル所ノ使用量ニ對シマシテ、何等ノ不安モナイト云フコトガ斷言出來マスカ、敢テ商工、遞信兩大臣ノ確然タル御所見ヲ承ツテ置キタイト思フノデアリマス、第二ニ於キマシテハ、政府ハ十四年ノ十月カラ致シマシテ石炭ノ販賣並ニ購買ヲ許可制ニ致サレマシタノデアリマス、然ルニ政府ガ石炭ノ所在地ト運輸機關ノ關係ニ對シマスル考慮ヲ缺イテ、同時ニ又石炭ノ供給先ト買入先トノ調

査ヲ十分ニシナカッタ爲ニ、購買許可證ヲ發行致シマシタケレドモ、購買許可證ト販賣指圖書ト云フモノノ間ニ於テ、大ナル入込ヲ生ジタノデアリマス、斯ク致シマシテ石炭ハアツテモ賣ルコトガ出來ナイ、石炭ガナクテ喉カラ手ガ出ルヤウニナリマシテモ、買フコトガ出來ナイヤウニ相成ツタノデアリマス、遂ニ石炭ノ需要供給上ニ大ナル澁滞ヲ來シタノデアリマス、他方ニ於キマシテハ、又日本發送電會社ノ機構ノ缺陷ヤ、石炭購入ニ關スル色々ノ不手際ノ爲ニ、日發會社デハ石炭購入ノ契約ニ遲延ヲ來シマシテ、サウシテ出炭期ガ十二月カラ一月ノ日本海ノ海ノ荒レル時期ニナツタノデス、斯ク致シマシテ日發會社ノ使用炭ノ六割ヲ積出シマスル所ノ九州ノ若松港ニ於テハ、十二月ノ貯炭量ハ九萬噸ニ上ツテ居ツタノデアリマス、他方日本海ガ荒レル爲ニ十萬噸ノ石炭ヲ船ニ積ンデ、サウシテ出港セズニ待機ヲシテ居ツタ帆船ヤ機帆船ガ、驚ク勿レ一千隻ニ及ンデ居ルノデアリマス、同様ニ北海道ニ於テハ輸送機關ガ不備ノ爲ニ、山元ニ二十萬噸ノ石炭ノ滯貨ガアツタノデス、埠頭ニハ四十萬噸アツテ、合計六十萬噸ノ石炭ノ滯貨ガ北海道ニアツタノデス、一小炭礦會社ノ磐城炭礦ニ致シマシテモ、尙且ツ二萬噸ノ滯貨ガアツタ、爲ニ其ノ發火ヲ恐レテ石炭ヲ掘ルコトヲ手控ヘ致シタノデアリマス、斯様ナ状態ニ於テ、一體遞信大臣ヤ鐵道大臣ハ何ヲシテ居ツタノデスガ、近時日本ノ近海ノ航路ト云フモノハ、九・一八ノ運賃抑止デ以テ、遠洋航路線ニ比シマシテ業績ハ好シクナカッタノデス、隨テ船腹モ比較的餘裕ガアツタ、然ルニ此ノ海運ノ輸送難ト云フモノハ、海運界ニ何カ不統制デモアツタノデスカ、又近時ノアノ大ナル黒字ヲ擧ゲテ居ラレル鐵道省ニ於テ、昭和十四年度ニ於テハ一億二千萬圓ノ車輛ノ大增産ヲ計畫シテ居ラレタノデス、然ルニ鐵道省ハ一體ナセ貨車ヲ大量ニ手配ヲシテ、斯ノ如キ貯炭ヲ生ゼシメザルヤウニ懸命ニナラナカッタノデアアルカ、仍テ御尋ヲ致シマスルガ、此ノ過去ノ政府ノ手落、失敗ハ今更トウスルコトモ出來ナイ、現内閣ハ此ノ石炭取得行爲ノ爲ニ八千三百餘萬圓ノ國帑ヲ費サントシテ居ラレマスガ、商工大臣ニ於カレマシテハ石炭ノ配給統制上ニ於テ、或ハ又遞信大臣ニ於カレマシテハ船舶ノ輸送上ニ於テ、又日發會社ノ監督上ニ於テ、或ハ鐵道大臣ニ於カレマシテハ鐵道ノ輸送上ニ於テ、果シテ如何

ナル成算ガアルカ、今後過去ノ政府ノ爲シタルガ如キ手落ヲ、決シテ再ビ繰返スト云フコトノ
 ナイヤウニ、其ノ確信ガ御有リデアアルカドウカ、此ノ機會ニ於キマシテ、ハツキリトシタ答辯
 ヲ承ツテ置カウト思フノデアリマス、第三ニ於キマシテ、政府ハ十五年度ノ増産炭ヲ五百五十
 万噸ト見テ、之ニ對シマシテ應當リ四圓ノ補助金ヲ與ヘルコトトシテ、二千二百萬圓ヲ見テ居
 ラレマスルガ、然ル所去ル六日ノ衆議院ノ稅革委員會ニ於キマシテ、櫻内藏相ハ此ノ増産炭ニ
 對シマシテ、特ニ生活必需品産業ニ於テ、或ハ輸出産業、或ハ軍需産業ニ對シマシテハ、各社
 ノ製品ヲ値上ヲシナイ、或ハ又海外ニ輸出ヲ致シマシテ、外貨獲得ニ裨益スルト云フコトヲ條件
 ト致シマシテ、此ノ増産炭ヲ特定價格ヲ以テ供給スルコトアルベキコトヲ言明シテ居ラレマス
 ガ、斯ノ如キハ彼ノ十三年ノ九月ニ出サレマシタ臨時措置法ニ依リマシテ、大炭礦會社ニノミ
 石炭ノ價格ヲ一割値下ヲシテ居ツテ、他ノ「アウトサイダー」ニ對シテハ値上ヲ自由ニ許シテ、
 以テ極端ナル開取引ヲ生ジマシテ、炭價ヲ二重三重ノ大混亂ニ陥ラセマシタ、アノ過去ノ大失
 態ノ二ノ舞ヲ演ズルヤウニナリハシナイカト云フコトヲ恐ルル者デアリマス、果シテ政府ハ一
 部増産炭ニ對シテ特別ノ値上ヲ許可スルコトニ依リマシテ、是ガ他ノ一般ノ石炭ノ價格ヲ混亂
 ニ陥レルヤウナコトガアリハシナイカ、開取引ヲ助長スルヤウナコトガアリハシナイカト云フ
 コトニ付キマシテ、大藏大臣、商工大臣ノ御明答ヲ承ツテ置キタト思フノデアリマス、第四
 ニ於キマシテ、今回政府ノ此ノ八千三百餘萬圓ノ増産計畫ハ、石炭ガ全産業ノ基本原料タル關
 係上、物ノ相互依存性ト物價ノ循環性ニ鑑ミマシテ、是ハ彼ノ米ヲ五圓値上ヲシ、即チ一割三
 分ノ値上ヲサレマシテ、世間ノ蠶々タル非難ヲ招カレマシタ、ソレ以上ニ、鹽テハ世上ノ大ナ
 ル非難ヲ生ズルヤウニナリハシマセヌデセウカ、此ノ轍デ又肥料ニ何ボノ補助、或ハ何々ニ何
 ボノ補助、何々ニモ何ボノ補助ト云フ場合ニ於キマシテハ、國庫ハ補助金デ以テ行詰ルヤウニ
 ナリハシマスマイカ、一體此ノ傾向ヲ政府ハ將來ドウシヨウト思ハレルデアリマセウカ、是ニ
 モ補助、是ニモ補助、將來ドウサレルノデスカ、仍テ翻ツテ考ヘマサルノニ、石炭ノ増産ヲ爲
 ス爲ニハ、石炭ノ價格ヲ適當ニ値上ヲスルノガ宜シイデハナイカト私ハ思フ、併シナガラ政府

ガ政府ノ低物價政策ノ手前上カラ致シマシテ、是ガ出來ナイト致シマシテ、此ノ値上ニ依ル増
 産計畫ヲ採ラズシテ、本案ニ依ルガ如キ窮餘ノ政策ヲ御採リニナツタノデハナイカト思フノデ
 アリマスルガ、然ル所政府ハ近ク諸物價ニ對シマシテ適正價格ヲ決定スル御考デアラシイ、
 左様ナ場合ニ於テ一般ノ食料品、或ハ貨銀、或ハ諸材料等ノ如キ、石炭ノ生産「コスト」ニ對ス
 ル基準トナリマスル諸物價ノ適正價格ガ、若シ上ゲラレタ場合ニドウスル、其ノ時ニ尙且ツ政
 府ハ物價ノ相互ノ依存性ヤ、物價ノ循環性ヲ無視サレマシテ、サウシテ石炭ノ價格ヲ今日ノ儘
 ニ据置クト云フ御考デアリマスルカ、其ノ時ニ又政府ハ石炭ノ價格ヲ引上ゲルヤウナコトハア
 リハシマセヌカ、若シ左様ナコトガ起キマシタ場合ニハ、今ノ増産計畫ニアル所ハ此ノ補助、
 助成、補償ト云フモノノ一部若クハ全部ハドウナルノデス、仍テ政府ニ御尋致シマスガ、斯
 様ナ場合ニ於テモ將來政府ハ絕對ニ石炭ノ値上ヲシナイト言ハレルノデスカ、商工大臣、大藏
 大臣ノ御明答ヲ承ツテ置キタト思ヒマス、第五ニ於キマシテハ、今回ノ五百五十萬噸ノ増産
 目標デアリマスガ、政府ハ一體何ヲ目標ニシテ此ノ五百五十萬噸ノ増産計畫ヲ立テラレタノデ
 スカ、日本ノ今日ノ炭界ハ昭和八年以來増産又増産ト云フ聲ニ驅ラレマシテ、新坑ノ開發ト云
 フコトガ忽セニセラレマシテ、掘リ得ルダケハ掘ツテ居ルノデス、其ノ關係ニ於キマシテ所謂
 「ボタ」炭ヲ計算ニ入レナイ以上ハ、私ハ此ノ五百五十萬噸ノ増産計畫ハ出來ナイト思フノデス
 ガ、商工大臣ハ今回ノ増産目標竝ニ手段方法等ヲ何處ニ置イテ居ラレルノデアリマスガ、唯大
 丈夫デス、確信ヲ持ツテ居ルト云フコトデハ私ハ承知ガ出來ナイ、現實的ニ、數字のニ御明答
 ガ願ヘレバ結構デアリマス、第六ニ於キマシテ、本案ノ補償、補助竝ニ助成金デアリマスル
 ガ、是等ガ石炭ノ増産ニ齎ラス實際ノ效果如何ト云フコトハ姑ク別ト致シマスルガ、一面ニ於
 キマシテ是等ガ唯單ニ一年又ハ二年、三年ノ計畫ノ補助ニ關スル豫算デアリマスルカラ、是ガ
 業者ニ相當ナル不安ヲ與ヘルデハナイカト思フ、即チ若シ今後政府ガ更迭致シマシテ場合ニ於
 テハ、或ハ補助ガナクナルトカ、或ハ補助ガ減ルトカ云フヤウナコトガアツテハナラヌト云フ
 心配ガ業者ニハアルダラウト思フ、此ノ心配懸念ガ業者ノ増産心理ニ對シテ惡影響ヲ及ボスノ

デハアルマイカト思ヒマスガ、是等ノ點ニ關シマシテ、左様ナ心配懸念ハ絶對ニナイト云フ御明答ガ承リタイノデアリマス、第七ニ於キマシテ「ブル」平準價格デアリマスガ、是ハ會社ガ生レマシテ、サウシテ其ノ會社ガ石炭賣買ノ實際場面ニ直面シテ見ナイト、其ノ「ブル」平準ヲ決メラレル所ノ手段或ハ方法ハ今日ハ分リマスマイト思フ、併シナガラ私ガ最モ面倒ダト思ヒマスノハ、會社ガ各炭坑カラ出シマスル石炭ノ規格ヲ如何ニシテ決メルノデスカ、又如何ニシテ其ノ適正ナ生産「コスト」ヲ決メルノデスカ、如何ニシテ適切ナル利潤ヲ見出スノデスカ、仍テ御尋致シマスガ、商工大臣ハ如何ニシテ會社ヲ適切公正ナル所ノ經理統制ト利潤ノ統制ヲ、ヤラサウト思ツテ居ラレマスカ、第八ニ於キマシテ、要スルニ此ノ石炭會社法案ニ依リマシテ好都合ニナリマスモ、日本ノ出炭量ノ七八割ヲ占メテ居リマス所ノ昭和系ノ大會社デアラウト思フデアリマス、是等ノ大會社ハ現在ノ自分ノ會社ガ賣ツテ居ル石炭ノ相場ガ基準ニナリマスニ依リマシテ、多少ノ、否相當ノ炭價ノ値上リハアルデアラウト思フ、下ルコトハ絶對ニアルマイト思ヒマス、現在ヨリ以上ニ相當ノ儲ケガアルデアラウト私ハ信ズルモノデアリマス、ソレニ尙且ツ増産ノ補助デアルトカ、或ハ新坑開發ニ對スル助成デアルトカ云フモノヲ加ヘマスルト、本案實施ノ曉ニ於キマシテハ、大會社ニハ私ハ決シテ惡ウハナイト思フ、之ニ反シマシテ互助會及ビ「アウトサイダー」筋ニ於キマシテハ各其ノ生産「コスト」ヲ重ジテヤルト云フヤウナ建前ノ下ニ、共販會社カラ石炭ヲ買取ツテ賣フト致シマシテモ、前述ノ如キ規格ヤ或ハ生産原價ヤ或ハ利潤ノ算出方法、或ハ又金融關係等ニ於キマシテハ、色々ノ不平不滿困難モ生ズルデアラウト思ヒマス、隨テ今日マデノヤウニ、色々ト好都合ナル經營ガ出來得ナイト私ハ思フノデ、彼此レ致シマシテ延イテハ是等弱小會社ノ出炭率ハ、漸次ニ減少シテ來ルノデアリマスマイカ、果シテ然リトスレバ、政府ノ折角ノ増産計畫モ水泡ニ歸スルヤウニナリハシマスマイカ、斯ノ如ク致シマシテ、此ノ大會社ニ好都合ニシテ、弱小會社ニ極メテ氣ノ毒ナル本法案ノ將來性ハ氣遣ハレルノデアリマス、仍テ御尋ヲスルガ、本法案ノ實施ニ依リマシテ互助會「アウトサイダー」ガ經營困難ニナリマシテ、其ノ出炭率ハ減少ヲ來タシ、仍テ以テ

政府ノ所期スル所ノ増産計畫ニ齟齬ヲ來タスヤウナコトガナイカ、延イテハ是等弱小會社ガ將來經營困難ニ陥リ、非常ナル逆境ニ陥ルヤウナコトガアリハシナイカドウカ、商工大臣ハ決シテ左様ナコトハナイ、左様ナコトガアツテモサセナイト云フ確信ガアリマスカ、敢テ御明答ヲ承リタイト思ヒマス、第九ニ於キマシテ曩ニ商工省當局ト致サレマシテハ、中央物價委員會ノ答申ニ則ラレマシテ、石炭ノ需給ノ圓滑ト價格ノ適正ヲ期スル爲ニハ、中央地方ヲ通ジテノ全國ノ石炭ヲ一元の系統的ニ配給スルノ機構ヲ作ラネバナラヌト云フコトデ、國策會社デアリマスル所ノ日本石炭販賣會社ナルモノヲ設立スルノ御計畫デアツタノデス、所ガ中途其ノ原案ノ一部ヲ變更サレマシテ、販賣業者或ハ生産業者、輸出入業者ノ人的並ニ物的ノ配給機構ヲ其ノ共販會社ニ取入レラレマシテ、サウシテ本案ヲ作ラレタト云フコトハ一體ドウ云フ理由デアリマスルカ、自分ノ直屬ノ配給機構ヲ有セズシテ、自己ノ身體ヲ運ブノニ他人ノ手足カ借リルヤウナ配給機構ヲ以テ此ノ大事業ノ完遂ヲ目論マレルガ如キハ、餘リニ机上ノ計畫ニ過ギハシマセヌカ、政府ハ果シテ此ノヤウニ修正セラレマシタコトガ石炭ノ規格、賣炭、配給統制ノ一元化、或ハ配給組織ノ合理化ニ基イテ價格ノ適正化ヲ圖ル爲ニ、ソレガ至極結構ナモノデアルト思ツテヤラレタコトデアリマスルカ、好都合デハナイ、都合ハ宜シクナイケレドモ、業者ガ反對ヲスルカラシテ已ムヲ得ズウ云フ風ニナツタノダト仰シヤルノデアリマスカ、果シテ然リト致シマスルナラバ、此ノ方法ニ依リマシテ所期ノ通りノ目的ガ完全ニ遂行サレ得ルカドウカ、此ノ點ニ付キマシテ商工大臣ノ御答辯ヲ承ツテ置キタイト思フデアリマス、第十二ニ於キマシテ、思フニ此ノ際政府ガ強權的ニ此ノ國策會社ヲ設立シテ運用セラルルナラバ、政府ノ目的トスル所ノコトハ達成シ得ルデアラウケレドモ、ソレガ出來ナイカラ已ムヲ得ズシテ本案ノ如キ團體ハ自分ノ身體デアアルガ、手足ハ人ノ借物ト云フヤウナ不具癡疾の間ニ合セノ共販會社ヲ作ラレルト致シマスルナラバ、私ハ將來ニ於テ大ナル間違ガ生ズルノデアナイカト思フ、寧ろ是ハ當然業者ノ堅實ナル自治ニ任シテハドウカ、以テ積極的ニ國策ニ協力サセルヤウニ、政府ハ外部カラ之ヲ指導、監督、鞭撻シタラドウカ、却テ増産目的ヲ達成スル上ニ於テ好都合デアリマスマイカ、此ノ

點ニ付キマシテ政府ガ之ヲ採用セラレナカッタ其ノ理由ヲ、簡明ニ御説明ガ願ヒタイノデアリマス、第十一ニ於キマシテ、吾々ハ滿洲事變ノ處理ニ依リマシテ、日本ハアノ滿洲ニアル無盡藏ナル石炭ニ對シマシテ、絶大ナル期待ヲ持ツテ居ッタノデス、同様ニ北支方面ノ石炭ニ對シマシテモ、絶大ナル期待ヲシテ居ッタノデス、然ルニ是等ガ日本ノ今日ノ石炭ノ需要ニ對シマシテ、果シテドレダケノ役割ヲ勤メテ居リマスカ、ホンノ僅カノ一割内外ニ過ギナイノデス、實ニ驚キ入ツタ話デアルト私ハ思フ、アノ無盡藏ナル滿洲ヤ北支ノ石炭ハ一體ドウナツテ居ルノデスカ、無盡藏デアツテモ未ダ日本ノ用ニハ立タナイノデスカ、開發ハセラレテ居リマシテモ、運輸ヤ或ハ運搬ノ困難カラ日本ノ實用ニ十分供シ得ラレナイノデスカ、承ル所ニ依リマスト、北支ダケデモ現在千三百万噸ノ石炭ヲ出シテ居ル、サウシテソレハ手掘ニ於テ、山元ニ於テ三圓五十錢餘リナンデス、機械掘ニ致シマシテ漸ク五圓内外ナンデス、サウ云フ安イ石炭ヲドウシテ日本ニ持ツテ來ラレナイノデスカ、北支ニハ北支開發會社ノ如キ大會社ガアル、滿洲ニハ滿洲重工業ガアリマス、滿鐵アリ、而モ此ノ滿鐵ノ如キハ、八億圓ノ資本ト十二億圓ノ社債ヲ以テ、合計二十億圓ヲ以テマシテ、十四年度ノ總營業收入ト云フモノハ、驚ク勿レ六億圓内外取ツテ居リマス、三割ノ利益ヲ占メテ居リマス、滿洲國ニ於キマシテハ十四年度ノ特別事業費ノ支出ト云フモノガ約二十四五億圓ニナツテ居リマス、此ノ滿洲北支ノ交通並ニ事業上ノ開發現狀ニ鑑ミマシテ、是ダケ我ガ内地ガ石炭ニ困ツテ居リマスニ拘ラズ、今日日本ニ此ノ上五百万噸ヤ一千万噸ノ石炭ヲ餘分ニ持ツテ來ルコトガ出來ナイデセウカ、政府ニサウ云フ力ハナイモノデスカ、私ハナイトハ斷ジテ言ハセナイ、仍テ對滿事務局ノ總裁或ハ總理大臣ニ御尋シタイガ、大臣或ハ事務局ノ總裁ハ右ノ滿洲並ニ北支ニ於テノ石炭關係ヲ一體ドウ考ヘテ居ラルルノカ、此ノ日本ノ急場ニ此ノ上彼ノ地カラ五百万噸ヤ一千万噸ノ石炭ヲ持ツテ來ルコトガ出來ナイノデスカ、國民ニ何ト仰シヤルノデスカ、敢テ御明答ガ承リタイト思フ、最後ニ於キマシテ、陸軍大臣並ニ海軍大臣ニ御尋ヲ致シマスルガ、今ヤ米國ニ於キマシテハ二海洋海軍主義海軍擴張計畫ノ下ニ新ニ九十四億圓ノ經費ヲ要求シテ居リマス、露西亞ニ於テモ亦世界

一ト自稱スル潛航艇ノ製艦能力ト、一箇年ニ二万臺ト自稱スル飛行機ノ大製造能力ヲ以テ軍備ノ擴張ニ大童ニナツテ居リマス、其ノ他ニ於キマシテモ大同小異デアリマス、惟フニ是等諸外國ノ軍備ノ大擴張ニ對シマシテ、今後我ガ帝國ニ於キマシテモ相當ナル覺悟ヲ要スルモノデアルト私ハ思ヒマス、仍テ軍部兩大臣ニ御尋致シマスルガ、軍部當局ニ於カレマシテ、帝國ノ現在將來ノ斯ノ如キ國防上ノ地位ニ直面サレマシテ、銳意國防ノ充實ノ完璧ヲ圖ラルル上ニ於テ、既往並ニ現在ニ互ツテ、軍需産業上ニ其ノ動力資源ノ不足ヲ大イニ痛感セラレテ居リマセヌカ、第一現在ノ石炭ノ需給關係ニドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレマスカ、ソレト同時ニ此ノ今日ノ政府ノ石炭對策ヲ以テ、日本ノ今後ニ於ケル軍需産業上ノ動力資源ニ對シテ、何等不足ハナイト云フコトヲ思ウテ居ラレマスカ、否、進ンデ今少シ本案ニ對シマスル所ノ統制ノ強化ヲ圖ラウトハ思ハレマセヌカト云フコトヲ、敢テ陸海軍兩大臣ノハツキリシタ御答辯ガ承ツテ置キタイト思フノデス、以上ヲ以テマシテ私ノ本案ニ對シマスル質疑ヲ終了致スコトニ致シマスルガ、希クハ以上質疑ヲシマシタ十數項ニ對シマシテ、關係各大臣ノ責任アル御答辯ヲ承ラセテ貰ヒタイト思フ者デアリマス

藤原商工大臣ノ應答

稻田君ニ御答ヲ申上ゲマス、本案ニ依ツテ重要産業ニ對スル石炭ノ供給確保ヲ期待スルコトガ出來ルカト云フ御尋ハ、供給確保ヲ期待スルコトガ出來マスルト云フコトヲ御答申上ゲマス、第二ニ昭和十四年十月一日ノ石炭配給統制ハ、調査ガ不十分ノ爲ニ圓滑ニ行ハレテ居ラナイデハナイカト云フ御尋ニ對シマシテハ、調査ト準備ガ十分デナカッタガ爲ニ、多少購入ノ許可ト販賣ノ指圖ト云フモノガ合致シナイト云フヤウナ點ガゴザイマシタケレドモ、其ノ後漸次是正致シマシテ、今日デハ餘程其ノ點ハ緩和致シテ居リマス、又補助政策ハ將來益、國家ノ負擔ヲ増加シテ、遂ニ失敗ニ期スルト云フヤウナ虞ハナイカト云フ御尋デゴザイマシタガ、政府ニ於キマシテハ左様ニハ考ヘテ居リマセヌ、石炭ノ價格ハ今後引上ゲザルカ、石炭ノ價格ヲ引上ゲナ

ケレバ隨テ増産ハ不可能デア、漸次石炭ノ價格ヲ引上ゲルノデハナイカト云フ御尋デゴザイ
 マシタガ、是ハ引上ゲナイ、而シテ増産ハ可能デア、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、次ニ増
 産ハ何ヲ標準トシテ計畫セルヤト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ主要ナル礦山ニ就キマシテ一
 一實地ノ調査ヲ致シテ、具體的ニ増産可能量ヲ算定シタノデアリマス、其ノ次ニ「ブール」平
 準價格ノ實施ニ當リ、買上ノ値段ハ如何ニシテ決定スルカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ大
 體ニ於テ現狀ニ即シテ諸般ノ事情ヲ考慮シマシテ、無理ノナイ點ニ決定致ス積リデアリマ
 ス、而シテ此ノ買上値段ト賣却値段ト云フモノハ、委員會ヲ組織致シマシテ、之ニ諮問スル豫
 定デアリマシテ、而シテ政府ガ之ヲ認可致シマスル積リデアリマス、尙又中小鑛業ノ方ガ今後
 經營ガ困難ニナツテ、大企業家ノ方ガ本案ニ依ツテ利益ヲスル虞ハナイカト云フ御尋デゴザイ
 マシタガ、サウ云フコトハ、全然其ノ反對ニ考ヘテ居リマシテ、中小鑛業者ノ方ガ、ヨリ良ク利
 益ヲ得テ、大企業家ノ方ガ其ノ反對ニ利益ガ少クナルト云フヤウニ考ヘテ居リマス、ソレカラ物
 價委員會ノ原案ヲ何故ニ修正シタカ、物價委員會ノ立案ノ如ク販賣機構ノ如キモノモ、一切政
 府ノ手ニ運用シテヤツタ方ガ宜クハナイカト云フ御趣旨ノヤウデアリマシタガ、此ノ點ニ付テ
 ハ度々申上ゲル通りニ、此ノ重大ナル産業ノ運用ニ付テハ、十分ニ考慮ヲ拂ツテ、實情ニ即シ
 マシテ運用ヲ滑カニスルニハ、政府ノ立案致シマシタ通りニ致スコトガ一番適當ナ手段ト考ヘ
 タノデアリマス、次ニ滿洲、北支ノ石炭ニ付テノ御尋ガアリマシタガ、此ノ點ニ付テハ大體ノ
 考ハ、稻田君ト同一ノ考ヲ持ツテ居リマス、併シナガラ今日我國ノ石炭ノ缺乏ハ目下焦眉ノ急
 デアルノデアリマス、此ノ焦眉ノ急ヲ救フノニハ、滿洲北支ノ石炭ニモ無論依存シナケレバナ
 ラナイノデアリマスルケレドモ、是ノミニ依存シテ内地ノ方ヲ閑却スルト云フコトハ不可能デ
 アリマスノデ、斯ウ云フ立案ヲ致シマシタノデアツテ、決シテ其ノ滿洲北支、或ハ樺太ト云フ
 風ナ所ヲ閑却シテ立案致シタノデハナイノデアリマス、詳細ハ委員會ニ於テ御説明ヲ申上ゲマ
 ス

松野鐵道大臣ノ應答

稻田君ニ御答申上ゲマス、御承知ノ通りニ生産ト需要ガ非常ニ急激ニ増加致シマシタ爲ニ、今
 日ノ輸送力ガ十二分デナイト云フ點ニ對シマシテハ、洵ニ遺憾ニ存ジテ居リマス、稻田君ノ御
 指摘ニナリマシタ通り、其ノ結果滯貨ガアツタ、斯ウ云フコトモ認メマス、其ノ原因等モ十分
 ニ調査致シマシテ、之ニ對シマス所ノ對策モ種々計畫致シテ居リマス。更ニ又増産計畫ヲヤラレ
 テ、其ノ輸送ガ完全ニ行クカ、斯ウ云フ御心配デアリマスガ、此ノ點モ御尤モト思ヒマスガ、之ニ
 對シマシテハ、申上ゲマシタヤウニ諸般ノ原因ヲ調査致シマシタ結果、之ニ對シマシテハ一定ノ
 計畫ヲ立テマシテ、サウシテ稻田君モ御承知ノ通り昭和十四年度ニ於キマシテモ一億二千万圓
 ノ車輛費ノ協賛ヲ受ケ、更ニ十五年度ノ豫算ニ於キマシテモ、ソレト略同額ノ一億二千万圓、
 斯ウ云フ車輛費ノ協賛ヲ願ツテ居ルヤウナ次第デアリマス、ソレデ輸送ニ對シマシテハ、山元積
 込、ソレカラ鐵道、港灣、汽船、斯ウ云フ各種ノ機關ノ十分ナ連絡ヲヤラナケレバナリマセヌカラ、
 此ノ點ニ對シマシテ諸般ノ改良計畫ヲ立テテ居ル次第デアリマス、ソレカラ御承知ノ通りニ本
 年ノ二月、一時石炭ノ不足ノ爲ニ日發ノ動力不足ヲ生ジマシタ時ノ如キハ、政府ニ於キマシテハ
 二月中ニ更ニドウシテモ十五万噸ノ石炭ヲ輸送シナケレバナラヌ、斯ウ云フ場合ニ於テ北海道
 ノミニ於キマシテ、幸ニ二十万噸ニ近キ炭ヲ特別ニ輸送スルコトガ出來タノデアリマス、併シ斯
 ウ云フ非常時ニ處スルコトハ、ヤハリ經濟的ニ處スル運輸事業ト致シマシテハ、斯ウ云フ場合ノ
 ミヲ犠牲ヲ拂ツテヤルコトハ出來マセヌカラ、先ヅ年間ノ平均輸送量ヲ徹底サセナケレバ
 ナラヌ、ソレカラ工作輸送、或ハ常磐炭ヲ東京ヲ越シテ下ニ持ツテ行クトカ、或ハ九州ノ災ヲ横
 濱ニ持ツテ來ルトカ、斯ウ云フヤウナコトハ出來ル限リ避ケマシテ、サウシテ此ノ工作輸送ヲ出
 來ル限リ排除スル、ソレカラ空貨車ヲ廻サナイヤウニスルトカ、ソレカラ貨車ヲ滿載シテ輸送
 スルヤウナ方法ヲヤル、新造貨車ヲ大キクスル、斯ウ云フ風ナ諸般ノ計畫ヲ立テテ居リマスガ、
 斯ウ云フ政策ヲ徹底強化スル場合ガ生ジマシタ時ハ、一部ノ線區ニ於キマシテ、ドウシテモ輸送

力ノ低下ハ免レヌノデアリマス、生産擴充資材トカ、生活必需品トカ、斯ウ云フモノハドウシテモ第一義ニ確保シナケレバナリマセヌカラ、隨テ旅客輸送等ニ對スル「サービス」ノ低下スル場合モ、或ハナイトモ限リマセヌガ、其ノ邊ノコトニ對シマシテハ、十分ニ現狀ニ即シテ、諸君ノ御協力御理解ノ下ニ總テノ點ニ對シマシテ完全ヲ期シタイト思ヒマス

畑陸軍大臣ノ應答

稻田君ニ御答ヲ致シマス、諸産業ノ基礎デアリマスル石炭問題ノ解決ハ、申スマデモナク刻下ノ急務デアリマシテ、軍ト致シマシテモ至大ノ關心ヲ持ツテ居ル次第デアリマス、デアリマスカラ其ノ應急對策トシテ速ニ本案ノ具現ヲ希望スル者デアリマス、之ニ依ツテ配給モ圓滑トナリ、又現下ノ逼迫セル石炭問題ハ取敢ヘズ解決シ得ベク、軍需石炭ノ取得モ確保シ得ルモノト考ヘテ居リマス、滿洲ノ石炭ノ件ハ、先程商工大臣ノ答辯ノ通りデアリマスガ、稻田君モ御承知ノ通り、滿洲國ニ於キマシテモ我國ノ石炭ノ需要ニ對應致シマシテ、開發ノ重點ヲ今石炭ニ向ケテ居リマスカラ、今後ハ増産ヲシ得ルモノト見込ヲ付ケテ居リマス

吉田海軍大臣ノ應答

石炭問題ハ現下ノ逼迫セル狀況ニ鑑ミマシテ、私共軍部ト致シマシテハ、各種軍需工業ノ確保、ソレニ生産力ノ擴充、要スルニ國防ノ計畫上ニ至大ノ關係ガゴザイマスノデ、是ニハ重要ナル期待ヲ懸ケテ居ル次第デゴザイマス、隨テ本法案ノ實施ニ依リ此ノ問題ガ當面ノ急務トシテ解決サレマスコトハ、非常ナル重要性ヲ以テ期待シテ居ル點デアリマシテ、之ニ依ツテ吾々直接ノ各軍需原料、固ヨリ、總テノ資源ガ得ラレルコトニナルデアラウト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

武知遞信政務次官ノ應答

稻田君ニ御答ヲ致シマス、本案實施後ニ於テ石炭入手ニ安心ガ出來ルカト云フ御尋デアリマシタガ、本案ハ商工大臣説明ノ如ク、石炭ノ配給統制ヲ強化シ、増産ト共ニ配給ヲ合理化スルモノト信ジテ居リマスガ故ニ、將來ニ於キマシテハ、發電用ノ石炭ノ入手ニ付キマシテ、從來ニ比シ相當ニ改善セラレルモノト期待致シテ居リマス、次ニ石炭輸送上ニ於ケル配船關係ニ付テウ努メテ來タノデアリマス、殊ニ急送ヲ要スルモノニ付キマシテハ、船舶管理法ニ基イテ強制配船命令ヲモ下シテ、緊急措置ヲ爲シ來ツタ程デアリマスカラ、荷役能力不足ノ爲ニ、滯船ヲ餘儀ナクセラレマシタ事態等モアリマシタケレドモ、御指摘程ノコトハナカツタト存ジテ居リマス、併シナガラ御話ノ如ク石炭輸送ト配船ノ關係ハ洵ニ大切ナコトデアリマスルガ故ニ、決シテ輕々ニハ考ヘテ居リマセヌ、將來トモ十分配意ヲシテ、此ノ配船關係ニ付キマシテハ萬遺憾ナキヲ期スル決心デゴザイマス

木村大藏政務次官ノ應答

大藏大臣ニ對スル御質問ハ二點バカリアツタト思ヒマスガ、第一ハ、大藏大臣ガ稅制ノ委員會ニ於テ、増産炭ノ中デ生活必需品トカ或ハ輸出品等ニ對シテハ、特定ノ價格ヲ買上ゲルト云フコトヲ申サレタヤウニ御質問デアリマシタガ、私ハ多少其ノ點ガ違ツテハ居ナイカト思ヒマス、別ニ増産サレマシタ石炭ダケデナシニ、石炭ノ中デ輸出品ノ製造ニ用ヒラレルヤウナ、サウ云フ第三國輸出口ノ工場ニ於キマシテ、別ニ國內ニ對シテハ何等影響ヲ及ボサナイ、サウ云フ工場ニ對スル石炭ニ付テハ、相當價格ヲ上ゲテ差支ナイノデヤナイカ、斯ウ云フ話ヲ平素致シテ居リマスノデ、サウ云フ問題ハナイカト思ヒマス、詰リ内地ニ對シテハ低物價政策ヲ堅持スル、斯ウ云フ見地カラ致シマシテ、石炭ノ價格ヲ上ゲル譯ニハ參リマセヌケレドモ、第三國輸出口ノ品物ヲ製造スルト云フ工場ニ對シテハ、相當價格ヲ上ゲテ賣ツテ宜シイデヤナイカ、斯ウ云フコトヲ考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、マダサウ云フ點ニ付キマシテハ、十分

決定ハ致シテ居リマセヌガ、多分大藏大臣ノ申サレタノハ、サウ云フ意味デアラウト思ヒマス、更ニ其ノ他ニモ低物價政策ト別ニ矛盾シナイ相當ノ石炭ノ分量ガ存在スルト思ヒマス、或ハ官廳アタリデアリ上ゲル價額、斯ウ云フモノニ付キマシテモ、相當考慮スル餘地ガアルノデヤナイカト思ヒマス、是等ニ付キマシテハ、何レ大臣カラ適當ナ機會ニ御答ヲ致スコトニ致シマス、ソレカラモウ一點ハ、此ノ増産獎勵金ナリ、或ハ助成金、或ハ補償金、斯ウ云フモノニ付テ、是ガ二年、三年ノ計畫ト斯ウナツテ居ルガ、是ハ當業者ニ對シテ不安ヲ與ヘルノデハナイカ、當業者ノ心理ニ對シテ惡影響ヲ與ヘルノデハナイカ、斯ウ云フ御質問デアッタラウト思ヒマス、ソレニ付キマシテモ、御承知ノヤウニ二年、三年、四年——或ルモノハ四年ニナツテ居リマス、坑道新坑ノ掘進ニ對シテ補助ヲ致シマスモノハ四年ニナツテ居リマスガ、是ハ豫算外ノ契約ヲ致シマシテ御承認ヲ得ルコトニ相成ル次第デアリマスカラ、此ノ計畫ニ付キマシテハ、別ニ當業者ニ於キマシテモ不安ハ毫モナカラウト思ヒマス、更ニ今後數年ノ後ニ於テ、ドウ云フ政策ヲ政府ガ執ルカト云フコトハ、其ノ時ノ情勢ニ應ジマシテ、適當ナル對策ヲ立テナクテヤナラヌト思ヒマスガ、此ノ計畫ニ對シマシテハ、別ニ當業者ノ方面ニモ不安ハナカラウト思ヒマス

松本治一郎君ノ質疑

現下我國ハ國ヲ擧ゲテ新東亞ノ建設ニ邁進致シテ居ルノデアリマス、其ノ大業完遂ニハ我國産業ノ全能力ヲ擧ゲナケレバナラナイノデアリマス、然ルニ此ノ秋ニ當リマシテ、其ノ原動力タル石炭ハ非常ナ缺乏ヲ告ゲマシテ、我國産業ヲ今日ノ如キ混亂ニ陥レタコトハ洵ニ遺憾ノ極ミデアリマス、政府ハ茲ニ本法案ヲ提出致シマシテ、是ガ對處ヲ圖ラントシテ居ルヤウデアリマスカ、私共ノ見地カラ致シマスルト、甚ダ微弱不徹底極マルモノト思フノデアリマス、私ハ我國石炭ノ重要産地デアリマスル福岡縣ニ住ンデ居ル者デアリマス、石炭ニ付キマシテハ、常ニ關心ヲ以テ研究モ致シテ來テ居ル者デアリマス、其ノ私ノ實際ノ體驗ニ基キマシテ、我國石炭ノ根本

對策ニ付キマシテ、政府ニ對シマシテ若干ノ質疑ヲ試ミントスル者デアリマス私ノ質問ハ四項目ニ互ツテ致スノデアリマス、第一ハ、石炭企業ノ合理化ヲ促進シ、眞ニ恆久的増産計畫ヲ樹立スル所ノ意思ナキヤ、第二ハ、此ノ度ノ増産計畫ハ量、質、何レニ重點ヲ置ケルヤ、第三ハ、石炭増産ト労働問題ノ關係ヲ如何ニ考慮スルヤ、第四點ハ、現下ノ石炭問題解決ノ爲、非常國家管理ヲ斷行スルノ意思アリヤ、以上ノ四點ヲ順次質問ヲ進メルノデアリマス、第一點、本法ノ機能ヲ一言デ盡シマスルト、「プール」平準價格制ニ依ル石炭ノ一手買上及ビ販賣ト云フ以外ニ何モノモアリマセヌ、莫大ナル國費ヲ補助シテ石炭會社ヲ作ルコトニ依リ、配給統制ダケハ出來ルカモ知レマセヌガ、併シ石炭經濟全體カラ見マセバ、配給、販賣ト云フコトハ、ホンノ一部分ニシカ過ギナイノデアリマス、問題ハ肝腎ノ石炭ガ足ラナイコトニ懸ツテ居ルノデアリマス、勿論足ラナイカラ配給ヲ統制セネバナラヌ、闇相場ノ防除モシヨウ、價格ノ調整モ圖ラウト云フヤウナ目的ヲ以テ、本法案ガ生レタコトハ一應理解出來ルノデアリマスルガ、一體足ラナイ石炭ヲドウシテ増産スルカ、是ガ解決付カナケレバ、石炭問題ハ、延イテハ我國ニ於ケル電力問題ノ不安ハ一掃サレナイノデアリマス、石炭ノ一割減ハ電力ノ上デ申シマスルト二割減ニモナルノデアリマス、電力ノ低減ハ更ニ高率ニ生産力ヲ引下ゲルモノデアリマス、然ルニ今議會會ノ重要問題ニナツテ居リマスル石炭問題ニ對シマシテ、政府ノ對處方策ヲ代表スルモノト致シマシテハ、殆ド此ノ法案ダケデアリマス、是程ノ石炭問題ニ對シマシテ、政府ハ一體是ダケノ對策シカ立テ得ナイノデアアルカ、私ハ大ナル不安ト疑惑ヲ抱カザルヲ得ナイノデアリマス、彼ノ英國ニ於テスラ既ニ千九百二十六年、炭礦ノ合同促進規定ヲ含ンダ鑛業法ヲ制定シ、更ニ四年後ノ千九百三十年ニハ炭礦法ヲ制定致シマシテ、全面的ナ石炭企業ノ國家管理ニ乗出シテ居ルノデアリマス、我國モ今ニシテ石炭企業全體ノ合理化ヲ斷行シ、石炭問題ノ根本改革ニ乗出シ、萬全ノ方策ヲ立テラザレバ、必ズヤ近キ將來ニ救フベカラザル結果ヲ招カスル、之ヲ私ハ憂フルノデアリマス、炭業ノ合理化ノ一策ト致シマシテハ、先ヅ第一ニ炭田地域別ニ企業ノ合同整理ヲ促進スルコト、第二ニハ舊式炭礦ヲ改良シ、作業ノ機械化ヲ圖ルコトガ緊要

デアリマス、斯ノ如ク致シマスレバ、現在ノ資材不足時ニ於キマシテモ、尙且ツ有效ナル施設ヲ講ズルコトガ出來ルノデアリマス、生産力モ大イニ増進サレルノデアリマス、加之、保安礦區ヤ、死藏礦區ノ活用、礦區爭ヒノ一掃、複雜ナル銘柄ノ統一モ容易デアリ、延イテハ陷落地、礦害問題ノ統一の善處ノ上ニモ、多大ナル效果ヲ齎スコトガ出來ルノデアリマス、斯ル企業ノ合理化ヲ促進セズシテ、石炭問題ノ根本的打開ハ、絶對ニ不可能デアルノデアリマス、政府ハ斯ノ如キ石炭企業全體ノ合理化、即チ地域別合同整理、舊式炭礦ノ機械化促進ニ付テ、之ヲ斷行スルノ御意思ガアルカドウカ、ソレヲ先ツ御尋スルノデアリマス、次ハ今日ノ如ク石炭不足ノ場合ニハ、需要者ハ質ヤ價格ニ付キマシテハ心中不滿ヲ感ジテ居リマシテモ、唯是ガ入手ニノミ焦慮致シマス、其ノ弱味ニ乗ジマシテ著シキ粗惡炭ガ賣込マレル、所謂モエン炭ト云フ新シイ言葉ガ生レテ居ルノデアリマス、石炭増産ニ對スル政府當局ノ苦心ノ程ハ察シマスガ、良質石炭即チ熱量ニ對スル關心ガ餘リニモ薄イト思フノデアリマス、私ハ先日石炭ニ關係ノアル政府ノ重要地位ニアル人カラ、斯ル石炭不足ノ場合ニハ質ノ良シ惡シハ言ウテ居ラレナイ、望ム所ハ良質炭デアアルガ、今ノ場合少々質ハ惡クテモ仕方ガナイ、兎ニ角量ヲ増スコトニシナケレバナラヌト語ラレタノデアリマス、當局ノ御考ガコンナコトデハ、熱量ノ高イ良質炭ガ要求サレテ居リマスル今日、反對ニ粗惡炭ノ増産ニ導クコトヲ憂慮シテ居ルノデアリマス、私ハ炭質ノ問題ガ如何ニ重大ナ關係ニアルカト云フコトヲ、此ノ際數字のニ申上ゲテ見タイノデアリマス、抑モ坑内カラ掘出サレタ儘ノ石炭ニハ普通一五%カラ三五%ノ「ボタ」ガ混リ、灰分モ亦二〇%乃至四五%位アルノデアリマス、ソレヲ選炭作業ニ依ツテ「ボタ」ヲ除キ、灰分ヲ九%カラ十五%程度ノモノト致シマシテ、市場ニ出サレテ居ルノデアリマス、然ルニ近頃市場ニ出サレテ居リマスル石炭ノ中ニハ、甚シイノニナリマスルト、三割乃至四割方ノ「ボタ」ガ混入サレテ居ルト云フノデアリマス、最近ノ炭質低下ノ原因ガ、選炭粗雜ニ基クコトハ否ミ難イ事實デアリマス、今假ニ硬炭ノ混合ヲ一割ト見マシテ、内地ノ出炭高ヲ六千万噸ト致シマスルト、即チ千六百万噸ト云フ莫大ナ硬炭ガ混入サレテ、賣買サレテ居ルト云フコトニナルノデアリマ

ス、一口ニ言ヘバ六百万噸デアリマスルガ、之ヲ積載スルニハ十五噸貨車四十万輛、之ヲ牽引スル機關車ガ十五噸貨車五十臺ヲ牽クト致シマス、八千輛ノ機關車ヲ要スルノデアリマス、其ノ全長ハ實ニ約三千「キロ」ニ及ビ、是ダケノ車輛製作ニ要スル鐵材ハ一萬噸級ノ軍艦三十艘ヲ造ルニ足ルノデアリマス、其ノ他馬車、「トラック」等ガ「ボタ」ノ爲ニ喰ハレル輸送力ハ更ニ大變ナモノデアリマス、又「ボタ」ガ「ボイラー」内ニ於テ發熱作用ニ及ボス惡影響、是ガ爲ニ生ズル「アッシュ」ノ搬出等ニ要スル努力モ亦甚大ナモノデアリマス、又之ヲ金額ノ點カラ見マスト、一噸ノ價格ヲ十五圓ト抑ヘテ見テモ、六百万噸デ九千万圓、運賃ヲ平均噸當リ五圓ト致シマスレバ三千万圓、合計一億二千万圓トナルノデアリマス、實ニ斯ノ如キ莫大ナル金額ト輸送能力ヲ「ボタ」ニ喰ハセテ置イテ、何ガ戰時經濟ノ強化ナリト言ハレルデアリマセウ、斯様ナ點ヲ考ヘテ見マシテモ、石炭増産計畫ハ絶對ニ良質本位デナクテハナリマセウ、良質石炭確保ニハ選炭設備ノ完全ヲ圖リ、且ツ嚴重ナル檢査ノ勵行ガ必要デアリマス、炭礦經營ニハ複雜ナル事情ガ交流シテ居ルコトモ認メマスガ、現下焦眉ノ急ハ熱量デアリマス、良質重點主義ニ依ラズシテハ、輸送力ノ合理化モナク、電力飢饉ヲ救フコトモ出來ナイノデアリマス、徒ニ從前通りノヤリ方ニ任セテ置イテハ、今度ノ増産計畫モ結局量ダケノ増産トナツテ、熱量ノ上デハ却テ減退ヲ來ス虞ガアルト思フノデアリマス、政府ハ此ノ度ノ増産計畫ニ當ツテ、質、量、何レニ重點ヲ置クノカ、良質炭確保ノ方策ハ如何ニ御立テニナツテ居ラレルカ、ソレヲ御尋スルノデアリマス、其ノ次ハ、過グル滿洲事變以來石炭ノ需要ハ急激ニ増加シ、増産ニ次グニ増産ヲ以テ致シマシタガ、此ノ増産ノ原動力トモ言フベキ労働者ノ増加ハ、又夥シイ數字ニ上ツテ居ルノデアリマス、然ルニ今次事變ニ因リマス應召出征、軍需産業ノ驚クベキ生産擴充ノ爲、各方面トモ著シク労働不足ヲ來シテ居リマスガ、就中鑛山ハ他ノ産業ニ比ベマシテ努力ノ不足ガ甚シイノデアリマス、ソレガ爲婦女子ノ入坑ヲ許シ、或ハ半島ヨリ労働者ヲ移入致シテ居ルノデアリマスガ、増産計畫ニ伴ヒマシテ、更ニ多數ノ労働者ヲ必要トスルノデアリマス、政府ハ之ニ對シテ労働補給ニ當ツテハ、最優先的ニ扱フト言ツテ居ラレマスルガ、労働者ハ物デハナク

人デアリマス、如何程政府ガ最優先的ニ扱フト致シマシテモ、労働者ガ欣然トシテ炭礦稼働ヲ希望致スヤウナ方策ヲ執ラナケレバ、實際ノ效果ヲ舉ゲルコトハ出来ナイノデアリマス、結局石炭ノ増産ハ労働者ノ稼働ニ俟ツノ外ハナイノデアリマス、此ノ事ヲ十分考ヘテ炭礦政策ニ當ラナケレバ、困難ナル人ノ問題ハ解決出来ルモノデアリマセヌ、古來炭山労働ハ強制労働デアリマシテ、主ニ囚人ヲ使役シタノデアリマスガ、斯ルコトハ現今漸ク其ノ跡ヲ絶ツタトハ申シナガラ、地下數千尺、薄暗イアノ大地ノ底デ、濁ツタ空氣ヲ吸ヒ、水ニ濡レ、泥ニ塗レテ、陽ノ目モ見ズニ長時間ノ労働ヲ續ケ、而モ落磐、瓦斯、炭塵、火薬ノ爆發、炭車ノ脱線等ノ災害ガ頻發致シマシテ、其ノ危険ナルコトハ到底如何ナル地上ノ作業モ之ニ比スベキモノハナイノデアリマス、炭礦地方ニハ昔カラコンナ唄ガアリマス「朝ノ五時カラ「カンテラ」提ゲテ坑内下ルモ親ノ罰、嫁ニナルナラ炭坑夫ニナルナ「ボタ」ガドント來リヤ若後家女」ト云フヤウナ俗語ガアリマス、笑ヒゴトヂヤアリマセヌ、是ハ悲惨ナル坑内作業ヲ呪ツタモノデアリマス、故ニ何人ト雖モ人自ラ好ンデ坑内労働ヲ選ブ者ハアリマセヌ、今日ノ生活ニ困ルカラ已ムヲ得ズ此ノ労働ニ就クト云フ實情デアリマス、隨テ今日ノ如ク他ノ産業ニ於テ相當ノ賃銀ガ得ラレル場合ニ於キマシテハ、礦山労働者ガ競ツテ其ノ方面ニ轉出スルト云フコトハ當然ノ現象デアリマス、然ルニ二月ノ十二日、貴族院本會議ニ於テ唐津炭礦ノ重役中野敏夫君ハ、炭礦稼働者ノ就業率ハ一箇月ニ二十日足ラズデアアル、第一健康保險ナドガアルカラ鑛夫ガ怠ケルノダ、モツト強制的ニ働クヤウニスレバ五百万噸ヤ六百万噸ハ増産ガ出来ルト言ツテ居ルノデアリマス、斯様ナ資本家根性丸出シノコトヲ演說致シテ居ルノデアリマス、斯ノ如キハ眞ニ労働ノ如何ナルモノデアアルカヲ理解シナイ者ノ言デアアル、此ノ考ソガ増産ヲ阻ミ、國家ヲ危ウスルモノデアリマス、入坑率低下ノ理由ヲ現行健康保險ナドニ轉嫁シヨウトスルハ、認識不足モ甚シイモノデアリマス、坑内稼働者ニ取ツテハ一箇月ニ二十日ノ就業ト云フモノハ容易ナコトデアリマセヌ、日々ノ入坑其ノモノガ決死ノ覺悟ヲ要スルノデアリマス、坑内稼働者ノ死傷率ハ地上労働者ノ數倍ニ達シテ居リマス、之ヲ以テ致シマシテモ、如何ニ坑内ノ災害ガ甚シイカ判

ルノデアリマス、又一面ニ於キマシテハ今次ノ日支事變ノ爲、親族ヤ同僚ガ應召出征ヲ致ス場合ノ見送り、凱旋勇士ノ歡迎、或ハ遺骨ノ出迎、軍人葬ヘノ參列ナド、國民的義務ヲ果ス爲ニモ、平素人情ニ厚キ是等炭礦労働者ハ、一箇月ニ數日ヲ休ムコトハ少クナイノデアリマス、更ニ又坑内作業ガ如何ニ肉體ヲ蝕ンデ行クカ、第一アノ炭礦労働者ノ蒼白イ顔ヲ御覽ニナレバ分ルノデアリマス、斯ウシタコトハ資本家根性ヲ以テシテハ到底理解シ得ナイノデアリマス、而シテ國家ハ、是等ノ産業戰士ニ對シテ十分ニ報ウベキ用意ヲ持タネバナリマセヌ、吉田厚生大臣ハ先日「ラヂオ」ヲ通ジテ鑛山労働者ニ呼掛ケ、又是等ノ労働者ト親シク接スル機會ヲ作ルトノコトデアリマスガ、ソレハ結構ナコトデアリマス、度々ヤツテ貰ヒタイ、私カラモ御願致シテ置キマス、政府ハ石炭増産計畫上、労働對策ニ付テハ人格ヲ尊重シ、待遇ヲ改善シ、作業ノ合理化ヲ行ヒ、徹底的ニ災害防除施設ヲ完備サセルナド、即チ労働者ノ心カラナル奮起ヲ促シ、以テ能率増進ノ方法ヲ圖ルベキデアルト信ズルガ、之ニ對スル厚生大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、其ノ次ハ政府ノ石炭對策ヲ通觀致シマシテ、私ノ最も不可解トスル所ハ、配給統制ニノミカヲ入レ、生産部面ニ對スル統制ヲ閑却シテ居ルコトデアリマス、隨テ石炭ノミニ限ラズ、總テノ統制ガ常ニ間接デアリ、外部カラノ統制ニナツテ居リマス、徒ニ許可、認可、割當等々ノ手續ニノミ追ハレテ居ル官僚統制ノ弊害モ茲ニ原因シテ居ルノデアリマス、申スマデモナク産業ノ根本ハ生産デアリマス、隨テ生産ノ統制ナクシテ眞ノ産業統制ハアリ得マセヌ、殊ニ基礎原料デアアル石炭ニ於テハ然リデアリマス、獎勵金、助成金ノ如キハ單ニ資本ノ利潤率ヲ高メテヤル所ノ最も自由主義營利主義的ナ方法ニ外ナリマセヌ、利潤慾ヲ刺戟シテ増産ヲ圖ルト云フヤウナコトハ、平時ナラバイザ知ラズ、斷ジテ戰時ノ經濟政策デアリマセヌ、殊ニ其ノ財源タルヤ國民ノ血ノ出ルヤウナ税金デアリマス、眞ニ増産ヲ必要ト致スナラバ、國家自ラ生産ヲ管理シ、其ノ機構ノ中ニ入ツテ眞ノ増産組織ヲ樹立スベキデアリマス、現在石炭生産ノ機構ハ大小數百ノ炭礦ガ分立ヲ致シマシテ、各、利潤ヲ目標ニ競争シテ居リマス、而シテ互ニ利潤ヲ護ル爲ニ共同戰線ヲ張り、所謂自治統制ヲヤツテ居ルノデアリマス、是ハ増

産ガ本來ノ目的デナク、寧ロ制限協定ノ爲ニ生レテ居ルノデアリマス、互ニ利潤獲得ヲ生命線トシテ、牽制シ合ツテ居ル状態デアリマス、斯ル自由ナ無駄ノ多イ、高利潤主義ノ生産組織ヲ全面的ニ改革スル爲、其ノ具體的方法トシテ、私ハ茲ニ非常國家管理ニ關スル意見ヲ申上ゲマシテ、政府ノ所信ヲ質シタイト思フノデアリマス、石炭増産ニ要スル資材勞力ノ不足勝ナ今日、之ヲ最モ有效ニ使フ爲ニハ、ドウシテモ良質重點主義ヲ採ルヨリ外ニ途ハナイト思フノデアリマス、先ヅ三井三菱等ノ如キ大炭礦ノ全部ヲ國家管理ニ移シマシテ、現在炭礦ガ使ツテ居ル總テノ設備資材勞力ヲ、良質炭礦ニ集中スルノデアリマス、隨テ現在ノ從業員全部ガ國家ノ從業員トナリ、經營モ亦國家ノモノトナルノデアリマス、サウシテ投下資本ニ對シマシテハ國家ガ一定ノ金利ヲ支拂フ、此ノ金利ハ經營收入ノ中カラ支拂フコトガ出來マスカラ、何等國家ノ財政的負擔ニハナラナイノデアリマス、國家管理ニ移シタ後ノ經營機關ニ付テハ、現在ノ儘デモ宜シイト思ヒマスガ、統一のナ國策會社ヲ作ツテ、名實共ニ眞ノ國策會社トシテ獨立セシメ、重要ナ點ダケヲ政府ハ監督スレバ足ルト思フノデアリマス、此ノ國家管理ハ石炭問題ニ火ガ付イテ居ル今日、宜シク國家總動員法第十三條ノ工場、事業場ノ使用竝ニ收用ニ關スル規定ニ基キ、早急ニ實施サレネバナリマセヌ、電力國家管理ノ場合ノヤウニ、摺ツタ揉ンダヲシテ居ル猶豫ハアリマセヌ、事態ハ極メテ焦眉ノ急ヲ要スルノデアリマス、斯ウシタ私ノ主張ハ斷ジテ現實ニ即セザル理想案デハナイノデアリマス、今日ノ石炭問題ハ、最早中途半端ナ方法デハ絕對ニ解決出來マセヌ、色々ノ立場カラソレレノ言分モアリマセウ、何レモ一應尤モデハアルガ、是ハ全體性ヲ缺キ、自分ノ立場ノミカラ割出シタ議論デアリマス、隨テ之ヲ一々取上ゲ、妥協點ヲ見出スコトハ、到底不可能デアルト私ハ思フノデアリマス、今日ノ場合即チ拔本塞源のナ方策ヲ樹立スベキデアリマス、獎勵金、助成金、補償金ノ如キハ末ノ末ノ問題デアリマス、單ナル配給統制ヤ「プール」平準價格ノ真似事デハ、問題ハ解決サナイノデアリマス、眞ニ政府ガ全産業ノ原動力タル石炭問題ノ完全解決ヲ望ムナラバ、宜シク石炭産業ノ非常國家管理ヲ斷行シ、生産輸送、配給ヲ一貫スル計畫的ナ統制ヲ確立スベキデアリマス、此ノ外ニ石炭増産ト低物價政策ヲ兩立セシムル

方法ハ、絶對ニナイト確信スル者デアリマス、敢テ産業ノ非常國家管理ニ對スル政府ノ御所信ヲ問フ者デアリマス、此ノ答辯ハ總理大臣ヨリ御願ヲ致シマス、以上ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス

藤原商工大臣ノ應答

松本君ニ御答ヲ申上ゲマス、我國ノ石炭ノ根本的ノ將來ノ對策ハ、九州、北海道、樺太、滿洲、北支等ヲ能ク一睨ミ合セマシテ、然ル後ニ確定スル必要ガアルノデゴザイマス、其ノ點ニ付テハ松本君モ能ク御承知ノコトト存ジマス、然ルニ茲ニ提案致シマシタ案ハ、取敢ズ内地ノ石炭ガ非常ニ急ヲ要スルガ爲ニ今日ノ情勢ニ於テ是ヨリ外ニ名案ガナイ、是ガ一番現下ノ情勢ニ適當シタ案デアルト云フコトヲ以テ、提案致シタ次第デアリマス、次ニ此ノ合理化經營、炭礦ノ合同、舊式炭礦ヲ機械化スルト云フヤウナコトニ付テ、御所見ノ御陳述ガアリマシタガ、此ノ點ニ付テハ松本君ト其ノ説ヲ異ニ致シテ居リマセヌ、サウ云フ積リテ炭礦ノ整理ヲ致シマシテ、而シテ後ニ徐々ト此ノ政策ヲ實行致シタイト云フ積リヲ以テ、今回ノ提案ニモサウ云フ考ヲ織込デ居ルコトヲ申上ゲテ置キマス、尙又ハ「ボタ」ヲ混入シテ賣ツテ居ル者ガアル、是モ御説ノ通り其ノ御趣旨ニ付テハ御尤モト存ジマスガ、政府ノ考ヘテ居リマスル所ハ、六百萬噸ト云フ、サウ云フ大量ノモノハ、實際市場ニ現ハレテ居ルトハ存ジマセヌ、之ニ付テハ政府ハ折角取締ヲ勵行致シマシテ、混入ニ付テハ徹底的ニ此ノ取締ヲ致ス積リデアリマス、又石炭増産ニ付テハ、量ト質ト云フモノヲ睨ミ合ハセナケレバイカナイ、量ニ重キヲ置クト質ガ低下スルト云フ御説ハ、是ハ御尤モト存ジマス、今日此ノ提案ヲ致シマシタニ付キマシテハ、取敢ズ政府ハ各炭礦毎ニ最低ノ「カロリ」ヲ保證セシメマシテ、政府監督ノ下ニ質ノ低下ヲ妨グコトヲ實行致シマシテ、漸次規格ノ統一ヲ完備セントスルモノデアリマス、又國家管理ノコトハ御説トシテ一應御尤モデアリマス、併シナガラ我國ハ今ヤ前古未曾有ノ聖戰ヲ實行致シテ居ル時デアリマス、此ノ際ニ經濟界ヲ混亂セシメテ、益々我國ノ石炭ノ需給ノ圓滑ヲ

缺クヤウナコトハ、慎マナケレバナラナイト存ジマシテ、取敢ズ此ノ案ヲ以テ政府ハ最上ノ案ト信ジテ提案ヲ致シマシタ

吉田厚生大臣ノ應答

炭礦ニ於ケル勞務ノ充足ヲ致シマスル爲ニハ、勞務者ガ欣然勇躍シテ、此ノ大切ナル國家産業ニ努メルヤウニ致サナケレバナラナイト云フ、松本君ノ御説ニ付キマシテハ、全然御同感デアリマス、隨テ政府ト致シマシテハ、勞務者募集ノ當初ニ於キマシテモ、又既ニ坑内ニ於テ勞務ニ從事致シマス場合ニ於ケル勞務管理ノ上ニ於キマシテモ、此ノ點ニ最モ重點ヲ置キマシテ、今日ノ炭礦作業ト云フモノガ、如何ニ國家ノ爲ニ大切ナコトデアルカ、勞務者トシテ此ノ大切ナ仕事ニ寄與スルコトガ、國民トシテ如何ニ働キ甲斐ノアルコトデアルカト云フ、十分ナ意識ヲ以テ働イテ貰フヤウニ取計ハネバナラヌト思フノデアリマス、ソレガ爲ニハ勞務者ノ人格ノ尊重、環境ノ改善、作業ノ合理化等、ヤハリ此ノ基礎ノ上ニ於キマシテ、工夫セラレルコトガ必要デアルト思フノデアリマス、政府ト致シマシテハ、出來ル限り左様ナ心構ノ下ニ炭礦勞務ヲ充足シ、充足セラレタ炭礦勞務ト云フモノガ、十分ノ效用、能率ヲ擧ゲ得ルヤウ、萬全ヲ盡シタイト云フ考デアリマス

米内閣總理大臣ノ應答

非常國家管理ヲ必要トシナイカト云フ御質問デアリマスガ、是ハ只今商工大臣カラ御答ニナツタ通りデアリマシテ、計畫ノ大綱ヲ政府決メマシテ、其ノ具體的實施ハ民間ノ經驗ヲ十分活用スルノガ、現下ノ實情ニ照シマシテ、最モ適當ダト認メマシテ本案ヲ提出シタ次第デアリマス

小池四郎君ノ質疑

質疑應答ヲ承ツテ居リマシテ諒解シ兼ネル點、又ハ疑問ニ思ヒマス點ヲ、荒筋ニ付テ二三質疑

ヲシテ置キタイト思ヒマス、石炭ノ増産ガ最近豫定通り出來マセヌデシタ、其ノ原因ハ、言フマデモナク資材勞力ノ不足ガ一ツノ原因デアリ、一面ニ於テハ今マデ大分議セラレタノデアリマスガ、石炭企業ノ採算ガ近頃面白クナクナツテ來タト云フ點ニ、増産ガ思フヤウニ行カナカツタ原因ガアルト斯ウ思ヒマス、之ヲ調べテ見マスト實際デアリマシテ、炭礦ノ最近ノ利潤ト云フモノハ良クアリマセヌ、企業ノ利潤ヲ數的ニ示シマス爲ニハ、企業ノ利益率ト云フモノヲ取出スコトガ一番宜イト思ヒマスガ、炭礦ノ利益率ハ十三年ガ峠デアリマシテ、十三年來ト云フモノハ、最近ニ至ルマデ段々利益率ガ下ツテ來テ居ルコトハ、數字ノ明ニ示ス所デアリマス、是ハ言フマデモナク政府ニ責任ガアルノデアリマシテ、十三年九月ニ石炭ノ値段ノミヲ釘付ケニシテ、其ノ他ノ始末ヲシナカツタト云フノガ、其ノ大キナ原因ダト思ヒマス、是ハ政府ノ非常ナ失態デアリマス、今日尙ホ拭ツテモ拭フコトノ出來ナイ政府ノ責任デアリマス、極ク最近ノ例ハ十四年上半期ノ炭礦ノ利益率ハドウデアアルカト云ヒマス、成ベク數字ハ避ケテ後ノ機會ニ譲リタイト思ヒマスガ、十四年上半期ノ炭礦利益率ハ一割四分デアリマス、是ハ同ジ十四年上半期ニ於キマス所ノ九百四十四會社ノ平均利益率、即チ一割三分ト殆ド違ハナイ低イ利益率デアリマス、九百四十四會社ト言ヒマスノハ、有ユル種類ノ企業會社ヲ全部引纏メタル所ノ平均デアリマスガ、最モ企業ノ中デ危険率ノ多イト言ハレル所ノ炭礦ガ、有ユル種類ノ企業ノ平均利益率ト等シイトイフコトハ、是ハ矛盾デアリマス、危険率ノ多イ炭礦ハ、平均ノ利益率ヨリモ、利益率ヨリモ、少クトモ多クナケレバナラナイ筈デアリマス、之ニ比ベマスト炭礦ト密接ナ關係ノアル製鐵業ナドト云フモノハ、同ジ時ノ調ニ依リマス、之ニ比ベマスト炭礦ノ利益率ト製鐵業ノ利益率トノ間ニハ甚シイ開キガアル、斯ウ云フ開キヲ其ノ儘ニ置イテ置クト云フコトハ、適當ナル措置デハナイ、單ニ製鐵業ダケデナク、機械製作業ナドニ付キマシテモ、ヤハリ製鐵業ト同ジヤウニ二割以上ノ收益ノ率ヲ擧ゲテ居ル、ソレデアリマスカラ炭礦ノ方デハ、自分ノ産業ト云フモノノミガ利益ガ薄イノダト云フ觀念デ、採算面白カラズトシテ熱意ガ出ナイノデアリマス、是ハ事實デス、是ハ好ムト好マザルトニ拘ラズ事實デス、此ノ

事實ヲ一體ドウ打開スルカト云フコトガ、政府ニ課セラレタ問題デアリマス、所ガ政府ハ簡單ニ斯ノ如ク炭礦ノ利益率ガ、一般ノ産業ニ比ベテ比較的低位ノデアルカラ、炭礦ノ利益率ヲ引上ゲテヤレバ、増産ニ資スルコトガ出來ルダラウト、簡單ニ考ヘタヤウデアリマス、ソレモ一ツノ對策デアリマセウ、最モ容易ナリ易イ所ノ對策デアリマセウ、併シナガラモウ一ツ別ニアルデハアリマセウ、炭礦ノ利益率ガ低位ト、是ハ逆ニ申上ゲマスレバ、炭礦以外ノ色々ナ産業ノ利益率ノ今高イモノヲ下ゲレバ宜イ、サウナリマスレバ、炭礦ノ利益率ト一般ノ利益率トハ近寄ツテ來マス、凡ソ企業ヲヤリマスノニハ、利潤ヲ舉ゲルコトガ企業ノ一ツノ目的デアリマスケレドモ、ドレダケノ高、二割ナラ二割ノ高ノ利益率ヲ舉ゲナケレバ相成ラヌノダト云フ、絶對的ナ主張ト云フモノハアルベキ筈ガナイ、企業ヲヤツテ採算面白カラズト考ヘテ來ルノハ、自分ノ企業ト他人ノヤツテ居ル所ノ他ノ種類ノ産業ヲ常ニ比較シテ、其ノ比較感カラ來ル所ノ感ジデアリマス、自分ノ企業ガ割合ニ有利ニ利益ガ舉ルカ舉ラヌカト云フコトハ、他ノ産業トノ比較ノ上カラ來ル觀念デアリマス、デスカラ他所ノ産業ノ利益率ヲ、政府ガ思フ所ガアツテ、次第二引下ゲル政策ヲ執ツテ行ツテ、現在ノ炭礦ノ収益率一割四分近クノモノニ段々近寄ルヤウニスルコト、是モ一ツノ方策デアリマス、政府ノ方策トシテハ、一般ノ産業ノ利益率ハ絶對ニ動かザル所ノ鐵則ナリト先ヅ考ヘテ、低位所ノ炭礦ノ利益率ヲ引上ゲテ行カウト終始シテ居ル點ハ、私共ノ合點ノ行カザル大キナ點デアリ、根本ノ問題デアリマス、今私ガ申上ゲマシタ二ツノ中、一般ノ利益率ヲ次第二下ゲテ行ク方策ヲ政府ガ御執リニナルコトガ、國家ノ爲ニ利益ナリト思ヒマスガ、此ノ點ニ付テハ商工大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、併シナガラ是ハ實際問題ニ致シマスレバ、石炭ノ増産其ノ他ノ問題ハ極メテ焦眉ノ急デアリマスカラ、炭礦以外ノ他ノ産業ノ利益率ヲ、一樣ニ急ニ今引下ゲルト云フコトハ、短時日ニ出來ルコトデアリマセウカラ、實際問題トシテハ、炭礦ノ現在低位利益率ヲ幾分引上ゲテヤツテ、同時ニ其ノ他ノ諸産業ノ利益率ノ高イモノ——詰ラヌ産業ト云ツテハ申譯アリマセウガ、炭礦ニ比ベテ重要性ノ薄イ産業デ、三割或ハ三割七八分ノ利益率ヲ舉ゲルヤウナ、斯ウ云フ利益率ヲ

舉ゲテ居ル産業ニ鐵槌ヲ加ヘテ、次第二引下ゲテ行ツテ、下カラ炭礦ノ利益率ヲ幾分か上ゲテ、ヤツテ宜イ所デ「バランス」ヲ取ルト云フヤウナコトガ、今直チニヤリ得ル所ノ方針デハナイデスカ、之ニ付テ商工大臣ハドウ云フ御考ヲシテ居ラレルカ、其ノ點ヲハツキリ伺ヒタイト思ヒマス、要スルニ營利心ヲ刺戟シテ増産ヲ起サセヨウトスルコトハ、善イ惡イハ後ニ論ジマセウケレドモ、極メテ相對的ナモノデアリマシテ、ドレダケノ利益ガナケレバ、營利心ハ動かナイト云フ絶對的ノモノデハナイト云フコトヲ、商工當局トシテハ氣ヲ付ケナケレバナラヌト思フノデアリマス、此ノ點ニ付テハ御所見ヲ是非承リタイ、是ハ此ノ案ヲ審議致シマス一ツノ根本問題デアリマス、ソレニ關聯シマシテ御伺ヲ置カナケレバナラヌコトハ、一體此ノ企業ノ利潤ト云フモノハ、戰爭デナイ平和ノ時ト、戰爭トナリマシタ今日トハ、ドウ云フ關係ニナツテ行ツテ宜イノデアリマス、事實ハ興業銀行ノ調ニ明ニ載ツテ居リマスガ、戰時デアリマス今日、而モ低物價政策ヲ有ユル方法ヲ以テ堅持シナケレバナラヌ時ニ、戰時ニ於キマス所ノ企業ノ利潤ト云フモノガ、戰爭以前ノ平時ノ時ノ利潤或ハ利益率ト云フモノヨリモ、遙ニ漸次上ツテ來テ居ルト云フ事實、之ヲ商工大臣ハドウ御考ニナリマス、是ハ日本ノ經濟動態ノ正シキ姿デアルト御考ニナルカ、大體大正十二年ノ日本ノ重要ナ一千ニ上ル所ノ會社ノ平均ノ利益率ト、十三年、十四年、十五年トナツテ、十五年ハマダ分リマセウガ、十四年下期マデノ利益率ヲ表ニ取ツテ見マス、毎年毎年企業ノ利益率ハ上ツテ居ル、而モ傍ラ政府ハ有ユル努力ヲシテ、低物價政策ヲ堅持シヨウトシテ居ル、其ノ時漫然トシテ企業ノ利益率、利潤ト云フモノガ、戰爭ナルガ故ニ上ツテ行ツテ然ルベキモノデアルカ、茲ニ一ツ研究ヲシナケレバナラナイ、直チニ處理ヲシナケレバナラナイ根本ノ問題ガ、一ツアルト思フ、是ハ商工大臣ノ御意見ハ、私之ヲ付度スルコトハ惡イカモ知レマセウケレドモ、極メテ私ハ遺憾ニ感ズルノデアリマス、何時カノ委員會ノ御答辯カ何カノ中ニ、低物價政策ノ堅持ト物資ノ増産トハ、氷炭相容レザル二ツノ矛盾ダト仰シヤル、私ハサウ思ハナイ、儲ケサセナケレバ増産ヲシナイト云フ日本ノ國民ノ心理デヤナイト思ヒマス、其ノ觀點ガ少シ違フノデハナイカ、改メテソレヲ伺ヒタイ

ノデアリマスガ、決シテ低物價政策ヲ堅持シヨウトスル方針ト、同時ニ増産シヨウトスル方針ト、是ハ背合セノ問題デハナイノデアリマス、少クモ日本人ニ取リマシテハ、日本ノ國民ニ取リマシテハ相容レルト思フ、私ハサウ云フ風ニ儲ケナケレバ増産ヲ懶ケルト云フヤウニ、頭カラ解釋ナスツテ、増産ノ爲ニハ營利心ヲドク、刺戟シナケレバナラナイト締メテ御考ニナルコトハ、日本ノ國民ニ對スル價値判斷ガ極メテ低調ダト思フ、私ハモウ少シユツタリト國民性ノ良イ所ヲ見テ行カナケレバナラヌト思ヒマス、ソレニ付テハ商工大臣ノサウ云フ締メ觀デアルニモ拘ラズ、今マデノ委員會ニ於キマシテ、大藏大臣ハ其ノ點ニ於テ幾分氣ガ御付キニナツテ居ルヤウデ、只今ノ高率ナリテハ、大藏大臣ハ其ノ點ニ於テ幾分氣ガ御付キニナツテ居リマス、又今日重要ナリテハ在ル陸軍省ノ石川經理局長デスカガ、ドナタカノ質問ニ對シテ、配當ハ今後最高一割ニ引下ゲルコトガ至當ナリト云フコトヲ言明サレテ居ル、サウ云フ空氣ガ政府内ニモアルノデアリマスガ、石炭ノ問題ニ關シテ、商工當局或ハ商工大臣ノ考ヲ察シマスルト、兎ニ角方法ハ營利心ヲドク、刺戟スル以外ニナイト、簡單ニ御締メニナツテ居ルヤウデアアルガ、此ノ點私共合點ガ行カナイ、ソコデ御伺スル要點ハ、戰時下ニ於ケル企業利潤ト云フモノハ、平時ノ時ノ利潤ヨリモ高クテ然ルベキダ、高位デアツテ然ルベキダ、或ハ逆ニ戰時ナルガ故ニ、極メテ時局困難ナ時代ナルガ故ニ、企業家モ利潤ヲ幾分ツツカ遠慮ヲシテ、相協力スル姿ニ於テ、利潤ヲ却テ少ク取ル方ガ本當デアルカ、本當デアルトスルナラバ、政府ハサウ云フ風ニ企業心理ヲ導クコトガ、今日ノ急務ナリト存ジマスガ、此ノ點ニ付テハ商工大臣ノ所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、ソレカラモウ一ツ之ニ關聯シテ伺ツテ置キタイト思ヒマスルコトハ、利潤ノ問題ニ關聯シマスルガ、今日總動員法第十一條ノ發動ニ依リマシテ、配當ノ制限ヲ受ケテ居リマス、隨テ制限セラレタル所ノ利益金ハ、多クノ企業會社ニ於キマシテ、配當ノ礦會社ニ於テモサウ云フノガ二三アリマスルガ、制限セラレタル餘リノ利益金ト云フモノハ、社内留保ニナツテ居ル、是ハ御承知ノ通りデアアル、配當ガ少イカラト云ツテ喜ンデ居リマスルガ相變ラズ企業會社ノ利益金ト云フモノハ、全體ノ金額ニ於テハ同ジデアツテ、配當ヲ少クシ

タカラ、餘ツタ所ノ社内留保ガ益、大キクナツテ居ル、此ク事實ハ御忘レニナツテハイケナイ、ソレデスカラ此ノ戰爭ノ遂行サレテ居ル二三年ノ間ニ、社内留保ト云フモノハ毎年益、殖エテ來テ居リマス、例ヘバ利益金ニ對シマシテドレダケノ社内留保ヲシタカト云フ、其ノ割合ヲ計算シテ見マス、十三年ノ下期ニ利益金ノ三割四分ガ社内留保ニナツテ居リマシタモノガ、十四年上期ニハ三割五分デ、一分上ツテ居ル、十四年ノ下半期ニナルト三割七分、年ト共ニ社内留保金ハ殖エテ行ク、石炭ノ値ヲ上ゲタクナイカラ補助金政策、獎勵金政策ト云フ、妙案ヲ御考ニナル程ニ苦シガツテ居ル商工當局ガ、社内留保金ト云フモノヲ今日ノ儘宜シイト見テ居デニナルカドウカ、私ハ率直ニ申シマス、此ノ戰時ニ於キマシテハ社内留保金ハ之ヲ崩シテ、製品ノ價格ヲソレダケ安ク引下ゲル方向ニ向ハシテ、低物價ノ堅持ニ役立つシメルコトガ本當デヤナイカト思フ、是ハ相當大キナ問題デアルト思フ、例ヘバ今日炭礦ハ高イ鐵材ヲ使ハサレテ居ルガ爲ニ困ツテ居ル、是モ炭礦ノ苦シイ一ツノ原因デアアル、其ノ鐵材ヲ造ル製鐵會社ガドウ云フ状態カト云ヘバ、今申シマシタ社内留保金——儲ケタ中デ社内留保スル金ガ、昨年一年間ニ六千万圓、ソレガ社内留保サレテ居ル、勿論留保サレテ居ルカラ無駄ナ金デハナイ、次ノ増産計畫ヲ立ツベキ企業費ニ割當テラレテ居ル金デアルカラ、決シテ無駄ナモノデハアリマセヌケレドモ、物ヲ安クシナケレバナラヌト言フテ大騒ギヲシテ居ル時ニ、此ノ別々ノ會社ガ自分ノ目論見デ、是ダケノ新設備ヲスル爲ニ、金ヲ留保スルト云フ必要ガアルデアリマセウカ、少クモ製鐵事業ノ如キハ、將來ノ爲ニ是ダケノ設備ヲシテ置カナケレバナラヌト云フナラバ、ソレニ必要ナル金ヲ全體トシテ國家ガ喜ンデ之ニ融資ヲシテヤルコトガ宜シイノデアツテ、各ガ儲ケタ金ヲ少シツツ貯メテ置イテ、サウシテ自ラノ會社ノ増産設備ニ充テルヤウナ間拔ナコトヲスル必要ハナイ、六千万圓ト云フ大キナ金ガ利益金ノ中カラ浮イテ居ル、例ヘバ其ノ最モ具體的ナ一例ハ日本製鐵デアリマスガ、日本製鐵ハ十四年ニ四千五百万圓ノ社内留保ヲシテ居リマス、利益金八千万圓ノ中半分以上ノ社内留保ヲシテ居ル、平時ナラバ格別、斯ウヤツテ物價ガ放ツテ置イテモ上ルヤウナ場合ニ、斯様ナ社内留保ヲシテ居ル、假ニ日本製

鐵ガ全部此ノ際遠慮ヲシ、之ヲ止メタトシマス、日本製鐵ガ鋼材鋼塊ヲ假ニ三百萬噸年ニ出スト致シマスレバ、此ノ社内留保ヲ崩シテシマツタ爲ニ、馳十五圓ノ値下リガ出來ル、炭礦ハ喜ビマス、炭礦ハ安イ「レール」ト「パイプ」ガ使ヘテソレダケ助カル、一面ニサウ云フ道ガアル、私ハ今日炭礦ノ苦シイノハ、其ノ原因カラ來テ居ルト思フノデアリマスガ、低物價政策ヲ堅持シナケレバ、今年當局ガオ出シニナツタ補助金政策、獎勵金政策ト云フモノハ、來年ハ五割増ガ六割増、七割増出サナケレバ、同ジ増産ガ出來ナクナルコトヲ惧レル、炭礦ニ使ヒマス所ノ資材ヲ出來ルダケ安ク炭礦ニ供給スル、少クモ今日炭礦デ働イテ居ル勞働者ノ賃銀ハ、來年ニナツテモ今日以上ハ上ゲナイデ済ムト云フヤウナ準備ヲ今カラシナケレバ、來年ニナツテモ今日以上シタヤウナ社内留保金ノ大キナ問題等ニモ、商工大臣ハ手ヲ御著ケニナラナケレバ、今申上ゲマシフ、之ニ付テノ大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ、モウ一ツ最後ニ時間ガナイカラ一ツダケ伺ヒマスガ、先程カラノ御答辯ニ依リマス、今日御出シニナツタ補助金、補償金ト云フヤウナモノハ、勿論是ハ今年一年限りノモノデヤナカラウカト思ヒマス、一年限りノモノデアレバ、炭礦ハ安心シテ何モ仕事ハ出來ナイ、來年モ再來年モ、少クモ當分ハ此ノ状態ナラバ同ジ程度ノ補助金補償金ヲ支出ナサル御意向ダラウト思ヒマスガ、サウシテ伺ツテ居レバ、來年ニナツテモ、再來年ニナツテモ、今年以上ノ補助金ヲ餘計ニヤラナケレバ、來年ニナツテモ、再來年ニナツテモ、マセスト、只今此處デ大臣ハ言ハレタ、然ラバ私ハ伺フガ、補助金ガ此ノ儘補助金デ済ム爲ニハ、炭礦ノ生産費ノ六割ニ當リマス所ノ賃銀——炭礦デハ賃銀ガ六割ニ當リマス——此ノ炭礦ノ勞働賃銀ト云フモノヲ上ゲナイデ済ムダケノ手段ヲ今日カラオヤリニナルト云フ準備ガアリマスカ、即チ炭礦ノ勞働者ノ賃銀ヲ上ゲナイデ済ムト云フコトハ、炭礦ノ勞働者ノ日々ノ生活必需品ヲ萬般ニ互ツテ引下ゲルダケノ勇斷ヲナサリ得ルカドウカ、即チ第一ハ米ノ問題デス、米ノ問題ニシテモ、此ノ議會ヲ通ジテ來年ハ上ゲルノダカ、上ゲナイノダカ譯ノ分ラヌ状態デ、斷ジテ上ゲナイデ済ムト云フ言明ハアリマセヌ、生鮮食料品ハ二三日前カラ當局ガ手ヲ御著ケニナツテ、御下ゲニナルト云フコトハ新聞ニ出テ居リマスガ、果シテ出來マスカ、是モ簡單ニハ出來マセヌ、政府ノオヤ

リニナルヤウナ方法ヲオヤリニナツタナラバ、葱ハ抑ヘラレタ、馬鈴薯ハ抑ヘラレタ、抑ヘラレタモノヲ作ツテモ詰ラヌカラ、今度ハ他ノ高級ナ「メロン」デモ作ラウト云フヤウニ農民ガナツテシマツタラドウシマスカ、營利主義ヲ唯一ノ目標トシテ増産ヲシテ居ル政府ナラバ、農民ガ葱ヲ作ラナクナルヤウニナルコトヲ叱ルコトハ出來ナイ、生鮮食料品ハ旨ク行クカドウカ分ラナイ、砂糖ハドウデスカ、砂糖ハ下ゲラレマスカ、上ツテ行クデヤアリマセヌカ、砂糖ハ上ツテ、其ノ上ニ今度ノ税制改革案デ消費税ガ附ク、尙又今年ノ砂糖ノ増産ハ非常ニ出來デアツタト云フノデ、砂糖會社ノ採算ガ引合ハナイカラ上ゲ掛ツテ居ル、炭礦ノ勞働者ノ賃銀ヲ來年上ゲナケレバ、勞働者ノ賃銀ガ上ツテ行ケバ、炭礦ノ生産費ハ殖エマス、炭礦ハ段々苦シクナル、今年ノヤウナ補助金デハ済マナクナル、今年ノヤウナ補助金デ済マサウト仰シヤルナラバ、餘程ソコニ各般ニ互ル十分ナ御用意ガナケレバ出來マセヌ、其ノ點ニ付テ、補助金ガ此ノ程度デドウニカ濟ンデ行ク、ソレガ循環的ニ糶上ラズニ濟ムト云フコトニ付テ、安心ノ出來マスルヤウナ御説明ガ願ヒタイト思ヒマス、多々アリマスルケレドモ、時間ガ來マシタノデ、後ハ委員會ニ譲リマシテ、以上ノ點ニ付テノ御明答ヲ得タイト存ジマス

藤原商工大臣ノ應答

小池君ニ御答申上ゲマス、先ヅ以テ低物價政策ト生産擴充ニ付キマシテ、先般私ガ委員會ニ於テ述ベマシタコトニ付キマシテノ御質問ガゴザイマシタカラ、其ノ點ヲ明ニ申上ゲテ置キタイト存ジマス、低物價政策堅持ノ結果、生産者ガ生産費ヲ償フコトガ出來ナイヤウニ至リマシテ、其ノ結果漸次物資ノ缺乏ヲ來スト云フヤウナコトニナリマスコトハ洵ニ遺憾ナコトデアリマシテ、ドウシテモ今日現時ノ我國ノ經濟状態ニ於キマシテハ、低物價政策ト増産ト云フモノハ、氷炭相容レナイ結果ヲ來シテ居ルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマスガ、私ハ改メテ茲ニ明ニ申上ゲマス、生産擴充ト云フモノハ、國民ノ營利心ヲ刺戟シナケレバ實行出來ナイカラ如何ニシテモ此ノ營利心ヲ刺戟スルヤウナ政策ヲ執ルト云フヤウニ御考ヘ下サツテハ遺憾デゴザ

イマス、私ハサウ云フ考ハ持つテ居リマセヌ、今日我が國民ハ時局ニ對應スル爲ニ、政府ニ協力シテ、總テノ政策ノ實行ヲ援ケテ居ル實情デアリマスカラ、低物價政策ニ於キマシテ適正價格ヲ決定スル上ニ於テモ、出來ルダケ此ノ價格ヲ引上ゲルト云フコトヲ抑制致シマシテ、生産者ニモ或ル程度マデノ我慢ヲシテ貰ツテ、サウシテ配給業者ニモ亦是正シテ貰ヒ、サウシテ出來ルダケ消費者ニ安イ物ヲ供給スルト云フコトガ、度々繰返シテ申上ゲマシタ通りニ、政府ノ最モ困難ヲシテ、又最モ力ヲ盡シテ協力ヲ致シテ居ル所ノ政策デゴザイマス、ソレ故ニ過日或ル委員會ニ於テ、又色々ノ質問ガゴザイマシタ時ニ、今回ノ消費稅ノ増加ノ結果、此ノ消費稅ト云フモノハ全部消費者ノ負擔デアルガ、サウナレバ物價ヲ引上ゲル所ノ結果ニナリハセヌカリマシタ通りニ、我國ノ會社ナドニ於キマシテハ、社内留保ヲ澤山持つテ居ル所ノ比較的裕福ナ會社等モアルト云フコトハ、政府ニ於テ之ヲ認メテ居ル所デアリマス、ソレ故ニサウ云フヤウナ内容ノ充實シタ會社ニ對シテハ、今日ノ時局デアリマスルガ故ニ、消費稅ノ全部又ハ一部ヲ負擔シテ、サウシテ此ノ物價ノ騰貴ヲ抑制致シタイ、斯ウ云フヤウナコトヲ繰返シテ私ハ述ベテ居リマスルカラ、彼此レ御考ヲ願ヒマスレバ、私ノ考ヘテ居ルコトガ能ク明瞭ニ御分リ下サルト存ジテ居リマス、ソレカラ此ノ炭礦業ノ利益率ヲ引上ゲルト云フコトモ宜シイガ、ソレヨリハ他ノ産業トノ比較ノモノデアルカラ、他ノ産業ノ利益率ヲ低下セシメテ、サウシテ炭礦業トノ比較ヲ取ツテハドウデアラウカト云フヤウナ御説デ、是モ御尤モデアルト存ジマス、サウ云フコトモ或ル場合ニ於テハ實行セザルヲ得ナイコトト存ジマス、併シナガラ今日ノ所ニ於テ政府ハ低物價政策ヲ實行シテ、利益配當ノ制限等ハ、各種産業ニ付テ相當利益率ヲ抑制致シテ居ル所デアリマシテ、尙又只今御指摘ニナリマシタ通りニ、戰時工業若クハ重工業ノ方面ニ於キマシテ、相當ニ巨額ノ利益ヲ擧ゲテ居リマスルモノモアリマスガ、サウ云フモノハ政府ニ於テモ彼此レ努力致シテ、色々諸般ノ手段ヲ講ジテ、其ノ利益ヲ減少セシメルヤウナコトニ努メテ居ル實例モアリマスノデ、小池君ノ只今御指摘ニナリマシタヤウナ政策ヲ、自然的ニ實行シテ居ルト云フヤ

ウナ形ニ相成ツテ居ルノデアリマス、併シナガラ此ノ石炭ノ鑛業ニ對シテハ、漸次利益ガ減少シテ參リマシテ、此ノ儘ニシテ置イテハ、此ノ増産モ如何カト存ズルガ爲ニ今回ノヤウナ提案ヲ致シタ次第デアリマス、其ノ詳細ハ茲ニ繰返シテ申述ベマセヌ、又補償金ノコトハ是ハ一年限りノコトデゴザイマシテ、來年ハ又其ノ時ノ情勢ニ從ツテ考慮スル積リデアリマス、又増産獎勵金ハ三箇年繼續ノ豫定デアリマス、坑道ノ掘進助成金モヤハリ三箇年ノ豫定デゴザイマス、是ダケ御答ヲ申上ゲマス

松尾孝之君ノ質疑

石炭ハ各種産業ニ於ケル基礎的原動力トシテ生産ノ擴充ニ、國防ニ、文化ニ、有ユル意味ニ於テ石炭ノ現代ニ持つ重要性ハ今更論ズルマデモアリマセヌ、一國ノ發展ガ資源支配ノ強弱ニ依ツテ決セラルルコトモ論ノナイ所デアリマス、特ニ石炭、鐵ヲ樞軸トスル國防的資源ハ、各國ノ獲得戰ノ中心トナツテ、是等資源ノ利用ニ其ノ繁榮ノ基ヲ培ツテ來タ點カラ見マシテ、石炭ノ重要性ヲ如實ニ語ルモノデアリマス、然ルニ我が政府ニ於テハ、此ノ重大ナル問題ニ付テ從來閑却シテ居タカノ感ガアリマス、最近急激ナ需要ト又彼ノ電氣飢饉ニ直面シテ、此ノ石炭問題ノ解決ヲ俄ニ講ゼントシツアルコトハ、聊カ泥繩式ノ憾ミガアリマス、政府ハ中央物價委員會ノ答申ニ基イテ、生産力擴充、物價統制ノ支配的影響ヲ有スルモノハ石炭ノ供給價格ノ適否ニアリトシテ、今回此ノ案ガ出來タノデアリマスガ、其ノ目標ハ炭價ノ一元化、需給ノ圓滑ヲ以テ最大ノ效果ヲ發揮セシムルノデアリマセウ、其ノ意ノアル所ハ吾々モ諒承出來マス、此ノ對策案ニ盛ラレタ政策ハ洵ニ立派デアリマスケレドモ、具サニ内容ヲ檢討スル時ハ、今マデ多數ノ諸君ガ申サレマシタヤウニ、矛盾撞著ノ甚ダシイモノガアツテ、本法案實施ニ依ツテ果シテ政府ノ所期スル所ノ増産及ビ需給ノ圓滑ガ達シ得ラレルカドウカト云フコトハ、私モ甚ダ疑ハシイト思フノデアリマス、ソコデ私ハ此ノ際政府ニ考ヘテ戴キタイノハ、既ニ會期モ切迫シテ居ルシ、而モ此ノ重要法案ヲココドウシテモ通スト云フコトハドウカト思ハレルノデアリマスカラ、

事口はハモウ一度シツカリ練リ直シテ御提出ニナル御意思ガナイカドウカソレニ付テ、私ハ其ノ理由トシテ御尋シ、旁、四五ノ點ヲ申上ゲテ見タイト思ヒマス、炭價ノ一元化ノ問題ニ付テハ前ノ諸君ノ中ニモ申サレタルヤウニ、從來ノ方法デハ無論イケマセヌ、サウシテ販賣價格ノ一元化ハ配給ノ圓滑、消費ノ規正ノ點カラ見マシテモ望マシイ所デアリマスガ、石炭ノ規格ヲ統一、單純化スルコトニ依ツテ其ノ目的ハ達成シマセウケレドモ、現今ノ如ク極端ナル消費規正ガ實施セラレ、是ガ緩和ハ一ニ増産ノ外ナキ場合ニ、強ヒテ炭價ノ一元化ヲ急激ニ行フト云フコトハ中々困難ニシテ、消費者ニ對シテ却テ不自然、且ツ不適正ナル炭價ヲ強要スル結果トナルノデハナイカト思ハレマス、ソレカラ配給ノ一元化ニ付テモ質疑應答ガアリマシタ、從來ノ自治統制デヤツテ行ツタナラバ宜イデハナイカト云フ質問ニ對シテ、商工大臣ハ、ソレデハ從來ノヤリ方ニハ甚ダ惡辣ナモノモアリ、或ハ不徳ナモノモアルト申サレマシタガ、斯ウ云フヤウナコトハ、彼ノ石炭販賣取締規則等ヲ全面的ニ發動シテ、配給統制ヲヤツテ居ル際デアルカラ、是ハ商工省ナリ内務省ニ依ツテ相當取締ルコトガ出來ルト思ヒマスガ、此ノ點ハ如何デアラウカト思ヒマス、ソレカラ政府ハ五百五十萬噸ノ石炭増産計畫遂行ヲ目標トシテ居ラレマス、サウシテ増産獎勵金ノ交付、或ハ坑道掘進補助費、「プール」平準化ニ要スル補償金等ヲ合セテ、八千三百六十萬圓ヲ支出スルノデアリマスガ、第一此ノ獎勵金ノ交付ノ如キハ、政府ノ御考デハ昭和十三年度ニ於ケル最高出炭高ヲ基準トシテ、千噸以上増産ノ分ニ對シテ一噸ニ付テ四圓程度ノ獎勵金ヲ交付スルトコトデアリマスガ、其ノ基準ナルモノハドウシテ出スノデアルカ、同ジ炭坑デアツテモ、時ト場合ニ依ツテ變化ノアルモノデアリマス、即チ坑内ノ事情ヤ努力資材ノ關係デ、常ニ著シキ増減ノアルコトハ通例デアリマス、例ヘバ前年百萬噸出タ山デモ、同ジ努力資材ヲ以テシ、若クハソレ以上劣力ヲシテモ、坑内ノ事情ノ變化カラ、ソレ以下ノ八十萬噸トナリ、七十萬噸ニ減ルコトモアリマス、斯ウ云フ場合ニ本法施行ノ後、運好ク増産スレバ宜イケレドモ、不幸ニシテ努力シテモ減産シタ場合ニハ、此ノ獎勵金ヲ貰フコトガ出來ナイト云フヤウナ不合理不公平ナコトヲ見ルノデハナイカト思ヒマス、ソレ

カラ其ノ次ニハ坑道ノ掘進補助デアリマスガ、一米三十五圓、四十八萬米ヲ大體豫定シテ、千六百八十萬圓ト云フコトニナツテ居ルヤウデアリマスガ、同ジ坑道デアリマシテモ、炭層ノ質ナリ、地質或ハ山ノ事情等ニ依ツテ頗ル難易ト變化ガアツテ千差萬別デアリマス、或ハ沿層ノ掘進ニハヤラナイトカ、或ハ「クロツス・カット」ノミニヤルトカト云フコトモ聞イテ居リマスガ、又同ジ石掘デモ硬軟ノ度ガアツタリ、瓦斯ヤ水量等ノ危険ノ相違モアリマス、斯ウ云フコトヲドウシテ判定スルノカ、複雑ナ掘進ヲドウシテ檢定スル積リカ、恐ラク是ハ言フベクシテ容易ニ行ハレナイコトデアラウト思ヒマス、ソレヲ無理シテ決定シタトシタナラバ、必ズ後ニ色々ナ煩ハシイ問題ガ起ルコトハ明カナコトデアラウト思ヒマス、斯ウ云フヤウナ問題ヲドウシテ解決スルノデアルカ、元來此ノ補助トカ、獎勵金ト云フモノハ、或ル事業ガ幼稚ノ時代ニ保護的ニ助成スルモノデナケレバナリマセヌ、石炭ノ如キ既ニ半世紀以上ノ經驗アリ、斯ウ云フ既成事業ニ對シテ補助金ヲヤリ、其ノ生産「コスト」ノ中ニ國民全般ノ負擔ヲ加ヘルト云フコトハ、甚ダ不適當デアラウト思ヒマス、ソレモ一時的ナモノデアレバ、國民モ我慢シマセウガ、若シ是ガ長ク繼續セントスルニ於テハ將來色々ナ問題ガ起ルコトヲ豫想セナケレバナリマセヌ、此ノ點ニ付テ政府ハドウ御考ニナルカ、ソレカラ努力資材ノ問題ニ付テ色々御話モアリマシタガ、政府ハ十四年度ヲ基準トシテ五百五十萬噸ノ増産ヲ豫定シテ居リマスガ、之ニ付テ鑛夫ガ一人當リ年産二百噸ト致シマシテモ、新ニ二萬七千八百人、ソレカラ不熟練ナ鑛夫ガ何レ採用サレマセウガ、サウナレバ更ニ低下シテ百五十噸位ノモノデアラウト思ヒマス、サウナレバ一層多數ノ努力ヲ要シマス、半島人ヲ入レルニシテモ限りガアラウト思ヒマス、各種産業部門ニ努力不足ノ時ニ、石炭鑛業ダケデ是ダケノ努力ハ容易ニ得ラレナイト思ヒマスガ、又資材ニシテモ政府ハ極力優先的ニ配給ヲ圖ルト口デハ言ハレテ居リマスガ、中々信ジラレマセヌ、現在ノ状態ヲ申シマスレバ鐵鋼材ノ如キモ需要ノザツト五割乃至六割位デス、其ノ他ノ色々「カーバイト」「ベルト」或ハ地下足袋トカ、杭木其ノ他ノモノナドハ大體ニ於テ半分デス、政府ノ配給ハ六割乃至七割位配給シテ居リマスケレドモ、更ニ實際ハソレカラ一二割減ツテ居リマスカラ半

分位デス、斯ウ云フヤウナ状態デ果シテ此ノ資材ト云フモノヲ、勞力ト云フモノヲ、満足ニ本當ニ供給出來ルカドウカ、モウ一度企業院總裁カラ此ノ點ヲハツキリシテ戴キタイト思ヒマス、ソレカラ粗悪炭ノ問題ニ付テモ色々御話ガアリマシタケレドモ、之ニ付テモ全ク容易ナラヌコトデアツテ、ドウシテ此ノ「カロリー」ガ何千以上アリ、灰分ガ何十以下デアルト云フヤウナ嚴密ナ檢定ヲスルコトガ出來ルカドウカ、粗悪炭ガ多クナレバ増産ノ意味ヲ全然沒却スルト云フコトモ當然デアリマス、斯ウ云フ點モ吾々ハ容易ニ出來ル問題デハナイト思ヒマス、其ノ次ニハ「ブール」平準價格制ノ問題デアリマスガ、政府ハ共販會社ニ依ツテ一手ニ買上ゲ、サウシテ一手ニ賣戻サントスルノデアリマス、此ノ平準價格制ノ採用ハ公定價格決定ノ建前カラハ合理的デアリマセウ、併シ本案ニ依ル一手買上ゲノ平準價ハ單ニ中間値ダケデアツテ、一般社會通念ニ依ル價格、即チ消費者ノ支拂フ最終値段デアリマセヌ、尤モ今ノ状態デハ消費者ニ持込ムマデノ一切ノ經費ヲ平準スルコトハ至難デアラウケレドモ、同ジ規格、同ジ値段ノ高低ヲ比較スルニハ中間ノ「ブール」値段デハ意味ヲ成サナイト思ヒマス、元來石炭ノ生産條件ハ千差萬態デアツテ、例ヘバ昭和系ノ炭ハ他ノ系統ノ炭ヨリモ比較的安ク多量ニ出ルト云フコトハ、其ノ施設ニ於テ最モ近代的ニ裝備セラレ、機械化セラレ、即チ資本ガ割合ニ多ク掛ツテ居ルカラデアツテ、資本ノ澤山掛ツテ居ルノモ、掛ツテ居ラナイノモ一絡ニ之ヲ統制的ニシテ、利潤ヲ平準化スルト云フコトハ、價格公定ノ上カラハ一應合理的カモ知レマセヌガ、業者ノミナラズ一般ニ及ボス思想的ニ相當考ヘナケレバナラナイ問題ダト思ヒマス、此ノヤウナ制度ハ先ニモドナタカ言ハレマシタヤウニ、我國經濟機構ノ一大變革デアツテ、聞ケバ現ニ「ソビエト」共和國ノミガ採用シテ居ル所ダサウデアリマスガ、我國ハ防共ヲ主トシテ今度ノ事變モヤツテ居リマスガ、斯ウ云フヤウナ意味カラ國民ノ思想ニ及ボス影響モ洵ニ重大ト考ヘナケレバナリマセヌ、更ニ施設ノ改善、能率ノ増進、技術ノ向上、若クハ勞働條件ノ改善等次第ニ是ガ爲ニ低下スルヤウナ虞ガナイトハ言ヘマセヌ、斯クテハ産業ヲ根本的ニ萎靡セシムル危險ガ多分ニアツテ、其ノ結果減産ト云フ逆效果ノ虞ガアリマス、政府ハ此ノ價格ノ立テ方ヲドウ云フ方法デヤルノカ、之ニ

付テ政府ハ生産費ニ適正利潤ヲ加ヘテ、品質ノ等級ニ依ツテ石炭ヲ買上ゲルト云フノデアリマスガ、其ノ適正利潤ヲドウシテ算定スルカ、投下資本ノ多寡ニ依ルノカ、或ハ「コスト」ニ對シテカ、本當ニ此ノ點ハ煩ハシイ問題デアラウト思ヒマス、此ノ共販會社ニ補助金四千四百八十万圓交付致シマスガ、之ヲ國內ニ於テ生産高ノ五千万圓ニ均需スレバ、純當リ一圓ニモ足ラナイト云程度デアリマス、一昨年昭和系ニ對シテ政府ガ強制的ニ引下ゲタ分ヲ補フコトハ、無論出來ナイノデアリマス、資材ノ價格ヤ勞銀等ガ、其ノ當時ト同ジナラバ兎ニ角、一昨年ノ頃ト今日トハ何レモ著シク昂騰シテ居ルノデアリマス、企業費ノ如キ從來純十圓ガ、現在ハ三十圓若クハ四十圓ニナツタト言ハレテ居ル、此ノ補償金ヤ、年純當リ四圓位ノ増産ノ獎勵金ヲヤツテ、思フヤウニ石炭ガ出ルト御考ニナルコトハ、全ク吾々ハ不思議ニ思ハナケレバナリマセヌ、私ハ以上申シマシタヤウニ、増産ハ到底覺束ナク、却テ減産ノ虞ガアルト云フ不安ヲ持ツノデアアル、ソレデアリマスルカラ政府ハ一ツ考ヘ直シテ戴キタイ、此ノ計畫ハ藤原商工大臣ハ非常ナ信念ヲ御持チニナツテ居ルヤウニ言明セラレマシタガ、私ノ思フニハ、官僚ノ机上計畫ヲ御就任勿々ノコトデ、深く檢討ノ暇ガナカツタノデハナイカトサヘ考ヘラレマス、官僚計畫ト云フモノガ、從來ノ實績ニ徴シテ明カナル如ク、彼ノ昭和十三年度ヲ初メトスル石炭増産計畫ニシテモ、今日デハ出炭ガ之ニ伴ハナクテ、計畫後二年目ニシテ早クモ机上計畫ノ杜撰ヲ暴露シテ居リマス、而シテ再檢討、再計畫ノ已ムナキニ至ツタモノデアリマス、仍テ此ノ際私ガ申上ゲマシタヤウニ、モウ一度御考直シテ願ヒタイト思フノデアリマス、併シ政府ハ今日マデノ低物價政策ヲ、根本的ニ改正スル必要ニ迫ラレテ居ルト云フコトモ、大體御氣付キニナツテ居ラウト思ヒマス、ソコデドウシテモ此ノ案ヲ通ス、修正モ出來ナイト云フナラバ、私ハ茲ニ石炭ノ價格ヲ引上ゲルコトガ、最モ増産ヲ有效ニシテ、的確ナラシメルモノデアルト云フコトヲ申上ゲタイノデアリマス、吾々ハ之ヲ以テ唯一ノ増産策デアルト信ジマスガ、政府ガ餘リニ頑強デ居ラレマスカラ、何回モ此ノ點ニ付テ前ノ諸君ガ繰返サレマシタガ、私ハモウ一度之ヲ申述ベナケレバナラヌノデアリマス、政府ハ今日ノ低物價政策堅持ノ建前デ、絶對ニ引上ゲナイト

何回も繰返サレテ居リマス、是ハ私共考ヘルニ一種ノ——今回ノ案ハ低物價政策ヲ「カムフラ
 ー」ジニスルモノトシカ思ハレナイ、石炭ハ總テノ生産ニ關聯スルカラ値上ヲサセナイト云フ
 形式的、抽象的觀念カラ出發シテ居ルモノト私ハ思ヒマス、政府ハ九・一八ノ物價停止令以後
 ニ於テ、國民ニ最モ影響ノアル所ノ米ヲ五圓値上ヲシテ居リマス、國民ノ生活ニ影響スル所
 ハ、石炭ヨリ米ノ方ガ遙ニ大キク、大衆ニ對シテ直接全面的ニ響イテ、石炭ハ之ニ對シテ間接
 的ニ遙ニ輕イノデアリマス、之ヲ今統計的ニ見マスレバ、國內全産業ノ總額中ニ含マレル所ノ
 石炭ノ割合ハ、僅カ百分ノ一・八デアリマス、現在石炭應二十五圓トシテ、假ニ五圓ノ値上ヲ
 シテモ二割ノ値上デアアル、全生産費總額ノ百分ノ〇・二六ニ當リマス、即チ百圓ニ對シテ僅ニ
 三十六錢ニ過ギマセヌ、之ヲ國民ノ生活側ニドウ云フ風ニ響クカト云ヘバ、月百圓ノ生活費中ニ
 含マレル石炭ノ代ト云フモノハ、約五十錢トナリマスカラ、二割ノ引上ハ十錢ニ過ギマセヌ、
 米ノ引上カラ見レバ、全然問題ニナラナイ筈デアリマス、而モ炭價値上ニ依ツテ増産ノ結果ガ
 來テ、全産業ニ十分ノ石炭ガ配給出來、産業界ニ活況ヲ呈スルコトニナレバ、有ユル産業部門
 ガ循環的ニ活況ヲ呈シテ、政府ノ堅持シテ居ル低物價政策ニ寧ロ合致スルコトトナツテ、生産
 力ノ擴充ハ固ヨリ、悪性「インフレーション」ヲ却テ防止スルコトニ役立つモノデアラウト信ジ
 マス、現在石炭會社ノ過半数ハ、前ノ諸君モ言ハレタヤウニ赤字デアリマス、ソレハ一昨年ノ
 炭價引下カラ、増産率ガグツト低下シテ、隨テ昨年ノ四月カラ炭礦ノ利潤收入ガ非常ニ下向イ
 テ居リマス、業者ノ收入減ハ即チ石炭生産減デアリマス、一滴ノ「ガソリン」ガ血ノ一滴ト云ハ
 レルヤウニ、一塊ノ石炭ハ肉ノ一片デアアル此ノ際ニ、此ノヤウナ減少、即チ生産率ノ下ツタト
 云フコトハ、實ニ國家ノ爲ニ遺憾デアリマス、民間ノ業者ハ政府ノ命令ナラバ、御無理御尤モ
 デ何デモ聽カナケレバナリマセヌ、ドンナ統制デモ黙ツテ服從シマセウガ、彼等ノ後ロニハ多
 數ノ株主モアリ、銀行ガ控ヘテ居ルバカリデハナク、事業ヲヤル以上ハ單ニ利潤追求バカリデハ
 ナクシテ、或ハ労働條件ノ改善モシテ行キタイ、保安設備モヨリ以上完備シタイ、或ハ事業ノ
 擴張モヤツテ行キタイ、一面ニハ會社ノ信用ノ維持ヲ、ドンナコトヲシテモヤツテ行カナケレ

バナリマセヌ、石炭會社ハ石炭産出ノ母體デアリマス、其ノ母體ヲ衰弱サセテ石炭ガ増産出來
 ル筈ハアリマセヌ、事茲ニ至ラシメタノハ全ク政府ノ責ト言ハネバナリマセヌ、故ニ權力ニ依
 ル統制、炭價引下ハ、百害アツテ一利モナイト言ヘマセウ、仍テ低物價政策ヲ修正シテ、適正
 價格ヲ定メナケレバ、増産ハ斷ジテ不可能デアリマス、總テ産業ノ興ルト云フコトハ、企業者
 ナリ投資者ノ企業心ヲ旨ク刺戟シテ行カナケレバナラナイノデアアル、是ハ單ニ前申シタ利潤ノ
 追求バカリデハナイ、此ノ點ニ付テハ産業人トシテ權威アル藤原サンノ如キハ、私共ガ申スマ
 デモナク能ク御承知ノ筈デアリマス、而シテ最小ノ生産費ヲ以テ最大ノ效果ヲ收ムルコトガ、
 經濟上ノ原則デアツテ、之ニ依ツテ私ハ適者生存、優勝劣敗ノ法則ガ行ハレテ、國家社會ガ進
 歩スルノデハナイカト思ヒマス、政府ノヤラレル所ハ、此ノ法則ヲ無視シテ居ル所ニ、大キナ
 矛盾ガアルト思ヒマス、ソレデスカラ私ハ此ノ點ニ付テ、御答辯ハ兎ニ角、政府ノ御再考ヲ願
 ヒタイト思ヒマス、政府ハ炭價引上ヲシナイ、前申シタヤウニ本案ヲドウシテモ通スト云フ御決
 心ナラバ、私ハ改メテ次ノ點ニ付テ御尋シタイ、ソレハ獎勵金、補助金等ノ一切ヲ引括メテ、共販
 會社ニ對スル補償金ニ統合スルコトデアリマス、前ニ申シタ如ク獎勵金、補助金ノ算定ハ洵ニ
 錯雜デ、却テ業界ヲ混亂セシムル虞ガアリマスカラ、一層ノコト全額ヲ投出シテ、資材ヲ十分
 ニ供給シテ、現在ノ機能ヲ「フル」ニ活動セシムルコトデアリマス、今日ノ炭礦ノ大部分ハ、ド
 ウシテ赤字カト云ヘバ、炭價ト他ノ物價トノ著シイ「アンバランス」ガアルノデアツテ、資材勞
 力ノ不足ノ爲、折角設備シタ所ノ機能ガ全體的ニ活動シテ居ナイカラデアリマス、殊ニ北海道
 ノヤウナ炭坑ハ、其ノ性質、地理的條件ガ、本格的ナ正攻法ニ依ツテ採掘シナケレバナラナイ
 モノガ多イ地方ニ於テ、新ニ炭坑ヲ發掘シテ、坑道ヲ掘ツテ、補助金ヲヤツテモ急場ノ間ニ合
 ハヌノデアリマス、現在炭坑中高能率ノモノニ對シテ、所謂重點主義ヲ以テ、資材勞力ヲ優先
 的ニ配給シテ、施設機能ヲ十分ニ活動セシムルコトガ、最も効果的デアラウト思ヒマス、業者ハ
 此ノ統制強化ニ依ル將來ノ見透シニ付テ多大ノ危惧ヲ持ツテ、企業心理ヲ鈍ラシテ居ルヤウナ
 状態デアリマス、此ノ際ニ是等ノ政府ガ出サントスル八千三百万圓ノモノヲ全部統合シ

テ、此ノ共販會社ニヤラセルト云フ御意見ハナイカ、マダ御尋シタイコトハ澤山アリマスガ、時間ガ參リマシタノデ委員會ニ讓リタイト思ヒスマ

藤原商工大臣ノ應答

松尾君ニ御答申上ゲマス、政府ハ本法案ヲ撤回スル意思ハ毛頭ゴザイマセヌカラ、左様御承知ヲ願ヒマス、ソレカラ配給統制ハ、内務省ノ方ノ手ニ於テ監督シタナラバ宜カラウデハナイカト云フヤウナ御意見ノヤウデゴザイマシタガ、ドウモ商工省ニ於テハ、内務省ノ手ノミデ今日ノ配給統制ヲ整備スルト云フコトハ不可能ト考ヘテ居リマス、又獎勵金算定ノ基準及ビ掘進助成金ノ交付ノ基準、資材勞力ニ付テノ御尋、又粗惡炭ノ處置、「プール」平準價格ノ買上値段算定ノ標準、其ノ他色々御尋ガゴザイマシタガ、詳細ヲ玆ニ申述ベマスコトハ御遠慮致シマシテ、委員會ニ於テ申述ベタイト存ジマス、最後ニ補助金、助成金、補償金等ヲ一括シテ共販會社ニ給與シテ、共販會社ニ依ツテ買取補償金ノ方ニ流用シタナラバドウカト云フヤウナ御趣旨ノ御陳述ガゴザイマシタガ、政府ニ於テハ甚ダ遺憾ナガラソレニ御賛成ヲ申上ゲルコトハ出来マセヌカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

小田榮君ノ質疑

總體總力戰爭デアアル近代戰爭ハ、一名生産戰爭トモ呼バレテ居ル所ノ生産擴充ノ戰爭デアリマス、此ノ生産動力ノ資源タル石炭配給ノミニ止マラズ、燃料全般ノ生産及ビ配給ノ一元的、理想的國家統制、即チ生産及ビ配給ニツナガラノ國營ニマデ行カナカツタナラバ、生産戰爭ヘノ完璧ノ布陣トハ申サレナイノデアリマス、仍テ此ノ全燃料資源、殊ニ石炭ノ生産ト配給ヲ兼ネ合セテ、國營ヘ一步ヲ踏出シタ過渡の方策トシテ、私ハ政府ノ御出シニナツタ本法案ニ對シ賛意ヲ表スルニ各デハアリマセヌ、而モ私ハ此ノ法案ガ現狀維持的ナ産業體制カラ拔出タ、新タナル戰勝産業經濟體制ヘノ數段ノ飛躍ト進歩ト認メナガラモ、尙ホ本法案實施ノ道程ニ當ツ

テ起ルデアラウ幾多ノ矛盾性ト、不徹底性ト、非合理的性格ヲ強力ニ指摘シ、追究セザルヲ得ナイコトヲ遺憾ニ存ジマス、極言スレバ、本増産案ニ依ツテ果シテ國家ガ聖戰上必死ニ要求サレル石炭ノ増産ヲ、政府ノ意圖サレル如ク而モ容易ニ完全ニ確保出來ルカドウカ、甚シク疑問ナキヲ得マセヌ、私ガ本増産案ニ對シ不徹底ナリトシテ、其ノ成果ニ多大ノ憂懼ヲ感ジマス所以ハ、一ツ石炭増産ノ停滯狀態ヲ更ニ濃度化セズヤノ點ニアリマス、石炭増産對策デアアル本案實施ガ、而モ一億ニ近キ龐大ナル國帑ヲ掛ケテ此ノ事業ガ、何故ニ却テ石炭増産ヘノ停滯性ヲ濃度化セズヤト危ブミ憂ヘルカト申シマスナラバ、私ハ現在ノ經濟界、産業界、殊ニ石炭業界ノ現狀ニ對シテ、絶大ナル憂懼ヲ抱クカラデアリマス、恰モ水ノ中ニ棲息スル河童ガ陸ヘ上ツタ態ノ、即チ資本主義經濟機構ヲ其ノ在ルガ儘ニ存置シテノ配給ノ國家統制ハ、果シテ其ノ機能ノ發揮ニ何ノ支障モ蒙ラナイデアラウカ、ソレハ丁度電力ノ生産統制ヲ伴ハザル電力配給統制ガ、實施後幾許ナラズシテ、其ノ無能無力ヲ暴露シタル前轍ヲ、再ビスル危險ヲ多分ニ包藏シテ居リマス、即チ現日本ノ資本主義經濟機構下ニ在ッテハ、國家ノ福祉ヨリモ、國民ノ安寧ヨリモ、又聖戰目的ノ完遂ノ民族ノ大使命ヨリモ、尙ホ私人ノ營利利潤追求ガ第一主義ニ考慮セラレルノデアリマス、此ノ故ニ今日ノ機構下ニ於ケル増産計畫ノ實現ヲ期セントスルナラバ、先ヅ斯業資本家ノ十二分ナル積極且ツ愛國のナル協戮ガ得ラレナクテハナリマセヌ、ニモ拘ラズ私ハ此ノ點ニ關シ斯業資本家ノ協戮ガ果シテ十分ニ期待セラレルカ否カニ關シ、國民ト共ニ戰時下ノ生産擴充ニ一意奉公ノ努力ヲ傾倒シツツアル産業戰士ト共ニ、絶大ナル憂心ヲ抱カザルヲ得ナイ一人デアリマス、私ハ敢テ斷言致シマス、本増産案ガ憂フルガ如ク、萬ガ一ニモ斯業資本家ノ愛國熱意ニ徹シタ積極的協戮ヲ得ラレズトスルナラバ、本案ニ正ニ一面猫ニ小判ヲ與ヘルガ如ク、何等ノ效果ヲ奏セザルニ至リ、又一面猫ニ鯉節ノ番人ヲ依頼シタル如ク、珍妙ニシテ悲哀ナル「ドンキホーテ」式、「ピエロ」式ナル末路ヲ遂ゲルデアラウコトヲ、政府ハ果シテ國民ノ憂懼スル本案實施後ノ増産成否ニ對シ、如何ナル所信ト見解ト有セラレルモノデアルガ、私ガ指摘シテ以テ御伺致シタイノハ、實ニ此ノ一點デアリマス、私共ノ此ノ國家的

憂心ガ、憂國慷慨ノ士ノ單ナル杞憂トシテ終ルモノナラバ、聖戰遂行途上ニアル民族ノ福祉ト發展ノ爲ニ、之ニ優ル喜ビハナイノデアリマスガ、私共ガ今日目賭シ逢著シツツアル現實ノ諸相ハ、洵ニ之ヲ雷ニ杞憂ニ止マラシメザルニアラズヤラ思ハシムルニ十分ナルモノガアルノデアリマス、即チ石炭業者本家ノ本案實施ニ對スル執拗極マル反對態勢ガソレデアリマス、石炭資本家ト氣脈ヲ一ツニスル政治勢力ノ挑戰的機運ガソレデアリマス、同ジク資本家財閥ノ傀儡的役割ヲ果シツツアル國內輿論機關ノ援護的攻勢ガソレデアリマス、此ノ石炭業者本家ノ熾烈ナル反對態勢ノ中核トモ言フベキ石炭鑛業互助會、宇部石炭鑛業組合聯合會、常磐炭礦聯合會、北海道石炭同交會等ヲ初メ、全國石炭販賣業者代表六百名ガ、去ル二月二十九日丸ノ内鐵道協會ニ於テ開催シタル本法實現ニ對スル絕對反對ノ業者大會ハ、本案ノ前途ニ横ハル多大ナル難關ヲ暗示シ、且ツ斯業者本家ノ底意ヲ忌憚ナク表明シテ餘リアリ、頗ル注目ニ値スルモノガアリマス、勿論此ノ中小石炭資本家ノ該運動ノ背後ニ三井、三菱ノ所謂昭和系大石炭資本家ノ線ル系ノアルコトヲモ、併セテ逸シテハナラナイ事柄デアリマス、其ノ業者大會ノ席上ニ於ケル代表者十數名ノ交、立ツテ絶叫シタル演說内容コソハ、實ニ戰時下國民ヲシテ轉々戰慄惡寒ヲ催サシムルニ足ルモノデアリマス、醜惡ナル利潤追求第一義ノ資本主義經濟機構ノ最惡面ヲ、端的ニ露呈シテ餘蘊ガナイノデアリマス、恐ルベキ戰爭妨害的思想ト行動ト意圖トヲ、餘ス所ナク自己暴露シタ以外ノ何モノデモナイノデアリマス、曰ク石炭配給統制案ハ吾々鑛業家ノ侮辱スルモノデアアル、第一石炭一噸多ク掘出シタナラバ五圓ノ獎勵金ヲヤラウト云フ、何タル侮辱デアアルカ、吾々業者ハソソナ目腐レ金ノ若干ヲ頂戴シテ、一噸デモ石炭ヲ多ク掘出サウト云フ、ソソナサモシイ根性ヲ持ツタ人間ハ一人モ居ナイノデアアルニモ拘ラズ、之ヲ骨子トシテ、吾々ヲ釣ラントスル政府ノ方針ヲ何ト考ヘテ宜カラウカ、又曰ク、此ノ一億圓ノ獎勵金ハ一般民衆ノ釀出スル税金ヨリ成立ツタモノデアアル、國民ノ汗ト膏ト結晶デアアル、而モ此ノ國民ノ膏血ヲ何ニモ關ハリノナイ吾々石炭業者ノ救済ニ充テテヤラウト云フ、洵ニ有難イ御厚意ノ程ハ感謝スルガ、實ハ吾々ニハ甚ダ迷惑千萬デアリマス、此ノ業者ノ最初ノ言葉ノミヲ拜承スレバ、其自己ヲ

無ニシテ國家ヲ憂ヒ、己ヲ空シクシテ民ヲ思フノ念ノ敦厚ナルニ、感謝ノ涙ヲサヘ催ウセシメントスルモノガアルノデアリマスガ、善イ哉此ノ言ヤ、ソレハ唯單ニ自己ノ利益ノ増嵩ヲ圖ラシムル爲メ、巧妙邪智ナル詭辯的遁辭ニシカ過ギナイノ如何センヤデアリマス、即チ彼等ノ意圖シ、策動スル所ノ其ノ根源ハ、實ニ二千二百萬圓ノ増産獎勵金ト、四千四百萬圓ノ買上價格補償金ト、一千六百八十萬圓ノ坑道掘進助成金、合セテ八千三百六十萬圓ノ増産對策金ヲ、政府ノ手ヲ通ジテ頂戴スルヨリモ、寧ロ公定價格引上ヲ獲得シテ、飽クナキ戰時利得ノ歡樂ニ酔ヒ痴レンガ爲デアリマス、否、ソレヨリモ尙ホ彼等ノ冀求渴望セントスル所ハ、低物價政策下ニ於ケル公々然ノ多少ノ收入ヨリモ、一手買取、一手販賣會社ノ出現ヲ拒否シ、以テ闇取引ノ運營ニ依ル天文學的利潤ノ追求ノ繼續可能ナル状態ヲ存續センガ爲ニ外ナラナイノデアリマス、併シ是ガ雷ニ彼等業者ノ希望トシテソレデアラナラバ、吾々ハ假令其ノ心事ニ絶大ナル不滿ノ意ヲ有スルトシテモ、敢テ未ダ畏怖シ、恐怖スルニハ足リマセヌ、併シナガラ此ノ業者ノ意圖ガ意圖ニ止マラズ、必然ニ行動ヲ伴ヒ來ルコトヲ否定シ得ナイ以上、問題ハ洵ニ重大デアリマス、即チ彼等ハ又叫ンデ曰ク、吾々ノ石炭ノ炭價ガ餘リ安イカラ、需要家ハ喜ンデ相當ノ炭價マデノ値上ニハ決シテ不平ヲ言ハズ、上ゲルノハ當然デハナイカト、財界ノ重鎮タル經濟聯盟ヤラ、全産聯ヤラ、大阪工業組合ヤラ、全需要者ハ斷言致シテ居ルノデアアル、然ルヲ吾々ノ好マザル増産獎勵費ヲ出サウト云フコトハ一體其ノ眞意ハ何處ニアルカ、政府ガ假令増産獎勵金ヲ一噸ニ五圓與ヘテモ業者ハ全ク之ニ期待ヲ持ツテ居ラヌ、熱ガナイノデアアル、熱ガナイモノハ效果ガ薄イノデアアル、増産獎勵金ノ給與ニ依ル増産ハ先ヅ不可能デアアル、其ノ理由ハ現在増産ニナツテ居ルノハ大炭礦タルト小炭礦タルト問ハズ、品質ヲ下ゲテ賣ツテ居ルノデアアル、ソレヲ販賣會社ガ出來テ「カロリー」標準價格ニ依ル「プール」標準價格制デ買上ゲルコトニナルト、惡質ノ石炭ガ出セナクナリ、隨テ出炭量ガ少クナリ、増産ト反對ノ結果ニナル、ダカラ其ノ案ニハ反對デアアル、又曰ク政府ハ煙草ノ純益ダケ一年間ニ一億圓儲ケテ居ルデハナイカ、私共ニ言ハシムレバ此ノ不正炭ヲ扱フコトハ惡イケレドモ、十五圓カ十八圓ノモノヲ三圓

カ五圓カ、僅カ二割カ三割儲ケタニ過ギナイ、之ヲ暴利取締令テ取締ルナラバ兒玉内務大臣ハ何故煙草ノ暴利ヲ取締ラヌカ、政府自體ヲ取締ラヌカ、コンナ無理ナ法案ニ賛成シロト言フガ、斯ウ云フ無理ナコトヲヤラウト云フ今日ノ官僚ノ心臓ノ強サニハ驚カサレザルヲ得ナイケレドモ、心臓ノ強イ點ニ於テハ私共今日ノ所謂ヒヨロノ官僚ニハ負ケナイ、ダカラ宜シク今日何等ノ力ヲ持タザル法案ヲ是非叩キ潰サネバナラナイ、又曰ク吾々ノ好マザル此ノ案ヲ政府ガ強行シタナラバ明日ノ石炭ハ一體誰ガ掘ルカ、誰ガ一匙デモ掘ルカ、明日カラ一匙デモ多ク要求スル所ノ石炭ヲ何人ガ掘ツテ産業ノ要求ニ應ズルカ、假令ドンナコトガアツテモ此ノ法案ニ協力スルコトハ出來ナイ、假令通過シテモ協力ハ出來ナイ、以上業者ノ宣言ガ何ヲ意味スルモノデアルカ語ラズシテ明々白々デアリマス、自己利潤ノ追求ニ此ノ國家ノ死命ニ關スル重大事ヲ顧慮セズ、日本民族ノ全聖戰産業ノ喉ヲ要扼シテ居ルガ故ノ國家統制ヘノ反逆デアリマス、政府ヘノ脅喝デアリ、國家ヘノ威迫デアリ、國民ヘノ恫喝デアリマス、過般全國殊ニ關西ヲ襲ツタ電力飢饉、サウシテソレニ依ツテ齋ラサレタ全産業ノ不可抗力的操短、三割、四割、六割ノ操短ヲヤラネバナラナカツタアノ慘狀ノ眞因ノ一ツガ、實ニ茲ニアツタコトニ爲政者ハ再ビ思ヒヲ致サネバナラヌ、即チ石炭業者自家ノ本統制ニ對スル絕對反對運動ヲ、サウシテ其ノ口實トスル所ヲ省察スルナラバ、サウシテ過般ノ電力飢饉ト照シ合スナラバ、如何ナル現狀維持擁護ノ代辯者ト雖モ、自ラ其ノ醜惡ナル面ヲ蔽ハザルノ已ムナキニ至ルデアリマセウ、諸君、石炭業者ハ曩ニ支那事變ノ勃發カラ今日ニ至ルマデ、洵ニ過當ナル暴利ヲ得テ來テ居ルノデアリマス、之ヲ數字ニ依ツテ示シマス、中流炭礦五社ニ於テ昭和十三年ノ下半年ノ賣炭收入ガ二千九百二十萬圓、ソレガ同十三年ノ下半年ニハ、一躍上昇シテ六千五百九十九萬圓、是レ正シク二倍二分ノ激増デアリマス、是ハ石炭業者自身ノ發表デアリマスカラ、恐ラク相當ニ内輪ニ見積ツテノ數字デアリマセウ、而モ石炭業者ハ其ノ間昭和十二年下半年カラ同十三年下半年マデ、僅カ一箇年間ニ驚ク勿レ、石炭價格ヲ六回ニ及ンデ値上シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク一箇年間ニ六度モ皇國産業ノ最重要資材ガ、産業ノ根幹ヲ成ス原動力ヲ勝手氣儘ニ値上シテ

ボロ儲ケヲスルト云フ、此ノ非道ガ果シテ許容出來ル事柄デアリマセウカ、是デ陛下ノ御爲、皇國ノ爲、國民ノ爲ニ戰地デ生命ヲ捨テテ働キ付レテ居ラレル皇軍將兵ニ對シテ申譯ガ立ツノデアルカ、神去リマシタ靖國ノ英靈ニ對シテ相濟ムデアリマセウカ、私共ノ皇國感情ノ絕對的ニ許容シ得ナイ所デアリマス、之ヲ要スルニ自己ノ利益ノ爲ニハ如何ニ國家ガ強求シ、祖國ガ急ヲ懇ヘルトモ、一塊ノ石炭タリトモ掘出スモノカ、明日カラノ石炭ヲ誰ガ掘ルカト云フ態度ハ、吾々ハ斷ジテ許シ得ナイ所デアリマス、今申シマス——假令此ノ法案ガ議會ヲ通過シテモ、吾々ハ斷ジテ反對デアルト言フ、サウシテソレガ言フダケニアラズシテ、過般ノ石炭飢饉ノ如ク強引ニ實行ニ移サレルノダ、實ニ經濟界ニ於ケル齋藤思想其ノモノデアリマス、仍テ私ハ重ネテ申上ゲマス、斯ル情勢下ニ於テ蒙昧ナル反對態勢ノ渦中ニ於テ、此ノ法案ノ實施ヲ遂ゲントスルナラバ、必ズヤ彼等ガ宣言スルガ如ク、幾多ノ妨害ガ行ハレルニ相違ナイコトハ、或ハ火ヲ賭ルヨリモ明デアルト思フ、併シナガラ此ノ燃料資源ノ統制、之ニ依ル石炭ノ増産確保ハ、日本民族當面ノ絕對使命デアリマス、前述致シマシタ業者ノ執拗ナ増産妨害ノ不穩至極ナ陰謀ニ對シテ、政府ハ峻平タル取締ヲ厲行スルノ決意ヲ有シテ居ラルカ如何、政府ノ御所信ヲ御伺致シマス、此ノ御決意ガナクテハ、不幸私ノ提示シタ本案實施後所期ノ増産ハ、至難ナラズヤトスル憂懼ヲ掃ヒ得ナイデアリマセウ、第二ニ御伺致シタイ所ハ、本法案ノ實施ニ於テ最モ肝要ナル利潤配分ノ不均衡是正ノ問題ガ、何故ニ等閑ニ附セラレアルカノ點デアリマス、前述ノ炭礦五社ノ數字ヲ以テ明カナル如ク、今日ノ石炭業者自家ノ利潤ハ夥シク上昇シテ居ルノデアリマス、即チ現在ニ於テスラモ儲カリ過ギテ困ツテ居ル炭礦資本公司ニ對シテハ、八千三百六十萬圓ノ龐大ナル國帑ガ提供サレルノデアリマスガ、反對ニ石炭業ノ殷賑ニ因リ、石炭増産ノ國家的要求ニ應サテ愈、過激ナル勞働ハ強要セラレル炭礦勞働者ヘノ妥當ナル利潤配分問題ガ、些少ダモ顧ミラレテ居ナイノハ、私ノ最モ痛恨ニ堪ヘナイ所ノモノデアリマス、惟フニ斯ル戰時下ニアツテノ餘リニ懸離レタル利潤配分ノ不均衡ハ、實ニ警戒スベキ重大問題ナノデアリマス、又炭礦業者ト炭礦勞働者トノ問題ノミニ止マラズ、時局産業ト平和産業部門トノ公平

ナル戰時利得並ニ戰時犠牲ノ均等ノ問題ハ、殊ニ戰時下ノ爲政者ノ最モ關心ヲ要スベキ重大事デアリマス、聖戰遂行ノ途上ニ於テ成金ハ輩出横行スル、所謂時局産業ノ恩惠ニ浴スル資本家ハ一朝ニシテ巨富ヲ蓄積スル、或ハ此ノ得タル利益ニ依ツテ榮耀榮華ノ贅澤ニ耽溺シテ、惡氣流ヲ放散スル、其ノ半面ニ平和産業、不振産業ニ屬スル業者及ビ勤勞大衆ノ生活ヤ事業經營ノ販路ノ梗塞、資材ノ入手難、物價ノ暴騰等ニ因ツテ極度ニ壓迫セラレ、今日ヲ食ヒ兼ネル者ガ續出スル、此ノ現象ハ實ニ戰時下治安ノ確保ノ上カラモ、亦聖戰遂行ノ見地カラモ、決シテ好マシイ影響ヲ與ヘルモノデナク、場合ニ依ツテハ戰争繼續ニ洵ニ憂フベキ事態ヲ招來シ、恐ルベキ國家ノ危殆ヲ胚胎スル虞ナシトシナイノデアリマス、是ハ彼ノ歐洲大戰後半ニ於ケル獨逸ヤ帝政露西亞崩壞ノ歴史ニ照シテ見ルモ由々シキ問題デアリマス、政府ハ分ケテモ陸海軍大臣ハ只今申述ベマシタ、一、戰時利潤ノ配分不均衡ヲ如何ニ是正セントスルカ、二、戰時不當利得ノ國家沒收ノ意思ナキヤ、三、聖戰必須資材タル燃料全般ノ國營ヲ通ジテ、其ノ勤勞者ニ對シテ生活上、危險防止、人格尊重等福利施設ヲ徹底スル爲ニ如何ナル方途ヲ御持チテアルカ、之ヲ要スルニ民族總力戰ノ必勝ノ道ハ、生産國民ノ生活安固ヲ圖ヒ取ルニアリマス、即チ近代戰爭ガ勤勞戰爭ト呼バレル所以デアリ、近代戰ノ銃後第一線ノ戰士タル勤勞者ノ生活ノ安固確立ガ、軍略トシテ取上ゲラレル必然性モ茲ニ在スルノデアリマス、過去ニ於ケル勤勞者ガ、産業資本家ノ私有物的觀念ヲ以テ對應セラレテ來タ誤謬ハ、茲ニ勇敢ニ揚棄セラレナケレバナルマセヌ、否、勤勞者コソハ近代戰ニ於ケル銃後ノ歩兵部隊デアリ、究擊戰士デアリマスカラ、其ノ尊貴性ガ確認セラレ、勤勞者ノ名譽顯彰ガ行ハルベキデアリマス、殊ニ石炭勞働者ノ如キ、常ニ落磐爆發等ノ事故ニ因ル生命ノ危險ト闘ヒツツモ、此ノ戰士ノ社會的地位ガ妥當ニハ評價サレズ、現在ノ如ク事業家自體ハ一躍ニ三倍ノ利潤ガ得ラレル時期ニ於テサヘ、勞働者ハ尙ホ生活ノ水準線ニ現ハレザル如キコトハ、速ニ改革サルベキデアリマス、右ニ對シ政府ノ御所見ヲ御伺致シマス、尙ホ最後ニ本法案ノ實施ニ當ツテハ、幾多ノ難關ガ待設ケテ居リマス、之ニ對シ政府ノ絶大ナル決意ノ必要ナルコトハ只今申上ゲタ通りデアリマシテ、業者、政治層、

輿論機關タル自由主義新聞カラノ反擊ハ、尙ホ本案通過ノ日マデデナク、實施後ニ於テモ熾烈ニ反覆セラレルニ違ヒアリマセヌ、萬ガ一ニモ議會ニ於テ本法案ヲ擱潰サレルヤウナ事態ニ遭遇シタ場合、政府ハソレヲ承認サレルカ、ソレトモ斷乎トシテ議會解散ヲ斷行スルトモ本案ヲ達成シ、以テ石炭ノ確保ヲオヤリニナル底ノ重大決意ヲ所持シテ居ラレルカドウカ、此ノ政府ノ不退轉ノ決意コソ、本案ノ實現達成ノ鍵デアリ、事變處理ノ眼目デアリ、聖戰必勝ノ要諦デアリマス、故ニ敢テ政府當局、軍部大臣、藤原商工大臣ニ對シ各、其ノ御決意ト御所信ヲ御伺致シタイト存ジマス

藤原商工大臣ノ應答

小田君ニ御答ヲ申上ゲマス、政府ハ度々本議場ニ於キマシテ、繰返シテ申上ゲマシタ通り、今日ノ我國ノ經濟界ノ事情ヲ能ク參酌致シ、其ノ外時局遂行ノ點ヲ考ヘマシテ、本法案ヲ最上ノ策ト信ジテ之ヲ提出致シタモノデアリマス、隨テ本法案ハ本議場ニ於テ御協賛ヲ得ルモノト確信シテ居リマス、尙ホ本法案通過後ニ於キマシテ、國民ハ炭礦業者モ、又他ノ一般産業人モ、全體ノ國民ハ政府ニ協力シテ、本案ノ圓滿ナル遂行ニ助力スルコトヲ確信シテ居リマスカラ、之ニ付キマシテハ少シモ心配ヲ致シテ居リマセヌ、左様御承知ヲ願ヒタイ

吉田海軍大臣ノ應答

特殊會社ノ不當ナル利潤ヲドウスルカト云フヤウナ趣旨ノ御質問ガゴザイマシタガ、之ニ對シテハ從來トモ監督ヲ嚴重ニ致シマシテ、左様ナコトノナキヤウニ萬端ノ手段ヲ盡シテ居リマス、尙ホ今日サウ云フヤウニナツテ居リマス關係上、特ニサウ云フ御指摘ニナルヤウナコトハ、私共關係シテ居ルモノニハナイト考ヘテ居リマス、尙ホ今後トモ監督ヲ十分ニ致シタイト存ジテ居リマス

三好陸軍政務次官ノ應答

只今陸軍大臣ガ不在デアリマスノデ、私ガ代ツテ御答ヲ申上ゲマス、陸軍ニ於キマシテハ、此ノ日支事變ノ處理、聖戰貫徹ノ爲ニハ、國家總動員體制ヲ強化充實シナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、只今御話ノアリマシタヤウナ、苟モ戰時體制ニ相應ハシクナイヤウナコトガ現ハレテ來ルコトガアリマスレバ、之ヲ善導シ、是正致シマシテ、國家總力化ノ發揮ヲ圖ラナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、若シ其ノ上ニモ尙ホ國家總力化ヲ妨害スルヤウナモノガアリマスレバ、之ヲ排撃シナケレバナラヌコトハ、申上ゲルマデモナイト考ヘテ居ル次第デアリマス

次テ本案ハ政府提出鑛業法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ修正(附帶決議)スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同日加藤鐵造君ハ本案ニ對スル修正案ヲ提出ス
委員會報告書及附帶決議

(小字ハ委員會修正)

委員會報告書

石炭配給統制法案中左ノ通修正ス

第十二條 社長、副社長及理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

石炭鑛業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間日本石炭株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

委員會附帶決議

- 一 勞務動員計畫ヲ整備シ以テ増産ニ違算ナキヲ期スヘシ
- 二 資材ノ一元的配給方策ヲ講スヘシ
- 三 海陸ヲ通スル一元的輸送計畫ヲ樹立シ其ノ運営ニ支障ナカラシムヘシ
- 四 炭質低下ノ防止ニ關シ徹底セル措置ヲ講スヘシ
- 五 鑛區ノ整理併合ヲ斷行シ經營ノ合理化ヲ圖ルヘシ
- 六 炭鑛ノ災害豫防及救濟ニ關シ適切ナル方途ヲ講スヘシ
- 七 統制ニ支障ナキ限り石炭ノ配給ニ關シテハ既設及新規ノ炭鑛ニ對スル本法以外ノ金融投資關係ヲ尊重スヘシ
- 八 中小炭鑛業者ニ對スル金融投資ヲ簡易敏速ニスヘシ

加藤鐵造君提出修正案

石炭配給統制法案中左ノ通修正ス

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長櫻井兵五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ本案ノ委員會ニ於ケル審議ノ經過ノ概要竝ニ結果ヲ御報告申上ゲタイト存ジマス、本法案ハ既ニ御承知ノ如ク、特殊會社タル日本石炭株式會社ヲ設立シ、之ヲシテ石炭ヲ一手ニ買上ゲシメルト共ニ、更ニ買上炭ヲ適正價格ヲ以テ配給セシメ、或ハ石炭鑛業ニ對シ資金ノ融通及ビ投資ヲ爲サシメル等ノ事業ヲ行ハシメ、以テ現下戰時經濟ノ緊要事タル石炭需給ノ圓滑及ビ價格ノ公正ヲ圖ラントスル趣旨デアリマシテ、別ニ本會社ノ機能發揮竝ニ一般石炭増産對策ノ爲ニ、八千三百六十万圓ノ經費ヲ伴ツタル案件デアリマス、委員會ハ三月十二日ヨリ開會致シ、本日マデニ十一回開會致シ、別ニ三回ノ懇談會モ重ネタ次第デアリマスガ、此ノ間ニ於ケル質疑ノ主要ナル點ヲ舉ゲマスレバ、第一ニハ、現下ノ石炭問題解決ノ爲ニハ、配給機構ノ整備モサルコトナガラ、寧ろ問題ノ重點ハ、積極的ニ増産ヲ圖ルニアルデハナイカ、然ルニ政府ノ増産ノ對策ナルモノハ、極メテ姑息的デアリ、且ツ拔本的ノ方途トモ考ヘラレナイ、運用ノ如何ニ依ツテハ、却テ減産ノ虞スラアルデハナイカトノ質疑ガアツタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、石炭問題ノ解決ノ爲ニハ、積極的ノ増産ヲ圖ルト共ニ、適正ナル價格ヲ以テ、而モ圓滑ナル配給ヲ爲スコトガ絕對ニ必要デアル、政府ハ増産ノ爲ニハ、別途要求シタル如ク、多額ノ獎勵金、助成金等ヲ交付スル一方、必要ナル資材及ビ勞力モ、石炭鑛業ニ對シテハ最優先的ニ供給スル方針ヲ確定シテ居ル、又價格政策上ノ考慮ヨリ、低物價策ノ線ニ沿ヒ、單價ノ引上ヲ爲サズシテ、而モ増産ノ目的ニ背馳セズ、併セテ適正價格ヲ以テ圓滑ニ石炭ヲ配給スル爲ニハ、是非共本案ノ如キ機能ヲ有スル組織ガ必要デアル、假ニ本案ガ理想的最善案デナイトシテモ、現下ノ我ガ諸事情ノ下ニ於テハ、是以上ノ案ヲ政府トシテハ得ル能ハ

ズト信ジタノデアル、斯様ナ答辯デアリマシタ、第二點ニ於キマシテハ、本案ハ抑、昨年中中央物價委員會ヨリ答申ノアツタ案ヲ變更シテ居ルヤウデアルガ、之ヲ變更シタル理由ハ如何ナル理由デアルカ、又本案ヲ以テシテ果シテ眞ニ配給統制ノ目的ヲ完全ニ達成シ得ルカドウカ、又將來中央物價委員會ノ答申案通リニ實行スル意思ガアルカドウカトノ問デアツタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、石炭業界ノ現狀及ビ石炭取引ノ實情ニ鑑ミ、慎重ニ考慮致シタ結果、日本石炭株式會社トシテハ、自ラ配給施設ヲ所有セズ、寧ろ從來ノ業者ノ經驗ヲ活用シ、其ノ信用ト責任ト下ニ配給ニ當ラシメルコトガ、最モ適切ト認メテ本案ヲ決定シタ次第デアルガ、法律ノ運用ト相俟ツテ、十分配給統制ノ目的ヲ達シ得ル確信ガアリ、尙又將來物價委員會ノ答申案通リニ實施スルコトガ、適當ト認メラレル事態ニ立至ツタナラバ、之ヲ實施スルコトヲ考ヘタイトノ答辯ガアツタノデアリマス、第二點ニ於キマシテハ、本會社ヲ半官半民ノ特殊會社ニシタノハ、如何ナル理由デアアルカ、殊ニ近來特殊會社ハ餘リ成績ガ良クナイ、特殊會社ト云フモノハ芳シカラヌ實例ヲ示シテ居ル今日、又モヤ特殊會社ヲ作ラントスル政府ノ所信ハ何處ニ在ルノデアアルカ、殊ニ資本ノ半額ヲ政府出資ト爲シタルガ如キハ、政府ノ説明カラ考ヘテ見テモ、無意義ノコトデハナイカ、又會社ノ事業範圍ニ鑑ミテ、資本金ヲ五千万圓、社債發行限度ヲ一億五千万圓トシタノハ過小デハナイカ、此ノ程度ヲ以テ果シテ此ノ大目的ニ副フ運用ガ出來ルカドウカ、而シテ又此ノ會社ノ役員ハ、如何ナル方面ノ人ヲ之ニ充ツル考デアアルカ、斯様ナ質疑ガアツタノデアリマス、之ニ對シマシテハ、政府ハ國家目的ヲ有スル本會社ノ事業ノ性質ニ鑑ミテ、大要會社ノ運営ノコトハ、民間ノ人ノ知識經驗ヲ活用シテ、其ノ適格者ヲ求メテ之ニ當ラシメル考デアアル、併シナガラ其ノ大綱ニ於テハ、政府ガ實權ヲ收メテ居ル必要ガアル、又純營利會社デナイ所ノ、本會社ニ於ケル民間資本ノ優遇ヲ圖ル爲ニハ、政府ノ半額ノ出資ノ下ニ特殊會社トスルコトガ適當デアルト考ヘタノデアアル、尙ホ石炭ノ賣買ニ要スル資金ハ、借入金デ賄ツテ行ケバ宜イノデアアル、又會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ増資出來ルカラ、其ノ點ハ差支ナイ、而シテ本會社ノ役員ニハ、特ニ會社カラ希望ガアツタ場合等ヲ除ク外ハ、官吏ヨリ

人ヲ出スコトヲセズ、民間有能ノ士ヲ以テ之ニ充テ、大イニ才幹ヲ振ハセテ、模範的ナ特殊會社ヲ作ル考デアルトノ答辯ガアリマシタ、第四ニハ、本會社ノ設立ニ依リ、中小石炭生産業者ハ、販賣先トノ從來ノ特殊關係ヲ絶タレ、爲ニ金融ノ途ヲ失ヒ、之ニ依ル社會問題ハ姑ク別トスルモ、國家ノ目的タル増産ニ向ツテ、却テ減産ノ結果ヲ來ス如キコトガナイカドウカ、茲ニ本案ノ一大缺陷アリト思フガ如何トノ質疑ガアツタノデアリマス、之ニ對シテハ、政府ハ本會社ハ買上ゲタ石炭ヲ直チニ買上ゲタ者ニ賣戻シ、而モ賣戻シタ石炭ノ配給ニ付テハ、全體ノ配給統制上支障ノナイ限リ、配給先ヲ變更スルコトハセヌ方針デアアル、又本會社ハ、其ノ事業トシテ石炭鑛業ニ對シ、事情ニ即シ、思切ツテ資金ノ融通及ビ投資ヲモ爲ス考デアルカラ、其ノ點心配ハナイトノ答辯デアツタノデアリマス、次ニ第五ニハ、石炭ノ配給ノ圓滑ヲ圖ル爲ニハ、陸海ヲ通ズル一元の輸送計畫ガナケレバナラヌ、殊ニ現在不足シテ居ル貯炭場、積卸シ施設、輸送用船舶等ノ新增設ヲ爲サネバナラヌガ、本會社ヲシテ之ヲ經營セシムル意思ガアルカトノ問ニ對シマシテハ、政府ハ陸海ヲ通ズル一元の輸送計畫ハ必ズ整備スル、亦本會社ハ必要ニ應ジ貯炭場、積卸シ施設、輸送用機帆船等ヲ所有シ、之ヲ運用シテ行クヤウニ、資金等モ特ニ考慮シテアルトノ答辯デアリマシタ、更ニ第六ニハ、會社ノ買取價格及ビ販賣價格ノ内容ノ說明ヲ要求スル、政府ハ「プール」平準價格制ヲ採用スルト言フガ、其ノ結果トシテハ生産者ノ創意ヲ喪失セシメ、事業經營ノ生命タル合理化、技術ノ改善等ニ對スル努力ヲ拋棄セシムルモノデハナイカトノ問ニ對シマシテ、政府ハ、買取價格ハ各炭鑛ノ生産條件ヲ考慮シ、相當段階ニ分チ、各段階ニ於テ炭質ニ應ジ之ヲ決定スル、又販賣價格ハ買上炭ヲ「プール」シ、會社ノ規格ニ依リ、同一市場ニ於テハ、産地ノ如何ヲ問ハズ、同一規格ノ石炭ハ同一價格トナルヤウニ決定スル、買取價格決定ノ際考慮スル生産費ハ、健全ナル事業經營ノ状態ニ於ケルモノヲ基準トスルコト勿論デアリ、隨テ各業者ハ益、事業經營ノ合理化、技術ノ改善等ニ對スル努力ヲ拂ヒ、利潤ノ増大ヲ圖ルコトトナルト信ジテ居ル、尙ホ買取價格及ビ販賣價格ハ、共ニ關係官吏、學識經驗者及ビ業者代表ヲ加ヘタ委員會ニ諮問シタル上決定スルコトトシテ、其ノ適正ヲ圖ル考デア

アルトノ答辯ガアリマシタ、最後ニ第七ト致シマシテ、増産ノ目標及ビ其ノ方策ハ如何、又勞務動員計畫ハ増産ノ必須條件デアアルガ、之ニ對スル計畫ノ内容ハドウカ、更ニ資材ノ優先的且ツ一元の配給方策ハ、増産ノ運命ヲ左右スルモノデアアルガ、其ノ内容ハドウナツテ居ルカ、尙又炭質低下ノ防止方法ニ付テ、特ニ方策アリヤトノ問ニ對シマシテ、増産ニ付テハ石炭需給ノ現狀ニ鑑ミ、可及的ニ多量ノ増産ヲ圖ル見地ニ於テ、過去ノ実績、石炭鑛業ノ實情ヲ檢討シ、目標ヲ決定シタノデアツテ、各種増産對策ノ實施ニ依リ、豫定數量ヘノ到達ニハ十分ノ確信ヲ有スル、又其ノ方法トシテハ、幾多ノ考慮ヲ加ヘテ居ルガ、其ノ中増産獎勵金、新坑開發助成金、石炭買取補償金等ノ如キハ、其ノ内容ノ一部ヲ成スモノデアアル、而シテ新坑開發助成金ハ、三箇年ニ互リ交付スル豫定デアツテ、増産獎勵金、買取補償金ハ、其ノ時ノ情勢ニ應ジ考慮セネバナラヌト考ヘル、又資材及ビ勞務ニ關シテハ、特ニ他ノ産業ニ優先シテ供給スルコトニ、既ニ政府ノ方針ハ確定シテ居リ、必要ニ應ジテハ資材配給ノ爲ノ機關ノ設置モ考慮スル、勞務對策トシテハ、半島人勞務者ノ移入増加ヲ圖ル外、勞務移動ノ防止、季節勞務ノ利用ニ努メ、尙ホ或ル他ノ措置ヲモ講ズル考デアアル、而シテ炭質低下ノ問題ニ關シテハ、從來炭價ガ品質ニ應ジ決定サレテ居ラナカツタノデ、今後ハ日本石炭株式會社ニ於テ規格ヲ定メ、之ニ應ジテ炭價ヲ決定スルコトトシ、炭價ノ決定ニ當ツテハ、良質炭ヲ有利ニナルヤウ考慮シ、炭質ノ低下ヲ防止スルト共ニ、法規ニ依リ、粗惡炭ノ市場流出ヲ禁止スルコトモ考慮シテ居ルトノコトデアリマシタ、右ノ外、石炭需給現狀ノ内容、將來ノ見透シ、増産所要ノ資材、勞務需給計畫ノ内容、將來ノ見透シ等ニ關シマシテ、嚴重ナル質疑ガアリ、之ニ對シ政府ヨリハ、二回ニ互リ秘密會ノ要求ガアリ、又屢、速記ヲ中止シテ、詳細ナル説明ガアリマシタガ、遺憾ナガラ其ノ秘密會ノ内容ヲ申上グル自由ヲ有シナイノデアリマス、斯クシテ質疑ハ終了致シマシタガ、尙ホ委員諸君ニ於カレマシテハ、満足セラレザル點モアリ、又修正等ノコトニ關シ、懇談會ヲ開クコト數回ニ及ビマシタ、本日午前十時開會ニ當リテ、私ヨリ改メテ各派ノ意向ヲ代表致シマシテ、左ノ各項ニ付キテ政府ノ言明ヲ求メタノデアリマス、而シテ政府ヨリハ、ソレ

之ニ對スル言明ガアリマシタガ、今之ヲ申述ベタイト存ジマス、三項目アリマスガ、其ノ第一ハ、私ヨリ金融投資ニ依リ生ズル損失補填ノ爲、特別ノ積立金ヲ設クル必要アリト認ムルガ、政府ノ所見如何、斯様ニ質シタノデアリマス、之ニ對シマシテ商工大臣ヨリ、金融投資ニ依リ生ズル損失ヲ補填スル爲、日本石炭株式會社ニ相當額ノ特別ノ積立金ヲ爲サシメル所存デアリマス、次ハ私ヨリ増産計畫ノ實施ニ關シ、適當ナル監査ノ方法ヲ設ケ、以テ月々其ノ實績ノ調査ヲ爲シ、不成績ナルモノノ原因ヲ究明シ、遲滞ナク適當ノ方策ヲ講ジ、増産ノ完遂ニ遺憾ナカラシムルノ要アリト認ムルガ、政府ノ所見如何、之ニ對シマシテ商工大臣ハ、政府ハ増産計畫ノ完遂ヲ期スル爲、十五年度追加豫算ニ於テ、技師三人、技手十人、屬十二人ヲ増加シ、之ヲ燃料局及ビ鑛山監督局ニ増置シテ、十分ナル監督指導ヲ爲スコトニ致シテ居リマス、尙ホ成績監査ニ關シ適當ナル方法ヲ考慮致シタイト存ジマス、斯様ニ答ヘマシタ、次ノ問ハ、日本石炭株式會社ノ買取價格ノ決定ニ當リテハ、昭和系、互助會系等ノ建値ノ差ヲ認ムル旨言明アリタルガ、右ハ石炭業ノ現狀ニ變更ナキ限り、繼續スベキモノト思料スルモ、政府ノ所見如何、斯様ニ質シマシタニ對シ、商工大臣ヨリ、政府ハ石炭業ノ現狀ガ持續セラルル間ハ、現在ノ昭和系、互助會系等ノ生産條件ノ差異ヲ認メ、之ニ依ツテ買取價格ヲ決定セシムル方針デアリマス、斯様ニ答ヘラレタノデアリマス、斯クシテ討論ニ入りマシタ所、民政黨ノ中井浩君ヨリ、各派ノ共同提案ニ係ル修正案ガ提出セラレマシタ、即チ同法案第十二條ノ第三項トシテ石炭鑛業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間日本石炭株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ之ヲ加フルトノ修正提議ガアリマシタ、尙ホ同法案ニ對シ、是モ各派ノ共同提案ニ成ル附帶決議ガ提出セラレマシタ、茲ニ附帶決議ヲ朗讀致シマス

附帶決議

- 一 勞務動員計畫ヲ整備シ以テ増産ニ違算ナキヲ期スヘシ
- 二 資材ノ一元的配給方策ヲ講スヘシ

三 海陸ヲ通スル一元的輸送計畫ヲ樹立シ其ノ運営ニ支障ナカラシムヘシ
 四 炭質低下ノ防止ニ關シ徹底セル措置ヲ講スヘシ
 五 鑛區ノ整理併合ヲ斷行シ經營ノ合理化ヲ圖ルヘシ
 六 炭鑛ノ災害豫防及救済ニ關シ適切ナル方途ヲ講スヘシ
 七 統制ニ支障ナキ限り石炭ノ配給ニ關シテハ既設及新規ノ炭鑛ニ對スル本法以外ノ金融投資關係ヲ尊重スヘシ
 八 中小炭鑛業者ニ對スル金融投資ヲ簡易敏速ニスヘシ

次ニ政友會ヲ代表セラレマシテ篠原義政君、次ニ又政友會ヲ代表セラレマシテ松尾孝之君ハ、何レモ第十二條ノ修正案竝ニ附帶決議ニ贊意ヲ表セラレタノデアリマス、次ニ社會大衆黨ヲ代表セラレマシテ加藤鐵造君ハ、第一條第三號ヲ削除スルト云フ別個ノ修正案ヲ提出セラレ、尙ホ第十二條ノ修正及ビ附帶決議ニハ贊成ノ意ヲ述ベラレマシタ、次ニ時局同志會ノ小池四郎君、第一議員俱樂部ノ長谷長次君モ、各派共通ノ修正案竝ニ附帶決議ニ贊意ヲ表セラレタノデアリマス、斯ク致シマシテ、討論ヲ終リ直チニ採決ニ入り、社會大衆黨ノ第一條修正案ハ少數ヲ以テ否決セラレ、各派一致ノ共同提案ニ係ル修正案ハ、滿場一致ヲ以テ修正議決致シ、次ニ修正ヲ除キタル原案ハ滿場異議ナク可決確定致シ、次ニ附帶決議ニ付テモ滿場一致ヲ以テ決定セラレマシタ、採決ヲ終リ、私ヨリ修正竝ニ附帶決議ニ對スル政府ノ所見ヲ求メマシタ所、商工大臣藤原銀次郎君ヨリ、修正案ニハ貴族院ニ於テモ同様ノ修正アリタル場合同意シ、附帶決議ハ十分ニ之ヲ尊重シテ實施ニ遺憾ナキヲ期スル旨ノ言明ガアリマシタ、以上ヲ以テ委員會ハ終了致シタノデアリマス、詳細ハ速記録ニ依リ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、右御報告ヲ申上グル次第デアリマス

議長ハ本案ニ對シ加藤鐵造君ヨリ修正案提出セラレタルニ依リ討論ハ便宜上第二讀會ニ於テ之ヲ許可スル旨ヲ告ク

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ修正案ノ趣旨辯明ハ之ヲ省略シ
討論ニ入り澤田利吉君、小山田義孝君、東條貞君及加藤鏡造君ハ委員長報告ニ賛成ノ演説ヲ爲
ス

澤田利吉君ノ賛成演説

私ハ只今上程セラレマシタル石炭配給統制法案ニ對シマシテ、立憲民政黨ヲ代表シ委員長ノ報
告ニ賛成スル者デアリマス、本案ノ骨子ハ、石炭ノ需給ノ圓滑及ビ價格ノ適正ヲ圖リ、配給ノ
統制、價格ノ統制、規格ノ統一等、圓滑ナル運營ヲ爲サントスルモノデアリマス、石炭ハ實ニ
一切産業ノ基礎的資源デアリマシテ、是ガ圓滑ナル配給及ビ價格ノ統制ガ完全ニ行ハルル所
ニ、初メテ我國ノ現在行ツテ居ル生産ノ擴充、低物價政策、此ノ實行ガ行ハレ、隨テ各般ノ産
業ガ完全ニ運營サレル基デアリマス、隨テ此ノ目的ノ下ニ出シタル所ノ政府ノ法律ニ對シ、其
ノ趣旨ニ對シテハ何人モ之ニ異存ヲ挿ムモノハナイノデアリマス、然レドモ其ノ實際ノ事業ヲ
行フニ當リマシテ、過去ノ獨善的ナ官僚等ノ容易ニ行ヒ得ザル困難ガ多分ニアルノデアリマ
ス、殊ニ過去ノ國策會社、是ノ結果ニ對シテハ、世上既ニ定評ガアツテ、萬一此ノ運用ヲ誤ツ
タナラバ、増産セネバナラヌ所ノ、其ノモノガ却テ減産トナリ、配給ガ宜シキヲ得ヌト云フコ
トニナリマス、茲ニ産業上ノ一大不幸ヲ見ルノデアリマシテ、茲ニ吾々ハ委員會ニ於テ其ノ
點ニ對シ、十分政府ニ對シ追究等ヲ致シタノデアリマス、此ノ點ニ關シマシテハ、藤原商工大
臣ハ責任ヲ以テ此ノ目的ヲ達スルト、斯様ニ言ハレテ居リマス、吾々固ヨリ藤原商工大臣ノ人
格ト、其ノ經濟的手腕ニ信頼スル者デアリマスガ、内閣ノ生命ハ決シテ永久デアリマセヌ、
大臣ハ此ノ事業ノ重要性ニ考ヘマシテ、先ヅ會社ノ重役ノ選定ニ關シマシテハ、責任ヲ以テ言
明セラレタル通り、民間有能達識ノ士ヲ之ニ選拔セラレマシテ、其ノ事業ヲ行フ上ニ於キマシ
テハ、敏活ニ圓滑ニ所期ノ目的ヲ達セララルルコトヲ特ニ希望致シマス、尙ホ種々ナル點ニ對シ

マシテハ、八箇條ノ希望決議ヲ爲シテアリマシテ、ソレ等ノコトニ對シテハ、敢テ贅言ヲ申述
ブル必要ガナイト思ヒマスガ、何ト致シマシテモ、此ノ問題ヲ完全ニヤルト云フ所ニ、ソコニ
支障ナリト考ヘラレルコトハ、勞働力ガ果シテ十分ニ得ラルルカ、資材ガ果シテ十分ニ得ラル
ルカト云フ、此ノ二點ハ最モ中心問題トシテ考ヘラルル問題デアリマス、政府ハ此ノ勞働者ニ
對シマシテハ、半島ヨリ勞働者ヲ移入シ、傍ラ農村或ハ漁村ノ有閑期ニ之ヲ移動致シテ、サウ
シテ是等ノ計畫ニ依ツテ、大體ノ目的ヲ達シ得ルコト云フ者ヲ持ツテ居ラレルノデアリマス、併
シナガラ既ニ現在ニ於テ農村及ビ漁村ニ於ケル所ノ、勞働力ノ極度ニ不足ヲ告ゲテ居ルト云フ
コトハ御承知ノ次第デ、萬一何等ノ計畫ナクシテ、徒ニ此ノ方面ノ勞働者ヲ引抜クト云フコト
ニナリマス、ソコニ又由々シキ問題ガ起キマスカラシテ、此ノ點ハ十分ニ考ヲ致サレナケ
レバナリマセヌ、今十五年度ニ於ケル所ノ六百萬噸ノ増産ヲ目的トスル、ソレニハ約三萬七千
人ノ勞働者ガ要ルノデアリマスガ、是トテモ亦容易ナ業デアリマセヌ、又從ニ勞働者ノ數ヲ
増シテ、ソレニ依ツテ萬事足レリトスルカト申シマス、唯單ニ勞働者ノ數ヲ増スノミニ依ツ
テ、是ガ達セラレルト考ヘルコトハ、頗ル危険デアリマス、最近ノ統計ニ依リマス、鑛山勞働
者ノ一箇月ニ於ケル所ノ働ク日數ガ段々ト下リマシテ、今僅ニ一箇月ノ中十七八日間シカ働イ
テ居リマセヌ、隨テ一人當ノ採炭量ト云フモノハ、段々ト下ツテ來テ、昭和十一年ニハ一年一
人當二百一十一噸、昭和十二年ニハ二百三噸、昭和十三年度ニハ百九十七噸ト、年ト共ニ低下致
シテ居ルノデアリマス、其ノ原因ハ種々アリマスガ、雇主ガ互ニ勞働賃金ノ關取引ヲ爲シテ、
勞働者ノ爭奮ニ狂奔スルノモ、亦一ツノ大キナ理由デアリマス、其ノ結果トシテ、炭礦勞働者ガ
假ニ二十五萬アルトシマス、其ノ二十五萬人ハ一年ニ全部移動シテ居ルト云フ有様デアリマ
ス、是ハ勞働者モ資本家モ共ニ過去ノ自由經濟主義思想ニ依ル所ノ一ツノ弊風デアリマス、此ノ
ヤウナ有様ニ於テ、唯如何ニ人ノミヲ増シマシテモ、到底増産ト云フモノハ覺東ナイノデアリマ
ス、殊ニ來年、再來年ト、年ト共ニ其ノ増産ノ必要ヲ痛感スル時、果シテ斯ノ如キ多數ノ人ガ得ラ
レマセウカ、此ノ點ニ對シテ爲政家ハ十分思ヲ致サナケレバナラヌノデアリマス、即チ自由經濟

時代ニ於ケル労働者ニ對スル觀念即チ金錢ノ力ヲ以テノミ使役シ得ルト云フ觀念ヲ改メテ、人格的ニ之ヲ遇スル途ヲ考ヘナケレバナラヌデアリマス、殊ニ最近ノ統計ニ依リマス、石炭百万噸ヲ採掘スル爲ニ蒙ル死傷者ノ數ハ、一箇年ニ死者二十三人、負傷者ガ千四百九十七人トナツテ居リマスカラ、假ニ一箇年六千万噸ヲ要スルトスルト、一箇年ニ其ノ爲ニ死スル人ノ數ガ千二百八十人、負傷スル者ガ實ニ八万九千八百二十人ト云フ、此ノ尊キ犠牲者ヲ出シテ居ルノデアリマス、我ガ國家産業隆昌ノ蔭ニ、此ノ實ニ尊イ犠牲者ガアルト云フコトヲ忘レテハナリマセヌ、是ニ於テ政府ハ先ヅ災害防止ト云フ點ニ十分ノ力ヲ入レラレマシテ、是ガ救済ノ方途ヲ講ゼンケレバナラヌデアリマス、又一面ニ於テハ、是等ノ優良ナル労働者ニ對シテハ、産業戰士トシテ勳章ニ準ズベキ産業功勞章ト云フ如キ制度ヲ設ケマシテ、之ヲ表彰スルト云フ點ナドヲモ特ニ考慮ヲ拂ヒ、其ノ他住宅ノ改善、娯樂ノ設備、或ハ文化施設等、精神的ニ慰メヲ與ヘマシテ、労働者ガ自發的ニ労働スルコトガ、是ガ國家ニ御奉公デアアルト云フ、労働報國ノ精神ニ生キテ、自ラ勇ンデ労働ニ從事スルヤウニシナケレバ、將來ノ眞ノ鑛業ノ發達ヲ望ムコトハ出來ヌト思ヒマス、隨テ労働立法モ亦過去ノ所謂自由經濟時代ニ於ケル精神ニ依ツテ制定セラレタ労働立法ハ、時代ノ變化ト共ニ自ラ再認識スル必要ガアルト私ハ考ヘマス、又次ニ資材ノ問題デアリマスガ、此ノ資材ノ配給ニ付テハ、政府ハ此ノ事業ニ對スル所ノ優先ヲ十分ニ認メルト共ニ、鑛山ノ機械化ヲ圖ルト云フコトニセンケレバ、今マデノ低賃銀ヲ土臺トシテ、勞力ノミニ依リテ石炭ヲ掘出スト云フ時代ハ、既ニ過ギタト思ヒマス、此ノ點ニ對シテモ十分ニ御考ヲ願フト共ニ、中小鑛業者ノ金融問題デアリマス、御承知ノ通り現在中小鑛業者等ハ、青田賣等ノ如ク、石炭ヲ先賣シマシテ、金融ノ途ヲ開イタリスルコトヲ居ル事實ガアリマス、是ガ若シ此ノ會社ガ出來マシテ、銀行ノヤウナ取扱ヲスルニ至リマシテハ、是等ノ方向ノ石炭ノ産額ハ、全ク減退スルノデアリマスカラ、此ノ會社ノ實情ヲ十分認識スルト共ニ、是等ノ人々ニ對スル資金ノ融通ニ對シテハ、今マデノオ役所的ノヤリ方デナク、大膽ニ而モ簡易ニ是等ノ貸付ヲ行ヒマシテ、營業ニ支障ナイヤウニ圖ラレンコトヲ特ニ申上ゲテ置キマス、ソレカラ兎

モスルト炭質ノ低下ヲ惧ルルノデアリマスガ、例ヘバ六千「カロリー」ヲ基礎トスルナラバ、唯石炭ノ量バカリ出マシテモ、現在往々耳ニスル如ク、或ハ四千「カロリー」或ハ三千「カロリー」ト云フコトニナリマス、貴イ運輸力ガ、唯徒ニ石ヲ運ンデ居ルニ等シイ状態ニナルノデアリマスカラ、此ノ炭質ノ検査ニ對シテモ、亦嚴重ニ爲サンコトヲ希望致シマス、時間ガアリマセサレマシテモ、海陸運輸連絡ノ設備ガ完全致シテ居リマセヌト、配給ノ圓滑ヲ圖ルコトハ出來ナイノデアリマス、將來ノ石炭増産ハ、先ヅ九州ヨリ懸テ北海道或ハ樺太ト云フ方向ニ進ミツツアルノデアリマス、先般石炭飢饉ヲ救フ爲ニ、政府ハ非常ニ心配セラレテ、北海道ニ澤山石炭ガアルト云フノデ、小樽ニ二十數艘ノ大キナ汽船ヲ押寄セタノデアリマス、然ルニ港灣ノ設備ガ完全致シテ居リマセヌカラ、其ノ多數ノ船ハ徒ニ繫留致シ、或ハ不足ナル労働力ヲ盛ニ動カスナドシテ、遂ニ労働賃銀ハ七圓マデ上ツタ、石炭ノ運搬ニ時間ヲ要シタノミナラズ、其ノ結果トシテ地方ノ有ユル部面ニ對シテ、非常ナ損害ヲ與ヘタノデアリマス、デアルカラ是等ノ事情ヲ考ヘマシテモ、石炭ノ積出等ニ對スル要所ノ港灣ノ築設ニ對シテ、十分ニ御考ニナラナケレバイケマセヌ、今マデノ役人ガ、總テガ命令デ統制ガ行ハレルヤウニ考ヘテ居ルコトハ、大キナ間違デアリマス、今日物價政策ニ對スル失敗ハ何デアルカ、國民ノ所謂役人ニ對スル信用ノ失墜デアリマス、眞ニ國民ニ對シテ、國家ガ何ガ故ニ此ノ低物價政策ヲ堅持シナケレバナラヌカト云フ眞ノ意味ヲ、膝ヲ交ヘテ是ト語ルナラバ、彼ノ大陸ニ尊キ命ヲ捨テテ惜マザル所ノ我ガ忠愛ナル國民ガ、何ガ故ニアノ關取引ヲ敢テ爲スカ、即チ國民精神總動員ト云フモノガアリマスレドモ、ソレハ殆ド死物デアリマス、唯政府ハ命令ニ依ツテ事ガ行ハルルヤウニ考ヘテ居リマスガ、殊ニ石炭ヲ掘出ス人ノ數ト云フモノハ、凡ソ二十五万乃至三十万アリマセウ、此ノ人々ガ眞ニ我等ハ尊キ國家ノ産業ノ爲ニ盡スノデアツテ、唯一塊ノ石炭ヲ掘ツテモ、ソレガ事變下ニ於ケル所ノ、尊キ國家ノ産業ノ爲ニ働クノダト云フ、此ノ觀念ガ若シ與ヘラレタナラバ、増産ノ一割ヤ二割ハ易々タルモノデアアルト考ヘマス、私ハ終リニ臨ンデ商工大

臣ニ此ノ際申上ゲマスガ、大臣ハ自ラ陣頭ニ立ツテ、全國ニ行脚シテ、勞働者ト共ニ、如何ニスレバ現下ノ増産ヲシ得ルカ、膝ヲ交ヘテ談ジ、勞働報國運動ノ第一線ニ立チ、茲ニ所謂新シキ日本、皇國日本ノ新シキ新勞働運動ニ起タレルコトヲ希望致シマス、私ハ此ノ事タル藤原商工大臣ニシテ、初メテ爲シ得ラレルト云フコトヲ痛感スルノデアリマス、石炭ノ豐富ナル、石炭ノ餘ツタ時代ニハ、石炭ノ有難サハ分ラナカツタガ、愈、石炭ガナクナツテ見ルト、如何ナル産業モ此ノ石炭ガナクテハ何物モ出來ナイ、肥料モ出來ナイ、「カーバイド」モ出來ナイ、總テノ化學工業ガ出來ナイ、先ヅ只今石炭ノ生産ノ擴充ヲ圖リ、此ノ價格ノ統制ト相俟ツテ、配給ヲ潤澤ニスル所ニ、懸テハ今日有ユル物ノ不足デアルト歎セラレテ居ル、其ノ歎聲ヲ絶ツ時ガ來ル、我ガ日本ハ物ガ足ラヌ如ク各國ニ宣傳セララルル其ノ宣傳ガ、懸テ氷解セラレルノデアツテ、此ノ事業ノ達成ハ、實ニ聖戰目的ノ達成ノ爲ノ根本ノ問題デアリマス、隨テ吾々ハ此ノ法律其ノモノハ、洵ニ漠タル法律デアリマシテ、唯法律ヲ表面カラ解スル時、是ハ否決スルカ、已ムヲ得ズンバ可決スルカト云フ風ニ考ヘルノデアリマスケレドモ、法ハ死ンデ居リマシテモ、運用スル人ニ依ツテ其ノ法ハ活キテ參リマス、ドウゾ國家ノ爲ニ商工大臣ハ健在デアリ、此ノ法ノ運用ヲ完全ニ行ハレテ、サウシテ此ノ目的ノ達成セラレンコトヲ希望シ、茲ニ本案ニ賛成ノ意思ヲ表明スル次第デアリマス

小山田義孝君ノ賛成演説

私ハ所屬政黨ヲ代表致シマシテ、石炭配給統制法案ニ對スル委員長ノ報告ニ賛成ヲ致ス者デアリマス、今其ノ趣旨ノ辯明ヲ致シタイト思ヒマス、石炭ハ申スマデモナク、有ユル産業ノ源泉デアリマシテ、隨テ其ノ需要供給ノ調節ハ、全産業ノ有機的活動ニ缺クベカラザル條件デゴザイマス、然ルニ我國今日ノ石炭ノ需給關係ヲ見マスルニ、極度ノ逼迫ト混亂ヲ呈シテ居ルノデゴザイマス、石炭不足ノ爲ニハ電力ハ制限セラレ、有リ餘ル生産設備ト大ナル需要ヲ有シナガラ、已ムナク生産ヲ「ストップ」シナケレバナナイト云フヤウナ現状ニ置カレテ居ルノデア

リマス、生産力擴充ガ何ヨリモ緊要デアリマス此ノ場合ニ於キマシテ、之ヲ阻碍シテ居リマス所ノ重大ナル原因ノ一ツハ、石炭ノ不足ト電力饑饉デアルト言ハナケレバナナイトデアリマス、「セメント」ノ減産然リ、硫酸肥料ノ減産亦然リデアリマス、是等ハ其ノ最モ顯著ナル事例デハアリマスガ、有ユル重要物資ノ減産又ハ不足ハ直接間接ノ別ハアリマスケレドモ、一ツトシテ石炭ノ不足ニ負ハナイモノハナイノデアリマス、洵ニ石炭ノ問題ハ、今日全産業界ヲ擧ゲテノ焦眉ノ急ヲ告グル問題デゴザイマシテ、國民生活ヲ根柢カラ搖ガス所ノ重大問題デアアルノデゴザイマス、而シテ此ノ石炭配給統制法ニ依ル所ノ増産計畫ハ、政府ノ所謂低物價政策ト生産力擴充ト云フ、我國現下ノ統制經濟ノ進行過程ニ於ケル、此ノ二大政策ノ遂行ニ當ツテ、其ノ矛盾ヲ調節スル所ノ、唯一ツノ方法トシテ來タモノデアリマス、今日マデノ政府ノ石炭政策ヲ見マスルニ、配給ト消費ノ兩方面ニ對シマシテハ、稍、積極的デアツタノデアリマスケレドモ、増産對策ト致シマシテハ、一昨年ノ暮近クナツテカラ、坑木ノ配給ヲ圓滑ニスルトカ、或ハ勞働者ヲ優先的ニ配給スルトカ、或ハ又努力資材ノ配給ニハ、軍需會社ト同等ニ取扱フト言フダケデアリマシテ、極メテ消極的デアツタノデアリマス、從來ノ生産力擴充計畫ハ、軍需産業ノミノ擴充デアリマシテ、石炭ハ軍需産業ノ基礎的物資トシテ、第二義的ニ取扱ハレテ居ツタノデアリマス、然ルニ石炭企業ノ設備ハ、事變前ニ於キマシテモ、殆ド「フル」ニ運轉サレテ居リマシタニモ拘ラズ、石炭ヲ軍需品同様ニ取扱ヒマシテ、必要ナル資材ヲ優先的ニ配給スルコトヲ認メマシタノハ、ヤツト昨年後半期カラデアリマス、而シテ石炭増産對策要綱ナルモノガ決行サレマシタノガ、昨年ノ十月初旬デアリマス、大體戰時下ニ於ケル所ノ、石炭ノ異常ナル需要増加ヲ豫期シテ、増産計畫ヲ圖ラナケレバナナイト云フコトハ、是ハ一昨年頃カラ既ニ問題ニナツテ居ツタコトデアリマスガ、最近ノ電力飢饉ガ、石炭ノ増産對策ノ重要性ヲ、今更ノヤウニ政府當局ニ認識サセタカノヤウナ感じガアリマシテ、是ハ甚ダ立遅レノ感ガアルト同時ニ、歴代ノ政府ノ怠慢デアルトモ言ハナケレバナラヌノデアリマス、石炭ガ一昨年ノ九月ニ値下ヲ餘儀ナクサレマシテカラ、努力、資材ノ不足ト相俟ツテ生産ハ停頓シ、漸次減

産ノ方向ニ逆轉シテ參リマシタコトハ、今日見ル如キ石炭飢饉ノ最大原因デアリマス、是ハ見
 ヤウニ依リマシテハ、政府ノ公式的、觀念的ノ低物價政策破綻ノ好箇ノ實例デアルトモ見ラ
 ルノデアリマスガ、炭礦業者ト致シマシテハ、炭價ノ引上ニ依ツテ高クナリマシタ生産費ヲ
 償ハナケレバ、到底増産ハ出來ナイト主張シテ居ル點ニモ、一應ノ根據ハアルカト思ハレマ
 ス、ト言ヒマスノハ、彼ノ近衛内閣當時ニ於キマシテ、當時ノ商工大臣池田成彬氏ガ、低物價
 政策ノ出發點トシテ、先ヅ何ヨリモ最初ニ價格ノ引下ヲ行ツタノハ石炭ト鐵デアツタノデア
 マス、其ノ際他ノ一般物價モ漸次引下ゲルト云フ建前ヲ執ツタノデアリマスガ、其ノ後石炭ト
 鐵以外ハ一齊ニ騰貴シタノデアリマス、ソコデ阿部内閣ノ時代ニ至リマシテ、已ムヲ得ズ昨年
 ノ九月、所謂九・一八價格停止令ヲ發シマシテ、一般物價ト賃金ノ釘付ヲ策スルニ至ツタノデ
 アリマスガ、今日ハ無力化シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、隨テ生産「コスト」ハ上
 ル一方デアリマスガ、石炭ノ値段ノミハ獨リ据置カナケレバナラヌト云フコトデハ、勢ヒ減
 産、炭質低下ノ問題ヲ惹起スルノハ、當然デアルト云フノデアリマシテ、此ノ際低物價政策ト
 生産力ノ擴充トノ調和ヲ圖ルニハ、一般物價水準ノ全體ニ對シテ壓力ヲ加ヘナケレバナライノデ
 ハアルガ、石炭ト云フヤウナ生産ノ基礎的物價ニ付キマシテハ、増産ヲ刺戟スル爲ニ非常ナ値
 上ヲヤルベキデアツテ、ソレニ依ツテ増産ノ目的ガ達成スルナラバ、石炭ノ値段モ、延イテハ
 一般物價モ、自然ニ低位ニ保タレルト云フノデアリマス、換言スレバ生産力擴充第一主義ニ依
 リマシテ、物資需給關係ノ均衡ヲ保タシメマシテ、其ノ結果トシテ低物價ノ目的ヲ達シヨウトス
 ル理論デアリマス、斯ル民間業者ノ炭價引上論ガ、果シテ議論通りニ低物價政策ノ遂行ニ役
 立ツモノナラバ、勿論文句ハナイノデアリマスケレドモ、炭價ノ引上ニ依ツテ、果シテ石炭ノ
 増産ニ、ソレ程大キナ期待ガ持タレカドウカト云フコトハ、是亦甚ダ疑ハシイノデアリマ
 ス、即チ現在ノヤウニ努力、資材、輸送關係、其ノ他ノ條件ニ於テ、大ナル制約ヲ受ケナケレ
 バナラナイ場合ニアリマシテハ、唯單ニ價格ヲ引上ゲマシテモ、ソレダケ増産ガ期待出來ルモ
 ノトモ吾々ハ考ヘラレナイノデアリマス、殊ニ石炭工業ノ如ク固定資本ノ設備ガ嵩ンデ、而モ資

金回轉ノ比較的緩慢ナル事業ニ於キマシテハ、少シ位ノ値段ノ引上ナドデハ速急ニ、敏速ニ増産
 ヲ刺戟シ得ラレルトハ思ハレナイノデアリマス、斯ノ如ク業者ニ對シテヨリ以上ノ利潤ヲ與ヘル
 場合ニ、效果ガ擧ラナイ炭價ノ引上ト云フコトニ對シテハ、勿論贊成スルコトガ出來ナイバカ
 リデハナク、惡クスレバ現在ノ物價體系ヲ根柢カラ覆ス虞ノアリマスルコトニ想到致シマスレ
 バ、深ク考慮ヲ要スベキ問題デアルト思フノデアリマス、ソコデ價格引上ニ依ラズシテ、而モ引
 上ト實際上殆ド同様ナ結果ヲ齎スベキ方策トシマシテハ、本法ノ如キ補助金制度ニ依ル所ノ増産
 計畫ト云フコトガ、一應考ヘラレルト云フノデアリマスルガ、然ラバ此ノ制度ニ依ル所ノ増産計畫、
 即チ此ノ石炭配給統制法ニ依リマシテ、果シテ政府ノ「プラン」通りニ、六百萬噸ノ増産ガ出來
 ルカドウカト云フコトニ對シテハ、吾々ハ又少ナカラザル不安ヲ抱カザルヲ得ナイノデアリマ
 ス、本法ハ御承知ノヤウニ石炭増産對策トシテ、増産獎勵金、新坑開發助成金、又ハ石炭買取
 補償金ノ交付ト云フ、三本建ニ依ツテ其ノ實績ヲ期セントスルモノデアリマスガ、私ハ本法ニ
 對シテ固ヨリ全幅ノ信頼ト期待ハ持チ得ナイノデアリマシテ、寧ロ少カラズ不安ヲ抱クモノデ
 アリマス、第一増産ニ主要ナル條件トシテ、努力、資材ノ供給ヲ確保スルト云フコトハ、申ス
 マデモナイコトデアリマスガ、今努力ノ需給關係ニ付テ考ヘテ見マスルニ、事變以來多數熟練
 鑛夫ノ應召者ヲ出シテ居ル外ニ、軍需股賑産業等ニ依ツテ、地下労働カラ漸次地上労働ニ向ツ
 テ、多數移動シテ居ル狀況ニアルノデアリマス、從來ハ團體訓練ヲ經タ在郷軍人ヲ多ク使ツテ
 居ツタ關係上、應召者ガ比較的多カッタノガ、其ノ補充ニ素人ヲ得タ爲ニ技術ガ著シク低下シ
 タト云フコトハ、是ハ免レナイコトデアリマス、同時ニ人間一人當リノ出炭量モ漸次減産スル
 ニ至ツテ居ルノデアリマス、北海道、樺太方面ニ多ク見ラレマスル彼ノ季節労働者ガ、農村ノ好
 況ニ依リマシテ、豫定日數ヲ早ク切上ゲル者ノ多イコトナドヲ見マシテモ、努力不足ニ拍車ヲ
 加ヘテ居ルヤウナ狀況ニ相成ツテ居ルノデアリマス、坑内労働ハ、地下數十尺或ハ數百尺ノ地
 下労働ト云フ特殊労働ノ外ニ、賃金モ他ノ軍需産業ニ比ベマシテ、決シテ良好デアルトハ言ヒ
 難イノデアリマス、是等移動鑛夫ノ補充ハ、非常ナ困難ガ伴ツテ居ルノデアリマス、是ガ對策

ト致シマシテ、半島人ヲ入レテ居ルノデアリマスルガ、一月中旬マデニハ約一万五千人ヲ各炭礦ニ割當テマシテ、今後モ續々入坑スル豫定ノヤウデアリマスルケレドモ、是等ノ半島労働者ガ、採炭作業ヲ習得致シマシテ稼業ニ就クマデニハ、相當長イ日數ヲ要スルノデアリマス、差當ツテノ増産ニハ、果シテドノ位ノ期待ガ出來ルカト云フコトハ、甚ダ疑ハシイノデアリマス、又本年度、即チ十五年ニ於テハ、政府ノ計畫通り六百万噸増産ノ爲ニハ、現在ノ採炭能力ヲ有スル鑛夫ガ、常時四万人増員サレテ居ラナケレバナラナイト云フコトヲ併セテ考ヘテ見ルト、政府ノ勞務動員計畫ガ、果シテ實際ニ此ノ需要ヲ滿シ得ルカドウカト云フコトハ、甚ダ疑問トシナケレバナラナイノデアリマス、其ノ上有ユル資材ノ確保ト云フコトガ、是亦極メテ困難ナル事情ニアルノデアリマス、現在ニ於ケル炭礦用資材ノ供給状態ヲ見マスルニ、鐵銅材ニ於キマシテハ、所要數量ノ約五割、「カーバイド」ノ供給數量ハ、需要數量ノ四割以下ニ激減シテ居ルノデアリマス、其ノ他地下足袋ノ如キモ、昨年十月時分ノ割當ニ依リマス、鑛夫二人六分ニ對シテ一足ノ割當デアアル、斯様ナ配給量ヲ以テシマシテハ、甚シイ供給不足ニナルノデアリマス、斯ル状態デハ坑内夫ノ勞働能率ニ非常ナ影響ノアリマスコトハ、申スマデモナイノデアリマシテ、其ノ他坑木、綿製品、「セメント」、「マニラ・ロープ」、護謨製品等ノ必要物資ハ、共ニ甚シイ供給不足ノ現狀ニ置カレテ居ルノデアリマス、而シテ政府ノ勞務動員計畫ニ依リマシテ、増産ノ爲ノ炭礦労働者ノ激増シタ場合、果シテ此ノ需要ヲ滿シ得ルカドウカト云フコトモ、甚ダ心許ナイ感ジガ致サレルノデアリマス、成程政府ニ於キマシテハ、石炭増産ノ爲ノ必要ナ資材ノ配給ヲ「パーセント」ニ認メマシテ、物動計畫ノ中ニモ之ヲ優先的ニ配給スルノ方針ヲ執ラレルヤウニ拜承致シマシタガ、是ハ甚ダ結構ナコトデアリマスケレドモ、他ノ産業ヲ犠牲ニシテマデ、果シテドノ程度ニ優先權ヲ認メルカト云フ、此ノ實際問題ニ付キマシテハ、吾々一派ノ不安ナキヲ得ナイノデアリマス、此ノ努力資材ノ供給ニ付テ、萬端手落ちナク慎重ニヤラナケレバ、勢ヒ無理ナ増産ヲ強行スルト云フ結果ニナリマシテ、生産サレマスル石炭ガ半面ニ於キマシテ粗惡化スルト云フコトニモナルデアリマシテ、増産獎勵金ヲ交付シテ粗

惡炭ノ出炭ヲ獎勵スルト云フ逆作用ヲ惹起シテ、實際的ニハ減産ノ危險サヘアルノデアリマス、夥シイ種類ノ石炭ニ對シ、又數ノ多イ何百ト云フ炭礦ニ對シテ、一砲四圓ト云フ獎勵金ヲ交付スルト云フコト自體ガ、既ニ粗惡炭ノ獎勵ニ墮スル危險ヲ包藏シテ居ルノデアリマシテ、此ノ粗惡炭生産ノ防止ニ付キマシテハ、徹底的措置ヲ講ジテ違算ナキヲ期サナケレバナラナイト考ヘマス、即チ炭質ト炭礦ノ實情ヲ究メマシテ、其ノ資格ニ應ジテ、其ノ間適宜ニ等級ヲ定メルコトニ依ツテ、獎勵金交付ノ合理化ニ努メナケレバナリマセヌガ、二千以上モノ石炭ノ種類ニ對シテ、檢炭檢量ノ正確ヲ期スルト云フコトハ、是亦極メテ至難ノコトノヤウデアリマシテ、現在ノ鑛山監督局ノ能力ヲ以テシテハ、果シテ所期ノ成績ヲ擧ゲ得ルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、少カラズ疑ナキヲ得ナイノデアリマス、又新坑開發ニ對スル助成金トシマシテハ、坑道掘進一米ニ付キ三十五圓ヲ交付スルコトニナツテ居リマシテ、總額千六百八十万圓ヲ計上サレテ居ルノデアリマス、新坑開發ハ先ヅ炭礦業者ヲシテ其ノ机上計畫ヲ提出セシメ、之ヲ審査シタル上、合格シタルモノニ付テ、更ニ實地調査ヲ爲シテ決定スルモノデアリマスガ、手續ガ非常ニ煩雜デアツテ、到底迅速ナル取運ビハ期待シ得ナイト云フ憾ガアルノデアリマス、助成金千六百八十万圓ハ一米三十五圓ノ助成金トスレバ、總延長四十八万米トナルノデアリマス、之ヲ一鑛區平均四百米著炭トスレバ、實ニ千二百ノ新シイ鑛區ヲ開發スルコトニナルノデアリマシテ、其ノ開發ニ要スル所ノ費用ハ蓋シ莫大ナルモノガアリマス、ソレガ爲ニ炭礦業者ハ巨額ノ資金ヲ必要トスルノデアリマスガ、大炭礦業者ハ別ト致シマシテモ、中小炭礦業者ニ對スル金融ノ途ガ十分ニ且ツ迅速ニ取計ハレナケレバ、當業者ハ政府ニ協力シヨウトシテモ、事實協力シテ行ケスト云フ結果ニナルノデアリマスルカラ、此ノ點ニ付キマシテハ、尙ホ一段ノ御留意ヲ願ハナケレバナラナイト思フノデアリマス、尙ホ此ノ金額ノ問題ニ付キマシテハ、本案ノ配給統制ノ範圍内ニ於キマシテ、從來ノ取引關係ヲ認メルコトニ依ツテ、中小炭礦業者ノ増産ヲ圖ルト云フコトニ付テモ積極的考慮ヲ煩サナケレバナラナイト思ヒマス、買取補償金ニ付キマシテハ、生産費高ノ爲ニ採算不引合ノ石炭ヲ、「プール」平準價格ニ依ル販賣價格

ヨリモ高價ニ買取ルモノデアリマシテ、實質的ニハ炭價ノ値上ヲ誘致スルモノノヤウデアリマ
 スガ、應當リ平均一圓四十錢ノ損失補償ニ依ツテ、三千二百萬噸トシテ之ヲ買取ルト云フノデ
 アリマスケレドモ、尙ホ此ノ外ニモ生産「コスト」高ノ相當數量ノ石炭ガ出テ、買取補償金ノ恩典
 ニ浴シ得ナイト云フモノガアリマシタ場合ハ、全面的ノ増産ヲ期待シ得ナイト云フコトニナルノ
 デアリマスカラ、斯ル場合ニ對スル處置ニ付キマシテハ、十分考慮サレナケレバナラナイト思
 フノデアリマス、次ニ石炭増産計畫ト不可分ノ關係ニアリマスル輸送ノ問題デアリマス、殊ニ
 船舶運輸トノ關係ニ付テ、政府ノ注意ヲ喚起スル必要ガアルト存ジマス、今日ノ増産計畫ガ、
 計畫通りニ實現ヲ見ルコトニナリマシテモ、其ノ増産セル所ノ石炭ハ、之ヲ運搬スルコトガ出
 來ナイデ、各地ノ積出港ハ捌クコトノ出來ナイ石炭ノ山ヲ以テ埋マルヤウナ、從來ノ輸送ノ混
 亂状態ヲ繰返スヤウナコトデハ、折角ノ増産モ何等ノ效果モナイト云フ結果ニナルノデアリマ
 スルカラ、再ビ斯様ナ失態ノナイヤウニ、海陸ヲ一貫セル一元の輸送計畫ヲ立テマシテ、運輸
 ノ圓滑ヲ圖ラナケレバナラナイト思ヒマス、其ノ他増産計畫ノ強行ハ、勢ヒ設備ノ不完全、
 或ハ無理ノ伴ヒマスル場合ノ多イ關係カラ考ヘマシテ、災害ノ頻發スル危險ガ多イモノト見ナ
 ケレバナラナイノデアリマス、是等災害ノ頻發ニ依ツテ、努力ノ吸收ガ計畫通りニ進行セヌコト
 トモナリマスレバ、増産計畫ノ一大支障ヲ結果スルコトアルベキヲ留意シテ、資材配給ノ圓滑
 ヲ期スルト共ニ、坑内設備ノ全キヲ圖リ、他面勞働條件ノ向上ニ依ツテ、銃後産業戰士トシテ
 ノ能率ノ向上ニ努力シナケレバナラナイト考ヘル者デアリマス、石炭増産對策トシテ此ノ法律
 ハ、固ヨリ萬全ヲ期スルモノデハナク、幾多ノ缺陷ヲ包藏スルモノト思フノデアリマスガ、差
 當ツテハ、焦眉ノ急ニ適應セントスル、臨時應急ノ手段ト致シマシテ、之ヲ認メザルヲ得ナイ
 ノデアリマス、此ノ際ト致シマシテハ、官民ハ一體トナツテ、此ノ法律ノ缺陷ヲ補修シ、其ノ
 運用ニ協力シテ、石炭饑饉ノ解消ニ向ツテ對處シナケレバナラナイト考ヘマス、政府トシマシ
 テモ、今度コソハ官民協力シテ事ニ當ラウトシテ、日本石炭株式會社ノ役員ノ如キモ、民間ノ
 「エキスパート」ヲ之ニ當テテ、其ノ實際的經營ヲ一任シヨウト決意シテ居ルヤウナ次第デアリ

マスルカラ、吾々ハ此ノ際小異ヲ捨テテ大同ニ就キ、眞ニ國家ノ利益ノ上ニ立ツテ、一砲デモ
 多クノ良イ石炭ヲ生産スルコトニ協力シナケレバナラナイト信ズル者デアリマス、而シテ石炭
 當面ノ増産對策ハ、本法ニ依リマシテ假ニ實現ヲ見ルト致シマシテモ、今後長期ニ亙ル恆久
 的、根本的ノ石炭計畫ニ付キマシテハ、此ノ法律ノ實施ダケデハ全ク不十分デアアルノデゴザイ
 マス、政府ハ竿頭更ニ一步ヲ進メマシテ、既設炭礦會社ノ合同デアルトカ、或ハ炭礦區ノ整理ト
 云フコトニ付テ、一段ノ考慮ヲ拂ハレマシテ、將來ノ増産ニ資スル所ガナケレバナラナイト考
 ヘマス、更ニ根本的ニ視野ヲ擴大スル大ラバ、増産、需給關係調節ノ要件トシテ、石炭資源其
 ノモノノ檢討ガ問題デアリマス、即チ日滿支ヲ一體トスル興亞ノ新經濟體制ノ立場カラ致シ
 マシテ、飽クマデ重點主義ニ則リマシテ、石炭ノ生産、配給、消費ノ全部門ヲ貫ク所ノ、綜合
 的、一元の計畫ガ確立サレナケレバナラヌト考ヘル者デアリマス、即チ石炭ノ根本的計畫ノ確
 立ト、之ニ基ク所ノ應急對策ガ、合理的ニ組合ハサレマシテ、是ガ増産ニ向ツテ邁進セラレネ
 バナラヌモノト、斯様ニ信ズル者デアリマス、最後ニ一言致シタイト存ジマスルコトハ、各派
 共同提案ノ附帶決議ハ、是ハ單ナルオ座ナリノ決議デハナイノデアリマシテ、増産ヲ確保スル
 爲ノ必須的の要件デアリマス、政府ハ是マデ附帶決議ト云フモノヲ、輕視スルヤウナ傾向ガ多分
 ニアツタノデアリマス、是ハ獨リ院議ヲ尊重シナイト云フコトバカリデハナクシテ、官僚獨善
 ニ依ル形式主義ガ、往々ニシテ法律ノ實質的の效果ヲ稀薄ナラシムル結果トモナルノデアリマス、
 殊ニ本法案ノ如キ、非常時日本ノ國力増進ノ上ニ至大ノ關係ヲ持ツ所ノ、法律ノ運用ニ當リマ
 シテハ、必ズ此ノ附帶決議ノ各項ヲ實行ニ移サレマシテ、所期ノ成果ヲ期セラレタイト思フノ
 デアリマス、以上ヲ以チマシテ私ノ委員長ノ報告ニ對スル贊成意見ト致シマス

東條貞君ノ贊成演説

立憲政友會ヲ代表致シマシテ、委員長ノ報告ニ對シ贊成ノ理由ヲ申述ベタイト思ヒマス、石炭
 ノ増産ガ焦眉ノ急デアリマスコトハ、申スマデモナイノデアリマス、ソレガ爲ニハ資材、技術、

勞力ノ充足ト、適正ナル利潤ヲ與ヘマスルコトガ必要デアアルコトハ申スマデモアリマセヌ、併シ政府ハ低物價政策ヲ堅持サレマスル建前カラ、炭價ノ引上ト云フ方法ハ之ヲ避ケテ、サウシテ茲ニ本案及ビ石炭ノ増産ヲ獎勵致シマスル案トヲ以テ、此ノ急需ニ應ゼントサレテ居ルノデアリマス、此ノ案ニ對シマシテ吾々ハ大イニ檢討ヲ加ヘテ見タノデアリマスガ、遺憾ナガラ之ニ依ツテ石炭ノ増産ヲ爲シ得ルト云フ確信ヲ得マスルコトニハ、大イニ苦シマザルヲ得ナカツタノデアリマス、併シ政府ノ言明セラレル所ヲ聽キマス、石炭ノ増産ニ對シ必要ナル資材ハ、優先的ニ之ヲ配給ヲスルト云フコトヲ言明セラレテ居リマス、併シ同ジ委員會ニ於キマシテ、鑛業法ノ改正ニ際シマシテモ、二万ニ互ル多數ノ試掘鑛區ニ對シテ、試掘鑛ヲ進メル爲ニ必要ナル資材ハ、之ヲ優先的ニ配給スルト云フコトヲ言ハレテ居リマス、先般本院ヲ通過致シマシタ豫算案、是ノ審議ニ際シテ、資材ノ不足ノ爲ニ、是ダケノ豫算ノ實行ハ出來ナイノデハナイカト云フコトガ、多數ノ人ノ見ル所デアッタノデアリマス、優先配給ヲ受クルモノハ是バカリデハアリマセヌ、最先第一ニ軍需ニ振向ケナケレバナラヌ、有ユル部門ノ生産擴充計畫ノ方面ニ振向ケナケレバナラヌ、斯様ナ點ヲ考ヘマス、政府ガ言明セラレマシタ通り、果シテ優先的ニ必要ナル資材ガ配給サレルヤ否ヤト云フ點ニ於キマシテハ、大イニ疑問ヲ抱カザルヲ得ナイノデアリマス、又技術、勞力ノ問題デアリマス、百五十億ノ豫算、其ノ中ニ含マレテ居リマスル國ノ行ヒマスル新規ノ事業ニモ、多數ノ技術者及ビ勞働力ガ必要ナノデアリマス、其ノ他生産擴充ノ有ユル方面、殊ニ最近ニ此ノ議場ニ上程セラレベキ筈デアリマス木炭ノ増産計畫、或ハ米ノ増産計畫、所謂増産、増産、新シキ仕事、生産ノ擴充、有ユル方面ニ、現在アリマスル勞力以上ノ勞力ヲ要求シテ居ルノデアリマスガ、現ニ産業ノ各局面ニ於テ、勞力ノ不足ヲ慙ヘテ居リマスルコトハ、御承知ノ通り現實ノ事實デアアル、此ノ點ヲ考ヘマス、果シテ政府ノ言明セラレルガ如ク、石炭ノ増産ニ必要ナル勞力ガ、サウ易々ト充足サレルトハ考ヘラレナイノデアリマス、例ヘバ米ノ増産ヲ圖リマスル爲ニ、農村方面ニ於ケル勞力ヲ十分ニ確保致シマスルナラバ、木炭ノ増産、石炭ノ増産ノ方面ニ振向ケルベキ勞力ハナイノデアリマス、之ヲ石炭

ガ取ツテシマヘバ、米ヤ木炭ノ方ガ空クノデアリマス、是ニ於テカ足リナイモノハ外ヨリ移入スル外ハナイノデアリマスガ、此ノ勞力ノ移入ニ關シマシテ、既往ノ實情ヲ見マス、政府部内ニ於テ立場ノ變リマスル方面ノ人々ハ、其ノ立場カラノ意見ヲ唱ヘテ、中々意見ガ一致致サナイ、爲ニ必要ナル勞力ヲ入レルコトニ、少ナカラザル支障ヲ生ジテ居リマシタコトハ、實際ノ事實デアリマス、斯様ナ點ヲ考ヘテ見マス、勞力ノ方面ニ於キマシテモ、政府ガ委員會ニ於テ言明セラレマシタ如ク、此ノ石炭ノ増産ニ對シテ、必要ナル技術者及ビ勞働者ガ得ラレルトハ信ジ得ラレナイノデアリマス、先般陸軍大臣ハ此ノ點ニ付テ、銃後ノ産業ノ爲ニ適當ナル技術者、勞働者ヲ得セシムルノ途ヲ開クト云フコトヲ、御言明ニナツテ居リマス、其ノ御配慮ハ大イニ多トスルノデアリマス、此ノ石炭ノ増産ノミナラズ、生産擴充ノ有ユル局面ニ於テ、熟練ナル技術者、勞働者ヲ要望致シテ居リマス、之ヲ充足センガ爲ニハ、歐羅巴ニ於テ戰爭ヲ致シテ居ル國々ノヤツテ居リマスルヤウニ、二年ト限ラズ、モットノ寛容ナル態度ヲ示サレテ、熟練ナル技術者、勞働者ヲ歸還セシメラレルコトヲ希望セザルヲ得ナイノデアリマス、更ニ政府ノ計畫シテ居ラレマスル増産ガ出來タト致シマシテ、運輸方面ノ状態ガ今日ノ如キデハ、決シテ豫期ノ成果ヲ舉ゲルコトガ出來ナイノデアリマス、昨年ノ事實——發送電ニ石炭ガナイ、彼處ニ石炭ガアルカラ積ンデ來ヨウト云フノデ、配船ヲ致シマスルト、豈圖ランヤ石炭ハ山ニハアルガ海岸ニ出テ居ナイ、九州方面ニ於キマシテハ、燃料油ノ配給ニ手違ヒヲ生ジタ爲ニ、百幾十艘ノ機帆船ガ唯空シク繫船ヲ致シテ居ルト云フヤウナ状態デハ、増産バカリ圖リマシテモ、眞ノ成績ヲ舉ゲルコトガ出來ナイノデアリマス、貨車ヲ澤山造ツタダケハイケナイ、此ノ配給ガ圓滑デナケレバナラヌ、積ンダモノハ遲滞ナク積出港ニ運轉サレナケレバナラヌ、積出港ニ運バレバ直チニ是ガ置場ニ下サレナケレバナラヌ、石炭ヲ積ンダ貨車ガ列ヲ成シテ、構内ニ空シク停頓ヲ致シテ居ルヤウナ状態デハイカヌノデアリマス、荷役ノ設備、山カラ消費者ノ消費場マデ遲滞ナク運バレマスルコトガ必要ナノデアリマス、幸ニ海運ノ方面ニ於キマシテハ、遞信當局ガ機船、帆船、艇、所謂海運ノ各局面ニ互リマシテ、組織的ニ運営ノ計

畫ヲ立テテヤツテ居ラレマス、是等ヲ適當ニ利用セラレテ、眞ニ此ノ運輸ノ圓滑ヲ圖ル準備ヲ、今日カラ十分ニ整ヘテ置カレナケレバナラヌ、一貫セル輸送計畫ガ必要ナリデアリマス、然ルニ此ノ點ヲ衝イテ見マスルト、未ダ何等ノ成案ガ出來テ居ナイノデアリマス、石炭ノ配給ヲ一手ニ握ラウトスル斯様な會社ノ計畫ヲ立テラレナガラ此ノ計畫ガ出來テ居ナイヤウデハ、洵ニ心配ニ堪ヘヌト申サナケレバナラヌデアリマス、願クバモット、深ク御考ニナリマシテ、公用船ト雖モ其ノ本務ニ支障ナキ限り、或ハ復航ノ船腹ヲ利用致シマスルトカ、待機ノ爲ニ繫船ヲ致シテ居リマス期間ヲ利用スルトカ致シテ、之ヲモ使フ位ノ御配慮ヲ願ハナケレバナラヌト存ズルノデアリマス、更ニ終リニ臨ミマシテ、當局ノ深甚ナル御考慮ヲ願ハナケレバナラヌ點ガアルノデアリマス、事變以來物動計畫ト云ヒ、生産擴充ト云ヒ、經濟統制ト云ヒ、色々ト御苦心ニナツテ居リマス、其ノ御誠意、御熱心ハ十分之ヲ認メマス、併シナガラ其ノ成績ハ甚ダ舉ツテ居ラヌデアリマス、ノミナラズ徒ニ澤山ノ前科者ヲ作ツテ居ル、或ル地方ニ於キマシテハ、經濟警察ノ對象十萬戸バカリ、然ルニ二年間ニ檢舉サレタル者六萬幾千ト云フヤウナ數字サヘモ現ハレテ居ルデアリマス、然ラバ是等ノ犯則者ハ皆不良不逞ノ輩カト申セバ、決シテサウデハナイ、一死報國ノ誠ヲ持ツタ、所謂忠良ナル陛下ノ赤子デアアル、又一社會人ト致シマシテモ、忠實勤勉ナル善良ナル人デアアル、一體空虛ナ理想ヤ冷イ理論ニ囚ハレテ、國民ノ性格、思想、感情、經濟生活ノ狀態、斯ウ云フ點ヲ一向ニ御考ニナラズ、唯一令ノ下ニ國民ヲ自由ニ爲シ得ルガ如クニ御考ニナリマスルコトガ、有ユル失敗ノ因デアアル、精神總動員運動ノ失敗モ、或ハ又官僚獨善ノ非難ガ盛ニアリマスルノモ、原因ハ茲ニアアルデアアル、一塊ノ石炭ガ山カラ掘出サレテ、消費者ノ手ニ移リマスルマデノ過程、是ハ皆人ノ心ノ動キデアリマス、之ヲ御考ニナラナケレバナラヌ、此ノ見地カラ致シマシテ、即チ物價ノ上リ下リ、物資ノ流レモ皆人ノ心ノ反映デアアルト云フ點カラ見マスルト、更ニ、憂慮ニ堪ヘナイモノガアルノデアリマス、此ノ建前カラ致シマスルナラバ、立派ナ炭脈ヲ持ツタ、設備ノ完全ナ、サウシテ能率ノ高い技術者、労働者ヲ持ツテ居リマスル山ヲ、一生懸命ニ努力ヲシテ掘

リマシテモ、比較的ニ粗惡ナ炭層、不完備ナ設備、低能率ノ労働者、是デ當リ前ニ稼ギマシテモ、其ノ結果ハ所謂適正利潤ダケデアアルデアリマス、斯ウ致シマスルト、決シテ企業心ハ湧起ラナイノデアリマス、唯時局認識、愛國の熱情、奉公ノ至誠、斯ウ云フモノニ慙ヘテ、一生懸命ノ努力ヲ求メル外ハナイノデアリマス、併シナガラ現在ノ國民ノ實生活ノ狀態、國民ノ性格、思想、感情ト云フ方面カラ考ヘマスルナラバ、斯様なコトヲ以テ本當ニ成績ヲ擧ゲ得ルトハ考ヘラレナイノデアリマス、此ノ點カラ致シマシテ、果シテ豫期ノ如キ成績ヲ擧ゲ得ルルヤ否ヤト云フ點ニ付キマシテハ、大イナル疑問ヲ存セザルヲ得ナイノデアリマス、要スルニ本案ハ政府ガ言明セラレテ居リマスル所ガ、皆悉ク言明ノ通りニ實行サレルモノトノ假定ノ下ニ立ツテ、初メテ増産ノ結果ガ得ラレルカト云フ望ミガ僅ニ存スルニ過ギナイ、資材ノ點ニ於テモ、必要ダケハ必ず配給スル、技術者勞働力モ必ず配給スルト云フ、此ノ假定ノ下ニ於テ増産ガ望ミ得ラレルカト思ハレルニ過ギナイノデアリマス、然ルニ前來申述べマシタ如ク、此ノ政府ノ言明ガ如實ニ行ハレルト云フコトニ付テ多大ノ疑問ガアリマス、又從來設ケラレマシタル所謂國策會社ナルモノハ、成績甚ダ芳シカラヌコトハ周知ノ事實デアリマス、此ノ點カラ致シマシテモ、又失敗ヲ繰返スニアラズヤト思ハレル點ガアルノデアリマス、併シナガラ石炭ノ増産ガ急務デアアルコト、及ビ爲政當局ガ責任ヲ以テ、此ノ計畫ヲ實現セントスル其ノ熱意ニ對シテ、姑ク信頼ヲ致シマシテ本案ニ賛成ヲ致スノデアリマス、全責任ハ政府ニアリ、政府ハ此ノ重大ナル責任ヲ痛感セラレマシテ、今マデ本案ノ審議ニ當ツテ言明セラレマシタル諸點ニ付テハ、有ユル努力ヲ拂ツテ之ヲ實際ニ現ハシ、以テ刻下ノ急務デアリマスル石炭増産ノ成績ヲ、如實ニ擧ゲラレタイト云フ希望ヲ申述べマシテ、本案ニ賛成ノ理由ト致ス次第デアリマス

加藤鑛造君ノ贊成演說

私ハ社會大衆黨ヲ代表致シマシテ、所見ヲ述ベント致ス者デアリマスルガ、先ヅ共同提案ノ修正案竝ニ附帶決議ニ賛成致シマシテ、更ニ我黨獨自ノ修正案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ説

明致シタイト存ジマス、本法案ノ提出セラレマシタ理由ハ、我國國防經濟ノ基本産業タル石炭不足ノ現情ニ鑑ミテ、「ブール」平準價格制ノ採用ニ依リ、價格ノ調整ト配給ノ圓滑ヲ圖リ、更ニ増産獎勵金ト新坑開發助成金ヲ支出シテ、約五百五十萬噸ノ増産ヲ圖ラントスルニアルノデアリマス、要スルニ統制ノ強化ヲ圖リ、以テ石炭増産ノ實ヲ擧ゲントスル意圖ニ外ナラナイノデアリマス、然ルニ第一條第三號ハ之ニ除外例ヲ設ケテ、政府ノ説明スル所ニ依リマスレバ、約七百萬噸ノ石炭ヲ統制外ニ置カウト云フノデアリマス、本邦全産額ノ一割何分カノモノヲ除外スルト云フコトハ、本案ノ目的トスル「ブール」平準價格制ノ操作機能ヲ縮小スルコトトナリ、此ノ除外例ガ今後主務大臣ノ許可ニ依リ如何様ニモ取扱ハレルト云フコトニナリマス、現在ノ七百萬噸ガ總テ其ノ幾倍トナリ、遂ニ今日ノ例外ガ原則トナルガ如キ結果ヲ招來シナイトハ、何人モ保證シ難イノデアリマス、而モ此ノ自家用炭礦ノ所有者ガ、利潤率ノ高イ重工業デアリマスルカラ、屢、自家開取引ガ行ハレルモノト見ナケレバナラナイノデアリマス、然ル時ハ資材勞力ガ、ソレ等ノ所有スル炭礦ヘ向ツテ集中スルト云フ危険ガ多分ニアルノデアリマス、他ノ共同販賣會社、例ヘバ銅、鐵屑等ノ場合ハ、例外規定ガ設ケラレテ居ナイニモ拘ラズ、石炭ニ限ツテ例外規定ヲ設ケラレルト云フ理由ガ、私ニハ不明デアリマス、小企業ノ自家使用ヲ認メズ、大企業ニノミ認メルト云フコトモ、亦甚ダ不公平デアルト考ヘルノデアリマス、仍テ斯ル例外規定ヲ設ケズ、山元自家用炭ヲ除イテ、全部ヲ一應「ブール」ニ通スコトガ、統制強化ヲ圖ル上ニ於テモ必要デアルト云フノガ、本修正ノ理由デアリマス、次ニ私ハ本案全體ニ對スル所ノ所見ヲ述ベタイト存ジマス、現在ノ石炭増産計畫ノ前ニ横ハル障礙ハ多々アリマスガ、其ノ主タルモノハ勞力技術ノ不足、資材ノ缺乏等デアリマス、是等ノモノヲ如何ニシテ充足セシムルカト云フコトガ、増産ノ先決問題デナケレバナラナイノデアリマス、然ルニ政府ハ是等ノ根本問題ニ觸レタル對策ヲ、今日立テテ居ラナイノデアリマス、今日勞務動員計畫ノ遂行ガ最モ困難ナ仕事デアアルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ本案ノ審議中色々計畫ヲ發表シタノデアリマスルガ、是ナラバ必ず必要ナル勞務者ヲ集メルコトガ出來ルト、吾々ヲ納得セシムルヤウナ確固タル方針ヲ見ルコトガ出來ナカツタノデアリマス、私ハ以下數項ニ五ツテ此

ノ問題ヲ論ジテ見タイト存ジマス、第一ニハ、如何ニシテ五百五十萬噸ノ増産ニ必要ナ鑛夫ヲ補給スルカト云フコトデアリマス、政府ハ四萬五千人ノ鑛夫ノ増員ヲ行フ爲ニ、三萬三千人ノ半島人ヲ入レル計畫デ、既ニ一萬九千人ハ入ツテ居ルカラ、豫定人員ダケ入レルコトハ困難デナイト言ツテ居ルノデアリマスガ、併シ私ハ昨年半島人ノ入植ガ容易デアツタカラト云ツテ、此ノ問題ヲ簡單ニ片付ケルコトハ早計デアルト考ヘルノデアリマス、昨年ハ朝鮮ハ非常ナ早越デアツタ爲ニ、半島人ノ移動ハ比較的容易デアツタノデアリマス、半島ニ於テモ今日勞働者ハ非常ニ不足シテ居ルノデアリマスルカラ、決シテ簡單ニハ參リマセズ、此ノ點ニ關シテ特別ナ對策ハ、政府ノ説明ニ依ツテ見ルコトガ出來ナカツタノデアリマス、又政府ハ農閑期農民ヲ出來ルダケ動員スル計畫デアルト言ツテ居リマスルガ、是ハ既ニ昨年度ニ相當動員サレテ居ルノデアリマシテ、更ニ幾許ノ人ヲ動員スルコトガ出來ルカト云フコトハ疑問デアリマス、而モ何縣デ何人動員スルカト云フコト、又何處ノ炭礦ニ何人向ケルカト云フヤウナ、具體的動員計畫ハ少シモ立ツテ居ラナイノデアリマス、第二ニハ、鑛夫ノ移動防止ノコトデアリマスルガ、移動率ハ近年非常ニ高クナツテ居リマス、北海道ノ或ル小炭礦デハ、一年以上ノ勤續者ハ約五〇%ニ過ギナイト嘆ジテ居ツタノデアリマス、又比較的移動率ノ低イト言ハレテ居リマスル昭和系ノ炭礦デモ、移動ノ多イノニ惱マサレテ居ルノデアリマス、ヤハリ北海道デアリマスルガ、或ル大キナ炭礦デハ、現在約八千人ノ鑛夫ガ居ル中デ、昭和十四年度ニ於ケル所ノ平均一箇月ノ移動ハ、採用者數四百七十一人、除籍者數五百五十六人ト云フ數字ガ現ハレテ居ルノデアリマスガ、政府ハ此ノ點ニ關シテモ何等具體的ナ對策ヲ示シテ居ラナイノデアリマス、第三ニハ鑛夫ノ稼働率ガ低下シ、又一人當リノ一年ノ出炭量ガ減ツタト云フ事實デアリマス、政府ノ發表セラル調ニ依リマシテモ、十三年度カラ著シク稼働率ガ低下シ、出炭量ガ減ジテ居ルノデアリマス、此ノ問題ニ付テ相當深ク掘下ゲタ研究ト、サウシテソレニ對スル對策ガ必要デアルト思フノデアリマスガ、政府ハ此ノ點ニ付テ持合セガナイノデアリマス、以上述べマシタ如ク勞務動員ニ付テハ、政府ハ單ニ希望數字ヲ述ベテ居ルニ過ギナイノデアリマシテ、具體的計畫ニ

基イタ責任數字デハ決シテナイノデアリマス、昭和十四年度職業紹介所ニ於ケル鑛夫ノ募集狀況ハ、充足率二三%デアリマス、各炭鑛ニ於テ鑛夫募集ニ狂奔シテ居リマスガ、ソレハ徒ニ鑛夫ノ爭奪戰トナツテ、移動率ヲ高メル結果トナツテ居ルノデアリマス、今日國家ノ手デ行ハレテ居ル職業紹介所ト雖モ、殆ド役ニ立ツテ居ラナイ現狀デアリマス、本議場或ハ本案委員會ニ於テ屢、論セラレタ如ク、現在勞働者ノ華トモ言ハレテ居ル軍需工場方面ニ於テモ、著シク勞働力ノ不足ヲ告ゲテ居リマス時ニ、地下幾百尺ノ暗黒ノ中ニ於キマスル、ジメ／＼トシタ勞働ヲ厭フノハ當然デアリマシテ、ソコニ何等カノ特別ナ工夫ガナケレバ、此ノ問題ヲ解決スルコトハ出來ナイノデアリマス、勞務規制ヲ強化シテ、鑛夫ヲ炭鑛ノ中ニ縛リ付ケルト云フヤウナ主張ガ屢、本案審議中ニモ行ハレタノデアリマスガ、是ハ甚シイ暴論デアルト言ハナケレバナリマセヌ、勞働強化ニ依ツテ出炭量ヲ増大セシメルト云フヤウナコトハ、絕對ニ出來ナイノデアリマス、鑛夫ヲシテ喜ンデ炭鑛ニ働カスコトノ出來ルヤウニ、鑛夫生活ト云フモノヲ樂シイモノニシナケレバナラヌト云フノガ、最モ根本的ナ問題デアリマス、假令炭鑛ノ中ノ勞働ガ辛イモノデアツテモ、一步地上ヘ出レバ、ソコニハ娛樂ノ世界ガ待ツテ居ルト云フ風ニマデ、鑛夫ノ福利施設ノ徹底ヲ圖ラナケレバナラヌノデアリマス、又炭鑛夫ハ常ニ非常ナ急險ニ曝サレテ居リマス、地上勞働者ノヤウニ、長イ年月ノ間、勞働ヲ續ケルコトガ出來ナイカラ、健康保險制度ノ擴充、鑛夫年金制度ノ制定等ガ急務デアリマス、單ニ物質的ナ待遇改善ノミニ限ラズ、鑛夫ノ國家ニ對スル功勞ヲ表徴スル爲ニ、産業功勞章トモ云フベキ勳章ヲ贈リ、軍人ニ次イデ名譽ト國民ノ感謝トヲ表現スル制度ガ、必要デアルト考ヘルノデアリマス、最近鑛山ノ災害ガ特ニ多イノデアリマス、是ハ單ニ災害ヲ起シタ炭鑛ノ出炭量ヲ減ズルバカリデナク、鑛夫募集ノ上ニ於テモ、大キナ障礙トナツテ居ルノデアリマスカラシテ、政府ハ通風、排氣、排水等ノ設備ノ充實ヲ督勵シテ、瓦斯ノ爆發、落磐、溢水等ノ慘害ヲ未然ニ防止シナケレバナラナイノデアリマス、現地ニ於ケル技術者ヨリ聞イタ話デアリマスガ、是等ノ所謂災害防止設備ノ充實ヲ、極力技術者ノ側ヨリ主張致シマスケレドモ、炭鑛主側ニ於キマシテハ、固定資本ノ多クナ

ルコトヲ慎レテ、技術者側ノ要求ニ應ジナイト云フ歎聲ヲ、吾々ハ現地ニ於テ屢、聞イタノデアリマス、私ハ増産獎勵金ノ如キ、弊害ノミ多クテ效果ノ薄イ所ニ多大ノ支出ヲスルヨリモ、災害豫防施設ノ助成ニ多クヲ投ジタ方ガ、出炭量ヲ増加スル上ニ於テ幾倍モ效果ガアルト云フコトヲ、固ク信ジテ居ル者デアリマス、資材ノ供給ニ付テハ、此ノ際重點主義ニ依ツテ、優先的ニ配給スルト政府ハ言ツテ居リマスガ、政府ハ現在ドノ程度マデ、資材不足ヲ認メテ居ルカト云フコトガ先ヅ問題デアリマス、例ヘバ政府ノ發表ニ依リマスレバ、炭鑛用資材ノ配給率ハ、壓延鋼材ノ七五%ヲ最低トシテ、坑木ノ一〇〇%ヲ最高トシテ居リマスガ、果シテ實際是ダケ現在配給サレテ居ルノデアラウカト云フ點ニ、疑問ガアルノデアリマス、個々ノ炭鑛ニ就テ現地ニ於テ吾々ガ調査シタ所ニ依リマスレバ、大手筋ノ炭鑛ニ於テスラ四〇%、「アウトサイダー」ニ至ツテハ、皆無ノ所ガ相當アルト云フ現狀デアアルノデアリマス、此ノ甚シイ見解ノ相違、此ノ上ニ將來必ズ資材ノ配給ニ付テハ、或ハ十分デアルトカ、或ハ不十分デアルトカ云フ爭ガ起ツテ來ルト私ハ思フノデアリマス、吾々ノ資材ト云フノハ、勿論鑛夫ノ生活必需品ヤ、勞働用具ヲ含ンデ居ルノデアリマスガ、例ヘバ地下足袋ガ非常ニ不足シテ居ルノデアリマス、有機化學局デハ現在ノ二倍ノ配給ヲスルト言ツテ居リマス、燃料局デハ又鑛夫一人當リ月一足ノ配給デ、十分デアルト云フコトヲ言ツテ居リマス、併シ是ハ決シテ私共是デ十分デアルトハ考ヘナイ、殊ニ一日炭鑛ノ水ノ中ニ浸ツテ、又翌日濡レタ儘ノ足袋ヲ履イテ出掛ケルノデアリマスカラ、今日ノヤウナ「スフ」入りノ地下足袋ハ、一月モ半月モ持ツモノデハナイノデアリマス、ソコデ是ハ十分ナ必要數量ノ調査ノ上ニ立ツテ、責任配給ト云フモノガ行ハレナケレバナラナイト考ヘルノデアリマス、不十分ナ勞力資材ヲ以テ、十分ナル能率ヲ舉ゲル爲ニハ、鑛區ノ整理合併ト云フコトガ、絕對ニ必要デアリマス、現在ノ鑛區ト云フモノハ、經營ノ合理的基礎ノ上ニ分割セラレタモノデハアリマセヌ、サウシテ我國ノ炭鑛ノ經營單位ト云フモノハ、非常ニ小サイノデアリマスカラ、資材努力ト云フモノガ、非常ニ不經濟ニ使ハレテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ著眼シタ所ノ政府ハ、一昨年ノ議會ニ重要鑛物増産法ヲ提出シテ、現在施行サレテ居ルノデアリマス

ガ、政府ハ之ヲ今日殆ト活用シテ居ラナイノデアリマス、此ノ法律ガ施行セラレテ、既ニ二箇年ニ及バントシテ居ルノデアリマスガ、同法ノ第四條、第五條ニ基キ業者間ノ協議ヲ爲サシメツツアルモノガ今日二十一件、協議ノ整ヒタルモノガ僅ニ二件デアリマシテ、政府ガ協議命令ヲ爲シタルモノハ、一件モナイト云フ有様デアアルノデアリマス、現地デ聽イテ見マス、少シ面倒ナモノハ鑛山監督局デハ取上ゲナイト云フ不平ガ、隨分アツタノデアリマス、是デハ幾ラ立派ナ法律ヲ作ツテ見テモ駄目デアアル、國家ノ統制力ト云フモノハ、國民ノ上ニ平等ニ働カナクテハ、其ノ效果ヲ奏シナイモノデアルト考ヘルノデアリマス、炭價ノ引上ガ増産ノ捷徑デアルト云フ議論ガ、業者側カラ屢、出テ居リマスルガ、政府ノ今回執ラント致シテ居リマス所ノ増産獎勵金政策ト云フモノモ、結局炭價引上ノ一歩手前ノモノニ過ギナイノデアリマス、炭價引上論ノ理由ハ、「コスト」高ニ依ル採算難ト云フ點デアリマスガ、今日ノ炭礦經營ガ、少クトモ小炭礦ヲ除イテ、ソレ程困難ナモノデアルトハ信ジナイノデアリマス、此處ニ昭和系ノ會社ノ中カラ、九州炭礦、北海道炭礦、入山炭礦、磐城炭礦、太平洋炭礦、東邦炭礦ノ六社ヲ選ンデ、昭和十一年上期ヨリ昭和十四年上期ニ至ル間ノ綜合シタ業績ノ調査ガアリマスガ、昭和十一年上期利益率一割九分三厘、十二年上期二割二厘、十三年上期三割三厘ト云フ風ニ、順次利益率ヲ増シテ來タモノガ、昭和十四年上期二割二分四厘、同年下期一割九分六厘トナツテ居リマス、サウシテ此ノ間ニ拂込資本金ハ一倍八分強ニ増加シテ居ルノデアリマス、互助會ノ方ノ調査モアリマスルガ、大體大同小異デアリマス、此ノ數字ヲ見マシテモ分ル通り、昭和十四年度ガ成績ガ惡イト云フノデアリマシテナイ、十二年、十三年ガ儲カリ過ギタニ過ギナイノデアリマス、勿論何時マデモ高度ノ利益率ヲ維持シタイト云フノハ、營利ヲ目的トスル經濟機構ノ下ニ於キマシテ、其ノ要求ハ當然デアアルカモ知レマセヌガ、戰時經濟ノ基礎産業タル石炭ノ値上ハ、總テノ國內物價引上ノ誘因トナルノデアリマス、是ハ低物價政策ノ破綻デアリ、延イテ戰時國防經濟ノ基礎ヲ危クスルモノデアルト信ズルノデアリマス、私益經濟ノ下ニ於ケル低物價政策ト、増産計畫遂行トノ間ニ横ハル矛盾ガ、茲ニ大キク現ハレテ來ルト思フノデアリマス、私ハ此ノ矛盾ヲ明確ニ解決スル所ノ方策ガ立テラレナク

レバ、石炭ノ増産ハ不可能デアルト信ズル者デアリマス、我國ノ炭礦經營者ハ、最小ノ資本ヲ以テ最大ノ利潤ヲ擧ゲルコトニ汲々トシテ、固定資本ヲ出シ各ンデ居ルノデアリマス、吾々ハ炭礦ノ高度ナル機械化、竝ニ鑛區ノ併合ニ依ル資材努力ノ能率化ハ、最早國營ヲ斷行スルコト以外ニ、其ノ途ガナイト云フ結論ニ到達スルモノデアリマス、藤原商工大臣ハ本案ノ審議ニ當リマシテ、最初ノ内ハ本法ガ石炭増産ノ最上ノ案デアルト言ツテ居ラレマシタ、所ガ其ノ内ニ是ハ改善ノ案デアルト訂正セラレマシタ、更ニ最後ニハ、他日ハ他日トシテ、目下ノ所此ノ案デヤツテ行キタイト云フ風ニ讓歩シテ來ラレタノデアリマス、私ハ商工大臣ノ信念ヲ疑フ者デアリマス、若シ政府ノ所信ヲ裏切ツテ、此ノ案ヲ以テ石炭ノ増産ガ出來ナイト云フコトニナツタナラバ、ドウナルデアリマセウカ、我國ノ産業界ハ大混亂ニ陥リ、國防經濟ハ危殆ニ瀕スルノデアリマス、此ノ時ノ責任ハ一體誰ガ負フデアリマセウカ、藤原商工大臣ハ大臣ヲ辭メテ逃避セラレバ、最早何人モ其ノ事ヲ追究シナイデアリマセウ、併シ遁レル所ヲ持タナイ國民ハドウナルデアリマセウカ、攪亂セラレ破壊セラレタ戰時經濟ノ再建ノ爲ニ、更ニ幾倍カノ血ト脂汗ヲ搾ラナケレバナナイノデアリマス、私ハ茲ニ私ノ所信ヲ披瀝シテ政府ノ猛省ヲ促シ、最善ノ努力ヲ熱望スル所以デアリマス、最後ニ我黨提出ノ希望條項ヲ朗讀致シマス

希望條項

- 一、政府ハ勞力不足ノ現狀ニ鑑ミ鑛夫ノ稼働時間ノ短縮禁養ノ補給其ノ他福利施設ノ徹底社會的地位ノ向上ヲ期シ鑛夫年金制度産業功勞章制度等ヲ速ニ制定シ以テ勞務動員ノ萬全ヲ期スベシ尙ホ政府ハ技術員現場係員ノ指導養成保護等ニ最善ノ努力ヲ爲スベシ
- 二、近時鑛山災害ノ頻發ハ必要ナル勞務動員計畫ノ遂行ニ著シキ支障ヲ來シ石炭増産ヲ阻礙スルヲ以テ政府ハ速ニ災害防止ノ爲ノ通風、排氣、排水ノ設備ノ指導助成ヲ行フベシ
- 三、石炭増産ニ必要ナル生産資材(鑛夫ノ生活必需品及ビ勞働用具ヲ含ム)ノ優先的責任配給ヲ行フベシ
- 四、政府ハ國防經濟ノ確立ノ爲石炭鑛業ハ其ノ企業ノ特殊性ニ鑑ミ速ニ國家管理ヲ斷行スベシ

採決ニ入り加藤鐵造君提出修正案ニ付起立採決ノ結果之ヲ否決シ次テ委員長報告ニ係ル修正ニ付起立採決ノ結果委員長報告ノ通之ヲ議決シ其ノ他ハ院議異議ナク原案ノ通可決ス
院議異議ナク直ニ本案ノ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通議決シ即日貴族院ニ送付ス
貴族院ニ於テハ三月二十六日可決奏上ス
四月八日法律第四百四號ヲ以テ公布セララル

九二 要塞地帯法中改正法律案(貴族院送付)

要塞地帯法中左ノ通改正ス

第三條中「及第七條第二項ノ區域」ヲ削リ「二百五十間」ヲ「千メートル」ニ、「七百五十間」ヲ「五千メートル」ニ、「二千二百五十間」ヲ「一萬五千メートル」ニ改ム

第四條中「築城部本部長」ヲ「陸軍築城部本部長」ニ改メ「及第七條第二項ノ區域内」ヲ削ル

第五條中「及第七條第二項ノ區域」及「及第七條第二項ノ區域内」ヲ削ル

第六條中「第三條及第七條第二項」ヲ「及第三條」ニ改ム

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀又ハ施設物ノ狀況

ニ付撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ス但シ軍機保護法ニ特別ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第八條中「要塞地帯内ニ入り」ヲ「要塞地帯内ニ於テ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ行フ

陸軍大臣又ハ要塞司令官ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命セラレタル者ニ對シ要塞地帯内ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區内ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築
- 二 爆發物ノ使用若ハ貯藏又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ貯藏
- 三 用水路、惡水路又ハ溜池ノ新設又ハ變更
- 四 竹木林ノ造成又ハ伐採
- 五 墓地ノ新設又ハ變更
- 六 山林又ハ原野ニ於ケル焚火
- 七 漁撈、採藻又ハ船舟ノ繫泊

八 狩獵

第十條 第二區内ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ水準標高四十メートル以上ノ高地ニ於ケル家屋、工場又ハ倉庫ノ新築、改築又ハ増築ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 第一區及第二區内ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 不燃質物ヲ材料トスル工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積

三 公園、運動場、競馬場、飛行場、耕作地、果樹園、桑畑、貯水池、養魚池又ハ鹽田ノ新設又ハ變更

設又ハ變更

四 水深ノ變更ヲ生スヘキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

五 火入

六 高周波電流ヲ發スル設備ノ新設又ハ變更

第十二條 第一區及第二區内ニ在リテハ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 堤塘、棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、隧道、鐵道又ハ軌道ノ新設又ハ變更

二 水面ノ埋立又ハ干拓

第十三條 第七條又ハ第九條乃至前條ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ國防上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第十四條 要塞司令官ハ第九條乃至第十一條ノ規定又ハ第九條乃至第十一條ノ規定ニ依ル許可

ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ、陸軍大臣ハ第十二條ノ規定又ハ同條ノ規定ニ依ル許

可ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條乃至第十七條ヲ削リ第十八條ヲ第十五條トス

第十九條中「禁止」ヲ削リ同條ヲ第十六條トス

第二十條中「禁止及」及「第七條第二項ノ區域」ヲ削リ「第十九條」ヲ「前條」ニ改メ同條ヲ第十七

條トス

第二十一條中「第七條第九條第十一條乃至第十五條」ヲ「第七條及第九條乃至第十一條」ニ、「第

十六條」ヲ「第十二條」ニ改メ同條ヲ第十八條トス

第三章 罰則

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條第二號ノ規定ニ違反シタル者

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第二款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

- 二 第十一條第一號又ハ第五號ノ規定ニ違反シタル者
- 三 第十二條ノ規定ニ違反シタル者
- 第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 第七條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者
 - 三 第九條第一號又ハ第三號乃至第五號ノ規定ニ違反シタル者
 - 四 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ違反シタル者
 - 五 第十條ノ規定ニ違反シタル者
 - 六 第十一條第二號乃至第四號又ハ第六號ノ規定ニ違反シタル者
- 第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス
 - 一 第七條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
 - 二 第九條第一號乃至第五號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
 - 三 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
 - 四 第十條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

- 五 第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
- 六 第十二條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
- 第二十二條 各區ノ區域ヲ標示スル爲設ケタル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第二十三條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第九條、第二十條第三號、第五號若ハ第六號又ハ第二十一條第二號若ハ第四號乃至第六號ノ違反爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
- 第二十四條 第十九條、第二十條第三號、第五號及第六號並ニ第二十一條第二號及第四號乃至第六號ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十五條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ス
- 第二十七條中「創設告示」ヲ「創設又ハ變更ノ告示」ニ、「増築中」ヲ「増築等ノ作業中」ニ改メ「禁止」ヲ削リ同條ヲ第二十六條トス

第二十七條 各區ノ區域ヲ標示スル標識ヲ設置スル爲ニ要スル敷地ノ買收及使用ニ關シテハ陸地測量標條例ヲ準用ス

第二十八條ヲ削ル

第二十九條ヲ第二十八條、第三十條ヲ第二十九條トシ第三十一條ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年二月十九日貴族院ニ提出ス同院ハ三月六日日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ同月七日日本案ノ第一讀會ヲ開キ吉田海軍大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

要塞地帯法中改正法律案ノ理由ニ付説明致シマス、現行要塞地帯法ハ明治三十二年ニ制定公布セラレ、其ノ後大正四年ニ必要事項ヲ増補セラレタノデアリマスガ、爾後社會一般ノ情勢ノ變化、特ニ軍事方面ノ飛躍的進歩ニ直面致シタル今日ニ於キマシテハ、現行法ヲ以テシマシテハ、要塞ノ戰備、軍機ノ保護、特ニ防諜ニ對スル諸要求ヲ十分ニ満足セシメ得ザル狀況ニ立至リマシタノデ、現行要塞地帯法ヲ次ノ諸點ニ付キマシテ改正スルノ必要ニ迫ラレタル次第デアリマス、其ノ要點ヲ擧ゲマスレバ、要塞ノ地域ヲ擴大スルコト、禁止制限事項ヲ整

理、増補合理化スルコト、及ビ罰則ヲ社會ノ狀態ニ一致セシムルコト等デアリマス、要塞區域ノ擴大ヲ致シマスルノハ、最近ニ於ケル兵器資材ノ進歩ト戰闘方式ノ變化トニ鑑ミ、主トシテ要塞戰闘ノ自由ヲ得ルト共ニ、防諜ノ完璧ヲ期スル爲ニ必要トセラルルニ至ツタモノデアリマス、次ニ禁止制限事項ノ整理等ニ付キマシテハ、現行法ノ條規ガ現在ノ狀態ニ即セザルモノガアリマスノデ、整理、増補、合理化セント致スモノデアリマス、罰則ニ付キマシテハ社會ノ現況ト他ノ法律ノ罰則トノ關係ヲ睨ミ合セマシテ、所要ノ點ヲ改正致スモノデゴザイマス、以上ノ如ク改正致サルコトニナリマスレバ、概ネ要塞ノ戰備ト其ノ軍機確保トノ兩目的ヲ達成スル爲、遺漏ナキモノト信ジテ居リマス、御審議ノ上御協賛アランコトヲ御願致シマス

次テ本案ハ政府提出軍用電氣通信法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及九四ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長山本厚三君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ兩案ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、第一ノ要塞地帯法中改正法律案ハ、御承知ノ如クニ近來兵器資材ノ飛躍的進歩、即チ火器ノ射程ノ増大、機械化部隊、航空機、潜水艦及ビ其ノ他ノ艦船等ノ進歩發達ガ著シク、要塞ノ戰闘方式ニ變化ヲ來シマシテ、又各種ノ諜報手段ガ非常ニ巧妙ニナリマシテ、要塞ノ軍機保護ガ段々困難ニナツテ來マシタ爲ニ、第一ハ要塞區域ノ擴大及ビ禁止ヲ擴張スル必要ガアル、第二ハ色々ノ制限事項ヲ整理シナケレバナラヌ、第三ニハ之ニ關シテ罰則ノ調整ヲシナケレバナラヌ、此ノ三ツノ點ニ付テ本法ヲ改正セントスルモノデアリマス、仍テ委員會ニ於キマシテハ、其ノ重大性ニ

鑑ミ、慎重ニ審議ヲ致シマシテ、委員ト政府ノ間ニ質問應答ヲ重ネタノデアリマスルガ、其ノ中青木作雄君ヨリ下關ノ英國領事館ニ於ケル築造物ニ關シテ、此ノ法規カラ見テ撤廢スベキモノデアルト云フ、相當重要ナ意見ヲ御述ニナツテ政府ノ所信ヲ質サレタノガ、質問事項ノ中重要ナ點ト存ジマス、委員會ハ今日ノ時局柄最モ適當ナル改正デアルト云フ意見ガ一致ヲ致シマシテ、本日討論ノ結果ハ滿場一致ヲ以テ可決ヲ見タ次第デアリマス、次ニ宇品港域軍事取締法中改正法律案デアリマスルガ、本案ノ趣旨ハ、大體大陸ニ對スル所ノ兵團ノ輸送、特ニ將來戰ニ於ケル輸送量ノ増加、及び最近ノ外國ノ對日諜報活動ヲ考慮致シマシテ、次ノ三點ニ改正ヲ加ヘントスルモノデアリマス、第一ハ港域ノ擴大デアリマス、第二ハ防諜措置ノ徹底デアリマス、第三ハ禁止制限事項ノ増補デアリマシテ、其ノ外ニ此ノ法律案ヲ宇品港域軍事取締法ト云フノヲ、陸軍輸送港域軍事取締法ト改正ヲ致シマシテ、宇品港ト九州ノ伊萬里灣トニ、之ヲ適用スルト云フコトニ改正シタノデアリマス、本法ニ付キマシテモ、前案同様時局柄最モ重大緊切ナル改正案ト認メマシテ、討論ノ結果本日滿場一致ヲ以テ可決確定ヲ見タ次第デアリマス、此ノ段御報告申上ゲマス

院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス
四月四日本案ハ法律第九十號ヲ以テ公布セララル

九三 獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案(貴族院送付)

第一條 農林大臣ハ當分ノ内左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ獸醫手ノ免許ヲ爲スコトヲ得

- 一 命令ノ定ムル所ニ依リ大學、實業專門學校又ハ實業學校ニ於テ獸醫學ヲ修メタル者
- 二 獸醫手試験ニ合格シタル者

前項第二號ノ獸醫手試験ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條ノ免許ヲ受ケタル獸醫手ニシテ市町村、畜産組合、畜産組合聯合會又ハ命令ヲ以テ定ムル團體ノ職員タルモノハ獸醫師法第四條ノ規定ニ拘ラズ業務トシテ當該團體ノ事業ニ屬スル家畜ノ疾病ニ關スル診察又ハ治療ヲ爲スコトヲ得

第三條 獸醫師法第二條、第三條、第五條、第六條第二項、第七條、第八條、第十二條、第十三條第二號及第三號並ニ第十四條ノ規定ハ獸醫手ニ之ヲ準用ス但シ同法第二條第二號中未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者トアルハ禁治產者又ハ準禁治產者トス

第四條 家畜傳染病豫防法、畜牛結核病豫防法、藥劑師法、阿片法及藥品營業並藥品取扱規則ノ適用ニ付テハ獸醫手ハ之ヲ獸醫師ト看做ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

畜牛結核病豫防法第十八條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム
右ハ昭和十五年二月二十四日貴族院ニ提出ス同院ハ三月六日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院
ハ三月七日本案ノ第一讀會ヲ開キ島田農林大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案ニ付テ提案ノ理由ヲ說明致シマス、
本法案ハ現時局下ニ於キマシテ獸醫師ノ著シク不足セル實情ニ鑑ミマシテ、別途ニ實業專門
學校ニ於ケル獸醫師養成施設ノ擴充ヲ行ヒマシタガ、之ヲ以テシテモ尚ホ獸醫師ノ不足ヲ充タ
スニ足りマセヌノデ、茲ニ臨時的措置トシテ新ニ獸醫手ナル制度ヲ設ケ、實業學校ニ於テ一定時
間以上獸醫學ヲ修メタル者ニ對シ獸醫手ノ免許ヲ與ヘ、是等ノ者ガ市町村、畜産組合等ノ團體ノ
職員タル場合ニ限り、獸醫師法ノ制限ニ拘ラズ、當該團體ノ事業ニ屬スル家畜ノ疾病ニ關スル診
療ヲ爲サシメントスルモノデアリマシテ、之ニ依ツテ現在ノ獸醫師ノ不足ヲ緩和シ、以テ軍馬資
源ノ確保及ビ畜産生産力ノ擴充上遺憾ナカラシメントスルモノデアリマス、本法案ハ現下ノ時
局ニ對應シ、極メテ適切ナルモノト信ズル次第デアリマシテ、過般中央衛生會ニ諮詢ヲ致シマシ
テ、其ノ答申ニ基キ立案致シタモノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望
致シマス

次テ本案ハ政府提出昭和十二年法律第九十號中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審
查ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及六〇、八五、八七ノ四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(委員長報
告ハ本項
第六〇
參看)院議異議ナク四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原

案ノ通可決シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス
四月四日本案ハ法律第九十二號ヲ以テ公布セララル

九四 宇品港域軍事取締法中改正法律案(貴族院送付)

宇品港域軍事取締法中左ノ通改正ス

「宇品港域軍事取締法」ヲ「陸軍輸送港域軍事取締法」ニ改ム

第一條 本法ニ於テ陸軍輸送港域トハ左ニ掲グル區域ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

- 一 廣島縣廣島市、同縣安藝郡海田市町、矢野町、船越町、府中町、奥海田村、温品村、戶坂村、畑賀村、中野村、坂村及中山村、同縣安佐郡祇園町、福木村、山本村及長束村、同縣佐伯郡廿日市町、嚴島町、五日市町、地御前村、原村、宮内村、井口村、石内村、河内村、八幡村、觀音村、平良村、大野村、玖嶋村及砂谷村並ニ其ノ附近ノ水面
- 二 佐賀縣東松浦郡切木村及入野村、同縣西松浦郡伊萬里町、山代町、黒川村、波多津村、大坪村、大川内村、二里村及東山代村、長崎縣北松浦郡志佐町、今福町、星鹿村、調川村、福島村、鷹嶋村、上志佐村及御厨村並ニ其ノ附近ノ水面

第二條及第九條中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ改ム

第三條中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ、同條第一號中「棧橋」ヲ「堤塘、棧橋」ニ、「新設、増設又ハ改修」ヲ「新設又ハ變更」ニ改メ同條第三號及第四號ヲ削ル

第四條 陸軍輸送港域第一區内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長(陸軍大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ指定スル陸軍運輸部ノ職員トス以下之ニ同ジ)ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 前號ニ掲グル工作物以外ノ工作物ニシテ不燃質物ヲ材料トスルモノノ新築、改築又ハ増築

三 用水路、惡水路、溜池、貯水池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更

四 公園、廣場、運動場、競馬場又ハ飛行場ノ新設又ハ變更

五 土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積

六 水深ノ變更ヲ生ズベキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

七 爆發物ノ使用又ハ爆發物若ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ運搬、積卸若ハ貯藏

八 水面ニ於ケル貯木

九 浮標、立標其ノ他航路標識ノ新設又ハ變更

十 船舶ノ航行若ハ繫泊又ハ後ノ運航若ハ繫留

十一 漁獵又ハ採藻

前項ノ不燃質物、爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ改メ「測量」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ軍機保護法ニ特別ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第七條中「宇品港域内ニ立入り」ヲ「陸軍輸送港域内ニ於テ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍運輸部長ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命ゼラレタル者ニ對シ陸軍輸送港域内ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第八條第一項中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第十二條中「宇品港域各區及第八條第二項」ヲ「陸軍輸送港域各區」ニ改ム

第十六條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シタル者

- 二 第四條第一項第一號乃至第九號ノ規定ニ違反シタル者
 - 三 第四條第一項第十號又ハ第十一號ノ規定ニ違反シタル者
 - 四 第五條ノ規定ニ違反シタル者
 - 五 第七條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者
- 第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第三條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
 - 二 第四條第一項第一號乃至第九號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
 - 三 第四條第一項第十號又ハ第十一號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
 - 四 第五條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
- 第十九條中「宇品港域各區又ハ第八條第二項」ヲ「陸軍輸送港域各區」ニ改ム
- 第二十條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十七條第一號若ハ第二號又ハ第十八條第一號若ハ第二號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
- 第二十一條 第十七條第一號及第二號並ニ第十八條第一號及第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナル

トキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年二月二十七日貴族院ニ提出ス同院ハ三月六日本案ヲ可決シ即日本院ニ送付ス本院ハ三月七日本案ノ第一讀會ヲ開キ畑陸軍大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ宇品港域軍事取締法中改正法律案ノ提案理由ヲ説明致シマス、本法ハ昭和八年三月ニ制定セラレ今日ニ及ンダモノデアリマシテ、殊ニ本大事變ニ際シマシテハ、軍ノ作戰ニ對シ多大ノ貢獻ヲ爲シタルコトハ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ今事變ニ於キマスル幾多輸送上ノ經驗ニ鑑ミマシテ、今後ノ大陸ニ對スル兵團ノ輸送、特ニ將來戰ニ於ケル輸送量ノ増加及ビ最近ノ外國對日諜報活動等ヲ顧慮シ、速ニ本法ニ所要ノ修正補足ヲ爲ス必要ヲ生ズルニ至ツタノデアリマス、本改正案ニ於テ改正致シマス要點ハ、龐大ナル數量ニ上ル輸送船舶ノ碇泊出入ニ應ズル港域擴大ノ措置、外國諜者ニ對スル防諜措置ノ徹底及ビ軍事輸送並ニ其ノ準備

上必要最小限ノ禁止制限事項ノ増補、此ノ三點デアリマス、港域ノ擴大ニ付キマシテハ、現在ノ字品港域ヲ擴大致シマスル外、新ニ北九州ノ伊萬里灣ニ本法ヲ適用致サントスルモノデアリマシテ、隨テ本法ノ名稱モ陸軍輸送港域軍事取締法ト改稱致スコトニ相成リマス、此ノ港域擴大ノ措置ニ依リマシテ、今後ノ軍事輸送業務ハ著シク有利ニ相成ルモノト存ジマス、右ニ述べマシタ港域擴大ノ措置ハ、兼テ防諜措置ノ目的ヲモ併セ庶幾シタモノデアリマシテ、軍事輸送ニ關スル幾多ノ軍事秘密事項ヲ外國諜者ノ各種諜報手段ニ對シ十分ニ秘匿セントスルモノデアリマス、其ノ他軍事輸送港ノ輸送業務遂行ニ支障ナカラシムル爲、特ニ海面ニ關スル禁止制限事項ヲ増補スルト共ニ、新ナル禁止制度ニ應ズル罰則等ヲ規定致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ御願致シマス

次テ本案ハ政府提出軍用電氣通信法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及九二ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ(委員長報告ハ本項第九二參看)院議異

議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ即日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

四月四日本案ハ法律第九十一號ヲ以テ公布セラル

九五 國民優生法案

國民優生法

第一條 本法ハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者ノ増加ヲ防遏スルト共ニ健全ナル素質ヲ有スル者ノ増加ヲ圖リ以テ國民素質ノ向上ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ優生手術ト稱スルハ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ處置ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ謂フ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ハ其ノ子又ハ孫醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキハ本法ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ者特ニ優秀ナル素質ヲ併セ有スト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 遺傳性精神病
- 二 遺傳性精神薄弱
- 三 強度且惡質ナル遺傳性病的性格
- 四 強度且惡質ナル遺傳性身體疾患
- 五 強度ナル遺傳性畸形

四親等以內ノ血族中ニ前項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者ヲ各自有シ又ハ有シタル者

相互ニ婚姻シタル場合(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル場合ヲ含ム)ニ於テ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦前項ニ同ジ

第一項各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル子ヲ有シ又ハ有シタル者ハ將來出生スベキ子醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞特ニ著シキトキ亦第一項ニ同ジ

第四條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下ニ同ジ)ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲ、二十五歳ニ達セザルトキハ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母(婚姻ニ依リ其ノ配偶者ノ家ニ入りタル者ニ在リテハ其ノ配偶者ノ父母トス以下ニ同ジ)ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者心神喪失者ナルトキハ優生手術ノ申請ハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母之ヲ爲スコトヲ得

第一項及前項但書ノ場合ニ於テ其ノ配偶者知レザルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ第一項ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ以テ配偶者ノ同意ニ代ヘ前項但書ノ場合ニ在リテハ其ノ家ニ在ル父母ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

前三項ノ規定ニ依リ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ要ストセラレ又ハ其ノ家ニ在ル父母ガ申請ヲ爲ス場合ニ於テ父母ノ一方ガ知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ他ノ一方ノミニノ同意又ハ申請ヲ以テ足り父母共ニ知レザルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ後見人ノ、後見人知レザルトキ、ナキトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ戸主ノ、戸主知レザルトキ、未成年者ナルトキ又ハ其ノ意思ヲ表示スルコト能ハザルトキハ親族會ノ同意又ハ申請ヲ以テ父母ノ同意又ハ申請ニ代フルモノトス但シ後見人及親族會ハ第二項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 第三條第一項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ニ對シ監護上ノ處置、保健上ノ指導又ハ診療ヲ爲シタル精神病院法ニ依ル精神病院(同法第七條ノ規定ニ依リ代用スル精神病院ヲ含ム)若ハ保健所ノ長又ハ命令ヲ以テ定ムル醫師ハ本人ノ同意ヲ得テ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者ノ同意ヲモ、二十歳ニ達セザルトキ又ハ心神耗弱者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル

父母ノ同意ヲ以テ本人ノ同意ニ代フルモノトス

前條第三項及第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 前條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者本人ノ疾患著シク惡質ナルトキ又ハ其ノ配偶者本人ト同一ノ疾患ニ罹レルモノナルトキ等其ノ疾患ノ遺傳ヲ防遏スルコトヲ公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ同條ノ規定ニ依ル必要ナル同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ其ノ理由ヲ附シテ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條 優生手術ノ申請ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請ニハ本人ノ健康診斷書及遺傳ニ關スル調査書竝ニ本人(本人心神喪失者ナルトキハ其ノ家ニ在ル父母トス但シ本人配偶者ヲ有スルトキハ其ノ配偶者及其ノ家ニ在ル父母トス)ガ優生手術ガ生殖ヲ不能ナラシムルモノナルコトヲ了知シタル旨ノ醫師ノ證明書ヲ添付スベシ

第四條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地方長官ハ優生手術ノ申請ヲ受理シタルトキハ優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

地方長官前項ノ決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ地方優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

地方長官第一項ノ決定ヲ爲シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ニ之ヲ通知スベシ

第九條 前條第三項ノ規定ニ依リ通知ヲ受クベキ者ハ同條ノ決定ニ不服アルトキハ厚生大臣ニ之ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ決定ノ通知ヲ受ケタル後(通知ヲ受ケザル者ニ付テハ決定アリタル後)三十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

厚生大臣宥恕スベキ理由アリト認ムルトキハ前項ノ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第十條 厚生大臣ハ前條ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ之ヲ却下シ申立ヲ理由アリト認ムルトキハ地方長官ノ決定ヲ取消シ且優生手術ヲ行フベキモノト認ムルヤ否ヲ決定ス

厚生大臣前項ノ却下又ハ取消及決定ヲ爲サントスルトキハ豫メ中央優生審査會ノ意見ヲ徵スベシ

第八條第三項ノ規定ハ第一項ノ却下竝ニ取消及決定ニ之ヲ準用ス

第十一條 第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者及優生手術ノ申請ニ付同意ヲ得ルコトヲ要ストセラレタル者ハ書面又ハ口頭ヲ以テ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ニ對シ事實又ハ意見ヲ申述スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官ハ中央優生審査會又ハ地方優生審査會ノ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ヲシテ審査會ニ出頭ノ上事實ヲ申述セシメ又ハ醫師ノ健康診斷ヲ受ケシムルコトヲ得

第十二條 中央優生審査會及地方優生審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定シタルトキハ第三條ノ規定ニ依リ優生手術ヲ受クルコトヲ得ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ優生手術ヲ受クベシ

優生手術ハ厚生大臣又ハ地方長官ノ命ニ依リ命令ヲ以テ定ムル醫師命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ優生手術ヲ行ヒタル醫師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ經過ヲ地方長官ニ報告スベシ

第十四條 優生手術ヲ行フベキモノト認ムル決定確定シタル場合ニ於テ本人妊娠中ナルトキハ第四條ノ規定ニ依リ優生手術ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル者ハ同條ノ規定ニ依リ同意ヲ要ストセ

ラレタル者ノ同意ヲ得テ其ノ決定ヲ爲シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ對シ妊娠中絶ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ニ基キ厚生大臣又ハ地方長官妊娠中絶ヲ行フベキモノト決定シタルトキハ本人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ妊娠中絶ヲ受クベシ

前項ノ妊娠中絶ハ妊娠三月ヲ超ユルモノナル場合ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得ズ

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ妊娠中絶ニ之ヲ準用ス

第十五條 優生手術又ハ前條ノ妊娠中絶ニ關スル費用ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 故ナク生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ハ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十七條 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外醫師生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊娠中絶ヲ行ハントスルトキハ豫メ其ノ要否ニ關スル他ノ醫師ノ意見ヲ聽取シ且命令ノ定ムル所ニ依リ豫メ行政官廳ニ届出ヅベシ但シ特ニ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ届出アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ノ意見ヲ更ニ聽取セシムルコトヲ得

第一項但書ノ場合ニ於テ届出ヲ爲サズシテ生殖ヲ不能ナラシムル手術若ハ放射線照射又ハ妊

娠中絶ヲ行ヒタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ニ届出ヅベシ

第十八條 第十六條ノ規定ニ違反シ生殖ヲ不能ナラシムル手術又ハ放射線照射ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 中央優生審査會及地方優生審査會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ優生手術若ハ第十四條ノ妊娠中絶ニ關スル審査若ハ施行ノ事務ニ從事シ若ハ從事シタル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得シタル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第二十條 第十七條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年三月八日本院ニ提出ス三月十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ吉田厚生大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ國民優生法案ノ提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、國民優生法案ノ目的ト致シマスル所ハ、國民素質ノ向上ヲ圖リマシテ、之ニ依ツテ國家將來ノ發展ヲ期セントスルニアルノデアリマシテ、此ノ目的ヲ達成致シマスル爲ニ、一面ニ於テハ、惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル國民ノ増加ヲ防遏致シマスルト共ニ、他面ニ於テハ、健全ナル素質ヲ有スル國民ノ増加ヲ圖ラントスルモノデアリマス、元來我が國民素質ノ優秀デアリマスルコトハ、光輝アル二千六百年ノ歴史ノ如實ニ之ヲ示ス所デアリマスガ、現下ノ時局ニ際會致シマシテ、興亞ノ大業ヲ完成シ、將來愈、其ノ發展ヲ期センガ爲ニハ、我が國民ノ優秀性ヲ保持スルハ固ヨリ、益、是ガ増強ニ努ムルコトハ、今日喫緊ノ要務ト存ズルノデアリマス、我が國民體力ノ現狀ヲ見マスルニ、近年其ノ低下ノ傾向ヲ見受ケラレルノデアリマシテ、其ノ素質モ亦自然ニ之ヲ放置シテ置キマスル時ハ、次第ニ低下スルノデハナイカト懸念セラルルノデアリマス、而シテ國民體力ノ向上ヲ期シマスガ爲ニハ、單ニ環境ノ改善ニ依リマスル後天的素質ノ向上ヲ圖ルニ止マラズ、更ニ進ンデ根本的ニ國民ノ先天的素質ノ向上ヲモ期スルコトガ肝要デアルト存ズルノデアリマス、今我が國民ノ先天的素質ニ付キマシテ檢討ヲ加ヘテ見マスルニ、不健全ナル素質、殊ニ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル向ガ、漸次増加スルノ傾向ガ見エルノデアリマス、是等ノ遺傳性惡疾ガ遺傳ヲ致シマシテ、子孫ニ其ノ發病ヲ見マスルコトハ、番ニ患者又ハ患者ヲ有スル家族ノ悲惨ナル苦惱トナルノミナラズ、之ヲ國家的ニ見マシテモ、斯ノ如キ惡質ナル素質ガ遺傳シテ行キマスナラバ、將來ノ國家發展ノ上ニ、洵ニ憂慮スベキ事態ガ齎サレルコトニ相成ラウカト存ズルノデアリマス、以上述べマシタ如キ理由ヲ以チマシテ、本法案ヲ提出スルニ至ツタ次第デアリマス、本法案ニ於キマシテハ、惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者ハ、綿密ナル審査ヲ受ケマシタ後ニ、必要ト認メラルル時ニハ、優生手術、即チ生殖ヲ不能ナラシムル手術ヲ受ケ得ルコトヲ認メタノデアリマシテ、之ニ依ツテ惡性ノ遺傳的素質ガ、將來ノ國民ノ中ニ増加スルコトヲ防止セントスルモノデアリマス、尙ホ是ト關聯致シマシテ、避妊手術又ハ妊娠中絶等ノ如キ行爲ノ濫用セラレマスルコトヲ嚴重ニ取締リ、以テ健全ナル素質ヲ有スル

國民ノ人爲的ノ減少ヲ致シマスル原因ヲ除キ、人口増加ニモ資セントスルノデアリマス、本法
案ノ如ク惡質ナル遺傳性疾患ヲ防遏スルコトヲ目的トシタ法案ハ、第六十五回、第六十七回、
第七十回、第七十三回、第七十四回ノ帝國議會ニ於キマシテ、五回ニ亙ツテ、民族優生法案ナ
ル名稱ノ議員提出ノ法律案ガ、本院ニ於テ議題トセラレマシタ、右ノ中第七十四回議會ニ於キ
マシテハ、本院ニ於テ一度可決セラレマシテ、貴族院ニ送付サレタヤウナ次第ゴザイマス、
政府ニ於キマシテハ、本案ニ對シテ事ノ慎重ヲ期シマスル爲ニ、昨年設置ヲ見マシタ國民體力
審議會ニ要綱ヲ諮問致シマシテ、同委員會ニ於テハ慎重審議ノ後ニ、昨年末其ノ答申ヲ見ルニ
至ツタノデアリマス、本法案ハ此ノ答申ニ基キマシテ立案致シタ次第ゴザイマス、何卒慎重
ニ御審議ノ上御協賛アラントコトヲ希望スル次第デアリマス

村松久義君、曾和義弼君、杉山元治郎君、田中養達君及北浦圭太郎君質疑ヲ爲シ吉田厚生大臣、
舟橋文部政務次官及鶴見内務次官應答ス

村松久義君ノ質疑

只今上程ノ國民優生法案ニ關シ、二三ノ質疑ヲ致シタイト存ジマス、本法案ノ要旨トスル所ヲ
同ジクスル民族優生法案ハ、吾々同志ニ依ツテ屢、此ノ議場ニ現ハレ、昨年本院ヲ通過スルニ
至ツタノデアリマシテ、茲ニ政府ガ多數ノ有識者、専門家ヲ網羅シタル所ノ一大調査會ヲ經
テ、本案ノ提出ヲ見ルニ至リマシタコトハ、私共トシテ洵ニ喜ビニ堪ヘザル所デアアルノデアリ
マス、唯併シナガラ本案ハ言フマデモナク、人口ノ増加ト云フ觀點ニ立チマスル限り、一ツノ
消極的ノ方策デアアルノデアリマシテ、今日人口ノ増加ヲ要スルコト急ナル場合ニ於テハ、勢ヒ
他ノ人口増加ノ積極政策ガ伴フノデナケレバ、其ノ完全ヲ得ルコトガ出來ナイコトハ、言フマ
デモナイノデアリマスルガ故ニ、此ノ法案ト並行シテ、或ハ相補ツテ、人口増加ニ關スル幾多
ノ施設ガ用意セラレテ居ラナケレバナラナイコトハ、言フマデモナイト思ヒマスルガ故ニ、此

ノ觀點ニ立ツテ、政府ニ二三ノ質疑ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス、其ノ第一ハ、多數兒
童ヲ有スル家族ニ對スル保護ノ對策デアリマス、曩ニ政府ハ多數兒童家族ニ對シテ、月給七十
圓以下ノ下級俸給者ニ對シテハ、月二圓ノ手當、所謂家族手當ヲ支給スルコトニ致サレタノデ
アリマスルシ、又税制ノ改革ニ於テ、第三種所得税ニ、扶養家族ニ對スル控除額ノ定ヲセント
シテ居ルノデアリマスルガ、斯ノ如キ程度ヲ以テ、果シテ眞ノ人口増加ノ急ニ應ジ得ベキモノ
デアルカドウカ、識者ノ共ニ疑ツテ居ル點デアアルノデアリマス、申上グルマデモナク、今日人
口ノ増加率ガ漸次減退ヲ致シテ參リマシタコト、動モスレバ日本ノ人口ガ減少スルノデハナカ
ラウカト思ハレマスル如キ、極端ニ至ツテ參リマシタ場合ニ於テ、斯ノ如キ極メテ少額ナル支
給ヲ以テ、能ク其ノ人口増加率ヲ維持シテ行クコトガ出來ルカドウカ、吾々ハ茲ニ鑑ミル所ガ
アリマシテ、我黨ノ政策トシテ決定シタルモノガアルノデアリマス、第一ハ、結婚ノ獎勵策ヲ
國家ノ施設トシテ思切ツテ之ヲ行ハナケレバナラナイ、中ニハ、晩婚ノ防止ヲシナケレバナラ
ス、獨身税ヲ賦課スルコトニ依ツテノ結婚ノ獎勵、或ハ結婚資金ヲ貸與スルコトニ依ツテノ獎
勵、斯ノ如キモノガ、此ノ人口減少ノ傾向ノ見エツアル今日ニ於テ、ドウシテモ之ヲ行ハナ
ケレバナラヌト云フコトヲ主張致シテ來テ居ルノデアリマス、殊ニ多數兒童家族ノ保護對策ト
致シマシテハ、税制改革ニ於テモ其ノ徹底ヲ期サナケレバナラナイ、賃銀及ビ俸給政策ニ依ル
所ノ保護モ期セナケレバナラナイ、教育費ノ國庫負擔ニ依ル所ノ多數兒童家族ノ教育費ノ低減、
或ハ兒童保險ノ創定ニ依ル、兒童ニ對スル保險ヲシナケレバナラナイト云フ、各種ノ積極的對
策ヲ以テ、之ヲ行ハナケレバナラヌ時代ニ達シテ居ルト、私共ハ斯様ニ觀察ヲ致シテ居ルノデ
アリマス、然ルニ申上グルマデモナク今日生活難、社會不安ヨリ來ル所ノ産兒ノ制限ハ、想像以
上ニ瀾漫致シテ居リマシテ、斯ノ如キ産兒制限ノ瀾漫ガ、若シ將來モ繼續致シテ行クナラバ、
歐洲諸國ニ見ルガ如キ、人口ノ減退モ生ズルノデハナカラウカト、私共洵ニ憂慮ニ堪ヘナイ
ノデアリマス、我が日本民族ノ人口減少ノ傾向ガ現ハレテ居ル其ノ半面ニ、我國ト境ヲ接スル
支那、「ソ」聯邦、此處ニ於テハ我が日本ノ人口増加率ヲ遙カニ凌駕スル所ノ、大人口増加ガ年々現

ハレテ來テ居ルノデアツテ、私共ハ今日マデハ人口ノ増加ヲ誇ツテ居ツタ、過剰人口ノ始末ニ困
 ヲテ居ツタ、此際ニ東亞ノ新秩序ニ入ラントスル私共日本ガ、隣邦ニ斯ノ如キ國ヲ持チ、而シ
 テ日本人ノ人口ノ減少ガ年々現ハレテ來テ居ルト云フ事實ニ對シテ、餘程徹底シタル保護ノ對
 策ガ施サレナケレバナラント云フコトヲ、痛感セザルヲ得ナイノデアリマス、吾々ハ目前ノ
 問題ニ付テモ、解決スベキ多クノモノヲ持ツテ居リマス、食糧ノ問題、石炭ノ問題、其ノ他吾
 吾ガ目前解決ヲシナケレバナラヌ幾多ノ問題ハアリマス、之ヲ解決スルト同様ニ、或
 ハヨリ以上真ノ民族政策ガ確立セラレテ、此ノ人口ノ減少ガ防止セラレルノデナカッタナラ
 バ、果シテ東亞ノ新秩序ガ出來ルカドウカ、國家百年ノ大計ヲ考ヘテ、政府ハ此ノ點ニ對シテ優
 生法ヲ施行スルト共ニ、十分ニ考慮シテ、思切ツタ政策ヲ斷行セラレナケレバナラナイト云フ
 コトヲ思フノデアリマス、此ノ點ニ關シマスル政府ノ御所見ヲ第一ニ承リタイト存ジマス、次
 ハ花柳病ノ豫防對策ニ付テデアリマス、昨年ハ御承知ノ如ク、我が人口ハ三十萬餘リ、例年ヨ
 リモ其ノ増加ガ減少致シタノデアリマス、此ノ三十萬ノ中、出征將士ノ戰死セラレタル者ハ除
 イテアリマス、隨テ此ノ二十萬ノ減少ヲ見セ付ケラレマシタル私共ハ、洵ニ驚愕ニ堪ヘザルモノ
 ガアツタ、其ノ原因ハ何デアルカ、色々アルト思ヒマスガ、ソレヲ詳細ニ今論究スル邊ヲ有シ
 マセヌガ、若シ花柳病ノ對策ガ完全ニ行ハレテ居ルナラバ、三十萬ノ減少ノ中、或ハ二十萬近
 クノ者ガ、之ヲ補ツテ餘リアルノデハナカラウカト云フ感ガ致シテナラヌノデアリマス、例ヘ
 バ手取早ク帝國統計年鑑ヲ出シテ拾ヒ上ゲテ見マスレバ花柳病ニ罹ツテ死ヌ者、生レテ直チニ
 死ヌ者、或ハ死ンデ生レル者、一年以内ニ死ヌ者、斯ウ云フ者ヲ勘定シテ見マス、實ニ十四
 五萬ノ多數ニ及ンデ居ルヲ發見スルノデアリマス、其ノ外ニ直接間接梅毒ニ罹ツテ其ノ生命
 ヲ失ヒマスル者ハ、恐ラク五萬人ヲ下ラナイデアラウト思ヒマス、五萬人ヲ超エテ居ルト思ヒ
 マスガ、内輪ニ見マシテ五萬人トスルナラバ、此ノ花柳病關係ニ於テ生命ヲ失フ者、全ク二十
 萬ノ多數ニ及ンデ居ルノデアリマス、ノミナラズ花柳病ニ罹リマシタルガ爲ニ、生殖ガ不能ニ
 ナツタト云フ人々ハ、恐ラク相當多數ニ上ルト思ヒマスガ故ニ、此ノ花柳病ニ依ツテ失ハレル人

命ト云フモノハ、若シ政府ニシテ他ノ諸國ト同様ニ徹底的ノ對策ヲ講ズルナラバ、速急ニ人口
 減少ヲ防ギ得ル所ノ途デアルノデアリマス、然ルニ花柳病豫防法案ガ成立致シマシテ、既ニ十
 年ニナツテ居リマス、サウシテ一昨年漸ク政府ノ補助ニ依ツテ、地方公共團體ニ花柳病ノ療養
 所ガ出來タノデアツテ、其ノ數ハ今日漸ク百ヲ數ヘルニ過ギナイノデアリマス、斯ノ如ク法律
 ハアレドモ豫防治療スル所ノ施設ナク、而モ其ノ法律ガ不徹底ヲ極メテ居ルト云フノデアツ
 テ、斯ノ如キモノヲ唯漫然ト何ノ改正ヲスルコトモナシニ放任シテ置ク所ノ結果ハ、一體ドウ
 ナルデアラウカ、殊ニ今日時局産業ノ殷賑ナル方面ニ參ツテ見マスレバ、花柳病専門ノ醫者ノ
 門前ニ列ヲ作ツテ、其ノ治療ヲ待チ望ンデ居ル一群ノ人々ヲ見ルノデアリマス、或所ニ於テハ
 午前七時ヲ以テ受付ヲ拒絕スルト云フ繁昌振リヲ示シテ居ルノデアリマス、斯ノ如クシテ人口ノ
 減少ガ、花柳病豫防對策ノ不徹底ト云フコトニ、重大ナル關係ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ考ヘテ
 參リマスルナラバ、吾々ハ大シタ費用デハナイトハ思ヒマスルガ、此ノ方面ニ向ヒマシテ、政府
 ハ思切ツテ支出ヲシテ戴カナケレバナラナイト云フコトヲ痛感致スノデアリマス、色々考ヘテ
 見マスレバ、是等ニ關シテモ申述ブルコトハアルト思ヒマスルガ、政府ハ花柳病豫防對策ノ徹
 底的ナル施行ニ付テ、ドウ云フ御所見ヲ持ツテ居ルカ、之ヲ第二ニ承リタイト存ジマス、第三
 ニ伺ヒタイト存ジマスルノハ、精神病者ソレ自身ニ對スル對策デアリマス、日本ニ於テ今國民
 病ト言ハレテ居リマスルモノハ、第一ハ結核デアリマス、第二ハ花柳病デアリマス、第三ニ精
 神病デアリマス、結核ニ關シマシテハ、幸ニシテ世人ノ認識ニ上ルコト、最近甚シキモノガア
 リマシテ國家ノ助成金ニ依ツテ府縣ニ療養所ガ出來タ、又國家ノ療養所モ出來上ラントシテ居
 ル、畏多クモ御下賜金ヲ戴イテ、ソレノ施設ガ出來上ラント致シテ居リマスルガ故ニ、私
 共ハ先ヅ結核ニ付テハ、治療豫防ニ付テ軌道ニ乗ツテ來テ居ルト云フ感ジラ致スノデアリマス、
 花柳病ニ關シマシテハ、前申シマシタ通りニ未ダ十分ナルモノガナイ、然ルニ此ノ精神病ニ對ス
 ル對策ニ至リマシテハ、全ク何ノ對策モナイト云フ言ツテ宜シイヤウニ、放任セラレ放シニナツテ
 居ルノデアリマス、昭和十三年ノ末精神病者ノ總計ガ九萬幾ラト勘定セラレテ居リマス、本年ハ

或ハモウ既ニ十万ニナツテ居ルノデハナカラウカト思ヒマスルガ、此ノ十万ノ精神病者ガ、ドウ云フ對策ヲ以テ世上ヨリ隔離セラレ、本人ガ保護セラレテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見マスレバ、御承知ノヤウニ精神病院法ナルモノガアル、然ルニ精神病院法ニ依ツテ作ラレタル所ノ公立精神病院ハ、全國ニ僅カ七ツシカナイノデアリマス、其ノ他ハ代用病院ヲ以テオ茶ヲ濁シテ居ルト云フ現狀デアリマス、精神病院ニ對スル其ノ建設補助金ハ、今日マデハ一万八千圓ノ程度ニシカ過ギナカツタノデアツテ本年ノ豫算ニ依ツテ數方圓ヲ増加致シタトハ申シナガラ、九牛ノ一毛ニシカ過ギヌノデアリマス、斯ノ如ク致シマシテ、精神病者ヲ隔離保護スル所ノ施設ハ、十万ノ精神病者ノ中、僅ニ二万内外ニ過ギヌノデアツテ、殘サレタル所ノ八万ノ精神病者ハドウナツテ居ルカ、或者ハ其ノ家庭ニ於テ座敷牢ヲ造ツテ閉テ籠メラレテ居リ、大部分ノ者ハ野放シニセラレテ居ルト云フ狀況デアアルノデアリマス、有名ナル岡山ノ三十七人殺シ、澁谷ニ於ケル七人殺シ、是等ハ何レモ野放シニセラレタル所ノ、精神病者ノ發作的ノ行爲デアツタコトハ、御承知ノ通りデアリマス、最近ニ於キマシテ臺灣生レノ女學生ガ殺傷セラレタ、ソレヲ爲シタ者ハ恐ラク痴漢ノ行爲デアラウトハ、推定セラレテ居リマスルモノノ、未ダ犯人ハ逮捕セラレテ居リマセヌ、精神病者ヲ野放シニシナガラ、後ニ探查陣ガ如何ニ緊張ヲ致シマシテモ、結果ヲ未然ニ取返スコトハ不可能デアリマス、而シテ其ノ探查ノ費用ガ莫大ナモノデアアル、愈々擱ヘテ見テ之ヲ刑罰ニ處セント致シマシテモ、精神病者ナルガ故ニ輕イ刑罰、或ハ無罪ノ言渡ヲ受ケル、斯ノ如キ反社會的ナル精神病者ガ野放シニセラレテ居ルコトノ、吾々國民ニ對スル不安脅威ト云フモノハ、言語ニ絶スルモノガアルニ拘ラズ、斯クノ如キモノニ對シテ何等ノ對策ヲ持タズシテ、漫然ト警察探查ノ陣ニ之ヲ委セントスルガ如キコトハ、第一ハ精神病者其ノ人ニ對シテモ洵ニ御氣ノ毒デアアルノミナラズ、吾々社會ニ取リマシテモ、極メテ危險千萬デアルト云フコトヲ、痛感セザルヲ得ナイノデアルガ故ニ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル對策ヲ持ツテ居ルノデアアルカヲ御示ヲ願ヒタイト存ジマス、第四ニ私ノ御尋致シタイト思ヒマスルノハ、結婚制度ニ關スル問題デアリマス、御承知ノ如ク我國ノ結婚制度、之ニ關シテ法律ニ規定ノアリマスモノハ

唯民法ダケデアリマス、而モ其ノ民法ニ於テハ年齢ニ制限ヲ附ケテ居ル、近親結婚ヲ禁ジテ居ルダケデアツテ、ソレ以上ノ何モノモ規定ヲ致シテ居ラナイノデアリマス、然ルニ大臣ノ御説明ニアリマシタ如クニ、精神病者ガ年々歳々非常ニ殖エテ行ク、其ノ殖エテ行ク者ガ結婚スルコトニ依ツテ、日本民族ノ素質ガ低下セントシテ居ルト云フ、此ノ御説明ヲ聽キマシテモ、何トシテモ精神病者ノ強度ナルモノニ對シ、遺傳ノ明確ナルモノニ對シ、反社會的ナル精神病者ニ對シテ結婚ヲ禁止スルコトガ當然デナケレバナラナイ、或ハ極端ナル傳染病者ト云ツタヤウナモノニ對シテモ、相當ノ制限ヲ附サケナケレバナラヌノデアツテ、斯ノ如キ者ニ對スル制限ト、優良ナル家系ニ對スル獎勵ト、兩々相俟ツテ、結婚制度ガ完備シナケレバナラヌコトハ、寧ろ時代ノ要求デアルト申シテモ差支ガナイノデアリマス、之ヲ一言デ言ヘバ、結婚管理法トデモ申シマセウカ、或ハ優生結婚法トデモ申シマセウカ、結婚健康法トデモ申シマセウカ、何カ斯ノ如キモノガナケレバナラヌト思フノデアリマスルガ、唯一ツ問題ニナリマスノハ、個人ノ自由ヲ束縛スル結果ニナルノデハナイカト云フ虞ガアリマスガ、私共ト致シマシテ、個人ノ自由ハ勿論之ヲ尊重シ助長シナケレバナラヌガ、今民族ノ素質ガ低下セントスル此ノ際ニ、私共ハ相當ニ考ヘテ見ル必要ガアリハシナイカト云フ點デアリマス、斷種法ガ世界相當多數ノ國ニ施行セラレテ居リマスルガ、結婚管理法ニ於テハ、ソレ以上ノ國々ニ於テ施行セラレテ居ツテ、施行セラレテ居ラナイ國ヲ勘定シタ方ガ早イノデアリマス、日本ガ先ヅ第一ニソレデアリマス、佛蘭西ガサウデアリマス、白耳義ガサウデアリマス、「ルクセンブルグ」ガサウデアリマス、「バラガイ」ガサウデアリマス、「タイ」ガサウデアアル、埃及ガサウデアアル、支那ガサウデアアル、結婚管理法ノ行ハレテ居ラナイ國々ハ、唯是ダケニ過ギヌノデアアル、何處ノ民族モ、何處ノ國モ、其ノ民族ヲ眞ニ保護セントスル所ノ氣持ガ明瞭ニ現ハレテ居リマス、隨テ政府ニ於テモ何等カ之ニ對シテ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、優生法ノ施行ト、此ノ結婚制度ノ完成ト、兩々相俟ツテ車ノ兩輪ノ如ク進メテ行クベキ所ノ必要アリト思フガ、政府ノ所信如何ト御尋ヲ致シテ置キタイト存ジマス、時間ガナクナツテ參リマシタカ

ラ、項目ダケ更ニ御尋ヲ致シテ見タイト思ヒマス、本法案ノ内容ニ付テ二三御尋ヲ致シテ見タイト存ジマス、理由ハ申上ゲマセヌカラ、御説明ヲ一ツ願ヒタイト存ジマス、此ノ制度ヲ實施スルコトニナリマス、世人ノ中色々疑念ヲ持ツテ居ラレコトガ數點アルト思ヒマス、第一ハ、今日ノ學問ノ程度ヲ以テシテ、本法案ニ示サレテ居ル如クニ、果シテ眞ノ遺傳ナリヤ否ヤ強度ナリヤ否ヤ、惡質ナリヤ否ヤガ判明スル程度マデ、學問ガ進歩ヲ致シテ居ルカドウカト云フコトガ、第一ノ疑念デアリマス、第二ニハ、天才ト狂人ハ紙一重デアルト言ハレルガ、狂人ヲ失フコトニ依ツテ、天才ヲモ併セテ失フ虞ガナイカ、此ノ點ガ第一デアリマス、第三ニハ日本ハ家族制度ノ國デアルガ、子種ヲ失フコトニ依ツテ、先祖ノ祀リハ誰ガスルカ、固有ノ家族制度ノ精神ヲ破壊スルモノデハナイカト云フ虞デアリマス、第四ニハ、精神病ナドハ將來醫學ガ進歩發達スルニ從ツテ、之ヲ治療スルコトガ出來ルコトニナルカモ知ラヌデアルガ、今日ノ醫學ノ發達ノ程度ニ於テ、直チニ男子ヲシテ將來取返シノ付カヌ状態ニナル虞ハナイカ、斯ウ云フヤウナコトガ、本法實施ニ關スル色々ナル疑問トナツテ現ハレテ居ルト思フデアリマス、理由ハ申シマセヌガ、之ニ對シテ一般世人ノ疑惑モアルト思フ、又専門學者ノ中ニ於テモ、左様ナ見解ヲ持ツテ居ル人モアルト聞イテ居リマスガ、政府ニ於テ明快ニ御説明アラシコトヲ希望致シテ置ク次第デアリマス

吉田厚生大臣ノ應答

村松君ノ御質疑ニ對シマシテ、御尋ノ順序ニ從ヒマシテ御答ヲ申上ゲマス、先ヅ最初ニ、此ノ優生法案ハ健全ナル人口増加ト云フ觀點カラ見レバ、消極的ナ働キヲ主トシテ爲スモノデアリニ付テハ、積極的ナ健全ナル人口増助ト云フコトニ對スル施設ガ、併セ用意セラレルノデナケレバナラナイト云フ御趣意ハ、洵ニ御同感ト存ジマス、其ノ第一トシテ、子供ノ多イ家庭ニ對スル方策ガ、今日ノ如クデハ不完全デハナイカ、先般施設致シマシタ家族手當、或ハ現ニ御審議中デアリマスル第三種所得ノ控除等ノ制度ダケデハ、不十分デハナイカト云フコトデアリマス、

政府ニ於キマシテモ、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ、ソレデ十分デアルト考ヘテ居ラナイ次第デゴザイマス、一方村松君モ御指摘ニナリマシタ通りニ、近時人口ノ自然増加率ト云フモノハ、極メテ徐々ニデハアリマスルガ、ズツト引續キ減少ノ傾向ヲ辿ツテ居ルノデアリマス、又此ノ事變ノ影響ヲ受ケマシテ、急激ニ其ノ點ハ憂慮スベキ減少ノ傾向ト云フモノヲ示シテ居リマスノデ、何ト致シマシテモ、我が民族ノ發展ノ爲、又興亞ノ大業成就ノ爲ニハ、健全ナル國民ノ増殖ト云フコトガ、其ノ根柢ヲ成スモノデアルト考ヘマス、結婚奨勵ノ方策、或ハ兒童保護施設、或ハ近來漸ク其ノ惡弊ヲ實際ノ上ニ認メラレルニ至リマシタ産兒制限ト云フコトニ付キマシテノ解除、諸々ノ方策ヲ工夫ヲシ、之ヲ速ニ實踐スルコトガ必要デアルト考ヘルノデアリマス、ソレ等ノ詳細ニ付キマシテハ、他ノ機會ニ何レ御教ヲ仰ギタイト思フノデアリマスガ、ソレ等ノ諸問題ト併セテ、最モ力強ク此ノ積極的對策ト云フモノヲ、實施セネバナラヌト考ヘテ居リマスル點ヲ、明ニ致シテ置キタイト思ヒマス、次ニ花柳病豫防、花柳病對策ニ付テノ御尋デゴザイマシタ、花柳病モ洵ニ恐ルベキ國民的疾患ト致シマシテ、其ノ根本的解決ヲ要シマスモノノ一ツデアリマスルコト、御指摘ニナリマシタ通りデアリマス、是亦洵ニ憂慮スベキコトニハ、最近ノ時局ニ伴ヒマシテ、從前ニモ増シテ蔓延ノ兆ノアルコトヲ私共心付イテ、實ニ深憂ニ堪ヘヌ次第デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、從前ノ法制或ハ此ノ法制ヲ運用スルニ付テノ施設等、決シテ満足トハ言ヘナイ状態デゴザイマスノデ、是等ニ付キマシテハ法制ヲ改正シ、施設ヲ充實スルコトノ必要ヲ認メマシテ、目下改善方ノ調査中デゴザイマス、全然御質問ノ趣意ト感ヲ同ジウシテ、目下工夫ヲ致シテ居リマスカラ、左様御諒承願ヒタウゴザイマス精神病者ノ對策、收容施設ノ貧弱デアリマスコト、又精神病者ガ放置セラレテ居ルコトガ、御當人ハ固ヨリノコト、大キナ社會的不安ヲ爲シテ居ルコト、是モ洵ニ村松君ト私共憂ヲ等シウスル點デゴザイマス、政府ノ其ノ方面ノ施設ハ、若干收容施設ノ補助ノ増額等ヲ認メタノデアリマスガ、決シテ十分トハ申セナイノデアリマス、精神病ニ付キマシテハ、新シイ治療方法等モ發見セラレテ居ルヤウデゴザイマス、成ベク早期ニ之ヲ發見ヲシ、治療ヲシ、又適當ナ

監護收容ノ施設ト云フモノヲ、充實スルコトノ上ニ於キマシテハ、出來得ル限りノ力ヲ盡シタ
 イト考ヘル次第ゴザイマス次ニ結婚制度ニ付テ、法制ヲ以テ之ヲ規正スル考ハナイカト云フ
 御尋デゴザイマス、優良ナ素質ヲ持ツテ居ル人々ガ結婚シテ、優良ナ子孫ヲ澤山ニ産ミ殖シテ
 參ルト云フコトノ大切ナコトハ、申スマデモナイノデアリマス、御質問ノ御趣意ニ付キマシテ
 ハ私共モ御同感デゴザイマスガ、之ヲ法制ヲ以テ、或種ノ人々ノ間ノ結婚ヲ禁止シ、或ハ制限
 ラシ、又ハ或種ノ人々ノ間ノ結婚ニ干渉スル、所謂法制ノ力ニ依ツテ結婚ノ管理ヲスルト云フ
 ヤウナコトニナリマスルト、随分慎重ニ考慮セネバナラヌ難問題ヲ幾多含ンデ居ルト思フノデ
 アリマス、輕々ニソレ等ノ制度ヲ實施シテ宜シイカドウカト云フコトニ付キマシテハ、未ダ確
 信ヲ得ナイノデアリマス、是ハ質問ノ御趣意ヲ尊重致シマシテ、篤ト考究ヲサセテ戴クコトニ致
 シタイト存ジマス、次ニ遺傳性ト云フモノハ確實デアアルカドウカト云フ、一般世間ノ疑惑ニ付
 テ、ドウ思フカト云フ御尋デゴザイマス、遺傳ニ關スル學問、或ハ優生ニ關スル學問等ハ、固
 ヨリ今後モ進歩ヲ續ケルコトト考ヘマス、又是非進歩セネバナラヌコトト考ヘマスガ、此ノ法
 案デ目的ト致シテ居リマス、又立案ノ基礎ニナツテ居リマスル範圍ニ於キマシテハ、遺傳ノ
 確實性ト云フモノハ、今日ノ學問ニ於キマシテ十分ニ安心シテ、ソレニ立脚シ政策ヲ講ジ得ル
 モノト考ヘテ居リマス、是等ハ專門ノコトニモ涉リマスノデ、詳シイコトハ又別ノ機會ニ政府
 ノ所見ヲ申上ゲルコトガアラウト思ヒマス、結論ダケヲ申上ゲテ置キマス次ニ天才ト精神病ノ
 關係ニ付テ、御疑問ノ御話ガゴザイマシタ、諺ニ、丁度御指摘ニナリマシタヤウニ、天才ト氣狂
 ヒハ紙一重ダト云フコトヲヨク申シ傳ヘラレテ居リマス、又左様ナ事例ガナイコトモナイノデ
 アリマスガ、學問研究ノ結果ニ依リマス、天才ト氣狂ヒ、精神病ト云フモノガ、必然ニ關聯性ヲ
 持ツテ居ルモノデハナイト云フコトガ、實證セラレテ居ルノデアリマス、但シ精神病ノ人デア
 ヲテ、同時ニ天才トシテノ優良素質ヲ兼ネ併セテ居ル場合モ、是ハアリ得ルノデアリマス、隨テ
 天才ト精神病ト直接ノ關聯ニアリマセズトモ、左様ナ精神病者、遺傳性ノ精神病者ニ對スル優生
 手術ヲ行フコトニ依リマシテ、優良素質ヲモ併セテ失フト云フコトハ、慎マネバナラヌト云フ

考ヲ以チマシテ、左様ナ優生素質ヲ併セテ居ル者ニ對シマシテハ、本法ニ依ル手術ヲ行ハナイ
 コトト致シテアルノデアリマス、是モ詳細ハ他ノ機會ニ於テ申上ゲタイト存ジマス次ニ子種
 ヲ絶ツコトニ依ツテ、祖先ノ祭祀ヲ絶チ、我國ノ家族制度ヲ破壊スルデハナイカト云フ説ガ
 アルガ、ソレニ付テドウ思フカト云フ御尋デアリマス、本法ノ對象トナル人ハ、洵ニ悲シムベ
 キ惡質ノ遺傳性疾患ヲ持ツテ居ル人デアリマス、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、廢人同様ノ人々
 デゴザイマス、ソレ等ノ子孫ガ又遺傳ニ依リマシテ、同様ノ憂キ目ニ遇ハネバナラズ、又世間
 ガソレダケ迷惑セネバナラヌト云フヤウナ、極メテ限ラレタ已ムヲ得ナイ場合ニ、本法ノ發動
 ヲ見ルコトニナツテ居ルノデアリマシテ、祖先ノ祀リヲ傳ヘルト云フコトニ付キマシテハ、優
 良ノ人々ニ依ツテ祀リヲ傳ヘマス途ハ、養子其ノ他ノ制度ニ依ツテ開カレテ居ルノデアリマス
 我國ニ於キマシテ、固ヨリソレ等ノ不仕合セノ家庭ニ於ケル祀リヲ絶ヤサズ、家系ヲ繋グト云フ
 コトガ、古來ノ傳統ノ上ニ於テ、今日ニ引續イテ行ハレテ居ルノデゴザイマスカラ、ソレ等ノ我國
 ノ固有ノ制度ヲ立派ニ運用スルコトニ依リマシテ、只今申シマスヤウナ、家系ノ潰レテシマフト
 云フ風ナコトノ憂ハ、除カレルコトト考ヘルノデアリマス次ニ精神病ハ治療シ得ルデハナイカ、
 ソレニ優生手術ヲ施シテ、其ノ系統ヲ早計ニモ今日斷ツト云フコトハ、少シ行キ過ギデハナイ
 カト云フ疑念ガアル、左様ナ意味ノ御尋デゴザイマシタ、精神病ノ治療ト云フコトモ、今日ハ或
 ル程度出來ルノデアリマスルガ、將來益、是ハ有效ニ行ハレルヤウニナラナケレバナラナイト思
 フノデアリマス、併シナガラ治療ガ完全ニ行ハレル場合ヲ、假ニ想像致シテ見マシテモ、其ノ人
 ノ精神病のナ素質ト云フモノハ、ヤハリ遺傳スルノデアリマス、御本人ガ治ツテモ、子孫ニハ又同
 様ノ不幸ナ人々ガ出テ來ル可能性ヲ持ツテ居ルト云フコトガ、遺傳學、優生學ノ建前ニ於テ明カ
 ナノデアリマシテ、其ノ點ヤハリ精神病ノ治療ニ努メネバナラヌト同時ニ、左様ナ劣等惡質ナ素質
 ガ永ク續クト云フコトニ對シテハ、ヤハリ適當ナ方策ヲ必要トスルト考ヘルノデアリマス、ソ
 レ等詳細ナ技術的ノ問題ニ付キマシテハ、何レ又委員會等他ノ機會ニ於キマシテ、詳細申上ゲ
 ルコトガアルト思フノデアリス、只今ハ概要ノ御答ヲ以テ御諒承ヲ願ツテ置キタイト存ジマス

會和義式君ノ質疑

只今議題トナツテ居リマスル國民優生法案ニ付キマシテハ、私ハ多數ノ疑義ヲ持ツテ居ル者デアリマスルガ、限ラレタル時間デアリマスルガ故ニ、數點ニ付キマシテ、私ノ重要ト思料シマスル點ニ付テ、政府ノ所信ヲ質シタイト存ズルノデアリマスル法案ヲ提出セラレマシタル所ノ目的ハ、第一條ニ明デアリマシテ、一ハ惡質ナル遺傳性疾患ノ素質ヲ有スル者ノ増加ヲ防遏スルノガ目的デアツテ、今一ツハ、健全ナル素質ヲ有スル者ノ増加ヲ圖ルト云フコトガ、第二ノ目的ニナツテ居ル然ルニ此ノ法案ヲ通ジテ檢討シマシテモ、先程村松君モ言ハレマシタ通り、積極的ニ素質ノ健全ナル者ノ増加ヲ圖ルト云フ方針ガ、何等ソコニ示サレテ居ナイノデアアル、ノミナラズ、此ノ積極的方面ヲ不問ニ付シマシテモ、消極的方面、即チ惡質遺傳ヲ防遏スルニ今一ツノ方法ガアル、ソレハ代ヲ重ネテ此ノ素質ノ改善ヲ圖ルト云フコトデアリマス、諸君、我國有史以來假ニ三千年ト致シマシテ、社會通念ニ依リマスルト云フト、三十年ヲ以テ一代トスル、然ラバ三千年ハ百代ニ相當スルノデアリマス、其ノ百代ノ間ニ漸次惡質ガ傳播シ、遺傳サレ、或ハ傳染サレテ行ツタモノデアアル、之ヲ二十年ヤ三十年、其ノ人一代デ治サウト云フヤウナ、サウ云フ近視眼的ナコトノミヲ考ヘテ居ルガ故ニ、方法ガナイト云ウテカラニ匙ヲ投ゲル、之ヲ二代、三代、五代ニ互ツテ、惡質ノ遺傳ヲ改善シテ行クト云フ考ヘ方ガナケレバナラヌ筈ダ、然ルニソレヲスラ考ヘズシテ、唯惡質遺傳者デアルカラト云フノデ、直グニ斷種ヲスル、此ノ法案ニ示サレテアルノハ、斷種ノ一ツシカナイ、然ルニ此ノ法案ヲ名付ケテ國民優生法案ト謂フ、私ハ此ノ名稱ト此ノ法案ノ内容トガ合ハナイト思フ、此ノ法案ハ此ノ名稱ノ示ス總テヲ内包シテ居ナイト云フコトヲ私ハ言フノデアアル、斯ノ如キ唯名稱ノ問題ノミヲ申シマスルナラバ、或ハ人之ヲ輕ンズルカモ知レマセヌガ、私ノ信ズル所ニ依リマスレバ、日本人ハ古來名ヲ重ンズル、名分ヲ尊ブノデアリマス、然ルニ今日程我が日本ノ國民ガ、名ト云フモノニ對シテ比較的無關心ナ時代ハナイト思フ、即チ名ヲ輕ンズル、此ノ思想ハ、日本古來ノ思想ニ反スルモノデアアル、而シテ今日我が

國民思想ノ統一セラレザル、主トシテ此ノ名分ヲ正サザルニ因ルモノダト私ハ考ヘテ居ル、若シ社會各人ニシテ自己ノ名分ヲ守リ、其ノ本務ヲ盡スニ於テハ、國民再組織運動モ必要ハナイ、國民精神作興モ立ドコロニ出來ルノデアアル、隨テ是ハ單ニ吾々人間ノ名前ノミナラズ、政府ノ施設スル所、總テ爲ス所ト名目トガ一致シナケレバナラナイ、然ルニ今後此ノ法案ガ通過致シマシテ、一箇ノ法律トナツテ社會ニ出タ時ニハ、理解アル人ハ、實ニ此ノ法律ナルモノハ、羊頭狗肉デアルト叫ブニ違ヒナイ、又理解ノナイ人ハ、優生方法トハ是ダケシカナイモノデアルト感ズルニ違ヒナイ、モット根本ナル、モシト重要ナル優生方法ガアルニ拘ラズ、ソレヲ考慮セズシテ、惡質ハ直チニ種ヲ斷ツテ、後ヲ斷ヤシテシマヘバ、ソレデ宜イト云フ此ノ考ヘ方ハ、諸君、猶太系統ノ考ヘ方デアアル、日本精神デアアリマセヌ、之ニ對スル厚生大臣ノ御所見ヲ伺ヒマス、次ニハ既ニ今大體觸レタノデアリマスルガ、斷種ト云フコトガ、我が日本精神ニ反スルモノデアルト云フコトヲ、他ノ方面カラ説キタイ、ソレハ我が日本ノ國ハ一元的ノ家族國家デアアル、即チ遡レバ總テ同一血統カラ出テ居ル、諸君、吾々オ互ニ二名ノ父母ヲ持ツ、此ノ二名ノ父母ヲ造ル爲ニハ、四名ノ祖父母ガ要ルノデアリマス、四名ノ祖父母ヲ生ム爲ニハ、八名ノ曾祖父母ガ要ツタ、斯クシテ之ヲ十代前ニ遡リマスナラバ、今日現在ノ一人ノ人ヲ生ム爲ニハ、十代前ニハ千二十四人ノ人が要ル、二十代前ニハ、諸君、驚クナカレ百四万八千幾ラト云フ人が要ル、更ニ三十代遡レバ十億七千三百万人必要ル、隨ヒマシテ當時斯様ナ人口ハ居ナイ、居ナイノハ何故デアリマスカト云フト、十代、十數代遡ツテ、ソコ段々重ナリアツテ、ズット上代ニ遡リ、元ガ一ツニナツテ居ル、網ノ目ノ如キモノデアルト、私ハ斯様ニ考ヘテ居ル、日本ノ現在ノ國民全體ヲ眺メマスナラバ、投網ノ目ノ如キモノデアアル、隨テ吾々ノ血統ト云フモノハ、全國民濃カレ薄カレ全部繫ツタモノデアアル、其ノ網ノ目ノ一ツニ惡質ガアルカラト云ツテ、ソレヲ直チニ斷種シテ顧ミナイト云フコトハ、我が國民性ノ特質——即チ我が國民ハ古ヨリ一匹ノ獸、一羽ノ鳥、這フ蟲ノ一匹ニモ惻隱ノ心ヲ持チ、其ノ生命ヲ重ンズルト云フノガ日本ノ國民性デアアル、然ルニ次代ヲ繼グベキ所ノ、小サキ魂ガ生レ出ヅベキ可能性ニ置カレテ居ル時ニ之ヲ斷ツ、斯ノ如キ考ヘ方ハ、決シテ是ハ日本主義デハナイ

ト考ヘルノデアリマス、勿論斯様ナ惡質者ハ、大體ニ於テ子ヲ生ム可能性ハ甚ダ少イ状態ニ置カレテ居ル、隨テ斷種ト云フコトヲシナクテモ、自然ニ天ノ攝理ニ依ツテ斷種サレタモ同ジ結果ニナル、極ク少數ノ者ニ至ツテハ子ヲ生ムコトガ出來ル、併シナガラ之ヲ育テテ、之ヲ保護シテ、サウシテ先程申シマスル通り、數代ニ亙ツテ其ノ血統ノ淨化ヲ圖ルト云フコトニ努力スルナラバ、私ハ決シテ之ヲ變質改善スルコトハ、不可能ナコトデハナイト思フ、然ルニ政府ニ於テハ結核ト云ハズ、或ハ癩病ト云ハズ、或ハ花柳病ト云ハズ、國民ノ之ニ罹ツテ居ル者ヲ治療スル機關ノ完備ヲ圖ラズシテ——完備ヲ圖レト言ウタナラバ、必ズ是ニハ財政ガ伴フカラ困難デアリマスト言フニ違ヒナイ、金ノ要ルノガ恐シイカラ、サウ云フヤウニ血筋ヲ斷ツテ、ソレデ國家ノ仕事ガ盡セリト考ヘルナラバ、私ハ是ハ實ニ恐シキ思想デアルト考ヘテ居ル、是ハ專口今後日本ノ如ク生々發展スル國家トシテノ考ヘ方デハナイ、大正十年頃ニ日本ノ國デハ「サンジカリズム」ガ隨分蔓延シタ、産兒制限ガ宣傳サレタ、其ノ時ニ私ハ或人ニ言ツタ、産兒制限論者ヨ、安心セヨ、君等ノ制限セントスル思想ガ魂ノ底ニアル以上ハ、將來君等ノ子孫ハ絶エルニ決ツテ居ル、サウシテサウ云フ思想ヲ本當ニ熱望シ、心ノ底カラ産兒ヲ制限シタイト云フヤウナ、私カラ言ヒマスナラバ勿體ナイ考ヘ方、左様ナ考ヘ方ヲスル者ハ、必ズ將來君等ノ家系ハ絶エテシマフ、子孫ハ滅ビテシマフニ違ヒナイト私ハ明言シタ、子供ノ生レルノハ、人ガ生ムノデハナイト云フ考ヘ方ガ、日本ノ考ヘ方デアリマス、氏神様カラ授ツタト云フ考ヘ方デアル、ダカラ其ノ妊娠シタモノヲ生マセテ育テタナラバ、健全ナ子ニナルカモ知レナイモノヲ、生マセナイヤウニスル、更ニ女子ガ妊娠中デアツタナラバ、之ヲ妊娠中斷ヲサセルト云フコトガ、本法案ノ第十四條ニ出テ居ル、折角妊娠シタモノヲ何ガ爲ニ中斷スルノカ、ソレハ生マセタラドウカ、生マセテ育テテ見レバ、不幸ニシテ惡質遺傳ノ家ニ生レ、或ハ惡質遺傳ノ人ノ腹ニ宿ツタト云ヘ、迦レバ神代ヨリ傳ツタ血筋ヲ持ツテ生レテ來ルモノデアアル、淨化サレナイト斷言スルコトガ出來ヤウカ、國ハ神國ナリ、道ハ神道ナリ、民ハ神裔ナリト云フコトヲ古人ハ言ツテ居ル、畏多イケレドモ、吾々ノ如キ民モ昔ニ迦レバ神ノ、御末デアアル、ソレヲ

斷種スルト云フコトハ、先程モ申シマシタ通り、徹頭徹尾猶太思想デアアル、猶太系ノ輓近ノ醫學カラ出タ所ノ考ヘ方デアアル、デアリマスカラ政府ハ斯ウ云フ考ヘ方ヲ、更ニ能ク御考慮ヲナサツテ、十分練ラレル必要ガアルト私ハ考ヘルノデアリマスガ、ソレニ對シマシテ厚生大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス第三番目ハ、第五條ニ依リマスルト、此ノ優生手術ヲ受ケルコトヲ申請スル中ニ、醫師モ亦本人ノ承諾ヲ得テ申請スルコトガ出來ルト云フコトニナツテ居ル、醫術ニ從事セラレル諸君ガ、人間ノ生命ニ直接關係ノアル聖業デアアルコトハ申スマデモナイ、殊ニ斯ノ如キ重大ナル、其ノ人ノ血統ヲ絶ツテシマフト云フ事業ニ參加セラルルニ至ツテ、醫師諸君ノ責任ナルモノハ、私ハ洵ニ重大デアルト思フ、此ノ點カラ考ヘマシテ、今日世上ノ醫師諸君ヲ見渡シマスル時ニ、人格高潔ナル士多々居ラレルコトハ勿論デアリマスガ、又一部ニ於テハ殆ド精神的ナルモノガ如何ナルモノデアアルカラスラ、解シテ居ナイヤウナ人ガ中ニハ居ラレル、ソレハ何故デアアルカ、最近ニ於ケル青年學徒ガ、其ノ醫學ヲ教授サレル時ニハ主トシテ「ライヘ」ノ解剖——死體ノ解剖ニ依ツテヤラレル、基礎解剖、病理解剖ハ勿論「クリーニツク」ニナリマス、臨床實習ハヤリマスケレドモ、ソレマデニ於キマシテ、基礎モ病理モ總テ死體ヲ以テ教ヘラレル、死體ヲ以テ習ウタ學問デ、マダ生キテ居ル人ノ病氣ヲ診ル學問ヲ習フ、併シソレモ分ルデアリマセウ、分リマセウガ、常ニ死體ヲ以テ單ナル物質トシテ彼等ハ扱ツテ居ル、彼等學徒ガアノ死體カラ死體ヲ引出ス状態、ソレヲ解剖シテ行ク時ノ状態ヲ見タ時ニ、ソレガ嘗テ靈ノ宿ツタ萬物ノ靈長デアアル人間デアツタト云フ考ヨリモ、寧ロ一ツノ試驗臺ニ載ツタル單ナル物質トノミ見テ居ル、隨ヒマシテ此ノ西洋カラ傳ハツタル近代醫學ノ考ヘ方、物質的ノ考ヘ方、靈的考ヘ方ノ少シモナイ考ヘ方ガ、聽テ彼等ノ中ノ左様ナ物質的ニ物ヲ考ヘタガ爾傾向ヲ持ツテ居ツタ人々ニハ、尙更拍車ヲ掛ケテ、全ク唯物的ナ人ニシテシマフ、而モサウ云フ人々ノ判斷ニ依ツテ、此ノ大切ナル斷種ヲ行フ所ノ決定ヲサレル、或ハ申請ヲサレルト云フコトニナルナラバ、私ハ洵ニ恐ルベキモノガアルノデヤナイカト、寧ロ危惧ノ念ニ襲ハレザルヲ得ナイデアリマス、先程厚生大臣ハ、此ノ法案ヲ提出スルニ當ツテハ、慎重ヲ期スル爲ニ國

民體力審議會ノ議ヲ經タト云フコトヲ述ベラレマシテ、如何ニモ其ノ審議會ノ審議ヲ經タコトガ、機威ノアルモノノ如ク仰セラレ、私ハ其ノ審議會ノ「メンバ」ガ如何ナル人々ニ依ツテ結成サレテ居ルカハ、不幸ニシテ存ジマセヌコトハ洵ニ遺憾デハアリマスルガ、併シナガラ先程來段々申シマスル通り、今日一ツノ學問、或ハ一專門ノ權威者ト言ハレル人ガ、果シテ私ガ言フ通り、日本精神ト云フモノヲ眞實ニ解シテ居ル人バカリデアアルカドウカ、寧ロ左様ナ人ニ比較的日本精神ノ薄イヤウナ——崇高ナル靈的情操ト申シマスルカ、靈ニ關スル所ノ尊ブベキ日本古代ノ思想ト云フモノヲ御持チノ人ガ、却テ少イノデヤナイカト私ハ思フ、シテ見レバ、單ニ其ノ人ノ專門ノ學術的ノ問題ニ付テハ、吾々ハ大イニ敬意ヲ拂フノデアリマスルガ、斯ノ如キ單ナル物質觀ノミヨリシテハ、決定シ得ラレナイ事項、況ヤ我國ノ國民性、我國ノ國體ニマデモ考ヲ及ボサナケレバナラナイ、人ノ子孫ヲ斷ツト云フヤウナ、此ノ施設ニ參加セラレ、或ハ之ヲ審議サセラレル上ニ、果シテ遺憾ガナカッタカドウカ、私ハ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、隨テ今後此ノ醫育ノ改善、即チ醫學生ヲ教養スル上ニ付テ大イナル改善ヲ施シ、モット精神的ニ、モット靈的ニ、日本古代ノ考ヘ方ニ付テ彼等ニ理解セシメル、左様ナ根本的の改革ニ付テ、厚生大臣ハ何等カソコニ成案ヲ有シテ居ラルルカ、或ハ改革セントスルノ意思アリヤ否ヤノ御所見ヲ伺ヒマス、尙ホ細部ニ互リマシテハ、今後機會ヲ得マシタナラバ質問致スコトニシマシテ、私ノ質問ハ是デ一應打切りマス

吉田厚生大臣ノ應答

御答ヲ致シマス、此ノ法案ハ國民優生法案トナツテ居ルガ、名前ト内容ト違ツテ、單ニ消極的の法案デアツテ、消極的の方面ノミヲ取扱フニ過ギナイデハナイカト云フ御話デゴザイマシタ、御指摘ニナリマシタ第一條ノ後半ニ於キマシテ、積極的の方面ヲ現ハシテ居ルノデゴザイマスルガ、其ノ現ハシテアリマスル意味ハ、條文中ニモアリマスルガ如ク、近來人口自然増加ノ率ガ一段低下シテ參リマスコトノ一ツノ原因ト致シマシテ、濫リニ避妊手術等ノ行ハレマスルコト、

或ハ妊娠ヲ回避シヨウト云フ人心ノ動キノアリマスルコト、ソレ等ニ對シマシテ、故ナクシテソレ等ノ手術ヲ行ヒ操作ヲ行フト嚴罰ニ處スル、ソレニ依ツテ健全ナ者ノ段々殖エテ參リマスルコトヲ期待スルト云フコトガ、第一條ニ書イテアリマスル意味ノ積極方面デアリマス、固ヨリ其ノ二ツノ方策——第一條ニ書イテアリ、又此ノ法文中ニ載ツテ居リマスルダケノコトヲ以テ致シマシテ、健全ナ國民ノ益、殖エルト云フコトノ方策トシテ、ソレデ盡キルノデハナイコトハ、前質問者ニ對スル御答ヲ以テモ申上ゲマシタ通りデアリマシテ、此ノ惡質遺傳ヲ持ツテ居ル人々ノ子孫ト云フモノガ傳ハリ、惡質ノ國民——ソレハ御當人ニ取りマシテモ、社會ニ取りマシテモ、洵ニ困ツタコトデゴザイマスガ、其ノ原因ヲ除クト同時ニ、併セテ健全ナ國民ノ益、殖エテ參リマシテ、御國ノ無窮ノ發展ニ寄與シ得ル力ヲ養フ、其ノ事ハ決シテ此ノ法案ヨリ輕イト考ヘテ居ルノデハナイノデアリマシテ、總テノ左様ナ御指摘ニナツタ意味デ申セバ、消極ナ或ハ又積極ナ有ユル方策ヲ講ジマシテ、國力ノ増強ノ基礎ヲ培ハウ、斯様ナ趣意デゴザイマス、此ノ法案ヲ以テ參レバ、是ダケデ最早日本國民ノ將來ハ安心ダト云フヤウナ意味デハナイノデアリマシテ、此ノ優生ト云フ文字ハ、私カラ申スノモ烏辭ガマシイヤウデモゴザイマスルガ、是ハ遺傳ヲ基礎ニ致シマシタ學問デ、一ツノ專門語デゴザイマスノデ、優生ト云フ文字ガ使ツテアルカラ、是デ一切ノ日本ノ人口政策ハ片付クノダト、左様ナ意味デハナイノデアリマスノデ、其ノ點御諒承ヲ願ツテ置キタイト思ヒマスソレカラ次ニ我國ノ國體カラ考ヘテ萬民皆同祖デアアル、國民ハ網ノ目ノヤウニナツテ、サウシテ上代カラ今日ニ傳ツテ居ル、其ノ網ノ目ヲ中途デ何處カノ一ツヲ斷ツト云フコトハ、洵ニ日本ノ社會構成ト申シマスルカ、國體ノ上デ考フベキコトデハナイカト云フヤウナ意味ノ御疑念デゴザイマシタ、丁度同ジヤウナ事例ヲ考ヘテ見マスルノニ、其ノ網ノ目ノ中ニ一箇所腐蝕シテ居ツテ、ソレカラ後ニ來ル全局ノ網ノ力ト云フモノニ、非常ナ惡イ影響ヲ及ボサウト云フヤウナ所ヲ、是ハ修繕ヲシヨウト、マア申サバ左様ナ意味ノ法案デゴザイマシテ、最小限ニ止メテ、最モ弱點トナルベキ部分ニ對スル、已ムヲ得ザル方策トシテ、是ハ出來テ居ルノデゴザイマスノデ、是亦他ノ機會ニ於キマシテ、今少

シ詳シク御理解ヲ得タイト考ヘテ居ルノデゴザイマスルガ、大體ノ考ヘ方ハ左様ナコトデゴザイマスカラ、御諒承ヲ願ヒマス次ニ醫師ノ申請權ト云フモノガ濫用セラルル虞ハナイカ、今日ノ醫師ハ人體ヲ單ニ物質ト考ヘテ、其ノ靈性、靈ノカト云フモノヲ、一向知ラナイデハナイカト云フヤウナ御心配デゴザイマシタガ、固ヨリ我國ノ醫學モ、亦其ノ改善ノ必要ヲ力説セラレマシタ醫育ト云フコトノ上ニ於キマシテモ、今日ノ現狀ノ儘デ宜シイト云フ譯デハナイノデアリマスノデ、ソレハ十分ニ改善ヲセラレ、益立派ナモノニ築キ上ゲラレテ參ラナケレバナラナイノデアリマスルガ、此ノ法案ノ取扱ヒマスル範圍ハ、今日ノ醫師ノ取扱ヒマスル手術、今日ノ醫學ヲ以テ致シマシテ、最小限是ダケノ規定ヲ致シマスレバ、之ニ依ツテ害ヲ生ズルト云フコトデナクシテ、世ノ中ノ惡質遺傳ト云フ問題ヲ解決スルニ付キマシテ、幣害ノ生ズル限度ト云フモノヲ考ヘテ、立案シテアル次第デアリマス、尙ホ醫師ノ申請ハ、其ノ儘ニ直チニ適用セラレルノデアリマセズシテ、二審判度ノ慎重ナ審議機關ニ掛ケマシテ、手術ヲ行フベキカ否カノ決定ヲスルノデゴザイマスノデ、扱ハ極メテ慎重ニ致サネバナラヌト云フコトハ、是ハ御心配ノ點ト私共モ考フ同ジウシテ居リマス、精々此ノ運用ニ付キマシテハ、慎重ナ用意、考慮ト云フモノハ、常ニ必要デアルト思フデアリマス、此ノ適用ガ濫ニ流レルヤウナコトハ、嚴重ニ慎マネバナラナイト思フデアリマス、尙又本法ノ内容ニナツテ居リマスルモノヲ、豫メ審議致シマシタ審議會ノ構成ノコトニ御言及デゴザイマシタ、審議會ハ單ナル醫學方面ノ専門家ノミデナクシテ、他ノ方面ノ有能達識ナ御方々ヲモ廣ク煩ハシマシテ、出來ル限り慎重ナ考慮研究ノ上ニ、審議ヲ進メラレタ次第デゴザイマスルカラ、是モ御諒承置キヲ願ヒタイト思ヒマス尙ホ醫育ノ改善ト云フコトニ付テ、何カ考ハナイカト云フ御話デゴザイマシタ、私共醫師養成、醫育ト云フコトノ改善ニ付キマシテハ、工夫、施設セネバナラヌコトガ多クアルト考ヘルノデゴザイマス、是亦醫藥制度調査會ト云フ審議機關ガゴザイマシテ、此ノ機關ニ於キマシテ、醫育ノ刷新改善ト云フコトニ付キマシテモ、慎重ナ研究ヲ進メテ參ツテ居ルノデアリマス、今日マダ最終的ナ結論ニ到達致シテ居リマセヌガ、人間ノ生命ヲ預リマスル醫術ノコトデ

ゴザイマスカラ、單ニ御心配ニナリマスルヤウナ、物質的ナ方面ノミデナクシテ、精神的ナ方面ニモ十分ナ理解識見ノアリマスル、本當ノ日本ノオ醫者様ラシイ、立派ナオ醫者様ガ出來上ルト云フコトハ、是ハ洵ニ大切ナコトデアルト考ヘルノデアリマスルカラ、其ノ方面ニ於キマシテハ、現在ノ醫學教育、醫育ノ刷新ト云フコトノ上ニ於キマシテハ、十分ニ考慮ヲ致シテ參リタイト云フ志ヲ持ツテ居ル次第デアリマス

會和君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今厚生大臣カラ答辯ヲ戴イタノデアリマスルガ、マダ私ノ諒解出來ヌ點ガ多クアリマスルガ、詳細ハ今後ノ機會ニ質問ヲ致スコトニ致シマシテ、私ノ質問ハ是デ終リマス

杉山元治郎君ノ質疑

私ハ只今上程ニナリマシタ國民優生法案ニ付キマシテ、少シク厚生大臣初メ内務、文部ノ大臣ニ質疑ヲ試ミタイト存ズルノデアリマス吾々ハ曩ニ皇紀二千六百年ノ紀元ノ佳節ヲ迎ヘマシタ是ハ歴代 天皇陛下ノ御稜威ニ依ルコト勿論デアリマスガ、一方我が大和民族ノ優秀性ヲ顯ハスモノトシテ、御同慶ニ堪ヘナイ次第デアリマス、今ヤ事變モ第四年目ニ入り、汪氏ヲ中心トスル新支那中央政府ノ樹立モ、眼前ニ迫ツテ居リマスルガ、時局ハ多々益、生産力擴充ノ必要ガゴザイマス、隨テ物的資源ノ必要モ痛感サレルノデアリマスガ、其ノ物的資源ヲ開發スル根源タル人的資源ガヨリ大切デアリマス、物的資材ハ急ニ造ルコトモ出來、又代用品ニテ間ニ合ハスコトモ出來マスガ、人的資源ハ左様ニ簡單ニ參ラヌノデアリマスダカラ遠キヲ慮リ、常ニ人的資源ノ涵養ニ努メネバナラヌノデアリマス、翻ツテ我が民族ノ現狀ヲ見マスルニ、今大臣モ説明ニナリマシタヤウニ、近時著シク出生率ガ減少シテ居リマス、例ヘバ大正九年ニ人口千ニ對シ三六・二人出生シタモノガ、昭和十一年ニハ三〇・六人ト、五・六人減ジテ居ルノデアリマス、幸ニシテ死亡率モ低下シテ參ツテ居リマス、統計ニ依リマスト、大正九年ニ人口千ニ

對シ死亡率二五・四人デアツタモノガ、昭和十一年ニ一七・八人トナリ、七・六人減ジテ居リマ
 スルガ、乳幼児ノ死亡率ハマダ一ノ世界一ノ比率ヲ示シテ居リマス、死亡率ノ減少ハ、如何程
 衛生施設ガ完備シテモ、限度ガアリ停止スルノデアリマス、併シ出生率ハ一旦低下シ始メマス
 ルト底止スル所ヲ知ラナイノデ、大イニ心ヲ用ヒネバナラヌノデアリマス、又精神病患者ノ様
 子ヲ見マスルノニ、昭和元年ニ六万四千九百九十九人トナリ、六年ニハ七万三千七百三十一人トナリ、
 更ニ昭和十二年ニハ九万九千九百九十五人トナリ、近々十年餘リノ間ニ三万餘人ト云フ激増振リヲ
 宗シテ居ルノデアリマシテ、民族衛生ノ上カラ憂フベキ状態デアリマス、又壯丁體位ノ状態ヲ
 見マスルノニ、是亦漸次低下致シテ居リマシテ、受檢壯丁千人ニ對シマシテ、次ノヤウナ状態デ
 アリマス、大正十一年ニ甲種合格者ガ三百六十二人、第一乙種ガ百二十八人、第二乙種ガ二百
 四十九人、丙種ガ二百六十六人デアリマシタモノガ、昭和四年ニナリマス甲種合格ガ三百人、
 第一乙種ガ百十八人、第二乙種ガ二百四人、丙種ガ三百五人トナツテ居リマス、更ニ昭和十一年
 ニナリマス甲種合格ガ二百九十九人、第一乙種ガ百十五人、第二乙種ガ二百五人、丙種ガ三
 百十八人トナツテ居リマス、右ノヤウニ甲種並ニ第一乙種ハ減ジテ、第二乙種、丙種、丁種等
 ノ不合格ノ青年ガ、年々非常ナ勢ヲ以テ増加シテ居ルノデアリマス、是ハ國家ノ前途洵ニ寒心
 ニ堪ヘナイモノデアアルト言ハネバナリマセヌ、而シテ此ノ丙種、丁種等ノ大キナ原因ヲ成シテ
 居リマスモノハ、筋骨薄弱デアツテ、最近ノ例ニ於キマシテモ、昭和七年ニハ壯丁ノ三割一分
 七厘デアリ、同八年ニハ三割二分七厘、同九年ニハ三割三分七厘ト云フヤウニ、毎年一分ツツ
 増加シテ居ルヤウナ状態デアリマス、斯ル現状ニ鑑ミテ、政府ハ本法案ヲ制定シ、優秀且ツ健
 全ナル素質ヲ有スル人口ノ増加ヲ圖リマスト共ニ、劣悪ナル素質ヲ有スル人口ノ増加ヲ防遏
 シ、民族素質ノ向上ヲ圖リ、民族將來ノ發展ヲ期シヨウト企圖セラレマシタコトニ付テハ、大
 イニ贊意ヲ表スル者デアリマス、併シ本法案ニ對シマシテ、三關聯致シタ質問ヲ致シテ見タイ
 ト存ズルノデアリマス今村松君モ御話ニナリマシタヤウニ、吾々ハ一方消極的ナ本法案ヲ出
 シマスルト共ニ、積極的ニ人口増加ノ途ヲ執ラナケレバナラナイト考ヘテ居ルノデアリマス、

本法案ノ對象ニナツテ居リマス精神病患者ノ如キハ、前述ノヤウニ昭和十二年度ニ於テ、其ノ
 總數ガ九万九千九百九十五人ト云フヤウナ譯デ、之ニ白痴、低能者ヲ加ヘマシテモ、恐ラク二十五
 万人内外ニ過ギナイダラウト思フノデアリマシテ、日本ノ總人口ノ上カラ申シマスナラバ、大
 シタ數デハナイノデアリマス、又本法案ニ反對致シマスル所ノ學者ハ、此ノ法律ニ掲ゲテ居リ
 マス所ノ對象療患ト云フモノハ主ニ、劣性因子ヲ持ツテ居ル、若シ其ノ低能者ヤ精神病者ヲ
 一人殘ラズ斷種シテモ、十四代デ半數ニ減ルダケデアアル、三十代デ四分ノ一ニナルヤウナ譯
 デ、其ノ效果ハ甚ダ遅々タルモノデアアル、一方サウシテ精神病者ハ減ジテハ、恐ラク二十代、
 三十代經ツテ居ル間ニハ、丁度ソレト同等ノ數ノ低能者ヤ精神病者ハ殘ルノデハナイカ、斯ウ
 云フ效力ノ薄イ方法ヲ執ルコトハドウカ、斯ウ云フヤウニ反對シテ居ルノデアリマスガ、私ハ
 消極的方法トシテ之ヲ執ルコトモ宜イガ、先程村松君ノ御話ノヤウニ、此ノ法案ト共ニ並行シ
 テ、モット積極的ニ人口増加ニ對スル方策ヲ講ジナケレバナラナイト思フノデアリマス其ノ
 一ツトシテ、私共ハ結核病ヲ考ヘナケレバナラヌト思ヒマス、昭和九年ノ調査ニ於テモ、既ニ
 結核ノ死亡者ハ十三万一千五百二十五人ノ多數ガゴザイマシテ、今日デハ恐ラク十四万人以上
 ニナツテ居ルデアラウト考ヘルノデアリマス、罹病者ハ其ノ十倍ト見マシテ、百四五十万人ヲ
 超エテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ此ノ方面ニモウ少シカヲ入レナケレバ、眞ニ國民ノ優生ヲ
 圖ルコトハ出來ナイノデナイカ、斯ク申シマスナラバ、政府ハ申スデアリマセウ、既ニ結核豫
 防法ヲ改正シテ居ル、豫算モ相當ニ増加致シテ居ル、新シクハ體力國家管理法ヲ制定セントシ
 テ居ル、併シ如何ニ國家デ體力ヲ檢査シ、病氣ヲ見付ケタト致シマシテモ、治療ノ出來ルヤウ
 ナ施設、又誰ニデモ其ノ施設ガ利用ノ出來ルヤウナ制度ガ出來ナケレバ駄目デアリマス、昨年
 四月畏クモ 皇后陛下ノ御内帑金ヲ賜ハリ、結核對策ハ、村松君ノ御話ノヤウニ、大體軌道ニ
 乗ツテ參ツタト思フノデアリマスガ、マダ國民運動ニマデハ展開シテ居ラナイト思フノデアリ
 マス、私ハ此ノ際ニ、結核撲滅運動ヲモウ一段進メテ、國民運動ニマデ進展セシメナケレバナ
 ラナイト思ウテ居ルガ、政府ハ此ノ點ニ對シテ如何ナル所見ヲ持ツテ居ラレルカ、御同致シタ

イノデアリマス、是ト共ニ、軌道ニハ乗ツタガ、尙ホ此ノ運動ヲ進メテ參リマル間ニ於キマシテ、マダ色々ノ缺點ガゴザイマスガ故ニ、私ハ結核對策ニ付テ數點御伺シテ見タイト思フノデアリマス、其ノ一ハ、公立療養所ハ重症者ヲ入院セシメル爲ニ、其ノ死亡率ハ非常ニ高ク、恰モ患者ニ最後ノ場所ヲ與ヘテ居ルヤウナ感ジガ致シマス、寧ロ初期ノ者ヲ收容シテ回復セシムル方ガ、賢明ノ策デナイカト思ツテ居リマス、ソレガ爲ニ「サナトリウム」的施設ノ増加ヲ必要ト考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付テ政府ハドウ御考ニナツテ居ルカ、其ノ二ハ、所謂「カイド」階級ノ人々ハ、無料デ公立療養所ニ收容セラレルコトガ出來マスガ、ソレ以外ノ中小商工業者、「サラリマン」、農民及ビ勞働者ハ、之ニ均霑スルコトハ出來マセヌ、是等ノ人々ニ對シ、僅カノ費用デ治療又ハ入院ノ出來ル療養所、又ハ「サナトリウム」ノ増設ヲ必要トスル考ハナイカ、アレバ年々ドウ云フヤウニ増設スルカト云フ點デアリマス、其ノ三ハ、右ノヤウナ輕費療養所ヲ私設社會事業團體ニ於テ經營セシムルコトヲ獎勵シ、是ガ新設又ハ擴張ニ當ツテ、國庫ヨリ補助金ヲ交付スル考ハナイカ、其ノ四ハ、近來私設團體ニシテ療養所ヲ新設シ、又ハ新設セント致シマスル時ニ、地元民ノ反對ノ爲ニ中止ノ已ムナキニ至ツテ居ルモノガ多クゴザイマス、是ハ國策ト矛盾スルコトデアルト思フデアリマシテ、斯ウ云フヤウナコトヲ、政府ハ其ノ儘ニ看過シシテ置ケバ、折角ノ結核撲滅運動ト云フモノモ、所謂支障ヲ來スノデアリマスルカラ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル處置ヲ執ラレルカ、其ノ五ハ右ノヤウナ障礙ヲ除キマスル爲ニ、政府ハ進ンデ公有地ヲ民間團體ニ拂下ゲテ、療養所ノ敷地ニ充テルヤウナコトヲスル考ハナイカ、其ノ六ハ、結核義務保險制度ノ確立ノ問題デアリマス、伊太利デハ最近十箇年間ニ結核ヲ半減シタ、是ハ結核義務保險ノ結果デアルト聞イテ居リマスルガ、日本ニ於キマシテモ、年額十五億圓内外ノ資ヲ投ジマスルナラバ、十箇年間ニ半減、二十年間ニ三分ノ一ニ減ジ得ルト専門家ハ論ジテ居リマス、併シ現下ノ國家財政カラ致シマシテ、或ハソレハ困難デアルカモ知レマセヌ、ソコデ國民自體モ其ノ負擔ヲ負フ所ノ、伊太利ノヤウナ結核義務保險制度ト云フヤウナモノヲ、政府ハ實行スル所ノ意思ハナイカドウカ、斯ウ云フ諸點ヲ結核對策ニ付テ

御伺致シタイノデアリマス、大キイ第二ノ點ハ、ヤハリ人口増加ノ積極的方策ト致シマシテ、結核ニ付キマシテハ、先程申上ゲタヤウニ大體軌道ニ乘リマシタガ、結核以外デ死亡率ノ非常ニ大キナモノハ、御承知ノヤウニ下痢及ビ腸炎、肺炎デゴザイマスルガ、之ニ對シマスル所ノ對策ハ、殆ドナイノデアナイカト思フデアリマス、下痢及ビ腸炎ニ因ル此ノ一年ノ死亡者ハ、十二万七千二百三十九人デ、人口千人ニ對シテ十八・六人デアリマス、肺炎ニ因ル死亡者ハ、十二万四千百七十七人デ、人口千人ニ對シマシテ十八・二人ノ多數デアリマス、而モ此ノ病氣ハ、都市ニ於キマシテハ其ノ死亡率ハ低ク、地方ニ於テ高イ事實ヲ見マスル時ニ、今日ノ醫療機關ガ都市ニ偏重シテ居ツテ、農村ニ缺ケテ居ルト云フコトヲ、如實ニ示シテ居ルモノデアルト考ヘマスルノデ、私ハ、今日ノ醫療制度ト云フモノヲ根本的ニ改革ヲシテ、無醫村ノヤウナモノノ絶無ヲ圖リマスルト同時ニ、社會保險制度ノ確立ヲ期サナケレバナラナイト考ヘテ居ルノデアリマスガ、此ノ點ニ對スル政府ノ御所見ヲ御伺シタイト思フデアリマス、第三ノ點ハ本法案第三條ニ「左ノ各號ノ一ニ該當スル疾患ニ罹レル者」トシテ、優生手術ヲ行フ疾患トシテ、五ツ擧ゲラレテ居リマス、私ハ此ノ五ツノ外ニ、強度ノ「アルコール」中毒、花柳病、特ニ徵毒ヲ何故ニ除イタノデアアルカト云フ點ヲ、御伺致シタイノデアリマス、強度ノ「アルコール」中毒患者ハ、前述ノ第三號強度且惡質ナル遺傳性病的性格ト云フ項目ノ中ニ含マレテ居ルノカドウカ、先ヅ第一ニ此ノ點ヲ御伺シテ置キマス、ヨク日本ノ人々ガ眞似ヲ致シタガリマス所ノ、「ナチス」獨逸ノ千九百三十三年七月十四日發布ノ遺傳病豫防法ノ中ニ、明瞭ニ一項ヲ掲ゲテ「強度ノ「アルコール」中毒患者モ優生手術ヲ行フコトヲ得」ト書イテ居ルノデアリマス、又北米合衆國ノ各州デ行ハレテ居リマス所ノ結婚禁止法中ニモ、常習大酒家ヲ其ノ對象トシテ居ルノデアリマス、何モ歐米ノ後塵ヲ嘗メル必要モゴザイマセヌガ、醫學ノ進歩致シテ居リマス獨逸ニ於テ之ヲ決定致シマシタコトハ、相當ノ根據ガアルカラデハナカラウカト存ズルノデアリマス、否、ソレバカリデハアリマセヌ、厚生省ハ嘗テ週報第百五十一號ノ「民族優生方策ニ就テ」ト書イタ文章ノ中デ、民族毒豫防ノ項ニ於キマシテ、次ノヤウナコトヲ述ベテ居ルノ

デアリマス、「民族ノ素質ヲ低下セシムル要因ハ、前述ノ如ク優秀、健全素質者ノ出産減少ト、劣悪素質者ノ繁殖デアルガ、更ニ之ヲ促進セシムルモノトシテ、酒精、微毒、麻薬等ノ所謂民族毒ガアル、別ケテモ酒精ト微毒ハ最も普遍的デアツテ、之ニ依ル損害ハ實ニ恐ルベキモノガアリ、人類ノ一大強敵デアルト言ハネバナラナイ」、此ノヤウニ民族毒トシテ明白々デアリ、遺傳モ顯著ナモノガアリマス、有名ナ不良遺傳ノ研究家デアリマス「ゴッダート」ノ千九百十四年ノ調査ニ依リマス、酒精中毒者デアアル男ト正常デアアル女子トガ結婚ヲシタ時ニ、八人ノ子供ガ生レ、四人ガ正常デ、一人ガ七歳デ死亡シ、一人ハ酒精中毒患者、二人ハ低能トナツテ居リマス、其ノ正常ナ女子ガ他ノ正常ナ人ト結婚致シマシタ時ニ、變徵ハ現ハレテ居リマセヌガ、其ノ低能者ノ子ト他ノ低能者ト結婚致シマシタモノニハ、五人中二人ハ早死、三人ハ皆低能者トナツテ居リマス、私共ノ住ンデ居リマス所ノ、大阪府立中宮病院ノ院長デアリマス所ノ小關博士ノ研究ヲ見マシテモ、略、同一ノ事實ガ現ハレテ居リマス、父方ノ祖父モ母方ノ祖父モ大酒家デアリ、而シテ母ガ「ヒステリー」、父ハ大酒家、此ノ間ニ出來マシタ子供ハ二人アルガ、一人ハ變質者デアリ、今一人ハ癲癩性精神病者デアリマス、小關博士ノ色々ノ研究ニナツタモノヲ讀ミマス時ニ、斯ウシタ多數ノ實例ヲ見ルノデアリマス、私ハ時間ガ澤山ゴザイマセヌカラ多ク之ヲ述ベマセヌガ、斯ウシタ事實ヲ見ルノデアリマス、ソレ故ニ此ノ際ニ民族毒ヲ除去致シマスル爲ニ、酒害豫防ニモウ少シ積極的ニ政府ハ乗出スベキデハナイカ、酒害豫防ニ對シマシテ、禁酒反對ノ方々モ、教育ニ依ツテ之ヲ爲スコトガ宜イト言ハレテ居リマスガ、文部省ガ此ノ酒害豫防ト云フ問題ニ對シテ、一體如何ナル教育的施設ヲ執ラレタカ、此ノ際ニ伺フコトガ出來ルナラバ、大變幸ダト思フノデアリマス、次ハ花柳病、殊ニ微毒ニ關シテデゴザイマスルガ、先程申述ベマシタヤウニ、北米合衆國ノ禁婚法ニハ、殆ド微毒及ビ淋病ガ禁止事項ニ入ツテ居ルノデアリマス、性病ニ關シマスル我國ノ狀況ヲ見マスルノニ、微毒ハ血清反應ニ依リマスルト、日本中ニ一〇%アル、遺傳微毒ハ、乳幼兒デハ二乃至四%、學齡期ノ子供デハ三%、小學兒童ハ一〇%、感化院ノ

子供ハ二〇%ト云フヤウニ、非常ニ普遍率ヲ持ツテ居ルコトハ、寒心スベキ状態デゴザイマス、私ハ斯ウシタ花柳病ノ問題ニ付テ——先程村松君ニ對シテ御答モゴザイマシタガ——唯違ツテ居ルコトデ、茲ニ伺ツテ置キタイ一ツノ點ハ、第七十四議會ニ於キマシテ、花柳病豫防法ノ決定サレマスル時ニ、希望條項トシテ、政府ハ次ノ議會ニ根本的ナ花柳病豫防法ノ改正案ヲ提出スベシ、斯ウ云フ條項ガアツタノデアリマスルガ、政府ハ院議ヲ重ンジテ、之ヲ提出スル所ノ御意思ガアルカドウカ、或ハ此ノ議會ニ提案出來ナイト致シマスナラバ、來ルベキ議會ニソレヲ出ス御積リデアアルカドウカ、私ハ時間ヲ短縮致シマスル爲ニ、第四ノ癲對策ニ對シテ唯要項ダケヲ申上ゲテ置イテ、政府ノ御答ヲ戴キタイト思フノデアリマスルガ、癲ヲ此ノ法案カラ離シマシテ、別ニ癲豫防法ノ改正ニ依ツテ、優生手術ヲ行ハントスルヤウデアリマスガ、何モサウ云フ優生手術ダケナラバ、此ノ法案ヲ適用シテ行ツテモ宜イノデハナイカ、或ハ遺傳病デアルト云フコトヲ恐レルト云フヤウナ、御心配モアルヤウデアリマスガ、モウ既ニ今日ニ於テハサウ云フ心配ハナイノデハナイカ、之ヲ特別ニ離シタ其ノ理由ヲ伺ヒタイト同時ニ、癲對策ニ對シマシテ、私ハ五ツノ項目ダケヲ申上ゲテ置イテ、私ノ質問ヲ終リタイト思ヒマス、其ノ一ツハ、療養所ノ擴張計畫ガ、最近三井報恩會ナドノ援助ニ依ツテ、著々トシテ進ンデ居リマスルケレドモ、其ノ進捗状態ハドウデアアルカ、尙ホ其ノ二ハ、段々擴張サレテ參リマシタケレドモ、マダ收容シ切レナイ所ノ患者ガ多數ニアル、例ヘバ沖繩、鹿兒島等ダケデモ、二千八百人餘リノ收容出來ナイ患者ガゴザイマスルノデ、尙ホ一層進ンデ擴張スル所ノ意思ハナイカドウカ、ソレカラ公立療養所ヲ國立ニ移管スル考ハナイカ、第四ハ、患者ノ待遇改善ノ問題デアリマスガ、今療養所ニ居リマスル患者ハ、一日二十錢ニ足ラナイ費用デ養ハレテ居リマスル、是ハズツト昔ノ非常ナ浮浪者扱ヒニシタ時代ノ待遇デアルト思ヒマスノデ、之ヲ今日モツト改善スル必要ガアルト思フガドウカ、其ノ五ハ、癲研究所ヲ設置シテハドウカ、詳シイコトニ付キマシテハ、委員會デ御伺スルコトニ致シマシテ、私ノ質問ハ是デ打切ルコトニ致シマス

吉田厚生大臣ノ應答

杉山君ニ御答ヲ致シマス、全體ノ御質疑ノ根本ト致シマシテ、物モ大切デアアルガ、物ヨリ更ニ人ガ大切デアリ、隨テ此ノ人ノ問題ヲ解決スル爲ニハ、本法ノ施行ノミデナクシテ、併セテ積極的ナ人口對策、保健政策ト云フモノノ行ハレルコトガ必要デアアルト云フ御考ニ對シマシテハ、先刻モ御答ヘ申上ゲマシタ通り、全然御同感デゴザイマス、ソレニ付キマシテ種々ノ方策ヲ擧ゲテ是非ヲ御尋ニナツタノデゴザイマスガ、何レ詳シイコトハ他ノ機會ニ於テ御答ヲ致ス折ガアラウト思フノデアリマス、此處ニハ極メテ概略ノ考ヲ申上ゲマシテ、一應ノ御答ト致シテ置キタイト思フノデアリマス、其ノ第一ニ、積極的人口増加對策ノ中ノ最モ重要ナモノトシテ、結核對策ヲ御擧ゲニナリマシタ、私共モ洵ニ其ノ點杉山君ト感ヲ同ジクスルノデアリマシテ、結核對策ヲ今日ノ儘ノ状態ニ止メテ置カズシテ、之ヲ國民運動トシテ一段ト強化シ、發展セシムル必要ガアリハシナイカト云フコトニ付キマシテハ、全然御同感デゴザイマス、最近御承知ノ通りニ、結核ニ對スル世間ノ關心ガ大分深マツテ參リマシタコトハ、稍、意ヲ強ウスルノデアリマス、此ノ程度ニ止メズシテ、更ニ此ノ亡國のナ恐ルベキ疾患ヲ、國內カラ驅逐シテシマフコトガ、銘々ノ國民ノ務メダト云フ自覺ヲ得マサルマデニ、進展セシメルコトガ必要デアアルト考ヘテ居リマス、其ノ方策等ニ付テハ、又他ノ機會ニ於テ御教ヘテ受ケタイト思フノデアリマス、尙ホ國立ノ療養所ニ於テハ、重症患者ヲ主トスルガ故ニ、死亡率ガ非常ニ高イ、初期輕症ノ患者ヲ收容スベキ「サナトリウム」ト云フモノニ、モット力ヲ入レナケレバナラヌノデハナイカト云フコトデゴザイマス、國立療養所ト雖モ、必ズシモ重症患者ノミヲ收容スルト決メテ居ルノデハナイノデアリマスケレドモ、事實設備ハ足ラズ、「ベッド」ノ不足致シテ居リマスル爲ニ、結果トシテ左様ナコトニナツテ居ルコトハ洵ニ遺憾デゴザイマス、結核ニ付テ早期ノ發見ニ努メ、初期ノ患者ヲ收容スル有效ナ療養所ノ普及ニ、モット力ヲ注ガナケレバナラナイト考ヘルノデアリマス、最近ソレ等ノ施設ニ付キマシテハ、以前ニ比レバ大分普及ヲシテ參

ツタノデアリマスルガ、未ダ到底是デ宜シイト云フ所ニ至リマスルマデニハ、前途遼遠デアリマス、速ニ是等ニ付キマシテハ、出來ル限リノ力ヲ注イデ、整備ニ努メタイト思フノデアリマス、療養所ノ設置ニ付テノ地元ノ反對等ニ付キマシテハ、年來是ハ難儀ヲシテ居ル所デアリマシテ、是等ニ付キマシテモ、實地ニ就テソレ等ノ困難ヲ解決スル途ガ、種々工夫セラレルト思フノデアリマス、詳シイコトハ他ノ機會ニ申上ゲテ見タイト存ジマス、ソレカラ下痢、腸炎、肺炎等ノ、乳幼兒ノ尊イ生命ヲ奪ヒマスル疾患ニ付テノ御話ガゴザイマシテ、私共モ洵ニ感ヲ同ジウシテ居ルノデアリマス、御質問中ニモ御指摘ニナリマシタ如ク、此ノ頃ハ出産率ガ低下ヲシテ居ル、隨テ人口ノ自然増加ノ率ガ低下ヲシタ、ト同時ニ稍、喜ビニ堪ヘマセヌコトハ、死亡率ノ低下ト云フコトヲ見ツツアルコトデゴザイマス、死亡率ガ低下ヲシ、出産率ガ増加スルコトガ、最モ望マシイ状態デアリマスガ、此ノ死亡率ノ低下致シマシタコトハ、是ハ色々ノ原因ガゴザイマセウガ、御指摘ニナリマシタ下痢、腸炎、肺炎等ノ、ソレモ御説ニアリマスルヤウニ、都市方面ニ於ケル小兒ノ死亡率ト云フモノガ低下シタコトガ、大キナ原因ニナツテ居ルト思フノデアリマス、農村方面ニ於キマシテハ、其ノ事ノ十分デナイコト、是亦御指摘ノ通りデゴザイマス、十分ナ力ヲ今後其ノ方面ニ特ニ盡シテ參ラネバナラヌト思フノデアリマス、次ニ酒精中毒、花柳病患者等ヲ、此ノ法案ノ對象カラ除イテアルノハ、ドウ云フ譯カト云フ御尋デゴザイマス、ソレ等ハ直接ニ遺傳性疾患デゴザイマセヌ爲ニ、一應除イテアルノデアリマス、酒精中毒ニ陥リ易イ體質ノ人々ニ付キマシテハ、今後ノ問題トシテ、十分研究ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス、尙ホ花柳病豫防法改正ノ準備ガアルカト云フ御尋デゴザイマス、是ハ是非今日ノ花柳病豫防法ハ改正ヲセネバナラヌト云フ考ノ下ニ、其ノ準備ヲ目下進メテ居ル次第デゴザイマス、癩ニ關スル各項目ヲ擧ゲテノ御尋ニ付キマシテハ、是ハ別ノ機會ニ於キマシテ、詳細御答ヲ致スコトニ致シタイト思ヒマス

舟橋文部政務次官ノ應答

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ議討及表決 第四項 法律案

大臣ガ差支ガゴザイマスノデ、私カラ御答辯ヲ申上ゲルコトヲ御許ヲ願ヒマス、杉山君ノ御質
 疑中、支部當局ニ關スルモノハ、飲酒ノ害ノ豫防對策ニ付テ、當局ハドウ云フ方策ヲ執ツテ居
 ルカト云フ御質問デアツタヤウニ拜承致シマス、飲酒ガ若イ學生生徒等ニ取リマシテハ、保健上
 モ亦風教上モ、極メテ好マシクナイコトハ申スマデモナイコトデアリマス、文部省ト致シマシ
 テハ、學校ノ教授ノ上ニ於キマシテ、教材ノ取扱ニ當リマシテモ注意ヲ喚起スル外、社會教育方
 面ニ於キマシテモ、其ノ害ヲ被ルコトナキヤウ、指導ニ努力ヲ拂ツテ居ル譯デアリマスルガ、
 飲酒ノ害ト云フコトハ、是ハ幼少ノ時ヨリ十分ニ頭ニ入レテ置クコトガ必要デアリマスルノ
 デ、例ヘバ小學校ノ修身ノ教科書等ニ於キマシテモ、酒ノ害ニ關スル話ヲ掲載致サシメ、教授
 ニ當リマシテ、十分將來飲酒ノ弊ニ陥ルコトノナイヤウニ、注意致シテ居ル譯デアリマス、更
 ニ中等學校トカ、實業學校トカ、サウ云フ方面ニ於キマシテ、未青年ノ學生ニ禁酒ヲ致サシメ
 テ居ルコトハ申スマデモナイコトデアリマスルガ、丁年ニ達シマシタ學生ニ對シマシテハ、是
 ハ徒ニ強制彈壓スルト云フコトハ、却テ實際上ノ禁酒ノ目的達成ノ上ニ考慮ノ餘地ガゴザイマ
 スルノデ、學校當局者ト學生トガ十分ニ協力致シマシテ、自發的ニ禁酒ヲスルト云フコトノ方
 ガ、實際ノ效力ガアルト考ヘテ居リマス、其ノ方針ノ下ニ過去ニ於キマシテモ、亦將來ニ於キ
 マシテモ、具體的ナ方策ヲ執ツテ、將來ニ於キマシテ出來ルダケ御希望ニ副フヤウニ努力致ス
 積リデ居リマス

田中養達君ノ質疑

今上程サレマシタ國民優生法案、是ハ實際ノ取扱ノ上カラ此ノ法案ガアリマスルト、非常ナ便
 利ナ場合モアリ、又必要モアルノデアリマス、殊ニ今説明サレマシタヤウニ、色々ナ是等ノ不幸
 ナ病氣ヲ世ノ中カラ無クシヨウト云フ、此ノ事ニ反對ノ者ハ一人モナイ、隨テ私モ此ノ趣旨ハ
 無論賛成デスケレドモ、此ノ取扱ヲ誤リマスルト、先程會和君ノ申サレマシタヤウニ、日本獨
 特ノ家族主義ニ色々ナ悲喜劇ガ生ズルコトト信ジマス、今一ツハ是ハ醫學ノ權威ノ上カラ見マ

シテモ、身體ノ一部分ヲ傷ツケテ生殖機能ヲ停止スル、其ノコトハ或ル意味ニ於ケル殺人的ノ行
 爲デアリマス、隨テ醫學ハ人類ノ生命ヲ肯定シテ、ソコカラ始マツテ居ルノデアリマスカラ、嚴
 肅ナル意味デアリキマス、是ハ醫學ノ否定ニナリマス、併シナガラ私ハサウ云フ意味合デナシ
 ニ、常識デコノ不幸ナル患者ヲ少シデモ無クシヨウト云フ、此ノ建前デ賛成スル氣持デ御尋
 ルノデアリマスカラ、ドウゾ其ノ御積リデ御聽取ガ願ヒタイ、質問ノ第一ハ全體日本ニハマダ
 精神病ノ遺傳關係ニ付テノ調査ハ出來テ居ラヌ答デアリマス、隨テ何ヲ根據ニ此ノ案ヲ御出シ
 ニナツタノカ、若シ日本ニ其ノ調査ガアルナラ御示ガ願ヒタイ、是ハナイ答デアリマス、殊ニ
 醫學ノ一ツノ分科デアアル精神病ハマダ未開ノ地ガ非常ニ多イノデアリマス、醫學ハ非常ニ進歩
 シマシタガ、精神病ニハマダ分ラヌ點ガ非常ニ澤山アル、隨テ此ノ遺傳ノ法則等ニ付キマシテ
 ハ、専門ノ學者ノ中ニ非常ニ區々トシテ一致シテ居リマセヌ、ヒヨツトスルト政府ハ獨逸ナドノ
 統計ヲ基礎ニシテ御出シニナツテ居ルノデナイカト私ハ斯ウ心配シマス、遺傳ノ法則ハ決ツテ
 居ルカモ知レマセヌガ、疾病ノ遺傳ハ民族ニ依ツテ各、違フ、殊ニ精神病デモ同ジヤウニ遺傳
 シテ居リマセヌ、隨テ是ハ單ニ外國ガ斯ウダカラ、統計ガ斯ウダカラト云フコトガ根據デアリ
 マスト、非常ナ間違ガ起リハセヌカト私ハ心配シマス、其ノ根據、調査資料等ガアルナラバ、
 ドウゾ御示ヲ願ツテ置キタイ、第二ニハ政府ハ今度思切ツテ此ノ案ヲ御出シニナツタノデアリマ
 ス、此ノ斷種ニ依ツテ此ノ不幸ナ病氣ヲ少クシヨウト思切ツテヤルダケノ信念ヲ御持チニナツ
 テ居ルカドウカ、先程杉山君カラノ御尋デアツタト思ヒマスガ、今政府ノ報告、統計ヲ見マス
 ト、昭和十年度ニ慥カ八万余リノ精神病者ガ日本ニアツタト書イテアル、是ハ八万デナシニ、實
 際ハ二十五万ト言ハレタガ、確ニ其位ハアルト私ハ思ヒマス、假ニ此ノ二十五万ノ精神病者
 ヲ、其ノ一割ノ二万五千ニマデ減ラス、二十五万人ヲ一時ニ斷種シテシマフ、ソレカラ次々ト
 代々何万デモ之ヲ斷種シテ行ツテ、二千年掛ラヌト一割ニナリマセヌ、二十五万人ノ精神病患
 者ヲ二万五千ノ一割ニスルノニ二千年掛ルノデス、而モ二十五万人ヲ全部斷種シテ二千年掛
 ル、隨テ此ノ法案ハ前ニ申ス如ク常識カラ考ヘテ結構デアアリマスガ、此ノ建前デ精神病ヲ

減ラサウナドト云フコトハ、是ハ出來マセヌ、ソコデ今一ツ、然ラバドウスルノデヤト云フト、言葉ハ惡イカ知レマセヌガ、豫防デ行クカ、斷種デ行クカ、政府ハドチラニ重點ヲ置カルルノカ、之ヲ一ツ御尋シテ置キタイ、所デ言葉ハ惡イカ知レマセヌガ、豫防スルトスレバ、早期診斷ヲヤラナケレバナラヌ、監禁センケレバナラヌ、隔離センケレバナラヌ、治療ヲヤラナケレバナラヌ、是ハ理想ニハ非常ニ結構デアリマス、ケレドモ大變ナ金ガ掛ル、是モ中々私ハ言フベクシテ望マレヌコトト斯ウ考ヘマス、シテ見マスト假令斷種一本デ行カウ、思切ツテ積極的ニ是デ行カウトヤツテモ二千年掛ル、思切ツテ隔離、治療、監禁ソレ等ニ依ツテ之ヲ治サウ、サウナレバ國家ハ是ハ大變ナ金ガ要ルノデス、是ハ私ハ折角デスガ、何レニシテモ其ノ效果ガ擧ガラナイト斯ウ思ヒマス、併シナガラデス、一人デモ宜イ、此ノ病人ヲ減サウ、一人デモ此ノ不幸ナル者ヲ無ウシヨウト云フ、此ノ建前ニハ賛成ナノダカラ、其ノ御積リデ御聽ヲ願ヒタイ、ソコデ私ハ御尋シタイコトハ、今杉山君ガ申サレマシタヤウニ、ナゼ此ノ中へ惡性ノ「アルコール」中毒患者ノ斷種ヲ御入レニナラナダカト云フ點デス、全體精神病ノ遺傳關係、是ハマダ學者ノ説ガ決ツテ居ラヌ、其ノ決ツテ居ラヌ説デサヘ思切ツテ此ノコトヲナサル、此ノ勇氣ニハ私ハ敬服シマス、所デ精神病ノ直接ノ原因ニナル——精神病ガ環境ニ依ツテ起ルト云フ此ノ事實カラ考ヘテ、精神病ノ一番ノ原因ハ何處ニアルカト云ヘバ酒デス、其ノ「アルコール」中毒患者ガ此ノ中ニ入ツテ居ラヌ、折角此ノ案ヲ御作リニナツテモ、此ノ中ニ若シ「アルコール」中毒患者ト云フ一項ガナイ以上、佛作ツテ魂ヲ入レヌトチツトモ變ラヌ、是ハチツトモ金ハ要リマセヌ、少シノ經費モ掛ラヌ、而シテ此ノ病氣自體ハ確ニ私ハ防ギ得ラレルト斯ウ考ヘル、精神病ノ如キハ、精神病患者ノ家ニ精神病ノ子ガ出來タカラ、是ハ遺傳ダ、コンナ輕卒ナ考ヘ方デハイカヌ、精神病患者ノ家庭ニ其ノ子供等ハ、親ノ精神病、或ハ近親ノ人ノ精神病ト云フ、其ノ憂鬱ナル家庭ニ育ッタコトガ、偶、精神病ノ素因ノアルノト相合致シテ、是ガ發病スルノデアリマス、ソレト同ジ意味デ、此ノ「アルコール」中毒患者、斯ウ云フ環境ガツマリ精神病ヲ拵ヘルノデアリマス、大體精神病ノ間接又ハ直接ノ其ノ原因ハ何處ニアルカト云ヘ

バ、微毒ト酒デス、微毒ト酒ノコトニ付テハ前者モ言ハレタヤウニ、是位恐ルベキ民族毒ハナイ、若シ社會ノ中カラ酒ト微毒ガナカッタラ、精神病ハウント減リマス、是ハモウ日本ノ統計ニ明ニ示サレテ居リマスカラ、是ダケハ間違ヒナイト私ハ信ジテ居リマス、而モ此ノ微毒ニ罹ル一番危険性ノ多イノハ何カト云ヘバ、一杯飲ンダ時デス、酒ガ必ズ何時デモ微毒患者ノ後ニアル、是ハ間違ノナイ事實デス、シテ見マスト、精神病ノ原因ガ酒ト微毒ト云フ恐ルベキ民族毒ダ、其ノ微毒ニ罹ル一番危険率ノ多イノガ酒ト云フコトニナルト、酒ガ一番ノ原因ニナルト言ツテモ、差支ナイヤウナコトニナツテ參ルノデアリマス、此ノ肝腎ノ「アルコール」中毒患者ヲ除カレタコトヲ、私ハ非常ニ遺憾ニ感ジマス、ドナタカモ申サレマシタヤウニ、私モ此ノ案ヲ見テ直グ頭ニピント來ルノハ、斷種ト云フ消極的ナコトヲヤラレルガ、積極的ナ案ハ何モナイ、ソコデ私ハ積極ト云ヘバ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、ナゼ進ンデ此ノ原因ヲ深く掘下ゲテ、之ヲ斷タレヌノデアリマスカ、ソコニ私ハ國民素質ノ向上ト云フ積極的ノモノガ含マレテ居ルト思フノハ、今申上ゲタヤウニ、環境ニ依ツテ此ノ病氣ガ起ル、ドウデス諸君、親爺ガ一杯飲ンデ妻君ニ管ヲ卷イテ居ル、サウシテ妻君ガ惱マサレテ居ル、其ノ家庭、其ノ陰鬱ナル家庭ニ育ッタ子供ト、親爺サンガ御馳走デモ買ツテ來テ、家族ガ机ヲ圍ンデ愉快ニ晚餐ヲヤツテ居ル、其ノ朗ラカナ家庭ニ育ツテ居ル子供ト比ベタラ、ドンナ氣ガシマスカ、斯様ナ家庭ニ育ッタ人コソ、初メテ身心トモニ健全ナモノデアアル、今國家ガ一番要求シテ居ル人間ハ是ナノデス、ソレコソ一錢ノ金モ使ハズシテ國民素質ノ向上ヲ圖リ得ラレルト、私ハ斯ウ深く信ジテ居リマスガ、ナゼ之ヲナサラヌノデスカ、私ハ此ノ點ハアナタニ理窟ヲ申スノデモ何デモナイガ、眞劍ニ國家ノ爲ニ考ヘテ下サイ、ソコデ私ハ政府ニ御尋申上ゲタイコトガアル、全體政府ハ酒ヲドウ御考ニナツテ居ルカ、此ノ間新聞其ノ他ヲ見マスト、今年ハ酒ノ造石高ガ約半分、隨テ各所デ非常ニ酒飢饉デ困ツテ居リマス、先ヅ差當リ炭礦労働者、ソレ等ノ人ニ酒ヲ與ヘナケレバナラヌ、其處ニ比較的餘計配給出來ルヤウニナツタト、何カ凱歌ヲ奏シタヤウナコトヲ書イテ居リマスガ、アンナ所カラズツト考ヘマスト、何カ知ラヌガ酒ハ能率増進デアリ、

生活ノ必需品デアルト云フ氣持ヲ、國民ニスツカリ植付ケテ居ルノデヤナイカト云フ感ジガシマス、而モ此ノ間大藏大臣ハ、モウ都合ニ依ツタラ是ハ生活ノ必需品ダカラ、來年度アタリハ増石センケレバナラヌト云フ、フザケ切ツタコトヲ喋ツテ居ル、是ハ民族毒ヂヤトハツキリ決ツテ居リマス、私ハ今「アルコール」中毒ニ罹ツテ酒ヲ飲ミタイ人、現在習慣付ケラレテ居ル呑ダクレノ手カラ、酒ヲ取ラウト言フノデアリマセヌ、併シ少クトモ酒ハ生活必需品デハナイ、「アルコール」中毒ニ罹ツテ居ルカラ、仕様ガナイノデヤルノダ、ダカラ或ル意味ニ於ケル藥物トシテ、此ノ「アルコール」ヲ使ツテ居ルノダト云フ建前ニナツテ戴キタイ、現在阿片ハ禁ジテ居リマスケレドモ、阿片中毒者ハ恰度酒ノ中毒者患者トチツトモ變ラヌデ喫マズニハ居レナイ、ソレダカラヤハリ害毒デハアルガ、患者ニハ國家ハ阿片ヲ與ヘテ居リマス、是ハ藥物トシテ與ヘテ居ル、私ハ酒モ是ハ民族毒デ良クナイモノダト思フ、併シモウ中毒ニ罹ツタ人カラ、ソレヲ直グ取上ゲテハ氣ノ毒ダカラ與ヘルノダ、此ノ建前ニナツテ戴キタイ、之ヲ政府ハドウ御考ニナリマスカ、折角厚生省ガ出來テモ、是程ハツキリシタ恐ロシイ民族毒デアルト決ツタモノヲ、如何ニモ生活ノ必需品ダ、是ガ無クテハナラナイノダ、斯ウ云フヤウナ氣持デ居ラレルト云フコトデアラナラバ、殊ニ本案ニ於テ態々「アルコール」中毒患者ヲ除イテアルコトカラ考ヘマスト、政府ノ考ハドンナ考デアルカ、是ハ誤ツタル觀念デハナイカト云フコトヲ憂フルカラ、私ハ御尋申上ゲルノデアリマス、第二ニハ全體今日ノ酒ハドウナサル御積リデスカ、本年ハ造石ガ約半分、隨テ各所ニ色々ナ不正ナ事件ガ起ツテ居ルコトハ、モウ厚生省ノ御承知ノ通りデアリマス、隨テウント水ヲ混ゼル、ソレデ腐ツテハナラヌト云フノデ防腐劑ヲ入レルガ、其ノ防腐劑ガ人間ノ身體ニ惡イコトハ、モウ決リ切ツタコトデス、ソレダケデナシニ、恐シイコトニハ「メチール・アルコール」ヲ入レタモノヲ飲ンデ居リマス、是ハモウ警察ニ舉ツタモノモアリマスカラ、アナタノ御手許ニハ其ノ報告ガ來テ居ル筈デアリマス、「メチール・アルコール」ノ恐ロシイコトハ今更説カナクテモ、是ハ直グ腦神經ヲ冒シマス、特ニ視神經ヲ冒シテ、此ノ酒ヲ飲ムト盲目ニナル、是程恐ロシイモノガ現在ノ市場デ賣ラシテ居リマス、少クトモ國民ノ健康ヲ御

考ニナツテ居ル厚生省デアラナラバ、是等ニ付テドウ始末ナサル積リデアルカ、私ハ其ノ對策ヲ伺ツテ見タイ、成程政府ハ經濟警察ヲ動員シテ、片端カラ引張り上ゲレバ宜カラウト御考ニナツテ居ルカモ知レナイ、併シソソコトデハ駄目デス、可哀サウニ「アルコール」ノ中毒患者ニナツタ人ハ、死ヌカ生キルカソソコトニハ構ツテハ居レヌ、兎ニ角飲マナケレバナラヌ、ナソ警察ノ力デ之ヲ抑ヘヨウトシテモ、逆モ抑ヘ切レルモノデハナイノデアリマス、是ハ非常ニ國民保健ノ上カラ言ツテ、實ニ恐ルベキコトデアリマス、ナンボ之ヲ今申上ゲルヤウニ抑ヘラレテモ、ソコニハ恐シイ闇取引ガ現在起ツテ居リマス、此ノ闇取引ハ獨リ酒ダケデハナイデセウ、今日日本ガ闇取引ヲビシヤット止メルト、何モ彼モ停止スル、モウ一切ノ經濟行動ハ停止シナケレバナラヌ、悉ク闇デス、是ハ獨リ酒ダケデハナイ、其ノ他ノ諸物價、殊ニ衛生材料、藥ノ如キハ悉ク闇デス、而モ今日ノ中小工業者ノ闇ヲヤツテ居ル連中ハ、闇ヲヤツテ儲ケテ居ルノデハナイ、高クトモ仕様ガナイ、高イノヲ承知デ買ツテ來テ、之ヲ賣ラナケレバ食ヘヌカラヤツテ居ルノデ、決シテ彼等ハ闇ニ依ツテ儲ケテ居ルノデハナイ、其ノ證據ニハ、是等ノ小商人ハ此ノ闇ヲ止メテ貰ヒタイ、闇ナシノ商賣ガシタイト言ツテ居ル、高クテモ買ツテ來テ、ソレヲ賣ラナケレバ食ヘナイカラ買フノダト云フノガ、今日ノ實際ノ闇取引ノ状態デアル、所デ此ノ闇ハモウ一ツ奥マデ行ツタラ、何處カニ大キナ奴ガ居ル、之ヲ押ヘナケレバナラヌ、今經濟警察デ此ノ人手ノ足ラヌ時ニ大動員ヲヤツテ、サウシテ可哀相ニ、闇ハ困ル、正シキ商賣ヲシタイト云フ忠良ナル國民ヲ、片ツ端カラ豚箱ニ叩キ込ムト云フヤウナ、コンナ馬鹿々々シイコトガ世ノ中ニアリマスカ、此ノ問題ハアナタニ責任ノナイ問題デアルカラ、追究スルコトハ止メマスカ、酒モヤハリ同ジデス、酒ハ今年ハ半分デアル、隨テ懸テ高クナルダラウ、將來上ルデアラウト見込ンデ居ル大闇ノ奴ガ、何處カニ居ルニ違ヒナイト私ハ思フ、之ヲ舉ゲタラ宜シイ、サウ云フ者ガアルカラ小賣ノ方ニ廻ツテ來ナイ、仕方ガナイカラ「メチール・アルコール」デ補フト云フ結果ニナツテ居ルノデアリマス、サウシテ見マスト、此ノ結果ハ外ノ代物ノヤウニ、此ノ「コップ」ガ五錢、七錢、十錢デ高カッタト云フコトデナシニ、直接健康ニ是程恐ロシ

イ影響ガアル酒デアリマス、私ハ此ノ點ハ、此ノ際コソ國民ニ徹底シタラドウカト思フ、酒ハ毒
 ダ、併シ飲ンデ居ル者ハ已ムヲ得ナイ、斯ウ云フ思想ヲ此ノ機會ニ徹底シテ、一ツ國民ニ知ラ
 シメル意味カラ行キマシテモ、本案ノ中ニ「アルコール」中毒患者ヲ入レテ置クト云フコトハ、
 政策ノ上カラ考ヘテモ、私ハ非常ニ結構ナコトデハナイカト信ジテ居リマス、ソコデ私今一ツ
 御尋シタイノハ、今斯ウシタ色々ナ不衛生ナ酒ガ各所ニ賣ラレテ居ル、其ノ因ハ何處ニアルカ
 ト云ヘバ、是ハ酒ガ足ラヌカラデアアル、ソコデ私ハ考ヘルガ、年々此ノ議會ニ出ル二十五歳禁
 酒法案ヲ、何故政府ハ此際思切ツテヤラレナイデスカ、二十五歳禁酒法案ヲ若シ今行フトスレ
 バ、二十歳カラ二十五歳マデノ間ニ、一割カ二割カ知ラヌガ、現ニ消費サレテ居リマス、此ノ消
 費サレル酒ヲ、取敢ズ今ノ飲ミタイ人ノ所ニ持ツテ行クト云フコトデアレバ、二割カ三割カ其
 ノ數字ハハツキリ知リマセヌガ、ソレダケ酒飢饉ガ緩和サレルノデアリマス、此ノ二十五歳ノ
 禁酒法案ノ必要、是ハ私ガ此處デ申上ゲヌデモ十二分ニ御存ジノコトデアリマス、然ルニ厚生
 省ガ新シク出來テ、本當ニ國民ノ醫事行政、健康ヲ憂ヘ、而モ前途アル青年學生ノ將來ヲ憂フ
 ルト云フ、此ノ御親切ト親心ガアルナラバ、是非共、此ノ際二十五歳禁酒法案ヲヤツテ貫ヒタ
 イ、私ハ重ねテ申シマスガ、二十五歳以上デ家ヲ成シ、子女ノアル人ガ、一日ノ疲ヲ休メルノ
 ニ、晩酌ヲ一杯ヤラウト云フノマデ取ラウト云フ意味デハナイ、現在「アルコール」中毒ニ罹ツ
 テ居ル人ノ酒ヲ取ルト言フノデハナイノデアリマス、酒ハ習慣デ、飲ミサヘシナケレバ止メテ
 モ決シテ苦痛ナモノデハナイ、ドンナ人デモ酒ヲ初メカラ欲シクテ飲ンデ居ル人ハ一人モ居ナ
 イ、例ノ花柳病ニウツリニ行ク時ニ、一杯元氣デ行カナケレバ恰好ガ悪イカラ、一杯ヤツタノ
 ガ段々因ニナツタ、是ハ苦痛デハナイ、私ハ二十五歳禁酒法案ガ、若シ本人等ニ苦痛デアルト
 云フコトナラバ、強ヒヨウトハ思ヒマセヌガ、斷ジテ苦痛デナイ、アノ前途アル青年學生ガ
 「バー」一杯飲ミ、其ノ健康ダケデナク、其ノ前途マデ誤ル、其ノ多クハ何カト云ヘバ酒デア
 ル、全體二十五歳禁酒法ヲ今假ニ布イタト假定シテ、日本中誰ガ反對シマスカ、私ハ少クトモ
 二十五歳以内ノ青年ヲ持ツテ居ル父兄ハ、悉ク雙手ヲ擧ゲテ賛成サレルコトト思フ、是ハ今日

マデ偶々反對ガアツタ、ソレハ酒屋ガ反對デアツタ、是ハ無理ハナイ、職業意識カラ之ニ反對サ
 レルノハ御察シシマスガ、今日コソ酒ガナイノデ困ツテ居ル、今日ハ酒ヲ一升買ヒニ行ツテモ
 五合シカ賣ラナイ、酒ガナクテ困ツテ居ルノダカラ、モウ酒屋ノ反對ハスツカリ無クナツタ、
 全體コンナ好イ時機ガアト先ニアリマスカ、私ハ此ノ際斯ウ云フ重要ナ案ヲ議員提出法ニシテ
 置クト云フヤウナ不眞面目ナコトデナシニ、政府自ラ案ヲ具シテ議會ニ諮フガ宜イト思フ、私
 ハ是等青少年ニ對シテ、此ノ眞劍ト熱心ト親切ガアツテ貫ヒタイト思フノデアリマス、斯ウシ
 テ堂々百ノ聲明ヲ御出シニナリ、總理大臣ガ此處デ百遍斷乎ト言ハレルヨリ、一ツデ宜イカラ
 實行ニ移シテ貫ヒタイ、是非ヤツテ下サイ、然ルニ先程大藏大臣ハ、都合ニ依ツタラ増石スル
 ト言ハレル、何ト云フコトデスカ、今日日本ハ申スマデモナク有史以來ノ非常時局ニ直面シ、
 此ノ大事業ヲ今將ニ爲サントシテ居ル、而モ汪政權ガ出來テモ、今直グ戰ヲ止メルノデハナ
 イ、是ハ屢々政府ガ聲明サレル通りデアリマス、サウスルト此ノ時局ハ是カラマダノ續ク、
 而モ本年ハ肥料ノ減産、配給ノ不足、是ハ食糧問題トハ非常ナ關係ガアリマシテ、皆憂ヘテ居
 リマス、而モ此ノ米ハ世界性ノナイ、至ツテ窮屈ナ日本ノ主要食物デアリマス、是ノ確保コソ
 今日最モ大切デアリ、必要ナ時ニ、大藏大臣ハ増石スルト言ハレル、第一次歐羅巴戰爭ノ時ニ
 ハ、英米ハ悉ク禁酒シテ居リマス、米國ノ如キハ憲法ヲ改正シテ禁酒シテ居ル、露西亞モヤ
 ツテ居ル、獨逸、伊太利、英吉利、佛蘭西、皆各其ノ國情ニ即シタ禁酒ヲヤツテ居リマス、
 今度モ亦佛蘭西ハ現在禁酒シテ居リマス、ソレダノニ日本ガ此ノ非常時局ヲ啞ヘ楊子デ一杯機
 嫌デ乗切レルト云フヤウナ考ダツタラ、私ハ洵ニ認識不足モ甚シイト思フ、國民精神總動員デ
 幾ラ太鼓ヲ叩イテモ、ソナコトデハ國民ハ踊ラヌ、私ハドウゾ斯ウ云フ機會ニ、唯單ニ酒ト
 云フ問題ダケデナク、眞ニ國民精神ヲ緊張シ、此ノ非常時局ノ認識ヲサス、斯ウ云フ建前カラ
 行キマシテモ、今ガ一番好イ時デハナイカト思フノデアリマス、今カラデモ遅クハナイ、私ハ
 ドウカ政府ガ案ヲ具シテ、一ツ此ノ問題ヲ親切ニ採上ゲテヤツテ貫ヒタイト思フ、聽テハ世界
 ニ例ノナイヤウナ體力管理法案モ御出シニナルヤウデアリマスガ、百ノ法律ヲ御出シニナツテ

モ何モノナラヌ、如何ニ體力ノ増進向上ノ法律ヲ何万御出シニナツテモ、國民體力ノ低下スル源ヲ防ガナクテハ何ニモノナラヌ、私ハコンナ學說ノ決マラヌモノハナクテモ宜イト思フ、取敢ズ源カラヤツタラドウカ、ドウカ斯ウ云フ建前デ行ツテ貫ヒタイ、特ニ此ノ問題ニ付テ、此處デ直グ出スカラト云フ御答ハシニクカラウト存ジマスガ、ドウカ青少年及ビ國家ノ爲ニ、特ニ國民體力増進ノ爲ニ考慮シテ戴キタイト思ヒマシテ、切ニ御願申上ゲルノデアリマス、何レ又詳シイコトハ委員會デ御尋シタイト存ジマスカラ、簡單ニ御尋シテ置キマス

吉田厚生大臣ノ應答

御答致シマス、此ノ法案ニ付テ、此ノ運用ノ上ニ於テ慎重ヲ期サネバナラヌコトハ、洵ニ御同感デゴザイマシテ、政府モ能ク心シテ、此ノ運用ニ誤リナキヲ期シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ精神病ニ付テノ我國ニ於ケル遺傳ノ調査ト云フモノガアルカト云フ御尋デゴザイマス、調査ノ段階ニモ色々ゴザイマスガ、政府ト致シマシテハ、相當ノ調査ノ基礎ノ上ニ、此ノ法案ヲ立案致シタノデアリマシテ、ソレ等ノコトハ他ノ機會ニ於キマシテ改メテ御示ヲ致スコトニ致シタイト存ジマス、豫防ヲ主トスルノカ、斷種ヲ主トスルノカ、何レノ政策ヲ政府ハ執ルノカト云フコトデアリマス、是ハ此ノ法案ノミニ依ツテ行クノデアリマセヌコトハ、前來屢御説明致シタノデアリマス、豫防モ又優生手術モ兼ネ併セ行ハレルト云フコトガ、肝要デアラウト思フノデアリマシテ、是亦一人モ遺傳病患者ト云フ者ガ、此ノ世ノ中カラナクナツテシマフト云フコトガ、假ニ徹底デアルトスレバ、ソコマデ參ルコトハ御説ノ通り中々望ミ難イノデアリマス、尤モ惡質ノ遺傳性疾患ト云フモノニ付キマシテハ、是亦精々慎重ヲ期シテ其ノ取扱ヲ致シ、併セテ豫防方策ト云フコトノ上ニ於キマシテモ、出來得ル限りノ力ヲ盡スト云フ、兩方併用ノ外ハアルマイト思フノデアリマス、惡性ノ「アルコール」中毒患者ヲ除イテアリマスル理由ニ付キマシテハ、前刻モ御答ヲ致シタ通りデゴザイマスガ、此ノ取扱ニ付テハ、子孫ニ累ヲ及ボス意味ニ鑑ミマシテ、今後モ十分ナ研究ヲ致シテ見ル積リデ居リマス、左様御諒承ヲ願

ヒマス、尙ホ酒類ノ害惡ニ付キマシテ縷々御述ニナリマシタ、二十五歲禁止法案ト云フモノハ、屢當議會ニ於キマシテモ問題ニナツテ居ルコトデゴザイマス、此ノ酒ノ問題ノ取扱ヒニクイコトハ、御説ノ通りニ既ニ飲酒ノ習慣ノ付イテ居ル人ハ、俄ニ之ヲ廢メルト云フコトガ洵ニ困難デアリマス爲、今日種々ノ憂慮スベキ問題ヲ生ジテ居ル譯ナノデアリマス、御考ノ根本ハ、未ダ飲酒ノ習慣ナキ者ニ、其ノ惡習ニ染マナイヤウニセヨト云フ御精神ナノデアリマスガ、其ノ點ハ全ク御共鳴ヲ致スノデアリマス、ソレヲ如何ニシテ取扱ツタナラバ宜シイカ、御説ノ如ク日本トシテノ獨自ノ禁酒法案トシテ、二十五歲ニ禁酒年齢ヲ延長シテ、サウシテ今日ノ種々ノ惡例ヲ現ニ露呈致シテ居リマスル、此ノ飲酒ノ問題ト云フモノヲ、ドウ片付ケルカト云フコトニ付キマシテハ、一ツ十分考究ヲサセテ戴キタイト思ヒマス

北浦圭太郎君ノ質疑

私ハ本法案ニ付キマシテ、大體憲法上ノ疑點ト、刑法上ノ疑點、竝ニ實益ノ此ノ三點ニ分ツテ、政府ニ質問ヲ試ミタイト思フノデゴザイマス、尙ホ此ノ議場ニ於キマシテ、私ノ同僚カラ今一點重要ナルコトヲ、厚生大臣ニ質問セヨトコトデゴザイマスカラ、其ノ點ハ後ニ附加致スコトト致シマス、此ノ法案ニ依リマスルト、優生手術ノ申請ハ地方長官ガ之ヲ受理致シマシテ、其ノ認否ノ決定權モ地方長官ガ握ツテ居ルノデゴザイマス、而シテ之ニ争ガアリマスル時ハ、厚生大臣ガ最終ノ審判權ヲ持ツテ居ルノデゴザイマスルガ、申スマデモナク、此ノ優生手術ハ其ノ名ハ國民優生法案トシテ立派デゴザイマスルガ、實ハ人ノ身體ニ傷害ヲ與ヘル行爲デアツテ、大イニ考ヘナケレバナラヌ法律案デアアルノデゴザイマス、御承知ノ通り花柳病ノ傳染スラ、傷害罪トシテ之ヲ論ゼラルル法律生活ニ於テ、此ノ法案ノ如ク將來永久ニ生殖ヲ不能ナラシメル手術又ハ處置ノ如キハ、臣民ノ身體自由權ヲ侵害スルモノト言ハナケレバナラヌノデゴザイマス、人ハ元來生殖可能ナルコトガ自然ノ姿態デゴザイマス、隨テ之ヲ不能ナラシメル處置ハ、人類自然ノ姿ヲ破壊スルモノデアツテ、傷害デアルト言ハナケレバナラヌノデゴザイマス、刑法ノ精神

カラ申シマスルト、假ニ實際上有益ナル身體侵害デアツテモ、傷害罪トシテ論セラレル場合ガ多
 多アルノデゴザイマス、例へバ人ニ斬付ケテ、偶、被害者ノ贅肉ヲ切取り、是ガ爲ニ被害者ハ將
 來ニ互ツテ非常ナ便利ヲ得タト云フ場合デモ、刑法上ハ之ヲ傷害ナリトシテ論ズル場合モアル
 ノデゴザイマス、果シテ然ラバ國民ノ利益ノ爲ダカラト云ツテモ、未來永遠ニ妊娠ヲ不能ナラ
 シメルト云フ手術ノ如キハ、傷害タルコトハ疑問ノ餘地ガ無イト確信致スノデゴザイマス、斯ノ
 如キ重大ナル身體侵害ヲ、一片ノ法案デ決定シヨウト云フコトガ無理デアアルノミナラズ、之ヲ一
 地方長官ニ依ツテ、其ノ適否ヲ決定スル、争アル時ハ厚生大臣ガ審判ヲスルト云フガ如キハ、憲法
 ノ精神ニ背反スルモノデアアルト言ハナケレバナラヌノデゴザイマス、憲法ノ條文ニ何ト書イテア
 ルカ、帝國臣民ヲ逮捕シタリ、監禁シタリ、又ハ審問、處罰、勿論是ハ刑事訴訟ニ關スル規定
 デゴザイマスルガ、人ヲ死刑ニ處シ、又ハ刑務所ニ入レテ其ノ自由ヲ拘束スルノモ、元來國家
 公共ノ利益ノ爲ニ致スノデゴザイマス、本案モ亦國民體位向上ノ爲ト云フ、國家公共ノ利益ノ
 爲デハアルガ、此ノ兩者ノ間ニ大ナル差別ノアルコトヲ看過シテハナラナイノデゴザイマス、
 臣民ヲ逮捕シタリ、監禁シタリ、或ハ審問、處罰スルノハ、其ノ人民ニ反社會的行爲ガアルカ
 ラデゴザイマス、他人又ハ國家ニ害惡ヲ加ヘル有責違法ノ科罰行爲ガアルカラデゴザイマス、其
 ノ行爲ヲ處罰スル爲ニ憲法ハ已ムヲ得ズ之ヲ認メテ居ルノデゴザイマス、然ルニ本法案ハ何等
 ノ反社會的行爲ナキ者ニ傷害ヲ加ヘントスルノデアリマス、一概ニ國家ノ爲デアルト申シマス
 ルガ、何等ノ行爲ナキ善良ナル國民ニ、寧ろ憐ムベキ惡疾ガアリ、同情スベキ天刑病アリト云フ
 理由ニ依ツテ、是ガ身體ニ傷害ヲ加ヘルト云フガ如キハ、仁慈ナル政治デアルト云フコトハ斷ジ
 テ出來ナイノデゴザイマス、今デモ奈良ニハ其ノ遺跡ガ残ツテ居ルノデゴザイマスルガ、光明皇
 后ハ是等ノ病人ヲ特ニ愛護シ給ヒ、施藥院ヲ設ケテ大イニ之ヲ保護遊バサレタノデゴザイマ
 ス、然ルニ現政府ハコンナ者ヲ絶滅サセヨウト致サレマスルガ、第一憲法ノ精神ガ之ヲ許スカ否
 カ大ナル疑問デゴザイマス、次ニ憲法デハ「日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クル
 ノ權ヲ奪ハルルコトナシ」ト規定致シテゴザイマスルガ、是ハ申スマデモナク、民事訴訟ニ付テ

ハ、天皇ノ名ニ於テ裁判スル裁判官ニアラザレバ、之ヲ審判スルコトガ許サレナイノデゴザ
 イマス、而シテ本案決定ノ性質ヲ考ヘテ見マスルト、親子關係、親族關係、兵主及ビ相續人、
 夫婦關係等、人事ニ重大ナル影響ヲ及ボスベキ身分關係ヲ決定致ス法律案デゴザイマスルカラ、
 牛ヤ馬ヲ處分スル行政處分ニ依ツテ決定スベキモノデハナイノデゴザイマス、地方長官ハ畜産
 組合、牛馬檢疫等ニ付テハ、如何様ナ處分ヲナサレテモ宜イカモ知レナイガ、此ノ法案ニ依ツ
 テ大切ナル臣民ノ子孫ヲ絶滅スルト云フガ如キ大事件、人事訴訟ニ關係スルガ如キコトニ付テ
 ハ、何ト申シテモ明白ナル憲法違反デアアルト謂ハナケレバナリマセヌ、此ノ行政處分ニ依ツテ處
 分サレルト云フコトハ、能ク考ヘテ戴キマセヌト、是ハ人事訴訟デアリ、民事訴訟デアル、
 即チ裁判官ノ裁判ヲ受クル權利ヲ此ノ法案ニ依ツテ奪ハウトスル、憲法ハ勿論國家ノ爲ニ制定
 サレ、而シテ法律ニ優越スルモノデゴザイマスルカラ、憲法ノ精神ニ反スルヤウナ法律ノ制定
 ハ、時勢ガ如何ニ變化スルト雖モ、吾々ハ斷乎トシテ是ト戰ハナケレバナラヌノデゴザイマ
 ス、政府ハ、此ノ法案ガ以上申述べマシタ憲法ノ精神ニ反スルモノニアラズト云フ根據ヲ御示
 ヲ願ヒタイノデゴザイマス、其ノ第二點ハ墮胎トノ關係デゴザイマス、刑法ニ於テハ自然ノ
 分婉期ニ先ダチ胎兒ヲ母體外ニ排出スレバ、即チ墮胎罪トシテ處罰致シテ居ルノデゴザイマ
 ス、本法案ハ此ノ場合ヲモ包含シテ居ルコトハ、其ノ條文ニ照シテ明白デゴザイマス、サウシ
 テ排出セラレタル胎兒ガ、外部ニ出マシテ生活能力ガアルカナイカ、即チ死ンデ生レヤウト、
 尙ホ生キテ生レヤウト、ソナコトハ何等關係ガ無イ、何レモ墮胎罪トシテ處罰致シテ居ルノ
 デゴザイマス、ソコデ私ノ御伺致シタイノハ、國家ハ一面ニ於テ此ノ行爲ヲ罰シ、他面ニ於テ
 此ノ法案ニ依ツテ墮胎行爲ヲ、少クトモ三箇月以内ノ胎兒處理ヲ獎勵スルトハ何事デゴザイマ
 スルカ、墮胎ノ原因ハ、御承知ノ通り、不名譽ノ結果、例へバ私生兒デアルトカ、或ハ糊口ノ困難
 ヲ免レル爲トカニ原因致シマシテ、ヨク行ハレルノデゴザイマス、内務大臣、厚生大臣ハ多分
 御承知デアアルコトト思ヒマスルガ、三重縣、奈良縣ノ一部ニ於キマシテ、舉村舉ツテ墮胎ヲ致ス
 地方ガゴザイマス、三重縣ノ如キハ、檢事局ニ於テ既ニ二回ノ大檢舉ヲ斷行サレタノデゴザイ

マスルガ、未ダニ此ノ風習ガ根絶サレテ居ナイノデゴザイマス、是ハ三重縣ノ山間部デアリマス、昨年十一月ニ檢舉サレマシタ墮胎ノ如キハ、其ノ被疑者實ニ百名ヲ超エ、嚴重ニ搜查致シマスルト、恐ラク、二三ヶ村ハ全滅スル程ノ大事件デアッタノデゴザイマス、被告數、奈良縣、三重縣ヲ合ハセテ百名ニ達シ、是ガ爲ニ警察檢事局ニ引張ラレテ取調ヲ受ケタ者ガ三百名以上ニ達シタノデゴザイマス、秋ノ最中ニ妙齡ノ婦人ガドシ、召喚サレ、大衝動ヲ惹起致シタノデゴザイマス、驚クベキコトニハ、此ノ地方デハ生活難ノ爲ニ子供ハ大抵二人程度デ、他ハ盡ク之ヲ墮胎シテシマフ、四名モ五名モ子供ヲ育テマス、村カラ甲斐性無シ、意氣地無シトシテ輕蔑セラレ、排斥セラレルト云フ状態デアッタノデゴザイマス、所謂貧乏子多シノ輕蔑ヲ受ケルノデアリマス、厚生大臣ハ能ク之ヲ御記憶願ヒタイノデゴザイマス、産メヨ、殖セヨ、ノ「スローガン」ニ拘ラズ、子供ノ四人モ五人モ持テバ、婦人會ニ行ツテモ幅ガ利カナイ、鎮守ノ宮ノ御祭ニ行ツテモ末席ニ坐ラナケレバナナイ、是ハ本當ノ話デアリマスカラ、驚カザルヲ得ナイデハアリマセスカ、而シテ此ノ墮胎ハ唯單ニ貧困者ダケデハナク、可ナリノ物持モヤハリヤツテ居ツタノデゴザイマス、仍テ其ノ原因ヲ調査致シテ見マスルト、徳川時代ニ此ノ地方ノ大名ハ、自領ノ人民ト他領ノ人民トノ交通接觸ヲ厭ヒ、物ノ賣買、米麥薪炭ノ移入移出ヲ禁ジ、即チ一村ノ自給自足ヲ致サセマシタ關係上、何分山間僻地デゴザイマスルカラ、産物ガ足りナイ、今日ノ如ク生産擴充トカ、或ハ配給統制トカ、左様ナ熟語サヘナカッタ時代デゴザイマスルカラ、遂ニ驚クベキコトニハ人間ノ生産統制ヲヤツタノデゴザイマス、徳川時代ニハ此ノ墮胎ヲ暗黙ノ間ニ認メテ參ツタノデゴザイマスルカラ、此ノ因習ガ久シキニ互リ、今ヤ拭フベカラザル習慣トナツタモノデゴザイマス、安濃津地方裁判所ノ檢事正ハ「サンガリズム」ノ惡思想ガ三重縣ニ入ツテ居ルト主張サレテ居ラレマシタガ、私ノ調査ニ依リマスルト、ソレハ大ナル誤リデアツテ、遠ク徳川時代ヨリノ習慣デアツタノデゴザイマス、之ヲ檢事局ハ容赦モナク起訴シ、奈良區裁判所、竝ニ上野區裁判所デハ多數ノ婦人ガ公判ニ付セラレ、何レモ有罪ノ判決ヲ受ケタノデゴザイマス、國家ハ一面ニ於テ之ヲ斯ノ如ク嚴重ニ處罰スル、遠ク何百年ノ昔カラノ習慣デアツテ居ル

所ノ此ノ墮胎ニ對シテ、殆ド例外ナク有罪ノ判決ノ申渡ヲヤリ、サウシテ他面ニ於テ本法案ニ依ツテ墮胎及ビ墮胎以上ノコトヲ寧ロ獎勵シヨウトスルノハ矛盾デハナイカ、是ガ私ノ政府ニ對スル質問ノ第二點デゴザイマス、第一ニアノ地方ノ惡習慣ヲ如何ニシテ根絶セシメラレマスカ、現在何等カノ手段方法ヲ盡シテ居ラルルカ否カト云フ點デゴザイマス、是ハ主トシテ内務大臣ニ御同致スノデゴザイマス、之ヲ此ノ儘ニ捨テ置キマス、又二三年後ニハ百名、二百名ノ婦人ヲ警察ニ引張ラナケレバナラヌ事態ノ惹起スルコトハ明白デゴザイマス、仍テ豫メ今カラ何等カノ手段ヲ講ジテ之ヲ豫防ナサラヌト、此ノ地方ニ再ビ大不幸ガ惹起致シマスコトヲ私ハ確言致シテ置キマス、第二ハ刑法上ノ處罰事項ハ、刑法ニ規定シテ居ルカラ之ヲ罰シ、本法案ニ於テハ國家ノ爲ニ之ヲ許スノダト云フ簡單ナル説明デハ承知ガ出來ナイノデゴザイマス、御承知ノ通り文明ノ幼稚ナ時代ニハ、墮胎ハ嬰兒殺シト共ニ不法行爲ト認メナカッタモノガ、文化次第二開ケテ、嬰兒ノ獨立人格ガ認メラルルニ及ンデ、初メテ嬰兒ガ殺人ノ目的物トナリ、更ニ進ンデ、母體內ニ於ケル胎兒保護ノ必要生ジ、墮胎罪ヲ處罰スルヤウニナツタノデゴザイマス、然ルニ神様ダケガ御承知ノ筈ノ、將來生レ出ツル帝國臣民ヲ捉へ來ツテ、人間ノ淺薄ナル知識デ、畸形兒ノ子ハ畸形兒ナリ、精神病者ノ子ハ精神病者ナリト斷定シテ、昔ノ野蠻時代ニ還ラウトスルガ如キコトニハ、首肯出來ナイノデゴザイマス、此ノ點政府ノ所見ヲ御同致シタイノデゴザイマス、第三ニハ、此ノ法案ハ、手術ヲ受ケル者ノ任意規定トナツテ居ルヤウデゴザイマス、ヨク世間デ申シマス通り、燒野ノ雉夜ノ鶴、子ヲ思ハヌ親ハナイ、殊ニ畸形兒程可愛イノハ親心デゴザイマス、自分ノ子ガ畸形兒デアアル、精神病者デアルト云フ所以ヲ以テ、其ノ子供ニ優生手術ヲ申請スル親ハ、人情ノ自然トシテアリ得ナイ、天刑病者スラ、物ヲ貰ツテ生活致シテ居ツテモ、其ノ子供ヲ愛育致シテ居リマスルコトハ、何ヨリモ此ノ人情ノ自然ヲ雄辯ニ物語ツテ居ルデハゴザイマセスカ、國家ノ利益ノ爲トハ稱シナガラ、此ノ法案ハ極メテ不徹底デ、優生手術ヲ受クルカ否カハ、各本人ノ任意ニ委テアルト云フコトハ、法案第一條ニ聲明致シテ居リマス所ノ、惡疾患者ノ増加ヲ防グト云フコトモ不可能デアレバ、又是ガ爲ニ國民素質ノ向上ヲ圖ルト云フコトモ、大ナル疑

問デアルト言ハナケレバナラヌ、政府ハ憲法ノ精神ニ悖ラウガ、將又刑法トノ關係ガ矛盾著シヨウガ、之ヲ敢テ實施セント欲スルナラバ、何故ニ之ヲ強行規定ト致サナイノデゴザイマセウカ恐ラク此ノ法案ヲ以テシテハ、優生手術ノ實行ハ、到底實現ガ困難デアラウト確信致シマス、然ラズトスルモ、法律命令ノ盛ナルコト、實ニ今日ヨリ大ナルハナイノデゴザイマス、恰モ降り續ク春雨ノ如ク、毎日毎日或ハ商工省令、或ハ大藏省令、或ハ各府縣令等々ノ如ク、如何ナル専門家ト雖モ、今日國民ノ頭ニ注ガレル法律命令ヲ理解シ、之ヲ知ルコトハ頗ル困難デアアルノデゴザイマス、昔カラ申シマスルヤウニ、無爲ニシテ化ストカ、法三章以テ天下ヲ治ムルニ足ルトカ云フヤウナ聖賢ノ政治ハ、夢ニモ考ヘラレズシテ、徒ニ官僚ノ人々ガ机上デ編出ス法律命令デ天下ヲ治メヨウトセラルルカラ間違ヒガ起ル、本法案ノ如キハ、今後ハ墮胎ガ許サレルト云フ觀念ヲ、國民ニ抱カセル危險アルノミナラズ、憲法上、刑法上、幾多ノ矛盾著ク含ミ、而モ其ノ實現スラ困難ナル法律案ヲ、態、會期切迫ノ今日提案シナクトモ、更ニ案ヲ練リ直シテ出直スコトガ賢明ナリト信ジマスルガ、政府ノ所見如何デゴザイマスルカ、第四ハ、法案自體ニ矛盾ガ多イト云フコトヲ、指摘シナケレバナラヌノデゴザイマス、此ノ法案ニ依リマスルト、故ナク優生手術ヲ行ヒタル場合ニハ、一年以下ノ懲役トナリ、因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ、三年以下ノ懲役トナツテ居リマスルガ、私ノ不思議ニ堪ヘナイノハ、今日マデ、或ハ又此ノ法案ガ確定スルマデニ、故ナク優生手術ヲ行ヒタル者ニ對シテハ、處罰ノ方法ガナカツタノデアアルカ否カト云フコトデアリマス、故ナク優生手術ヲ施シタル場合ニハ、或ハ刑法上ノ傷害罪若クハ墮胎罰、或ハ又秘密漏洩罪、醫師法違反等ニ引ツ掛カル場合モアレバ、殊ニ緊急避難ノ條文ニ該當スルヤウナ規定モ置カレテゴザイマス、隨テ是等ノ規定ノ多クノ條文ハ、本法案ニ於テハ全然必要トシナイノデハナイカト考ヘラルルノデゴザイマス、又若シ私ノ申シマスルコトガ「ファウル」デアツテ、今日マデ如何ナル法律命令ニモ、此ノ優生法案ニ規定セルガ如キ制裁法規ガナイノデアアルト致シマスルナラバ、過去ニ於テ、或ハ本法案確定スルマデハ、優生手術ハ故ナクヤツテモ無罪デアアルカ、斂ヲ突イテ蛇ヲ出ストハ此ノ事デアツテ、未熟ナル法案ヲ提出スルガ爲ニ、犯罪ヲ罰スルコト能ハザルガ如キ

現象ヲ來スコトナキヤヲ惧ルル者デゴザイマス、尙ホ刑法ト本案トノ關係ニ付テ、詳細ナルコトハ委員會ニ讓ルト致シマシテ、私ノ質問ヲ要約致シマスルト、此ノ法案ハ第一、憲法ノ精神ニ違反スル、第二、刑法ノ墮胎罪、傷害罪ト矛盾スル、第三人情ニ悖ル、少クトモ仁慈ナル精神ニデハナイ、第四、法案自體内ニ矛盾モアレバ、徹底モ缺ク、以上ノ要點ニ對シテ政府ノ御所見ヲ質ス次第デゴザイマス、尙ホ私ノ同僚カラ、是ハ極メテ重要デアアルカラ、是非質問セヨト云フコトデ、質問ヲ致スノデゴザイマスルガ、是ハ私ガ露骨ニ申上ゲマス、詳細ニハ分ラヌノデゴザイマスルガ、國家ヲシテ強大ナラシメルニハ、優秀ナル民族ノ増加ヲ圖ラナケレバナラヌ、是ハ當リ前ノコトデス、優秀ナル民族ノ増加ヲ圖ルニハ、遺傳學ヲ根據トスル學術的研究ノ基礎ノ上ニ立タネバナラヌ、然ルニ近來厚生省ハ、徒ニ「生メヨ、殖セヨ」トノ通俗ノ「スローガン」ヲ以テ、人口ノ増加ヲ圖ラウト致シテ居リマスルガ、何等學術的研究ノ基礎ノ上ニ立タズシテ、人口ノ増加ヲ獎勵スルコトハ危險デアアル、其ノ結果トシテハ優良ナラザル人口ノ増加ヲ來ス虞ガアル、是ハ如何ニモ此ノ通りデゴザイマス、社會ガ之ニ對スル責務ヲ持タネバナラヌ、斷種法ノ如キ、我が民族ノ消長ニ關スル、且又人道上ノ重要ナル法案ヲ提出スル前ニ、政府ハ先ヅ以テ全國ノ遺傳學者ヲ動員シテ、此ノ問題ヲ研究セシムルト共ニ、非常時下ニ於テ優秀ナル民族ノ増殖ニ關シテ考究セシメネバナラヌ、最近北海道帝國大學教授小熊樺博士ニ依ツテ、國立遺傳研究所ノ設立ガ唱道セラレテ居ルコトハ、洵ニ機宜ニ適シテ居ルト思フ、政府ハ國立遺傳研究所ノ設立ヲ爲スノ考ナキカ、詰リ國立遺傳研究所ヲ設立シテ、ソレカラ大イニ研究シテ、學問ノ基礎ノ上ニ立ツテ而シテ後ニ斯ウ云フ法案ヲ提出スル方ガ宜イノデハナイカト云フ質問デゴザイマス、以上私ノ質問ハ終リマス

吉田厚生大臣ノ應答

御答ヲ致シマス、此ノ法案ニ依ル優生手術ハ、一片ノ法律ヲ以テ之ヲ執行スルト云フコトハ、憲法ノ精神ニ違反シハセヌカト云フ御疑念デゴザイマス、本法案ニ規定シマスルガ如クニ、惡

質ノ遺傳性疾患ヲ持ツテ居ル人々ニ、最小限其ノ遺傳性疾患ノ遺傳致シマセヌヤウナ手術ヲ致スト云フコトヲ、法律ヲ以テ規定スルト云フノデアリマスル以上ハ、是ハ憲法ノ精神ニハ背反ヲシナイモノト政府ハ確信致シテ居リマス、尙又此ノ事ヲ取決メヲスルノニ、府縣知事又ハ第二審ノ場合ニ、厚生大臣ガ其ノ決定ヲスルト云フコトハ、日本國民ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ妨グルモノデハナイカ、裁判ニ依ラナケレバナラヌデハナイカト云フコトデアリマスルガ、此ノ法案ニ依ツテ決定セラレマスル決定ハ、法案ニ明カデアリマスルガ如クニ、内容ガ裁判ノ行爲デゴザイマセヌノデ、行政廳ノ決定——尤モ其ノ行政廳ノ決定スルコトノ基礎ト致シマシテハ、科學、醫學ノ上カラノ十分ノ判斷ヲ必要ト致シマスルノデ、ソレニハ審査會ト云フモノヲ拵ヘマシテ、審査會ノ慎重審議ヲ經テ行政廳ニ於テ決定スルト云フコトガ適當ナモノト考ヘルノデアリマス、裁判所ノ取扱フベキ事柄デナイ次第デアリマス、尙ホ墮胎ニ關スル刑法ノ法制トノ關係ノ御尋デゴザイマス、此ノ法案デ規定シテアリマスルヤウニ、優生手術ヲ行フベキモノト決定シタ人ガ妊娠ヲ致シテ居リマシテ、殊ニソレガ三箇月未滿デアリマスル場合ニハ、妊娠中斷ヲ行ツテ宜シイ、尤モソレニハソレ相當ノ手續ヲ要求シテアルノデアリマスガ、一定手續ヲ施行シタ上デ妊娠中絶ヲ行ツテ宜シイ、詰リソレハ所謂故ナク墮胎ヲスルノデナイ、一ツノ最モ顯著ナ場合ヲ法律デ規定ヲ致シテアルノデアリマスカラ、在來ノ法制トノ間ニ矛盾ハ一ツモナイノデアリマス、兩々相俟ツテ如何ナル場合ニ適法デアリ、故ガアリ、如何ナル場合ニ不法デアリ、故ナク行ツタカト云フコトガ、最モ明瞭ニナル次第ナノデアリマス、從來ソレ等ノ點ニ關スル判斷ノ基礎法規ト云フモノガ明瞭デアリマセヌデシタノガ、今回ノ立法ニ依リマシテ其ノ點明瞭ニセラレル次第アルト思ヒマス、隨テ御心配ニナルヤウナ虞ハナイト思ヒマス、尙ホ此ノ法案ハ原則トシテ任意規定ニナツテ居ルガ、ソレデハ不徹底デハナイカト云フ御話デゴザイマス、ヤハリ斯様ニ致シマシテ惡質ノ遺傳性疾患ノ子孫ニ傳ハリマスルコトヲ防止スルニ致シマシテモ、餘リニ本人ノ意思ヲ無視致シマシテ、之ヲ強行スルト云フコトハ、餘程慎マネバナラヌコトデゴザイマスルノデ、原則トシテ本人ノ任意ト云フコトニ致シテアリマス、任意

ニ依リ難イ已ムヲ得ザル場合ニ於テ、初メテ強制ノ手續ヲ履ムト云フヤウナコトニナツテ居リマスノデ、原則ヲ任意ニ置イテアルト云フコトハ、本法施行ノ上ニ立案ノ慎重ナ用意ノ積リデゴザイマスノデ、一切合切本法ノ規定ノ適用ハ、總テ強制ニ依ルノダト云フヤウナコトハ、洵ニ行キ過ギデアルト考ヘルノデアリマス、尙ホ最後ニ御話ノゴザイマシタ優良ナラザル人口増加ノ方策ト云フヤウナコトヲ政府ガ懸命ニヤツテモ駄目ダ、須ク優良ナ素質ヲ持ツタ者ノ人口ノ増加ニ努メネバナラヌト云フコトハ、洵ニソレハ政府ノ少シモ異存ノナイ所デゴザイマス、人口ノ問題ニ付キマシテハ、質ノ優良ト云フコトト、優良ナ質ノ者ガ多ク殖エルト云フコト、兩方共ニ大切ナコトデアリマスルノデ、其ノ心持ヲ持ツテ諸般ノ政策ヲ講ジテ居ル譯デアリマス、遺傳學ニ關スル公ノ研究所ト云フヤウナコトヲ目論ンデ居ル向モアルヤウニ承ツテ居リマス、政府ト致シマシテモ、其ノ事ノ適否ト云フコトニ付キマシテハ、十分ニ考慮ヲ致シテ見タイト思ツテ居リマス

鶴見内務政務次官ノ應答

只今北原君ヨリ御尋ノ部分ノ内務省ニ關スル點ダケヲ御答申上ゲマス、先程モ御指摘ニナリマシタヤウニ、三重縣ノ伊賀地方ニ於キマシテハ、御話ノ如クニ昔カラ墮胎ノ弊風ガゴザイマシテ、警察ニ於キマシテモ、地元ノ町村ト協力ヲ致シマシテ、此ノ弊風ノ跡ヲ絶ツヤウニ從來トモ努力ヲ致シテ居ツタノデアリマス、現ニ昨年モ三重縣ノ上野署ニ於キマシテ、一人ノ産婆ガ墮胎ヲ致シタト云フコトヲ警察署ニ於テ聞込ミマシテ、搜查致シマシタ結果、三重縣竝ニ奈良縣ニ互リマシテ、五十餘名ノ人ガ檢舉セラレタト云フ事實ガアルノデアリマス、斯ノ如キ弊風ハ之ヲ根絶致サナケレバナラヌコトデゴザイマスカラ、今後モ當局者ト致シマシテハ、十分ニ注意ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ詳細ノ數字等ニ於キマシテハ、委員會ニ於テ申上ゲルコトニ致シマス